

清俗紀聞

卷之序
目次
年中行夏

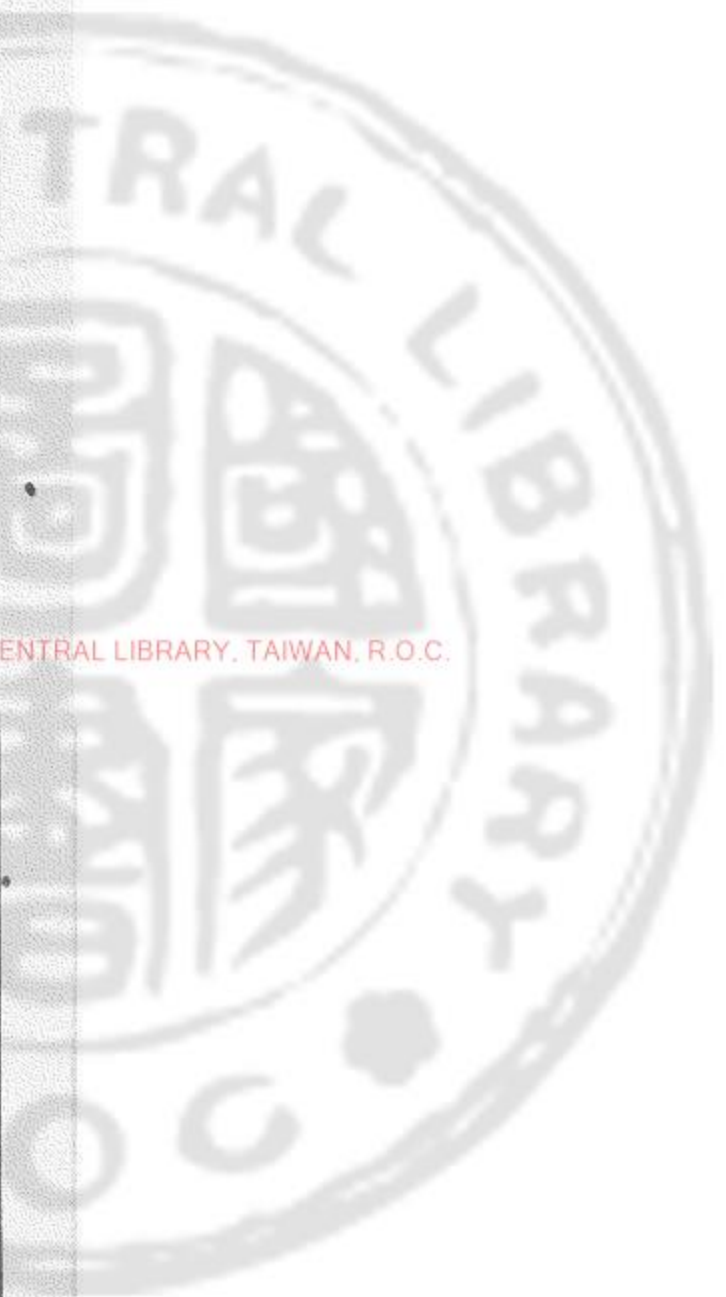
函號
架號
順位

國家圖書館 NATIONAL CENTRAL LIBRARY TAIWAN, R.O.C.



清俗紀聞序

我邦之於清國也壤地不接洋溟為阻屹
然相峙不通使聘各為一區域則其土風
之異俗尚之殊何預我耶然閩浙之民航
海抵崎貿易交市以彼不足資我有餘
國家亦不禁焉朱明以還因仍已久其間
不能無黠賈奸商干紀之虞則亦不可未



之小吏也於是官特置司以治之豈得已乎是故承斯任者非知彼土風俗尚以洞曉利害情偽之所在則亦無以宣我之政而服彼之心焉此則其所當留意也曩者飛驒守中川君子信在任于崎也整厘務之暇命譯人詢彼土風俗尚探討搜究而叢為清俗紀聞手自點定自節序之儀吉

凶之禮輿服之制黻舍之法以至居室飲饌器財玩具日用人事之微旁逮緇黃之俗部分臚列獵採罔遺洵稱綜該矣後之官于崎者留意是書則可以免彼此衲鑿之患而所為皆中窾矣豈曰小補乎哉子信余忘季交也天資高朗夙耽墳籍其才之學之優將大有所為顧此等編纂瑣

末事原無須揄揚但其一任不苟必期拔
本塞源如此則佗所注措可知也宜乎政
績烜赫物望歸焉纔踰兩載累被擢遷也
抑夫海西之國唐虞三代上論也降為漢
為唐其制度文為之隆尚有所超軼乎萬
國而四方取則焉今也先王禮文冠裳之
風悉就掃蕩辮髮腥膻之俗已極淪溺則

彼之士風俗尚實之不問可也而子信之
有斯撰自有不得已者也余觀今之右族
達官貴游子弟或輕佻豪侈是習而遠物
珍玩是貴即一物之巧寄賞吳舶一事之
竒擬模清人而自詫以為雅尚韻事莫此
過焉吁亦可慨矣竊恐是書一出或致好
竒之癖滋甚輕佻之弊益長則大非子信

之志也余為之序并以告覽者其豈欲歟
歟哉蓋亦有不得已者也寬政十有一年
秋八月述齋林衡撰

吉田直躬書

清俗紀聞序

中君子信之尹瓊浦教化之暇命譯吏
就清高于館問彼民俗吉凶之儀節及
其名稱度數即使侍史國字記之又命
畫師一一圖之編次成書名曰清俗紀
聞為卷六分都十三夫國於天地而有
與立焉日用彝倫推諸四海而無所不
準則奚必華貴而夷賤哉然必推中國

而華之以貴之者以其三代聖王之所
國而禮樂文章非萬國所能及也而今
斯編所載清國風俗以夏變于夷者十
居二三則似不足以貴重然三代聖王
之流風餘澤延及於漢唐宋明者亦未
可謂蕩然掃地也又清高之末瓊浦者
多係三吳之人則其所說亦多係三吳
之風俗乃六朝以來故家遺俗確守不

變者就斯編亦可以見其彷彿也我
東方古昔盛時聘唐之舶留學之員傳
乎彼而存乎此者乃皆三代聖王之禮
樂則今日民間通行禮俗有不與彼變
于夷者同也有志于講禮正俗者彼此
相質而折其衷則中君之此舉未必無
補於世教也豈可以餘閑笑玩視之哉
頃剞劂氏請而公諸世君俾予題其首

寬政己未秋九月 雪堂黑澤惟直撰



岡田顯忠書

清俗紀聞序

中川使君之奉職于長崎也布政視事勤且勞矣偶有暇日則差舌人繪工數名就清客於館咨詢其民間動作禮節名物象數隨而記之又隨而圖之一周歲而數十百及使君手親選擇取舍叙次編之分十有三部合成一書初清客之受問私舌人曰臣等小人生長閩浙其所能誦特閩浙

之俗耳名物象數亦唯閩浙矣若夫清之
廣莫方不同倍倍不同物惡能其他之及
於北京盛京之間民俗名物多為滿也純
矣西南方或大滿而小漢矣其小滿而大漢
亦以觀唐宋遺風者獨有閩浙而已然
則明府今日之求不必他及邪臣等亦不
能他及也蓋使予之有取舉也其意有二
西陲之政回易莫重焉清之客猶我之

民矣非審其風俗明其好惡察其情偽
不可得而治也斯書而成後之奉職者長官
小吏咸將知所嚮焉一也誦法聖賢究博
致遠細大弗遺者民俗名物固不可以不參
諸後世而草野瑣屑固有詳載不與閑事
身利害而成後之學者其或摭什一而千百
焉二也夫清客通于我者不一而閩浙之
民實什之九則吏者之用閩浙而足矣民俗

名物を以て於經傳者要在於唐宋則書
生之需而潤滋而足矣純滿大滿我於何
有夫如斯使君今日之求果不他及也客之
不能他及也及矣傷

寬政戊子七月朔蕉園處士津國中井
曾弘序于江都錦林客舍



附言

○此書の靖陽素系清人其國民間の風俗を尋問一々此邦を
語亦直して記述處あり素より清國東西風俗異なり南北俗
を殊にす此編をもて普く清國の風俗と思ひ得る事
これ今靖陽素系清人多く江南浙江の人あり新記に
處も亦多く江南浙江乃風俗と多し

○圖繪は靖陽の畫師を清人の旅館に遣し聞み隨いて圖し新
遠不事あり其清人昂しれを正し或は清人圖して示はもの
も多し同答教養ありて始末全き事成りたり見事者
かひを生ずる事あり

○片假名を以て右に附るもの唐音なり平假名成りて右に

卷之六

生誕

卷之七

冠禮

卷之八

婚禮

○書帙

卷之九

賓客

卷之十

羈旅

卷之十一

喪禮

○數帙

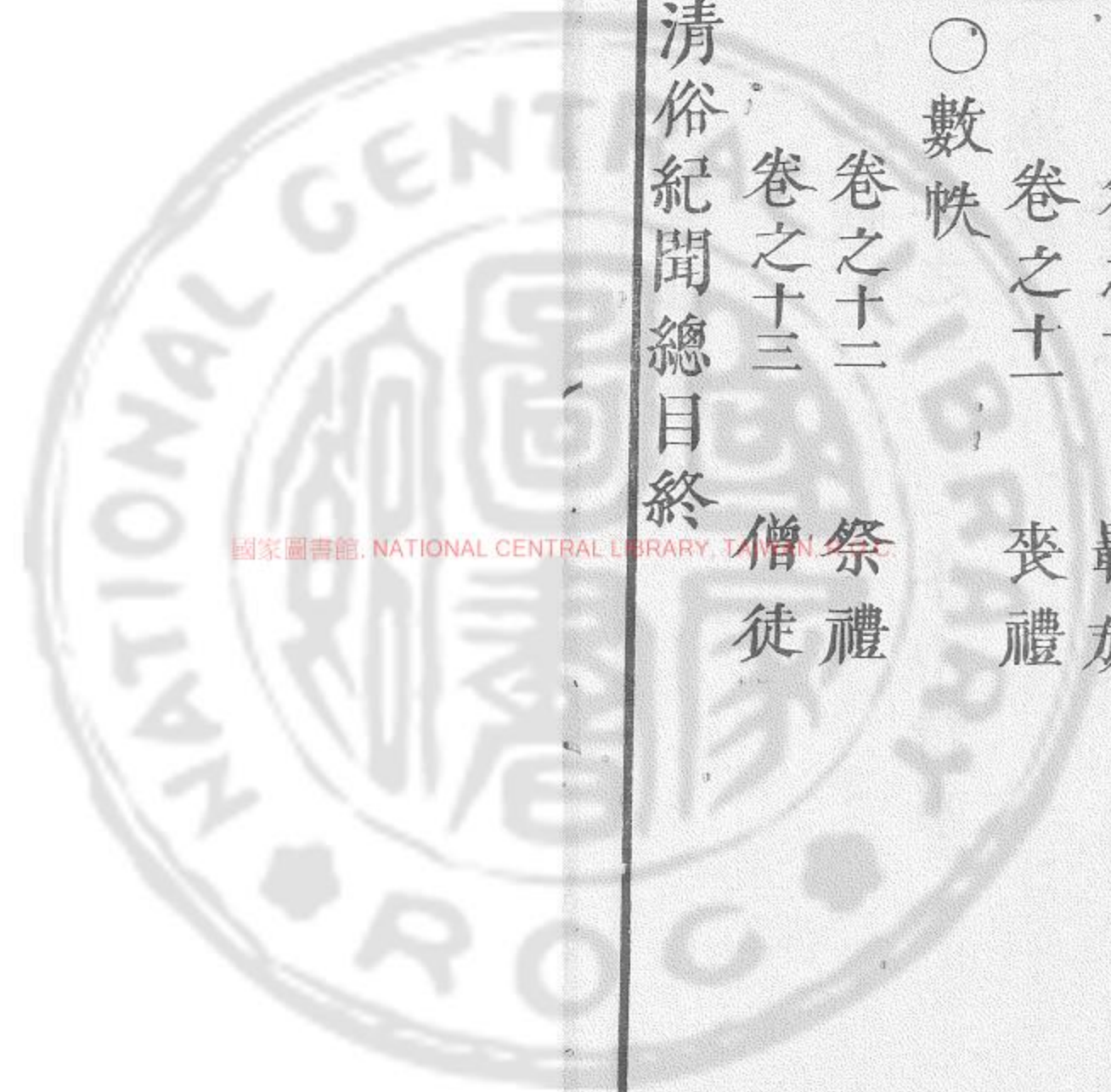
卷之十二

祭禮

卷之十三

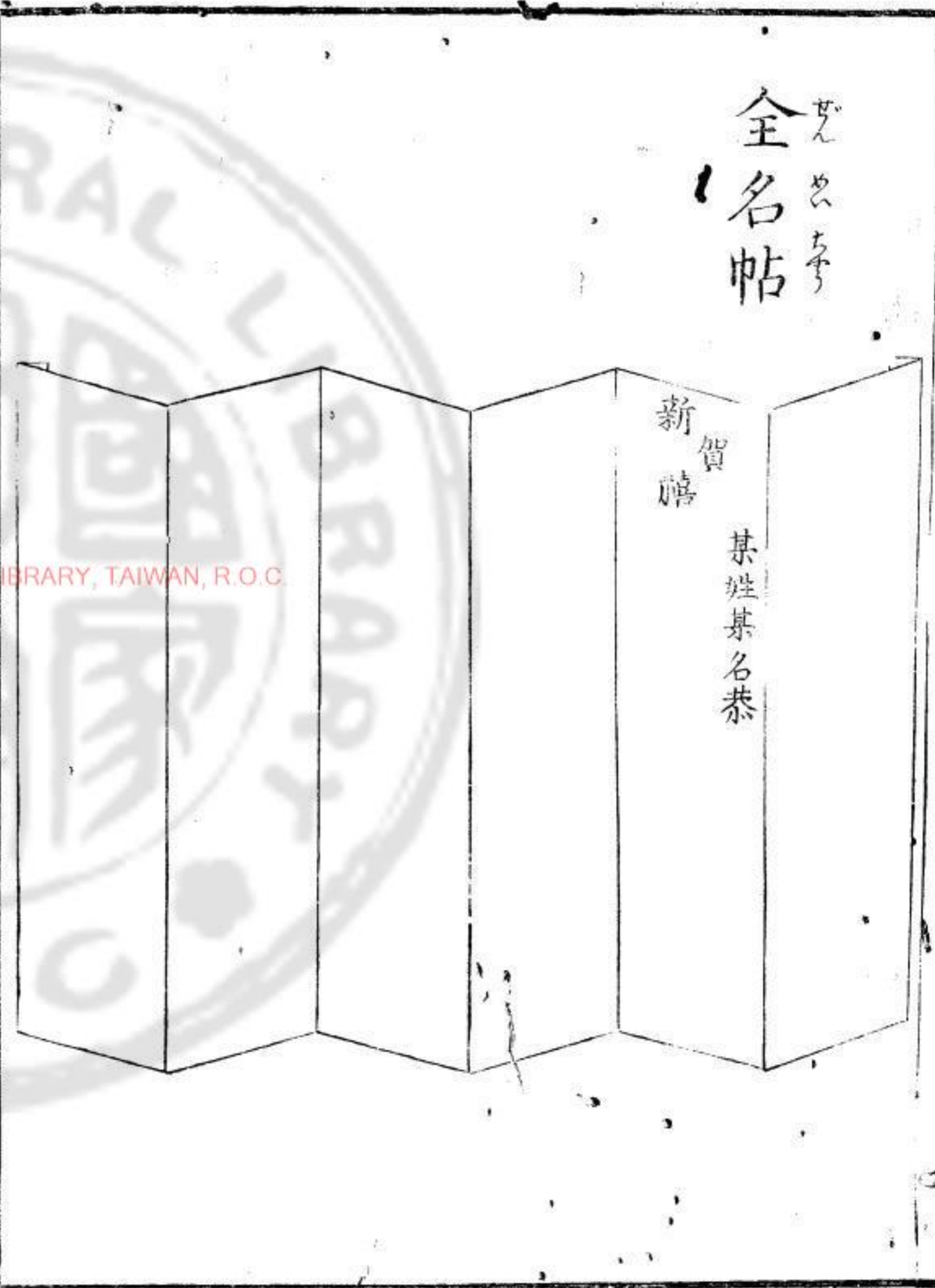
僧徒

清俗紀聞總目終



全名帖

新賀
某姓某名恭



○京外の官人ら元朝の朝服を着し、閩棍の皂隸行牌涼傘旗竿

先み備(跟随の者多人数召連其所の寺廟み安置あふ今上皇帝
の龍牌み詣り拜賀以龍牌を本はく抄莊嚴一天子萬歲萬萬歳と書載香を
寺廟志とに佛前み安置以の外み殿閣等れ接いふ
衣品級みよるて行列等れ差別をあふやまとも詳みあがて了末詣の時

る住持役僧成連門前近迎送は又人みよる役僧のて挨拶すふも
ありまよる知府知縣等の官人各帖成持帖の全帖
前み同し上司官取(謁)

○官人庶人とも元朝の先衣服を改め天地を拜し庶人とも天地を拜す
奉ハ吉よるは仕奉る者

新衣成看し主人を拜寸を外套の着せふ夏を許し以家廟みら
香花燈燭年糕菓子茶飯酒並み橘子菱子竜眼肉の類を燒物

の辣血猪口等み盛く借（靴箱の製法ハ靴底手襪を製すハ注みあり）・（一拜経る喜神の方みむらひ外出）・（喜神の恵方）・（神廟佛院みよ指以香燭ハ寺廟もえ備）・（あまごも推考）・（年終事あり惣て寺廟もえ多く水盥を設け故）・（家肉より手洗淨め糸ふ差水入用の附ら寺中）・（七用おたる三日近の肉子親類朋友好む方）・（名帖成持行）・（帖草帖あり赤紙み祝詞）・（朋友肉ハ門口みく祝詞を述親類又ハ親）・（此方みくハ酒年襪等を出し）・（福土地みく屠ハ蘇酒を製衣）・（江南浙江辺みくハ絶て用者）・（家肉みくも用ハ）・（米客みくも出さ事あふ）・（且大戸の向ら跟随二人或ハ三人召連遠踏）・（あまご轎子馬成用ハ十五日近の肉み羊禮を述）・（米客の内空腹の者ハ）・（暖鍋とく）・（此方の鍋料理中み仕）・（ま）・（外み小菜ハ辣りつけ並食せ）・（まむる品物左の通り）

- 暖鍋 （ソウメン） 緑豆麪 （ラクウソウ） 鶏 鴨 肉圓 （シヨエン） 香蕪 （ヒヤシソウ）
- 冬筍 （トニスエ） 火腿 （ホー） 海參 （ハイ） 魚翅 （イ）
- 右の品暖鍋の内みく煮えまわらかふハ成賞散也
- 小菜 魚 火腿 鹽蛋 蝦禾 鹽蘿蔔
- 炒骨 青菓 紅棗

右暖鍋小菜料理の品定式ありあり有合み備増減すまの外年始とて此方の雜煮吸物中あり式ハ形一

單名帖

新

賀

禧

某姓某名恭

封筒

露申

請帖

翌年寅治春茗奉迎

高軒祇聆

大教伏惟

早賜惠臨勿卻幸孔

右啓

大德望某號某姓老大人臺下

侍教生某頓首拜

封筒

露申

招き 牌

松茂號定織紬緞發販

年中行度

五

元旦お初試毫とく吉利の文句を赤紙に書け元朝鰻魚用お終
 者ハ便宜の多先除夕おあつてむふもあを惣とて元日おハ吃素の者
 多一年の始おとハ深く慎むハあり三日比より春酒或ハ新年禧酒
 かと唱へ親類朋友互お招請して酒宴を儲く
 料理ハ貴賤おあつてハ
 差別おふ事ありけり
 たる献 請帖をもちて前日お案内中入ふ
 帖ハ親類同
 華ハ單帖を用
 せは只實父母の方のハ年賀おゆ

○商家お元朝とて招牌を初ハ内店めく高賣一曆の開市とてふ日お
 招牌を掛ふ此日店開の祝おとて年代その不ろ高賣仲間代ハ終き
 酒宴お後く船系ハ出行とてふ日お葉初お終り
 店却を盤帳と唱へ開市の前後おかつてハ手透を見おつ終前
 年の高賣銀高あつてびお品物有高等帳合勘定也



○醫家の神農の像、羊糞子藥物、養供祀拜、一日、此日、收む酒宴、設け親友あど招く事あり。○正月七日を人日、八月、穀日、九日、豆日、十日、戌綿日、と唱へ、此四日、天と氣和晴、あまの豊年ありと云傳ふ。七日、人の始とせられ、さ日、人日と唱へ、故、浙江、多の人、竹量をあ、多身體の量、貝、成、かけ、裁、不足を秤、人とあ、江南、を、み、く、い、立夏、の日、み、を、あ、ふ、う、夏、之、瘦、せ、ぶ、あ、り、や、つ、ひ、傳、ふ。○正月、十二日、戌、上燈、十五日、を、元宵、十八日、戌、落燈、と、ふ、此、六、日、の間、戌、燈、夜、と、唱、へ、十二日、夜、よ、く、を、家、の、門、前、に、燈、籠、を、燈、し、官、府、富、家、の、向、り、門、前、に、勿、論、堂、上、の、樓、上、あ、り、結、絲、と、く、紅、縮、綿、を、四、方、に、張、り、兩、端、を、柱、或、ら、上、檻、等、より、垂、り、く、み、花、の、形、あ、る、形、に、結、ひ、さ、け、種、く、れ、餅、燈、籠、を、燈、し、燈籠の紗縮綿、羅、或、ら、破、子、貫、張、ち、ら、あ、ふ酒宴を設け、家、小、よ、く、系、竹、等、催、す、事、あり。

綵燈



籠 燈



燈夜の間に市中に空地を戲臺を擡げ做戲を催す又本町通大家富

家住居の町筋を燈棚とて此方の軒より向の軒へ互に竹皮液の上

み本綿の幔を掩ひ麻縄を各種の傍燈籠を掛懸し其外街上への

行燈とて若者ども打寄龍燈馬燈獅子燈など其外魚鳥の形色を

擡げ竹皮液の紙を張り張彩色銅羅太鼓等をりて唯一燈籠をほ

ひ町筋を踊り歩くと趣向みよるは装束等同かくは就中電燈の長さ

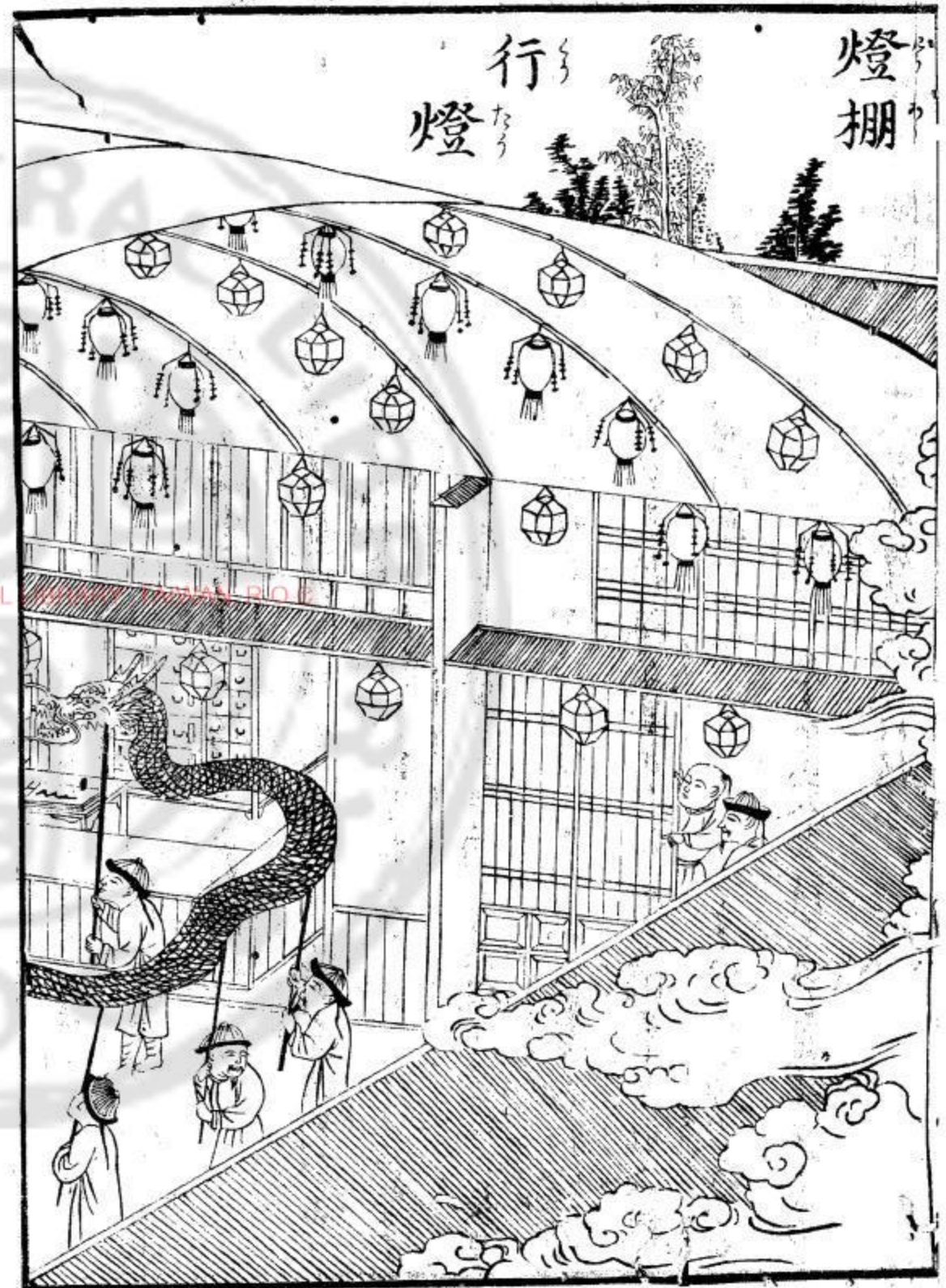
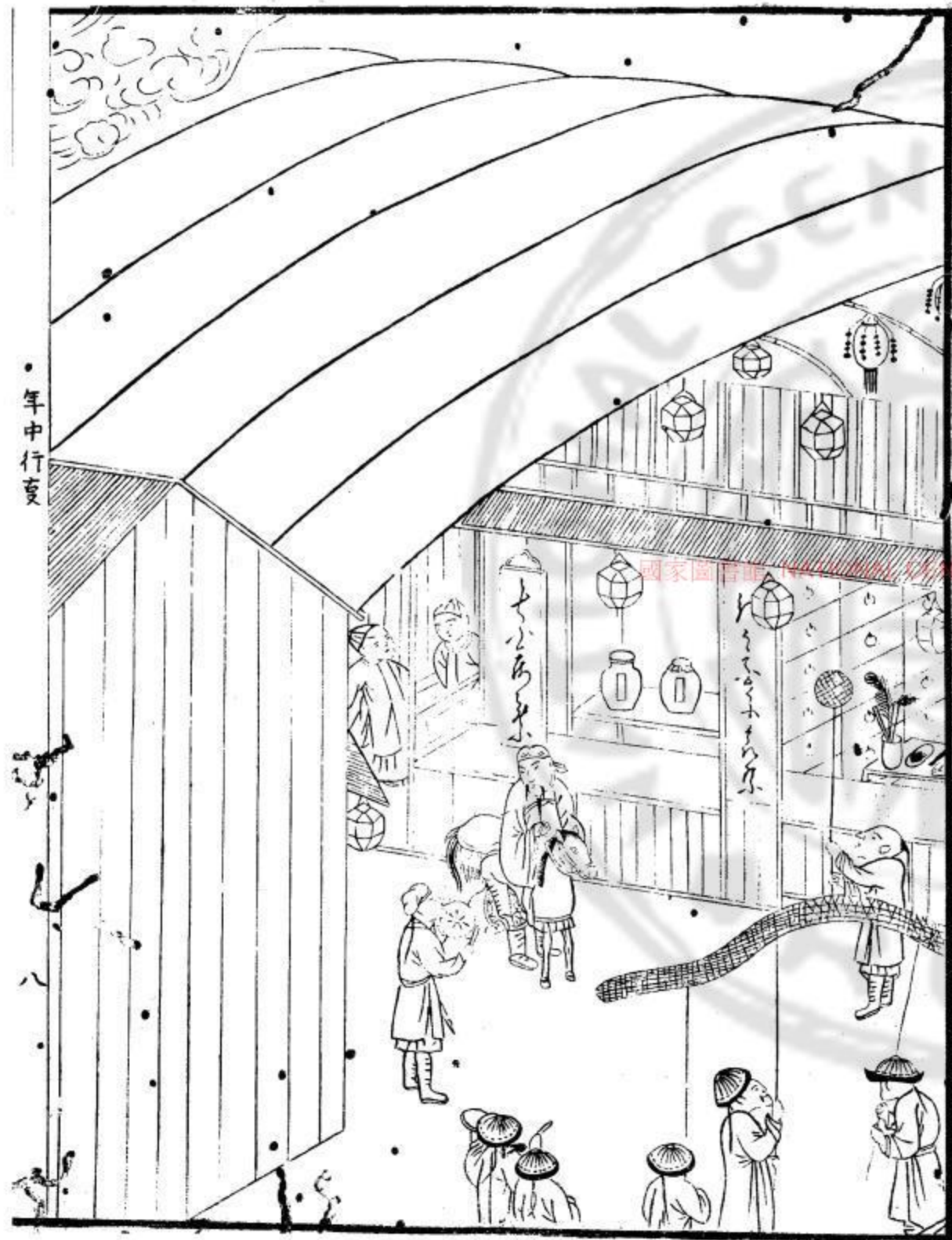
四五間も造り數十挺の蠟燭を燃し數人あつては右數多の行燈乃

肉或は六戸知音の方へ行踊る事あり其附る酒肴を勸又銅

を賜ふ事あり諸衙門兼く八唐人揚りみ出入を事ある事柄すれども

十五日上元の夜も燈籠見物の多きとて出入を許さずは夜より

別して開熱あつて十八日落燈の夜まで終る



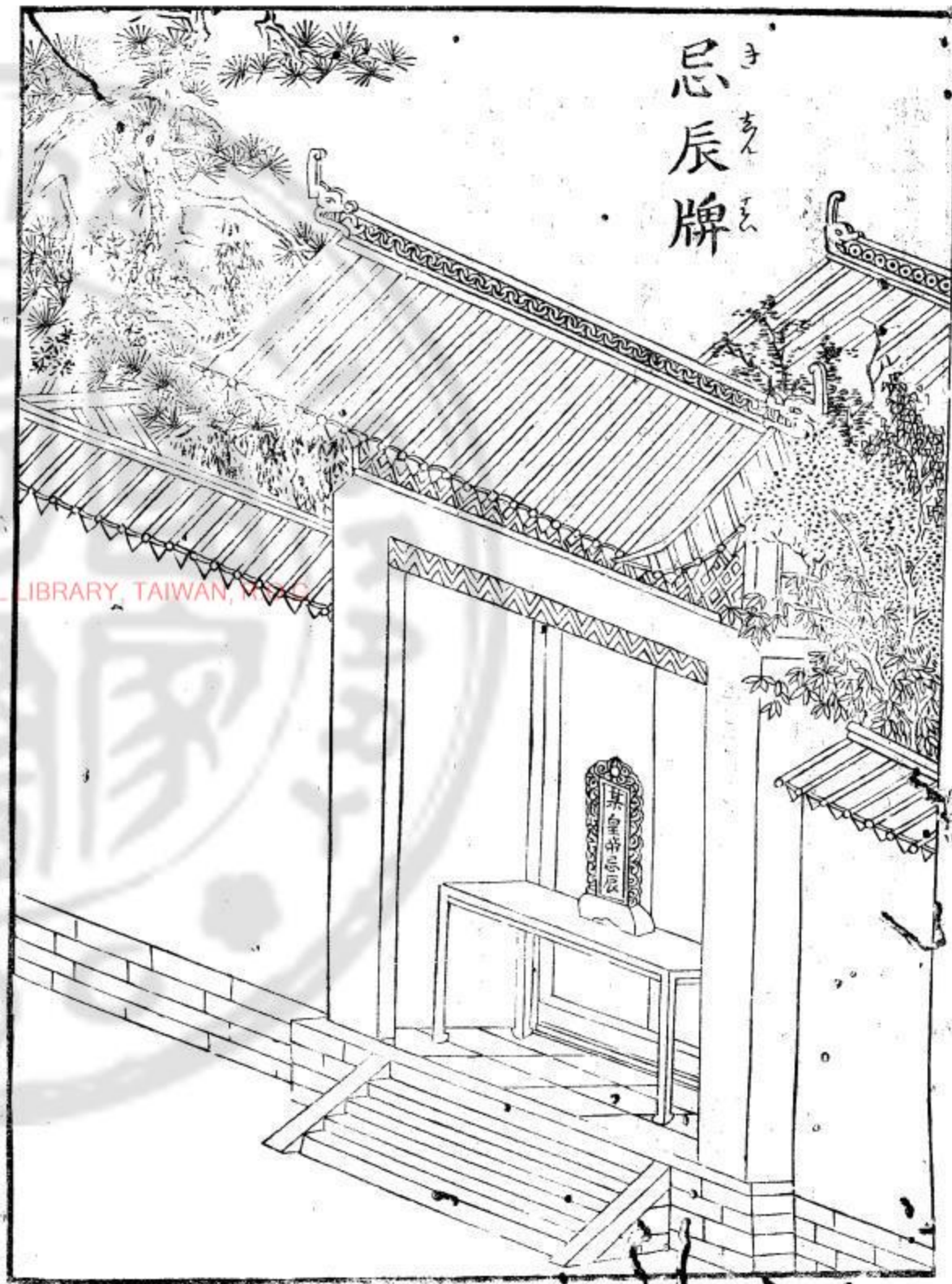
○先祖の畫像所持此者ハ除夕と堂上掛元日と二日近供物等撰
 十五日也七供之落焼の日取收む ○毎月朔望也天子便殿出御
 あり諸官人朝服也糸内拜賀以外此官人の寺廟也糸内
 竜牌を拜以庶人の年始の外也朔を五節句を定式也廻孔と糸
 糸 ○皇帝聖誕日也大小の官人年始の朝服を着糸内
 拜賀す在外の官人も寺廟の竜牌也拜賀以元日冬至至聖誕を三大
 節禮と唱ふ ○毎月朔望也大祖高皇帝と以後代これ皇帝皇后
 の忌辰也諸衙門門を閉門前也安成居其上也某皇帝忌辰と
 書る也牌を道諸官人の素服を着終日政務不理せ凡民間も做戲
 勿論銅羅太鼓等一切鳴物也禁む ○毎月朔望也先祖の神主
 香燭菓子等供之禮拜也又開祖考妣並祖考妣頭考妣の生

誕日也廳堂也其人の畫像を掛香燭三牲等供之祭祭
 ○正月十五日天官の誕日七月十五日地官の誕日十月十五日水官の誕日也此三
 尊を三官菩薩と稱し誕日也諸寺院也糸内天官ハ福を賜
 以地官ハ罪を赦し水官ハ火災を除く佛也別して信仰の多
 家内也供物をす糸内者あり ○毎月二十六日近福也糸内
 五路財神を奉ふ 趙玄壇を奉る 招財招寶 家毎也三牲香燭供之
 或も神廟也糸内を錢財を司ふ神也諸商人重也祀ふ也
 ○正月二月三月の間小児也紙鳶を揚ふ 紙鳶一名鷓子人形胡蝶也 風
 とて竹を弓形也曲綸子也綾等の幅二三歩程の切を弦也掛紙鳶の紙
 結着揚致て不風也之響音也糸内故也風箏と號く又児女也見踢と
 鶏毛三本也五本錢也挿緒也包も是也踏之戲也

年中行夏



忌辰牌



○二月二日土地神の誕日ありて、家々香燭供物をし、又神廟も糸箔を奉る者あり。廟前もたね多く、戲臺成りて、之を做戲あり。

○二月上旬の丁日、諸州府縣の聖廟も官所より釋菜の儀あり。何れを庶人も糸箔成りたり。○二月十二日、百花生貝成花朝と唱へ、一省おと

母安置あり。花神廟花神の都合十三體あり正月の花神ハ手に梅花を持二月ハ杏花三月ハ桃花四月ハ薔薇花五月ハ榴花六月ハ荷花七月ハ秋海棠八月ハ桂花九月ハ菊花十月ハ芙蓉十一月ハ山茶花十二月ハ臘梅閏月の牡丹花を持て、神儀成安置に係り、はま初めか知る。何れも糸記あり。

諸人糸箔を由りて花園あり、初に庭上も卓成菓菓子並み時候の菓物香燭成、供へ花神を奉り、常々衣服裁餘の小切を貯へ、是何色も拍り寸、此日園中の樹木も結び付ふ花ハ花羅しく、袿實成むすぬ為ありとて、以傳ふ。

○二月十九日、觀音菩薩の誕日あり、諸人別々信仰の佛也、香燭成、又、法王寺院も糸箔を奉るものなり。

三官不菩薩



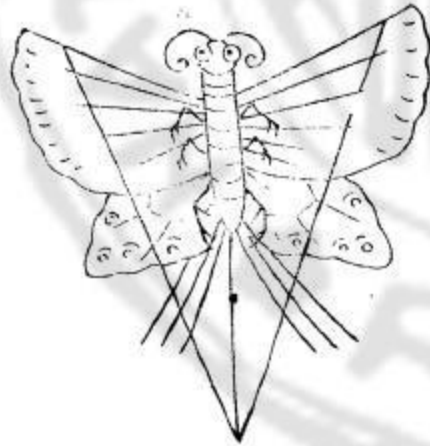
箏^子
琴^克



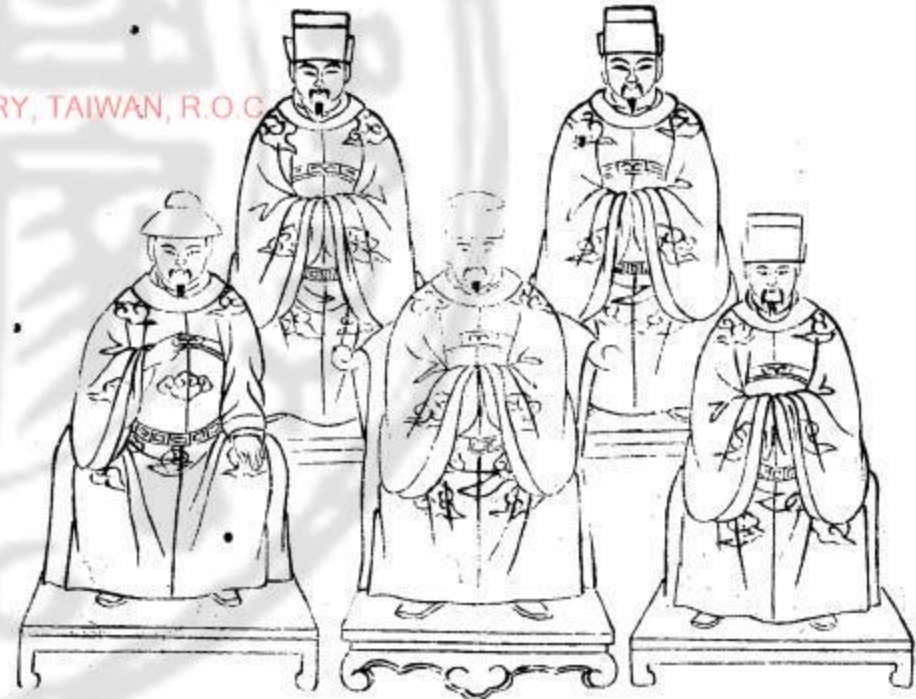
鳶^兒 紙^去



踢^兒 見^兒



神^兒 財^去 路^乃 五^乙



年中行夏

十一



○上巳の日家々菜薺花を門戸の左右其外灶上床上等へ挿置蟻成製
 せしむ以傳ふ ○三月清明の日家々柳枝を門戸に挿置諸蟲生せしむ
 為ありといはれふ ○三月清明の節に掃墓少く 一名掃墓 貴賤同姓
 の一族先祖の墓一列を奉り三牲並み菓子菓物等成器に盛て卓上供へ
 香燭焚燭燭酒を澆奠一眞衣大金を燒 眞衣の衣板を畫きたる紙大金の
 香燭衣板金銀燭 禮拜畢て供物等成器の野原に推門行祠堂ある者祠堂
 にお打寄宴を催し又杭州より西湖に船渡遊あり官人とも朝服を着
 せし轎子馬等と諸人とも随意に用ひ跟随の多少に貴賤打寄等かた
 一家老少一同かゝる内婦女の多く糸くばを他家に嫁したる年極て其
 家の墓一列を奉り三牲並み菓子菓物等成器に盛て卓上供へ
 とも異ふ事なく家々も供物等あり祭式年始れおや

○清明の内諸州縣共々勅命を奉り其地の城隍廟の神像を轎子
 清い 住古より知府知縣其外の官人厚使あるを後み至りて勅命ありて廟を建て安置し其
 儀の守神として是を城隍廟と名付誓ひ何地の城隍何の代の何官と云傳へ所同かた
 儀の儀儀中首手足の動きあはれ衣冠等其人在世の 先小銅羅を打鳴り次は行
 品級に隨ひ修る且城隍の向かある城隍廟少くなく 旗數を涼傘
 牌一對 奉旨祭祀 彫像成一對次は城隍使司と彫像成一對何事も金字あり
 一本鷹駕數を成列 鷹駕の錦中槍鋒斧 轎子の跡に鼓樂成奏して
 諸役人郊外の墳墓ある列み送る行祀孤の爲に糸緒と構ある廟壇ま
 精一 廟壇ある列を草葺の假屋 椅子を置儀成居前も三牲供物等を卓
 上も並其所の子孫吊ふ者も三族の亡靈を奉る是を祀孤と云奉官ふ
 らびも諸官吏等禮拜する後諸人糸緒に知府知縣と生民を司る
 故に陽官と城隍と亡靈成司ふ故に陰官と唱ふ府あるは知府縣ふ
 まは知縣の格式めく行列せ

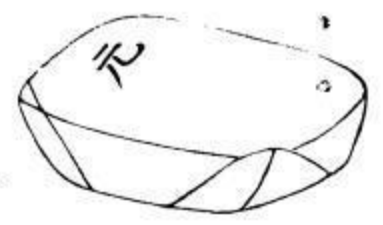
○二月十五日趙玄壇の誕日ありて家々供物等近福の供ありて神廟祭儀
 せし者もあり玄壇の殿の總兵官を勤めたり人々初年の時深山に入り仙
 術を學び種々此奇特あり故諸人は尊敬以後周の武王紂王を伐て
 凶せり死後亦天上天其徳を感し神封して後財を司る事あり故
 諸商人專信仰せり ○三月廿三日の天后聖母誕日の祭あり又二月八月
 春秋の祭あり上の祭日代用也此二祀の廟ありて諸人素詣
 多しを船神也走洋の人々都々信仰し家内の廳堂或は外の間
 ぬくも清浄なる所あり神儀を安量し香燭菓子菓物等を種々
 供へ奉るなり ○立夏前後帽子習の節は前廣く朝廷より幾
 月幾日換戴帽と云ふ宣旨諸州縣へ降し右の宣旨を板し書
 各衙門の門上へ掛ふ諸人は是を見く其日に至ると涼帽を改め暖帽へ

九月寒露の前は同括み宣旨ありて衣服を氣候の寒暖に随ひ勝
 手次第に着用せよと宣旨降ふ事あり 鞭子の四季ともに用也
 立夏端午中秋冬至歲暮此五節は書學の師其外醫師等へ金
 銀端物を以て謝儀を賜ふ事あり端午中秋歲暮の二節は送ふ者
 もあり且書學の師は一節は元糸銀二十圓程白紙ありて赤紙の
 袋に入れ上小長尺赤紙を掛其上に代儀と書下は姓名
 を記すを圓銀ありて内包の紙ありて書一切銀ありて星と記し量目
 書は銀の數の記は別紙帖等用也事あり 拜匣に入れ遣は醫師の
 謝儀は疾の輕重より家の貧富よりて齊か
 ○四月八日釋迦佛誕日ありて寺々九條竜亭を堂中に入れ設け竜亭の内を
 盆を居白檀ありて刻あり釋迦の三像を置右九條の竜口より香水を

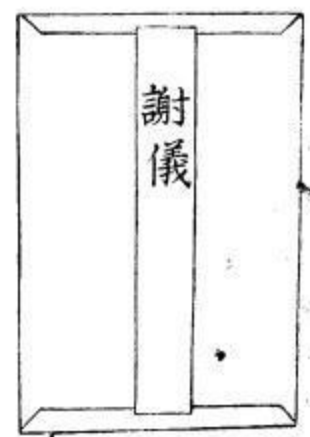
九條竜亭



銀錠
包法



封袋



吐出佛躰み灌ぐ住持あしびみ大衆等蕭笛を吹鈴を鳴し小鼓雲羅
等を打樂成奏し佛事を行ふ故み諸人糸請多しを祈みよして活佛
等此執行いかく唯常み安置あし釋迦佛へ乞出指さか地方もあす

○四月十四日呂洞賓の誕日呂純陽先師と称に廿八日神農の生日みく此兩日醫家

みら畫像を掛三牲菓子菓物等成供々親類朋友を招き酒
宴を設く○五月八朔日より五日迄八月十日より十五日迄十二月八

十五日比よと晦日の夜迄此三夜諸州府縣ともに掛賣金銀貸借
等変算を右の期み至ると先銀高の書付成遣し並迄く日限までみ
取えか右銀高の書付成遣し成送帳と云清算あま書面を消

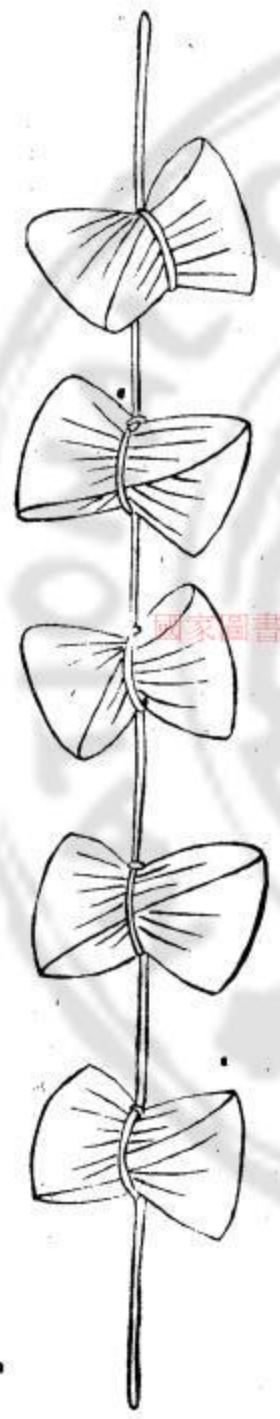
商人一返に○五月五日端午の佳節み家々粽子を搦一名角黍
糯米を灰汁み浸し蘆葉成りて二角の又雄黄菖蒲根を細末し徳宛酒
味み包み麻皮みく包み成りて供ひ成りて成りて

五月五日午時ウチノヒ至マる是コノヒを欣ウレシ幼少コトの男女オトコメも大オホ黄ワウ大オホ蒜ニ菖蒲シヨウボ根ネを少コく
 系ケに貫ス身ミえみ投ナる又マタ雄オス黄ワウの粉コを酒サケみ交マ面オモ部ホを塗ヌ邪ヤ氣キを
 避サくわら口クチみ合ア堂ドウの隅カドみ吹フ掛ケ糸イト是コノ毒ドク蟲ムシを掃ハす為タメあり婦メ人の
 緒イテ系ケ成ナりて人ヒト形カタ虎コ蜈蚣ムカデ蛇ヘビ等の形カタを小コく替カみ扱ア頭カブ上ノみ挿サす是コノを
 健ケン符フとシ且ナ堂ドウ上ノへ鐘カネ馗ウ關カ帝テイ畫エ像ゾウ成ナ掛ケ前マみ菖蒲シヨウボ艾ア葉ハを花ハ瓶ビンみ
 挿サ門カド戸ノの左ヒダリ右ミダリみ赤アカ紙カミめく根ネを包ツく挿サす赤アカ糸イトに左ヒダリの文モノを
 書カし門カド戸ノ其ソノ外ソノトも張テ糸イトとシまシ邪ヤ氣キ成ナ排ハ意イあり

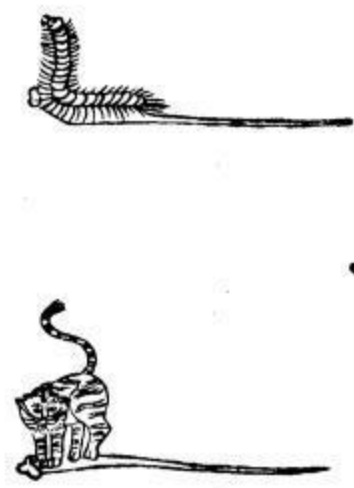
五月五日午時書

赤口白舌盡消滅
 菖蒲如劍斬八節妖邪
 艾葉如旗招四時吉慶

粽子

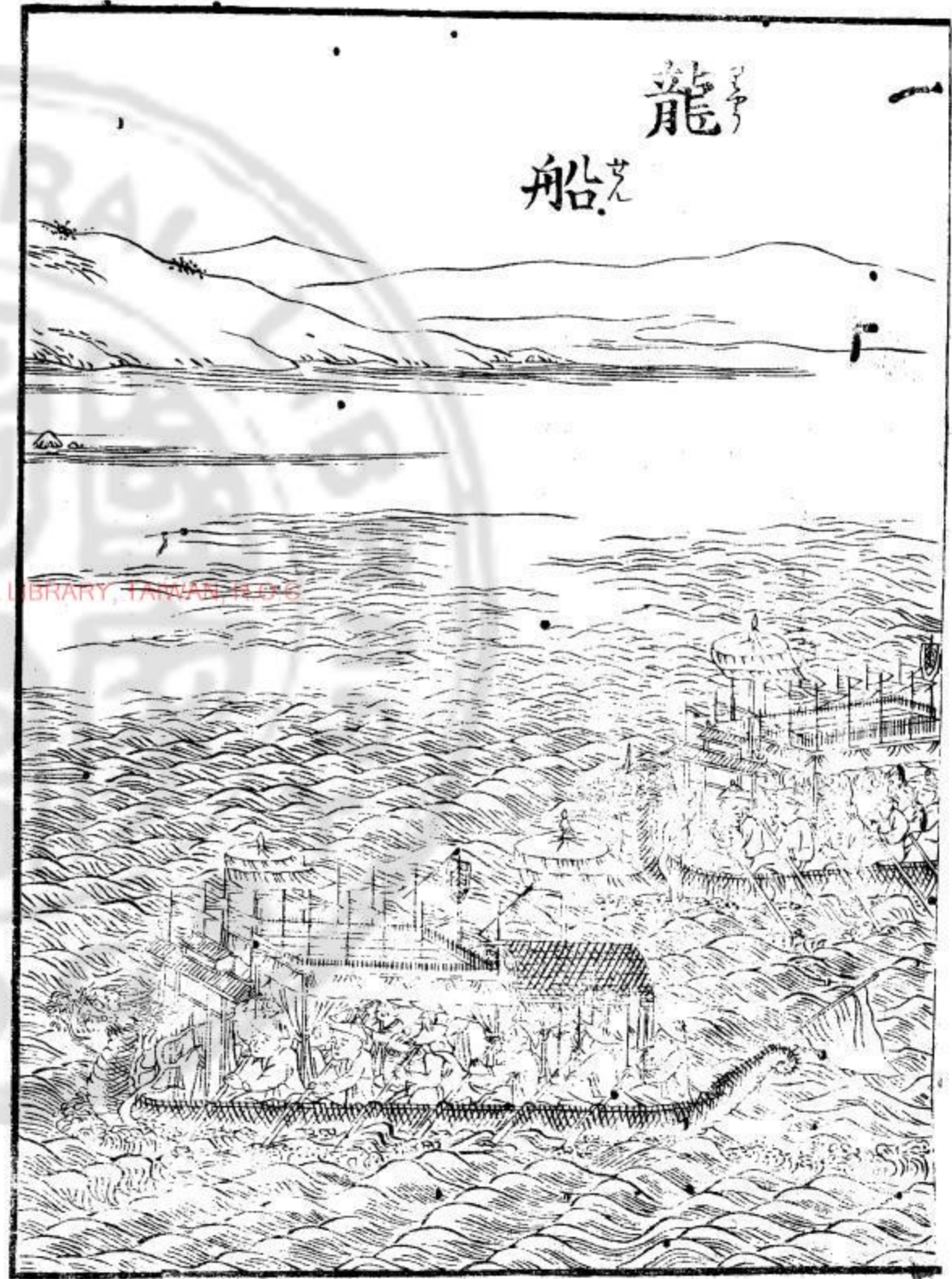


健符

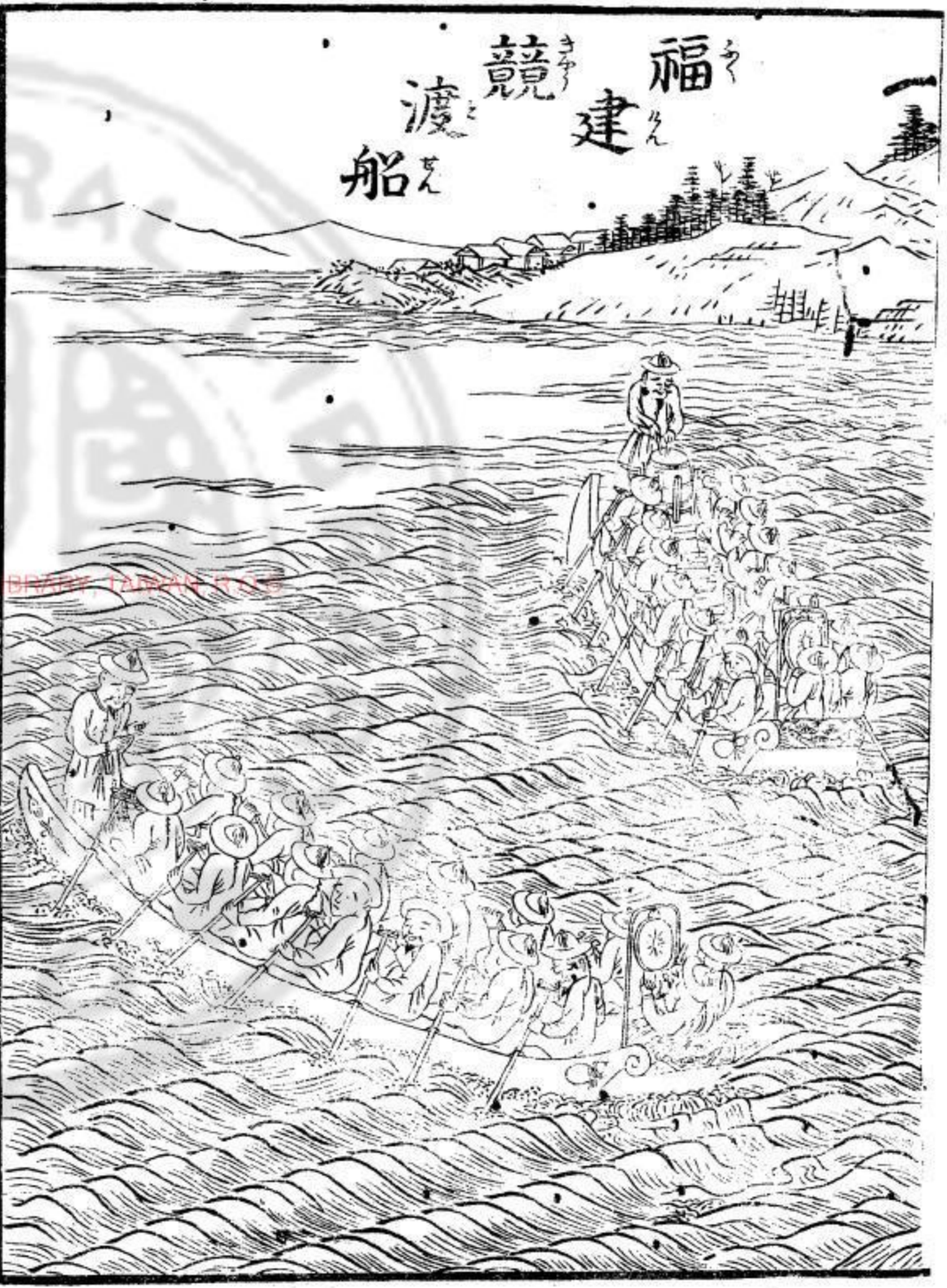


○五月五日山野舟遊行、薬草を採制法して苦更置事あり又常中採貯ふ者あり○同日舟ちり親類互み粽子並び魚類猪肉塩蛋批把梅子等時候の菓物を木盤に盛合せ送ふに八月十二月とも都合三度の贈物あり足を三節禮とふ何れも四種六種送ふ於て半の敷を用ひ也○朔日六日近江湖のふ地方に数艘の竜船を造り競渡せしむる長さ五六間幅二間程猛み竜頭猛み竜尾を造り船の全將み竜鱗を畫き都く彩色を加竜の水上み浮ふ勢み像み表み牌樓あり門とふ其上み涼傘を笠と竜門の四柱み旗を挿次み二重の臺有臺上の中央に涼傘を笠と四方み旗數本を笠列粽子並み亭或備其上み涼傘有亭の兩脇み欄干代構足み旗數本を笠並(體み色大旗一本竜尾の上み斜み挿傾旗涼傘の程み排り鏡鏡子縮綿等み旗縮して美藤をばく也色儀をれ也也

兩中み油旗を用ふ油旗を妙儀縮綿み桐油を塗ふ一艘み廿人餘兼組六七人々臺の下み銅羅太鼓吹物を鳴し二三人の亭の内み關刀を把り板中、控を青蓋の形み造りたる故み関刀と号す船の進退儀候を司ふ十人餘の兩方の舷み並歩く槳を以てかた船と早ん事或事ふ故み見物の諸人を家鴨放流せ或る酒壺の内み賞銀何程姓名何某と記したる書付袋入口袋封じ水上み流せ成竜船の者先を争ひて取得たる成勝とて福建の地方みくハ長さ五六間程幅二間餘の船を扱へ競渡り竜頭其外旗傍等みかく銅羅太鼓等打あし一數十人兼組競渡り志官一列とて終成受かみわくは敢て極み事みかく多人數集りつるは事也争論等ふれやうに制表すふの何れ代も有らぬたふと事ハ審あつばとを往古より屈原を吊ふ為乃遺俗ありと云傳ふ



福 建 競 渡 船



○五月十二日の關聖帝歸天の祭日二月八月上の戌の日辰春秋の祭日と

神廟何れも祭祀あり諸人信仰の神故家々神像香燭三牲種々供物

を深く尊敬す○同日辰竹酔日と唱へ竹を裁まへ根付葉不空

を傳ふ○梅雨中濕氣成拂少も免蒼朮を林次尚又書房み共香

を林次足の書籍の蠹魚成製衣すか免あり○六月六日天と氣快晴か

まは諸人多く書籍衣服等を曝け○同日水成野將画油を製衣

を多事ありを此日み限く三伏の内天氣快晴の日辰見合製衣

者者もあり其制衣法等詳み(同月炎暑の節大蒜を搗凍瘡の所

み塗又瓦の目み焼くを當止は其冬凍瘡生せむとふ

○暑中氷を賣者あり是を網へ魚葉物等を冷しあふる盆み盛

見ものみ以別々遠路魚成運の時々氷をぬく損せきか極み致し中

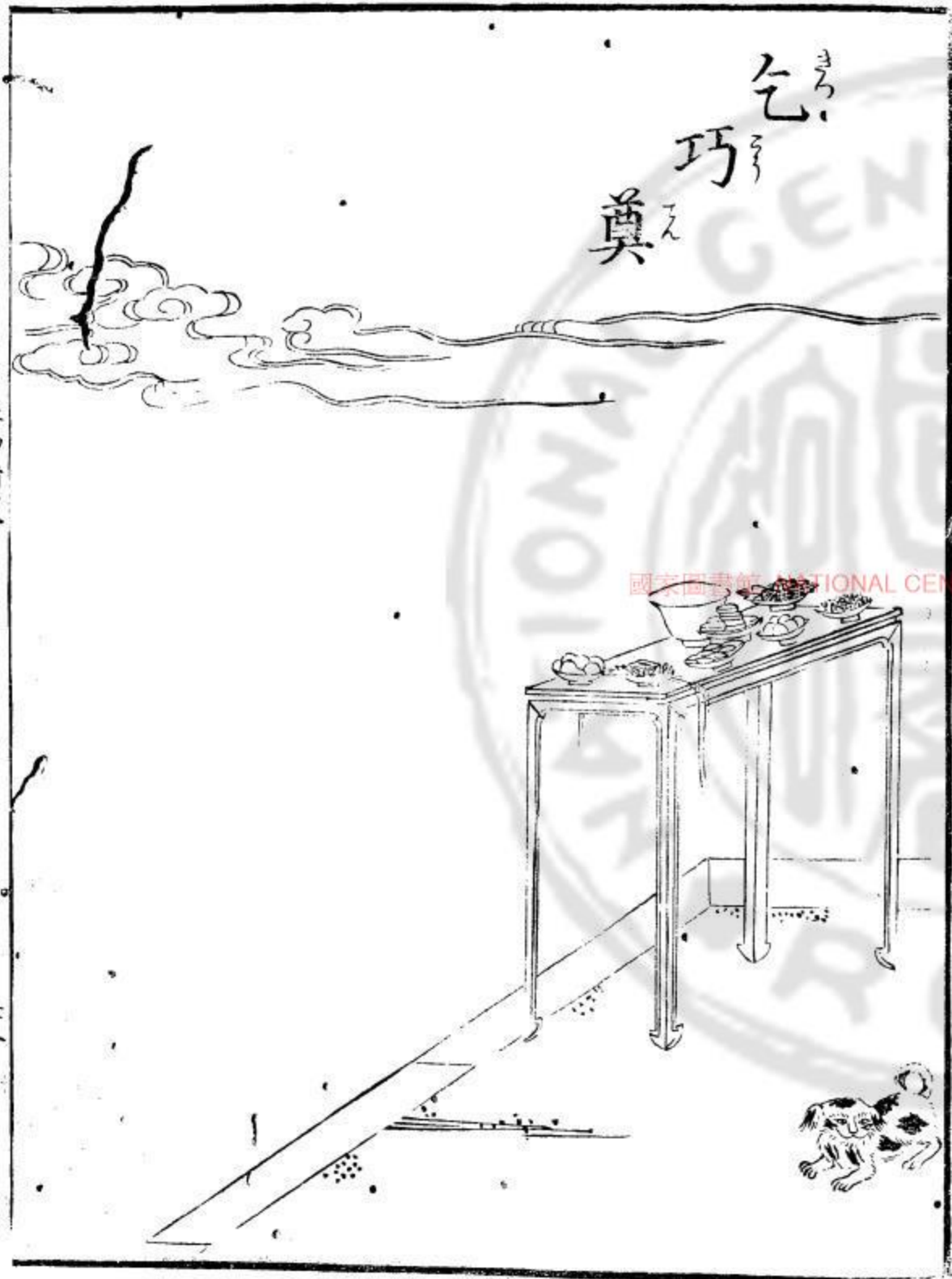
魚商人の目く百斤二百斤で買廻（鮮魚成養ふ）水の行の價（銀三四文程）右の氷野へ
 方々寒の内山中陰冷の場（別み深き九二三丈濶さ三四丈の穴を掘肉は
 火成焚然地成搗堅め數万斤の氷を入上（石を覆ひ又土をぬく氣
 此漏らふやうに堅く繕其上（草葺の假屋を建雨水成防ぐ）止成
 氷廠と号く（暑の時み至る）賣出（）

○七月七日成巧日と唱（露臺）樓の前（架）造（成）仕出（三方）櫛（子）を（）屋根（）を（）
 とれ（）上（）に（）を（）針（）七（）本（）結（）糸（）七（）を（）成（）

卓成（）居（）菓子（）菓物（）め（）く（）七（）品（）物（）さ（）針（）七（）本（）結（）糸（）七（）を（）成（）
 牽牛織女の二星（）み（）借（）夜半（）み（）至（）る（）幼女（）と（）を（）拜（）し（）年（）を（）
 借（）る（）針（）糸（）成（）通（）は（）針（）を（）穿（）針（）乞（）巧（）と（）ふ（）

氷廠





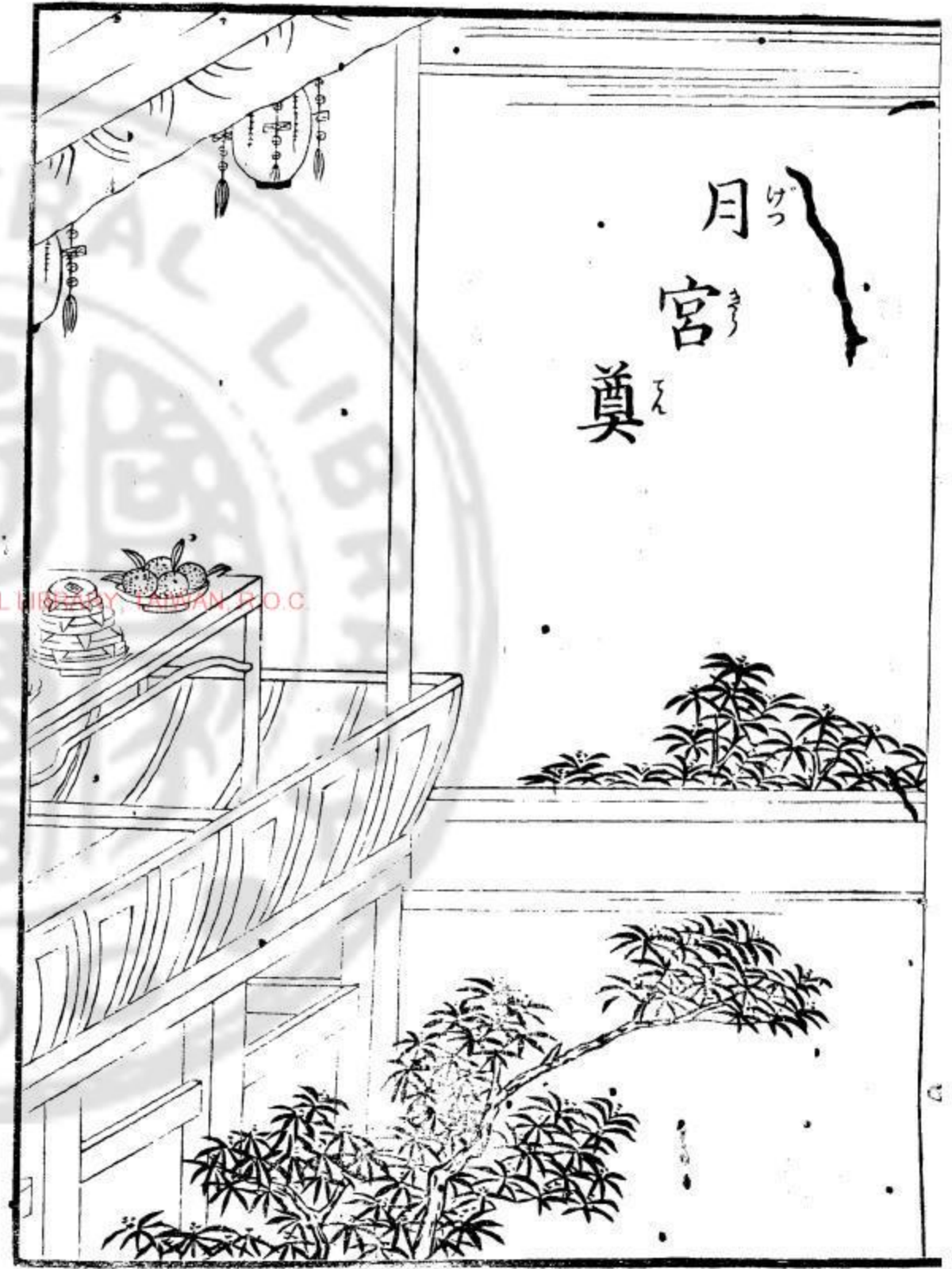
○七月七日又くきりてい菊葉菱子茄子蘭花豆等ハナハナ豆ハ蠶豆を小舟に載せ、皮をきき、四ツ割り、油の中揚げる。菊の花の形に作る。
 麦の穂穂を油油ゆく揚食以足在巧菓とふ ○七月十二日夜先祖の亡
 霊を迎えよと一廳堂の上座卓を並香華燈燭茶湯代供(禮拜)と先を
 接祖先と唱ふ十三日(と)茶酒飯魚肉雜豆腐温飽其外時候の菓物
 野菜類を十五日まで日々改め供ふなり地方みよとて十七日夜まで茶
 もあつ江南をみよと十五日一日祭祀供物等(異)ふ事れ(且)三年の
 喪わふ内ち十二日夜(と)一日又(と)日僧を清(と)備経を頼む(を)留まの
 者の宅みよ(と)燭口の供養をせふもあつ ○中元(と)城隍廟の陰官を
 請(と)祀孤あり清明の時(と)同(と) ○七月晦日小の月地藏菩薩の誕
 日(と)つ(と)傳(と)地藏の廟(と)糸詣(と)暮(と)て家(と)門前(と)み卓(と)代(と)並香燭(と)小
 線香を林(と)家内の者(と)一人(と)み蠟燭(と)二(と)奉(と)宛(と)の積(と)み(と)礎(と)之(と)十(と)人(と)之(と)二十

挺を竹杭み差(と)比上(と)み(と)立(と)列(と)絲(と)燃(と)す(と)且(と)成(と)地燈(と)とふ
 ○八月三日灶神の誕日(と)せ(と)香燭(と)並(と)み糕(と)を供(と)ふ
 ○八月十五八月宮の誕日(と)つ(と)傳(と)家(と)露(と)臺(と)み卓(と)代(と)設(と)斗香(と)並(と)み月餅
 斗香ハ斗外を小形(と)及(と)造(と)て法(と)を入(と)線香(と)代(と)を(と)不(と)月(と)解(と)ハ(と)表(と)務(と)在(と)の(と)内(と)ハ(と)胡(と)麻(と)西(と)瓜(と)の(と)種(と)
 撒(と)攪(と)仁(と)青(と)皮(と)等(と)を(と)刻(と)白(と)砂(と)糖(と)并(と)文(と)箔(と)と(と)胡(と)麻(と)油(と)み(と)揚(と)ふ(と)を(と)月(と)輪(と)み(と)傷(と)り(と)圓(と)く(と)振(と)る(と)大(と)小(と)有(と)
 西瓜梨子柿等(と)圓(と)丸(と)菓(と)物(と)の(と)類(と)代(と)供(と)家(と)内(と)打(と)寄(と)酒(と)食(と)を(と)設(と)明(と)月(と)を
 賞(と)寸(と)酒(と)朋(と)友(と)等(と)取(と)寄(と)り(と)看(と)月(と)會(と)と(と)酒(と)宴(と)を(と)催(と)せ(と)も(と)あり
 ○同日(と)中(と)秋(と)佳(と)節(と)と(と)近(と)き(と)親(と)類(と)内(と)ら(と)月(と)餅(と)魚(と)肉(と)梨(と)子(と)栗(と)柿(と)等(と)代(と)互(と)み(と)送(と)ふ
 ○八月十五夜(と)雨(と)降(と)ハ(と)暮(と)年(と)正(と)月(と)元(と)日(と)晴(と)天(と)あり(と)十五(と)日(と)晴(と)天(と)あり(と)元(と)日(と)雨(と)天(と)と
 雨(と)雲(と)掩(と)中(と)秋(と)月(と)雨(と)打(と)上(と)元(と)燈(と)と(と)之(と)不(と)白(と)成(と)云(と)傳(と)ふ
 ○八月十八日(と)辰(と)潮(と)生(と)日(と)と(と)海(と)邊(と)の(と)地(と)方(と)ハ(と)平(と)潮(と)の(と)時(と)刻(と)濱(と)邊(と)み(と)卓(と)を(と)お(と)さ
 香燭(と)並(と)み(と)猪(と)羊(と)二(と)種(と)酒(と)三(と)爵(と)を(と)供(と)地(と)方(と)官(と)下(と)屬(と)の(と)役(と)人(と)代(と)引(と)願(と)ふ



年中行夏

廿四



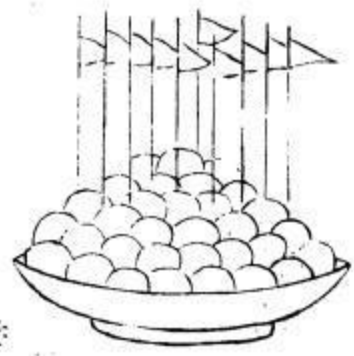
月げつ
宮みや
奠え

國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

跟随を従へ其羽み来ると海面に向ひ二跪六叩首の禮を行ひ拜し手
 了て供物等取収む ○九月九日重陽めと朋友かと誘ひ酒食を
 携へ山上み登り待候作り糸竹を弄び終日遊翫を足登高や
 唱ふ又菊花あふ羽の東籬の遺風成傳へ賞をふ者も有同日所
 みよと太后上廟の前み戲臺を掲げ做戯し神恩成謝せふあり
 ○九月九日家々栗糕とて栗の粉をさ糸栗肉成刻し脩めて糕成造る者
 多食良は 又米粉のこもく糕成掲げ大サ一寸 數三四十盤み盛ると其上
 小きれ五色の紙縹成十存け之灶神へ供不足を登糕と唱ふ
 ○十月朔日を十月朝とふ先祖の墓所へ詣香燭供物等致禮拜を清明
 祭とて遠ひ家ごとくにありて供物等も省畧はるゝも家廟み
 ら供物をし由りおれり

同日清明中元の如く城隍廟の祀孤あり都て清明中元十月朔此三
 祀を鬼節と唱へ凶靈を祭祀と又元旦中秋冬至此三節を人節と云
 ○十月夕一至の節に在京大小の官人年始の如く朝服を着し衣内拜賀は
 在外の官人の寺廟へ参り竜牌を拜以一陽來復の節あり故家々
 酒宴を設け祝ひ貴族とも團子を作り吃は 團子一名團子と云糕菓
 大指の形をとて團くさうらう日湯ゆく 形をさ糸砂糖を脩め
 者々小ありの脩るに砂糖ゆく煮ふ

登糕



潮生 日
官祭



羊中行夏

廿六

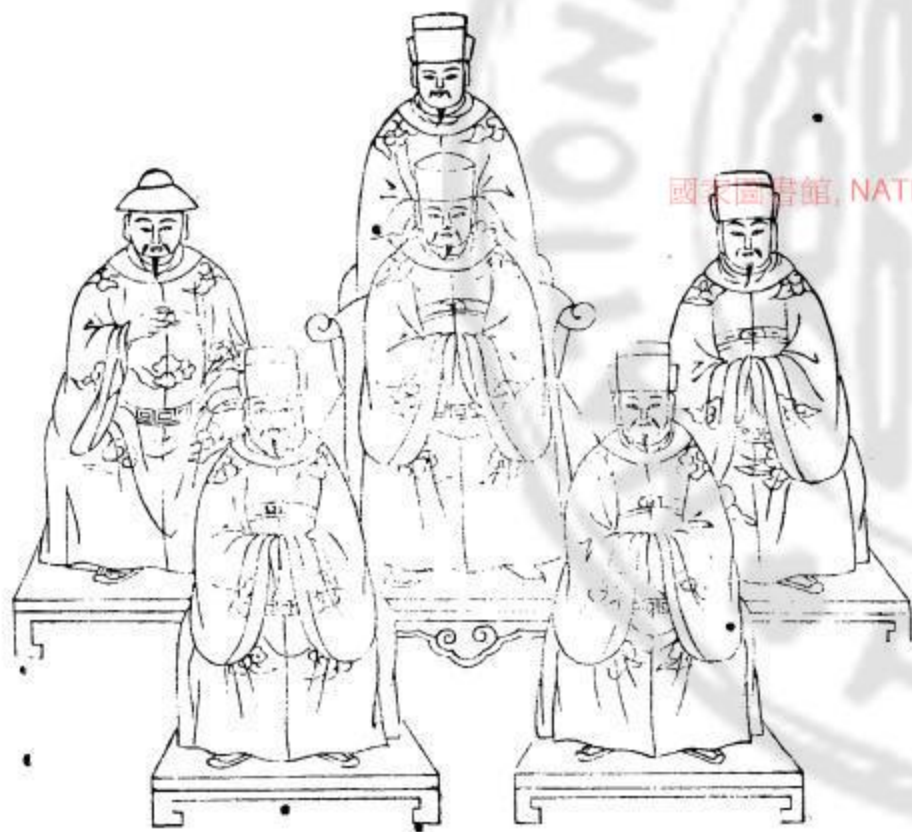
○十月四日孔子の聖誕の日に人より堂上其聖像を奉り香燭を焚く
 禮拜以三牲等の供物を奉る

○十二月八日戌臘八を唱へ寺々菓粥を炊凡一名臘八粥と云竜眼肉栗芋茨菰等
 檀家檀家に於て又人々を家内めぐり捨る者もある

○十二月十五日過すと謝神とて亦く六神六神の朝吉壇土地清竜利市招財和合を云
 並並び我信仰の神に三牲菓物等を供へ年中守護の神恩を謝謝る

○十二月十五日頃より正月半まで家々爆竹の遺風を以て厚紙めく
 六寸らえぬが長サ三四寸程の響炮あり六七寸は花炮を買又い家内
 めぐり捨る門次第庭めぐり夜毎新向あり放り事あり花炮と常也
 めて雨とふれとまじり邪氣を逐ふれ意あり

六 神

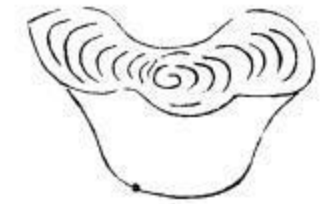


金銀錠

響音炮

花炮

糕年



桃符



除夜

除夜は官府大戸の向桃符と聯の中みさく之を板一對幅六寸長三寸柱童虎朝官桃柳平升三級の圖を彩畫一尺程の赤紙か上ぬる金箔みく福の字を切付下は四方の縁に花形或彫其中の種々の紋を彫みくみ指日高升加官進爵福自天來平升三級天官賜福の圖を須みく切付さか或五枚右一旬の圖を一枚み切堂の正面上楹など張る又官府大戸の伸舒爵律二神の儀代門神あり塗板の扉み畫兒あふを前廣み彩色を加ふ戸ら版み摺るか神儀代買又神名代赤紙み書扉の左右み張る且貴賤とも家の正面板等に迎福招慶如意紙を之を吉利の句代書して貼る

紙 樂 歡

福



福



年中行交

三

○除夜み家内打寄酒宴を設け年底の祝事を主人より銀又ハ残小

高も家族残らば百使の奴婢までおろし足をつ分歳と云

上小赤紙を貼ふは此方ゆく腰身を付か意あり

○同夜み万年糧と云ハ淘籬ニッみ芽と飯を盛て上み松柏の枝を挿

橘子菱子を並え日よ三日まで内室みかりをく是ハ家み餘糧

ありて食みまうさふ代表すか意あり

○除夜々人みよと歳を守りて寝さふ者もあり

○立春の前日み府州縣ともハ大歳と春牛と成りしら云

小児やに神儀成仍り装束をばさふ 春牛と竹ゆく高さ三四尺み牛のかけを

はる紙ゆくと彩色は又五寸程の小牛成同しすれり大牛の腹内み入る

堂みおせ大歳み春牛成挽せ郊外み童其地の本官ハ衣服をわく

免轎子みあり下屬の吏役ら移りみ春花をあげ

NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.



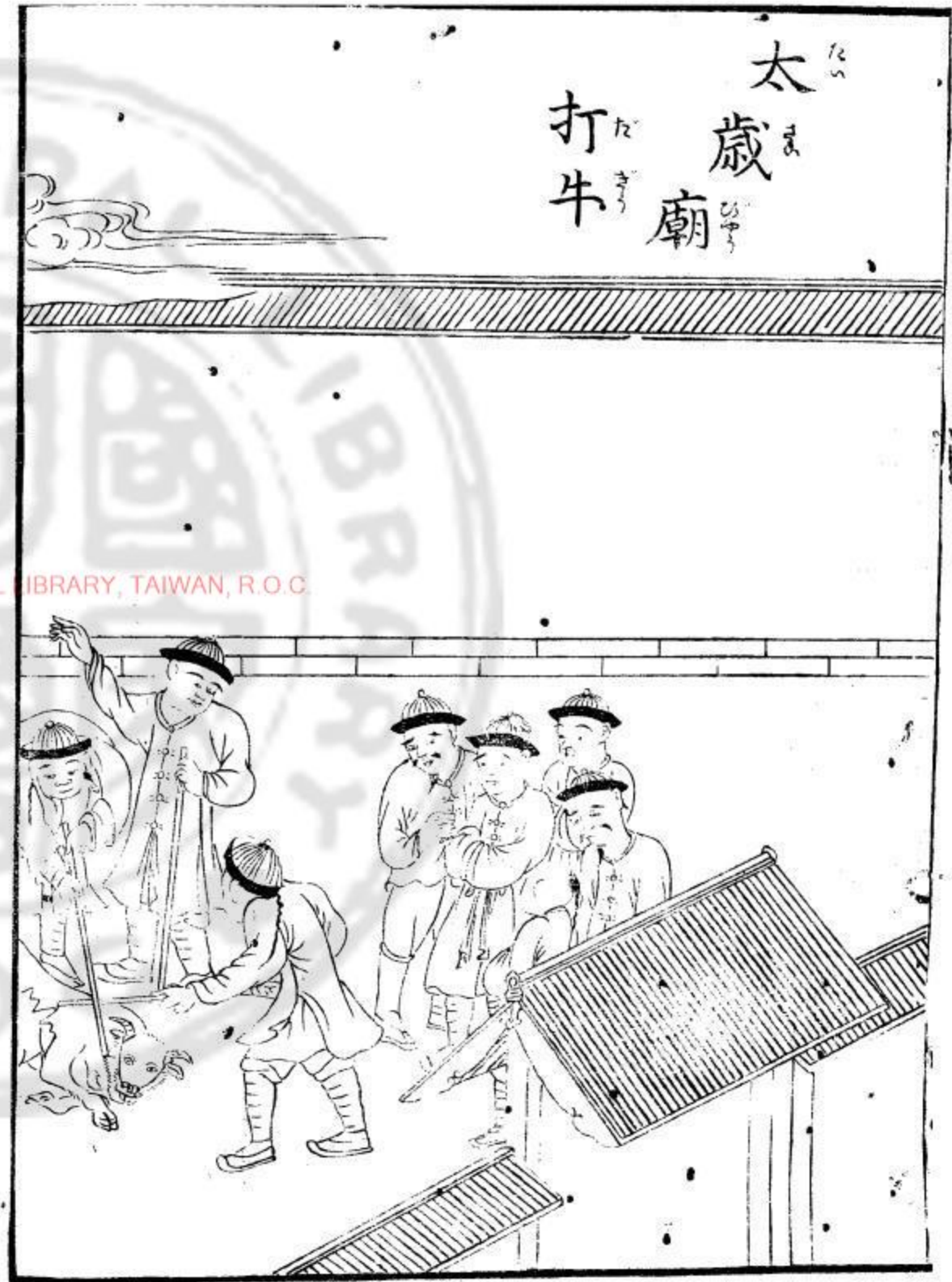
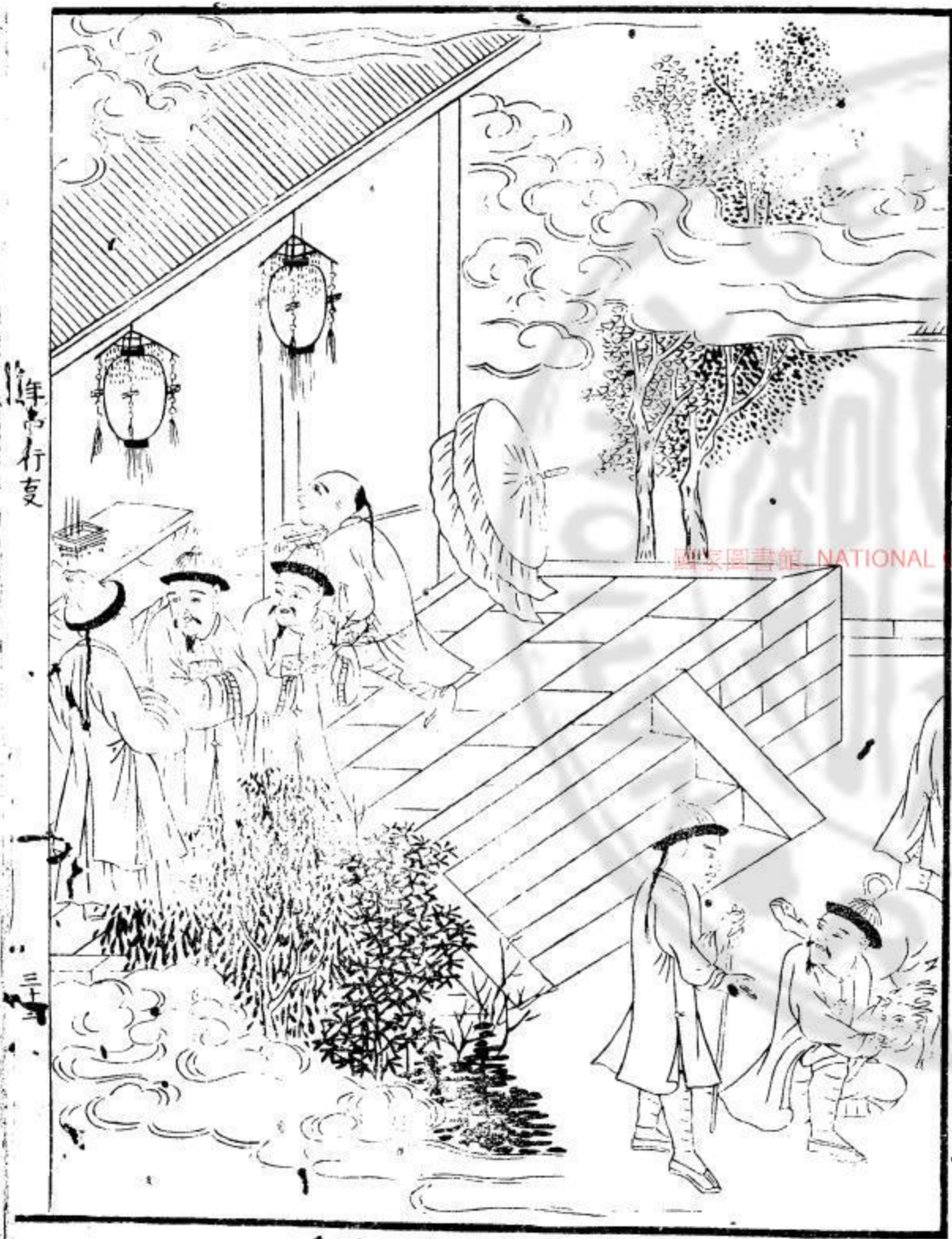
年
中
行
京

三



太歲 たいさい
 春牛 あひな
 迎春 あいな

國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.



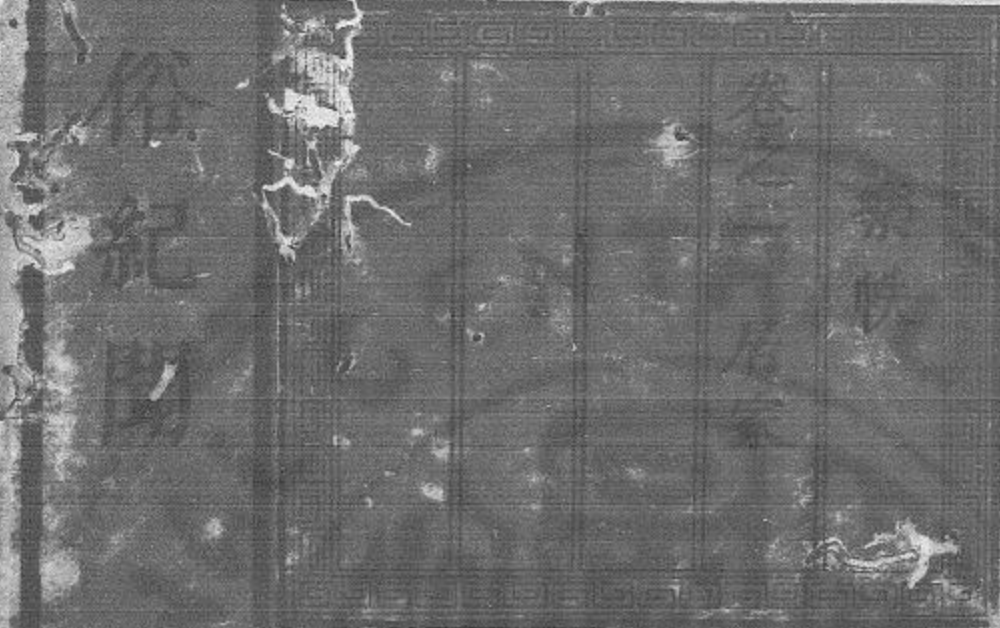
國家圖書館 NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.



國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

國立中央圖書館

函號	
架號	
順位	



國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.



清俗紀聞卷之二

居家

○居家の製作は各大小廣狭は別ありて同一やうなものは皆瓦葺きにして大抵

外面は泥塙板塙面は大門を設け大門より二間三間行ぬ儀門をたたく

儀門の内(玄關)の格は廣狭一間は格客人あど来臨は時ハ此向ぬ應

對は是は廳堂といふ一は外廳廳堂の兩側空地を設け樹木等植はるも

あり又一方書房は造作をせむる廳をせむる真の方を格しく廳堂は

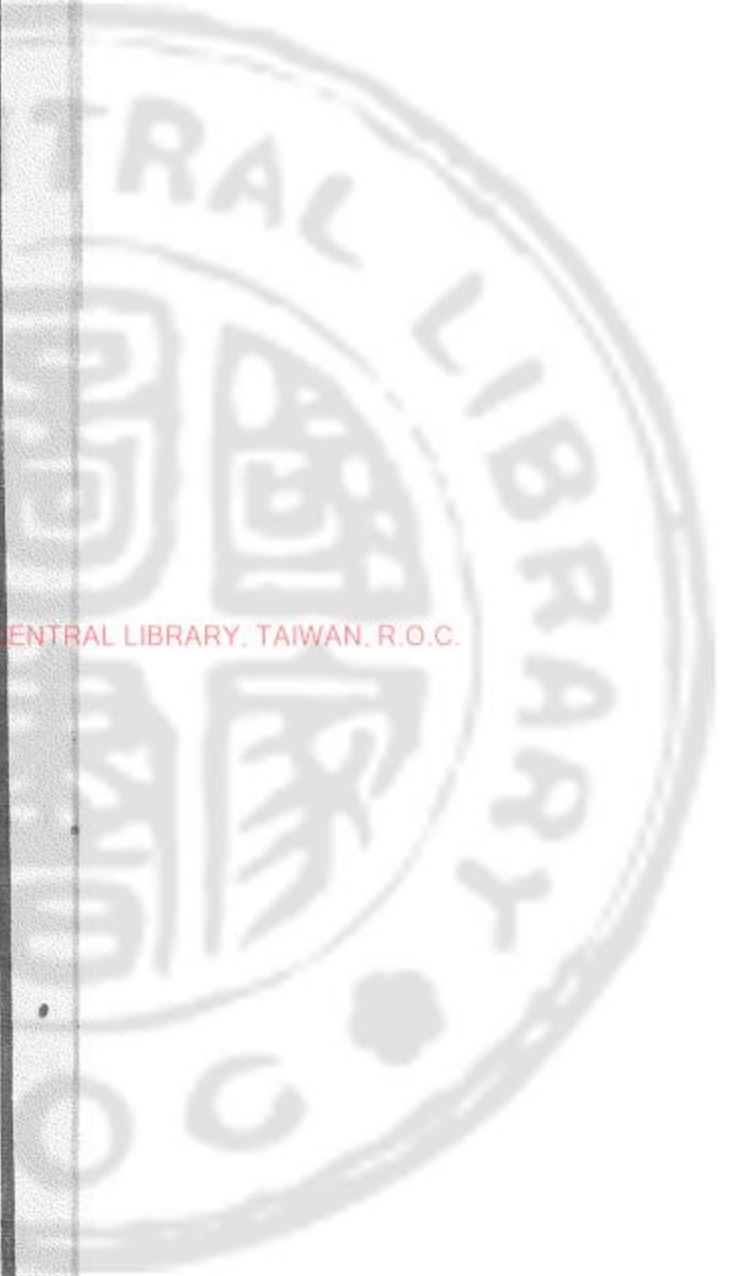
建まはる内廳より大戸を是を兩楹建て川堂内廳と分別するもあり

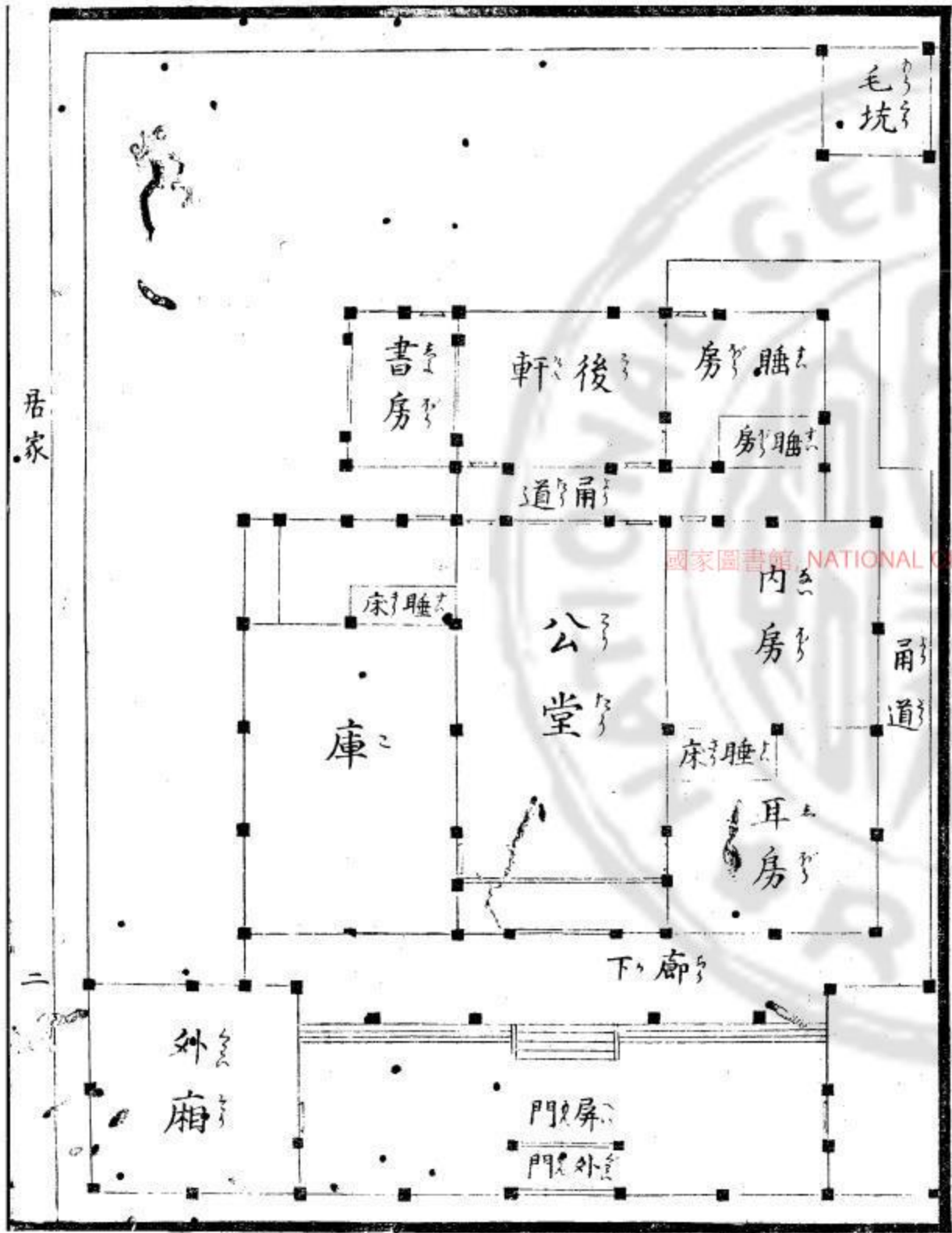
内廳の側(書房)を設け是より内房(通ふ一楹)に建つけたるもあり

内房の別み建かもあり其奥の方厨下あり惣して柱を圓方等しかり

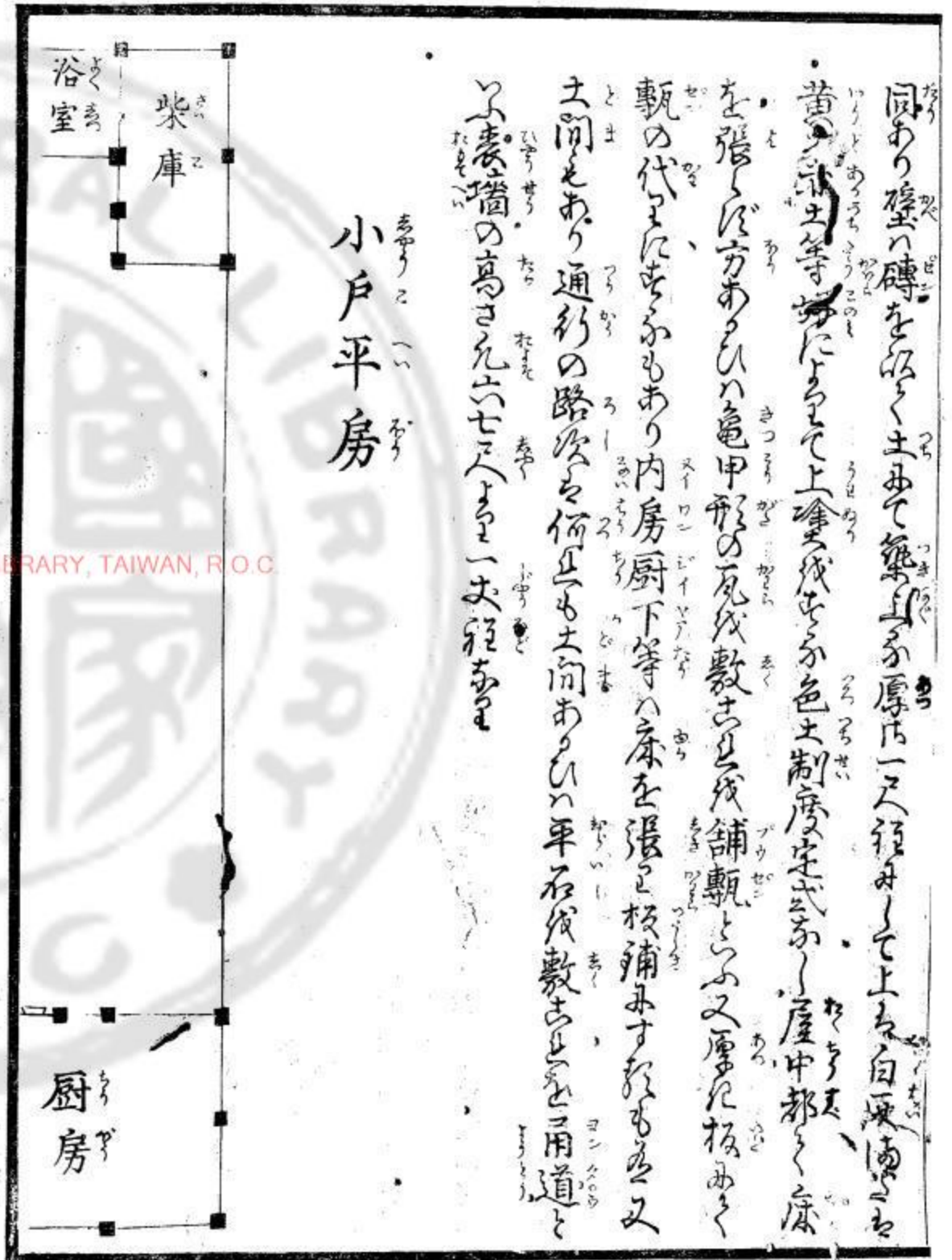
を廳堂むけは多く圓柱は用ぬ柱毎み礎を並礎も圓方或は六角等不

居家





居家

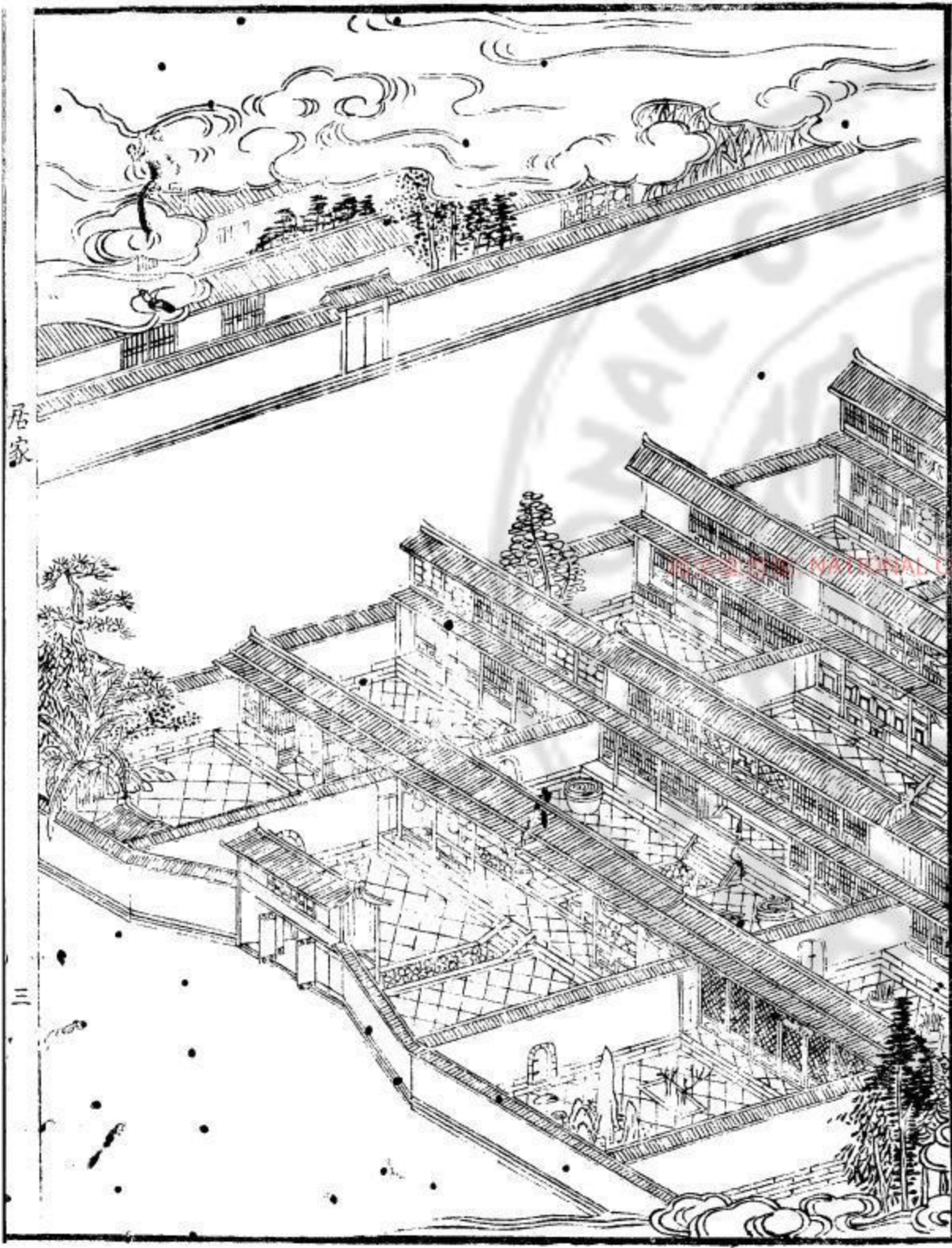
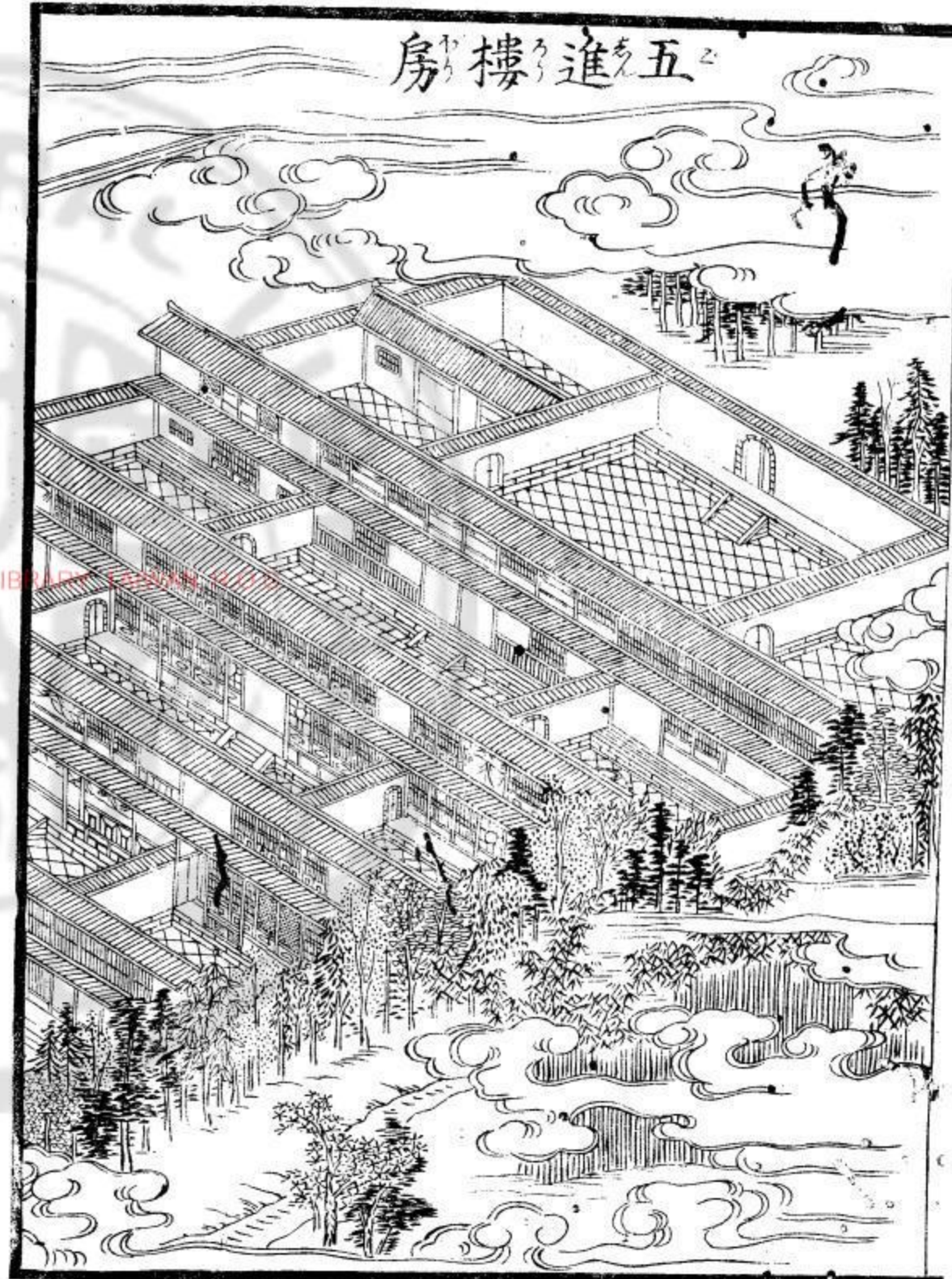


小戸平房

同あり壁の磚をぬき土母で築山系厚内一尺程にして上白灰塗り
 黄土等好たよるて上塗成を赤土制度定式あり屋中好く床
 を張る方ありい亀甲形の瓦敷敷き成舗敷とふ又厚板敷
 輒の代りたふふあり内房厨下等の床を張る板舗敷すたふ又
 土間もあり通行の路次を何れも土間ありい平石敷敷きを
 下表壁の高さ九六七八より一丈程あり

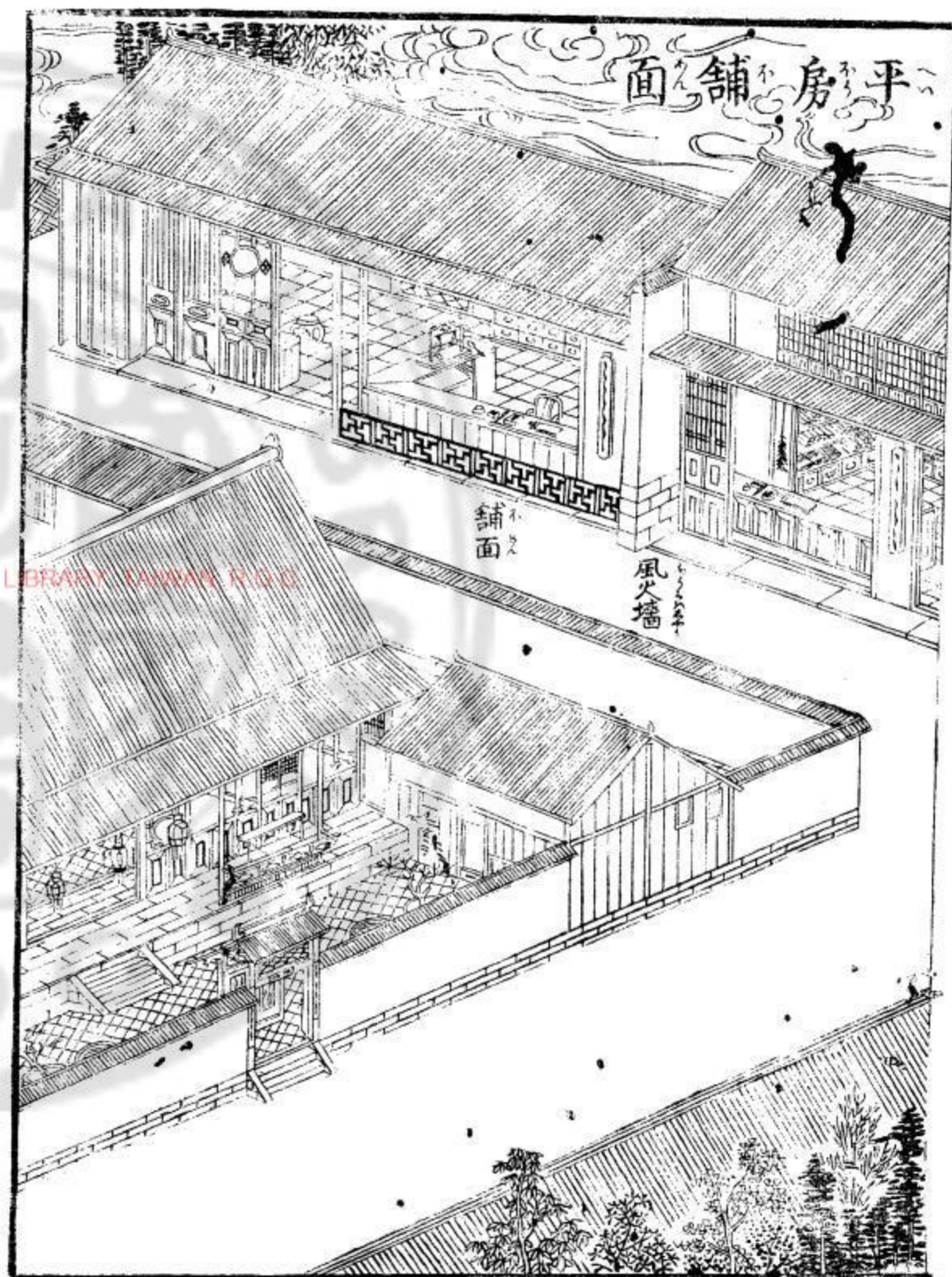
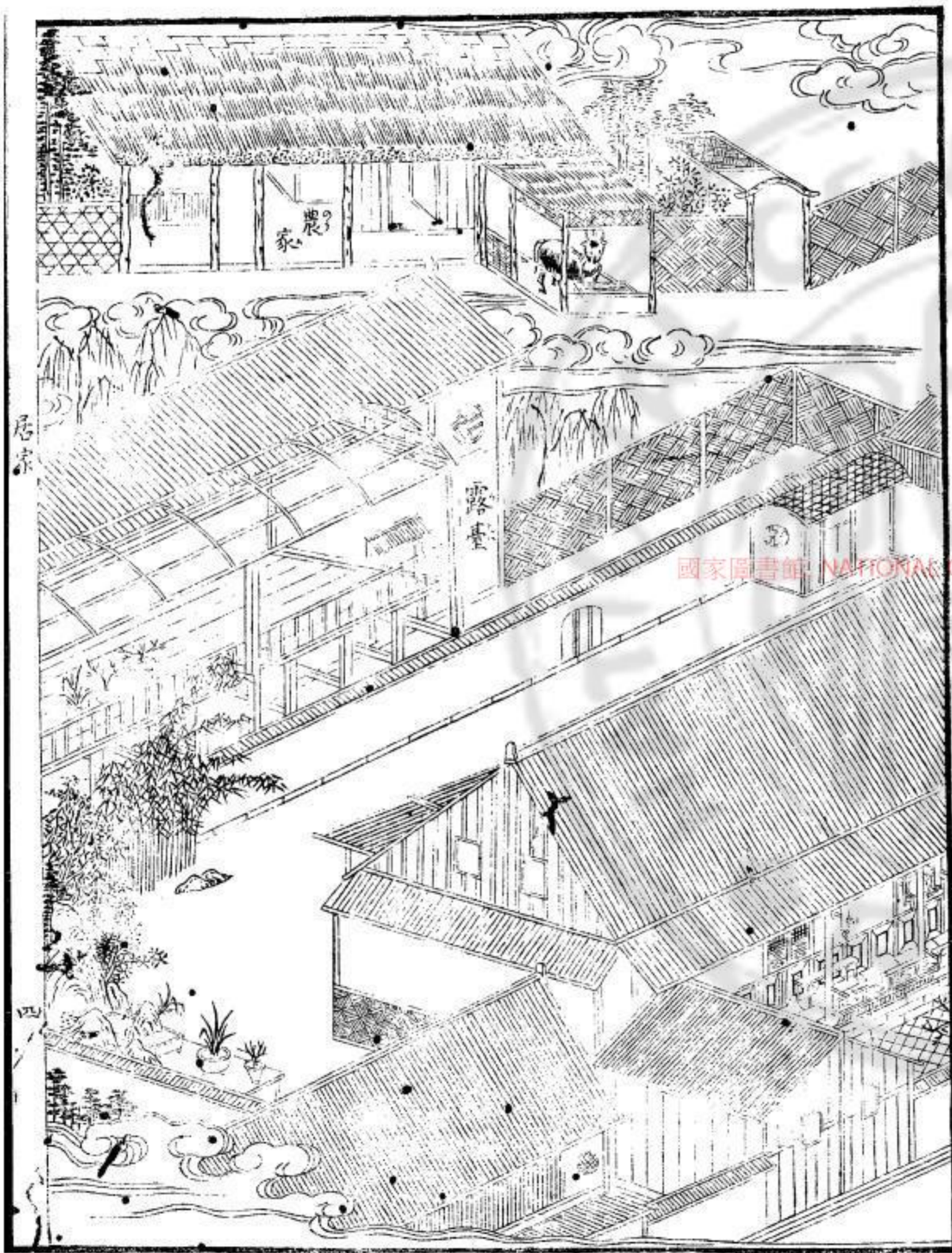
國家圖書館 NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

五進樓房



居家

三



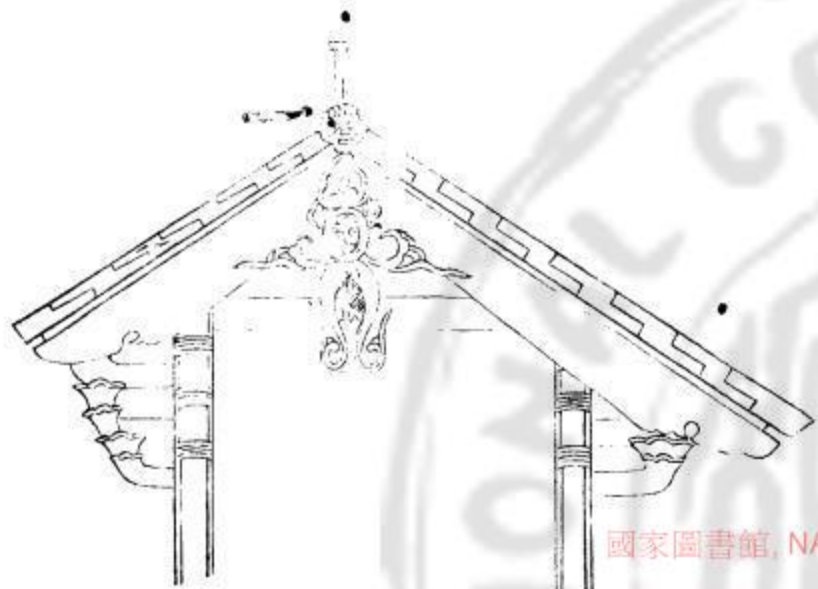
國家圖書館 NATIONAL CENTRAL LIBRARY TAIWAN R.O.C.

○大門高三七八尺、一丈余幅、是れ稱ふ瓦葺みして二枚を扉左右に寄り柱方を礎^{いんすい}と爲し、かく^{いんすい}扉^{いんすい}神茶^{しんさ}鬱^{いんすい}壘^{いんすい}の神儀^{しんぎ}成^{いんすい}張^{いんすい}り門上^{いんすい}額^{いんすい}を掛^{いんすい}柱^{いんすい}み^{いんすい}襍^{いんすい}成^{いんすい}紅唐紙^{こうたうし}み書^{いんすい}く張^{いんすい}か^{いんすい}額^{いんすい}の向^{いんすい}む^{いんすい}大家^{たいか}官^{くわん}丞^{しやう}等^{とう}の大門^{たいもん}の兩^{りゆう}側^{がわ}へ小門^{せうもん}を設^{いんすい}け^{いんすい}る^{いんすい}も^{いんすい}あ^{いんすい}る^{いんすい}是^{いんすい}れ^{いんすい}角^{かく}門^{もん}と^{いんすい}夜^や分^{ぶん}と^{いんすい}大^{たい}門^{もん}内^{うち}角^{かく}門^{もん}と^{いんすい}出^い入^に以^{もつ}角^{かく}門^{もん}を^{いんすい}設^{いんすい}け^{いんすい}る^{いんすい}は^{いんすい}大^{たい}門^{もん}の^{いんすい}内^{うち}へ^{いんすい}一^{いつ}間^{かん}を^{いんすい}置^いく^{いんすい}大^{たい}門^{もん}内^{うち}に^{いんすい}是^{いんすい}れ^{いんすい}屏^{びん}門^{もん}と^{いんすい}不^ふ常^{じょう}に^{いんすい}開^{ひら}く^{いんすい}内^{うち}に^{いんすい}透^とる^{いんすい}や^{いんすい}あ^{いんすい}ま^{いんすい}す^{いんすい}か^{いんすい}り^{いんすい}此^この^{いんすい}か^{いんすい}ら^{いんすい}に^{いんすい}出^い入^にせ^{いんすい}る^{いんすい}貴^き人^{にん}高^{こう}位^ゐの^{いんすい}來^き臨^{りん}み^{いんすい}止^とり^{いんすい}成^{いんすい}開^{ひら}き^{いんすい}出^い入^にせ^{いんすい}る^{いんすい}は^{いんすい}大^{たい}門^{もん}の^{いんすい}内^{うち}側^{がわ}に^{いんすい}耳^{みみ}房^{ぼう}を^{いんすい}建^た門^{もん}番^{ばん}人^{にん}住^す居^ぐの^{いんすい}耳^{みみ}房^{ぼう}と^{いんすい}二^に間^{かん}方^{かた}等^{とう}く^{いんすい}は^{いんすい}番^{ばん}人^{にん}の^{いんすい}官^{くわん}家^か大^{たい}戸^こに^{いんすい}限^{かぎ}る^{いんすい}平^{へい}民^{みん}用^{よう}と^{いんすい}事^{こと}儀^ぎ門^{もん}と^{いんすい}官^{くわん}家^かみ^{いんすい}設^{いんすい}く^{いんすい}大^{たい}門^{もん}と^{いんすい}二^に間^{かん}内^{うち}に^{いんすい}引^ひ取^とり^{いんすい}門^{もん}を^{いんすい}建^た造^{ぞう}法^{ぽう}大^{たい}門^{もん}と^{いんすい}同^{どう}く^{いんすい}扉^{いんすい}を^{いんすい}常^{じょう}に^{いんすい}開^{ひら}て^{いんすい}出^い入^にす^{いんすい}か^{いんすい}事^{こと}れ^{いんすい}は^{いんすい}氏^し家^かの^{いんすい}儀^ぎ門^{もん}を^{いんすい}設^{いんすい}か^{いんすい}事^{こと}成^{いんすい}屏^{びん}門^{もん}を^{いんすい}以^{もつ}屏^{びん}門^{もん}を^{いんすい}設^{いんすい}け^{いんすい}る^{いんすい}は^{いんすい}此^この^{いんすい}扉^{いんすい}も^{いんすい}襍^{いんすい}成^{いんすい}等^{とう}の^{いんすい}書^{しよ}張^{ちやう}と^{いんすい}是^{いんすい}の^{いんすい}門^{もん}と^{いんすい}先^{せん}祖^その^{いんすい}官^{くわん}家^かに^{いんすい}は^{いんすい}け^{いんすい}れ^{いんすい}る^{いんすい}か^{いんすい}も^{いんすい}あ^{いんすい}る^{いんすい}は^{いんすい}氏^し家^か

○みまも儀門を設く

○廳堂大小不同を儀門の内み設く入口は扉二枚あり、一回板間の大小に依りて、^{いんすい}て^{いんすい}ど^{いんすい}く^{いんすい}の^{いんすい}下^{した}に^{いんすい}輒^{しやく}を^{いんすい}去^され^{いんすい}た^{いんすい}右^{みぎ}壁^{かべ}柱^{はしら}一^{いつ}本^{ぽん}を^{いんすい}以^{もつ}て^{いんすい}礎^{いんすい}を^{いんすい}置^いく^{いんすい}は^{いんすい}方^{かた}圓^{えん}ある^{いんすい}は^{いんすい}六^{ろく}角^{かく}等^{とう}ひ^いと^{いんすい}の^{いんすい}く^{いんすい}ず^{いんすい}堂^{だう}の^{いんすい}正^{せい}面^{めん}に^{いんすい}床^{とこ}に^{いんすい}中^{ちゆう}の^{いんすい}形^{かたち}を^{いんすい}取^とり^{いんすい}成^{いんすい}す^{いんすい}は^{いんすい}一^{いつ}枚^{まい}の^{いんすい}多^たく^{いんすい}は^{いんすい}卓^{たく}子^し成^{いんすい}並^{びん}書^{しよ}画^が掛^か物^{ぶつ}成^{いんすい}の^{いんすい}上^{うへ}に^{いんすい}額^{がく}を^{いんすい}打^う兩^{りゆう}方^{かた}へ^{いんすい}襍^{いんすい}成^{いんすい}の^{いんすい}上^{うへ}に^{いんすい}香^{かう}爐^ろ花^か瓶^{びん}を^{いんすい}置^い兩^{りゆう}側^{がわ}へ^{いんすい}洋^{やう}木^{ぼく}紫^し檀^{だん}紫^し竹^{ちく}等^{とう}の^{いんすい}椅子^{いす}杓^{しやく}子^しを^{いんすい}置^いく^{いんすい}は^{いんすい}此^この^{いんすい}客^{きやく}人^{にん}來^きり^{いんすい}て^{いんすい}坐^ませ^{いんすい}る^{いんすい}は^{いんすい}此^この^{いんすい}兩^{りゆう}側^{がわ}の^{いんすい}正^{せい}面^{めん}に^{いんすい}兩^{りゆう}眼^{がん}を^{いんすい}向^むけ^{いんすい}て^{いんすい}出^い入^にす^{いんすい}る^{いんすい}は^{いんすい}二^に枚^{まい}を^{いんすい}設^{いんすい}け^{いんすい}る^{いんすい}は^{いんすい}此^この^{いんすい}出^い入^に口^{くち}と^{いんすい}爲^なす

面側門外



居家

面正門外



東天自福

融蕩仁風雨露春

舒長化日雍熙晝

九天日月開新運

萬里生歌醉太平

國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

公堂正名面

居茶



扇門屏

神門神
鬱茶神



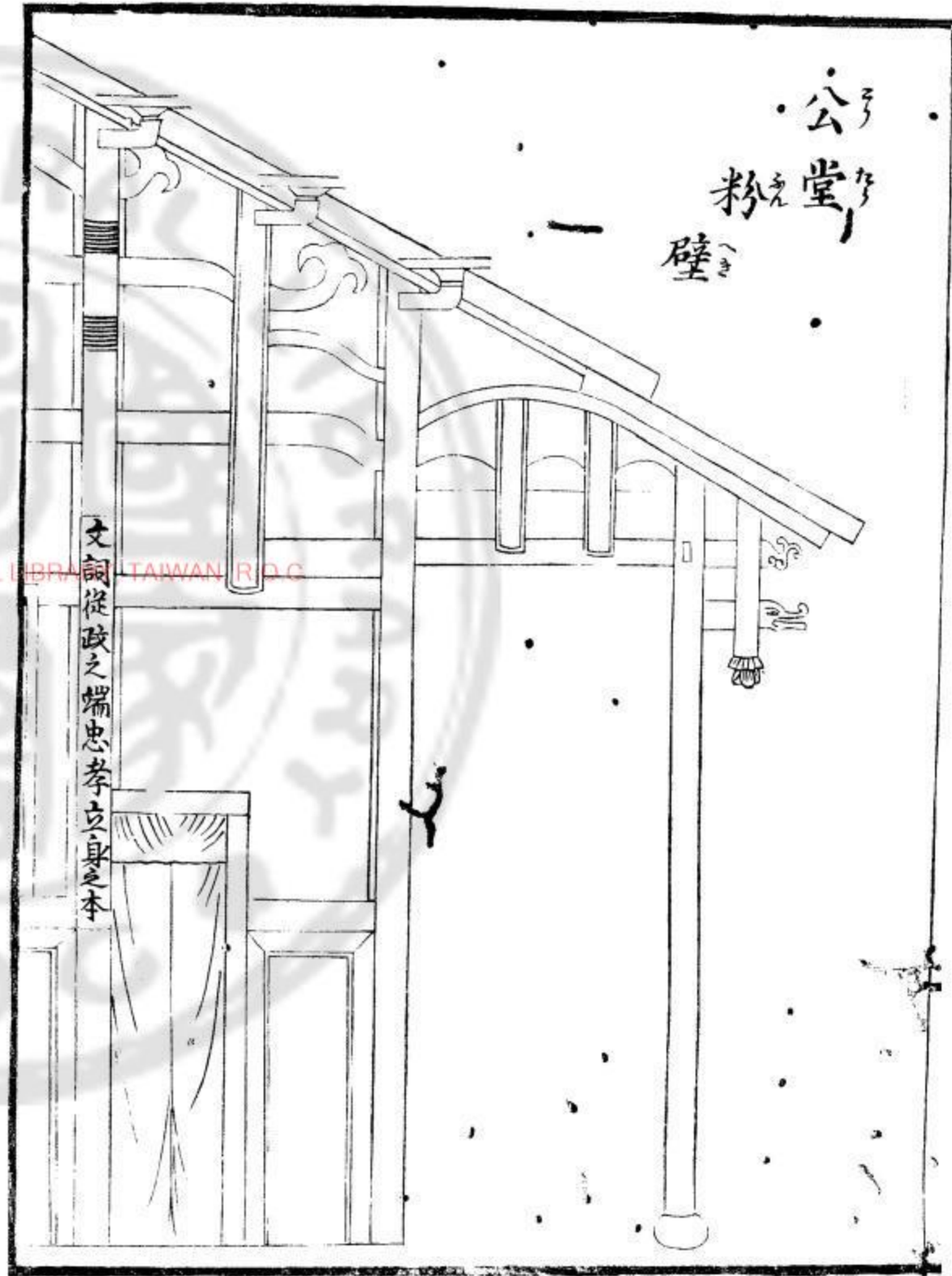
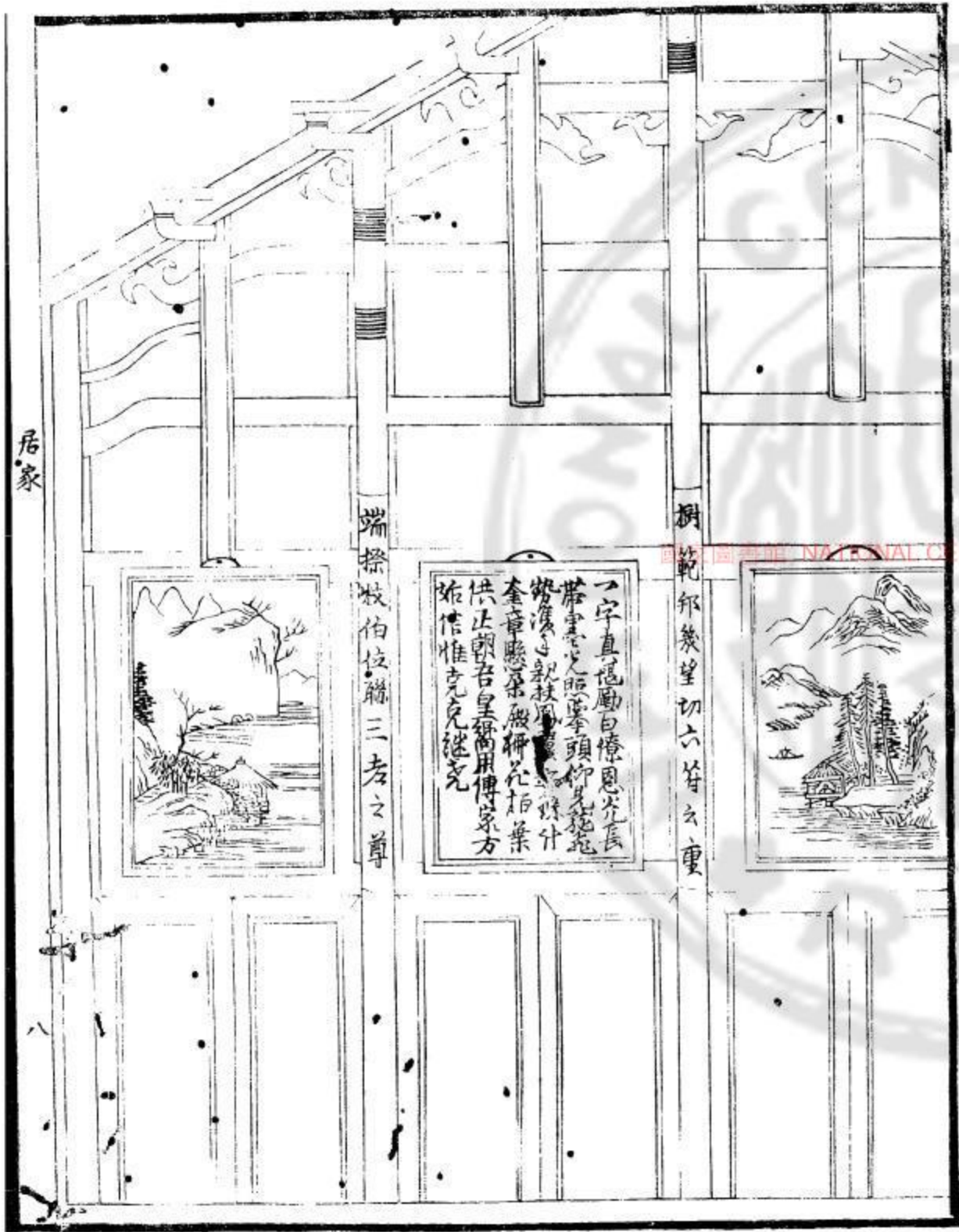
融蕩仁風雨露春

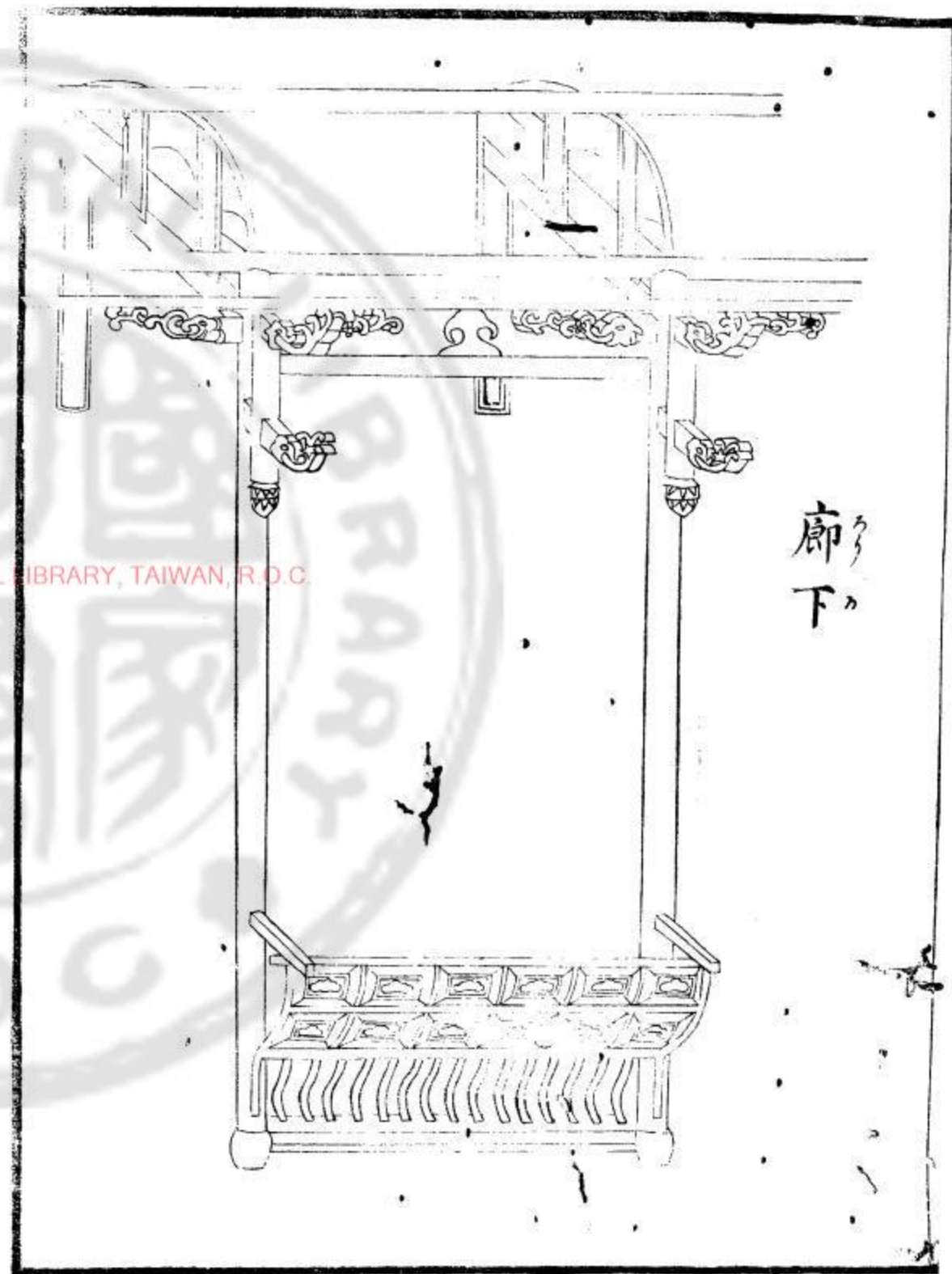
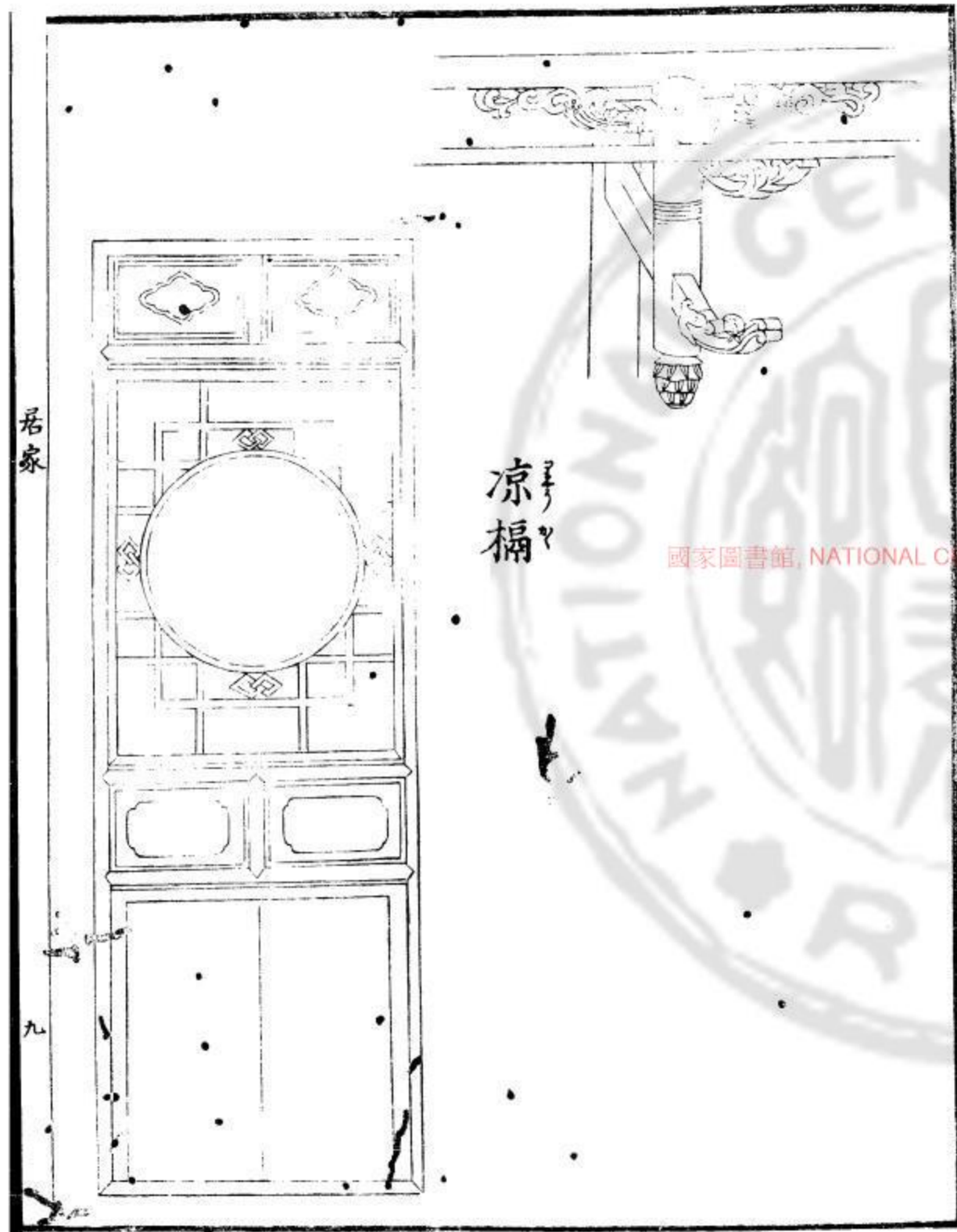
舒長化日雍熙晝

萬里笙歌騰太平

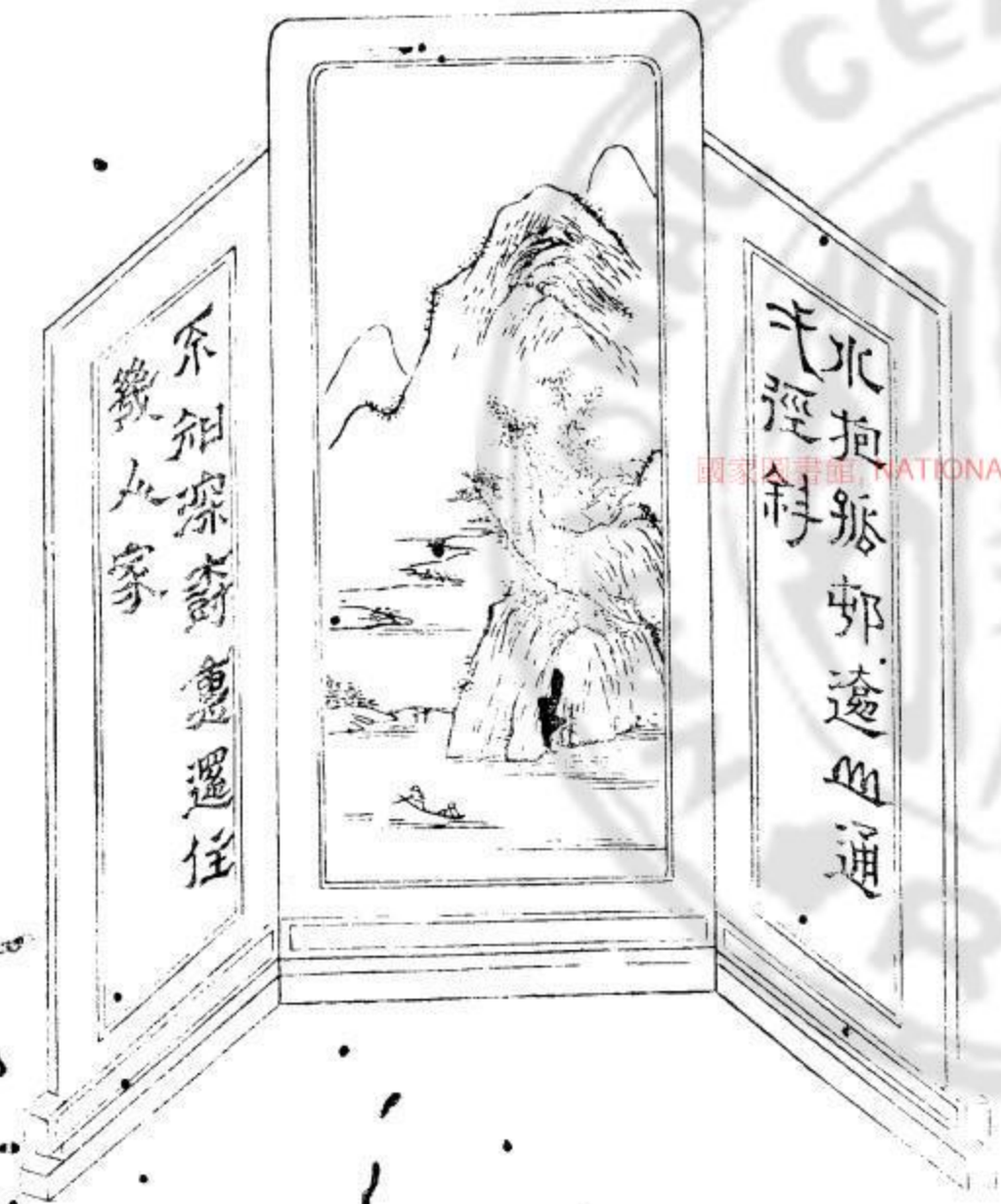


九天日月開新運



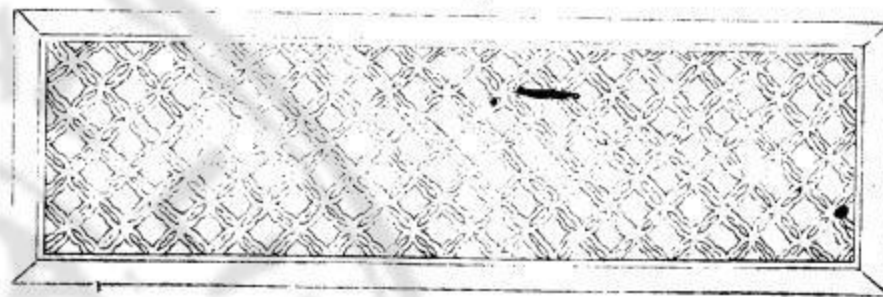


圍屏

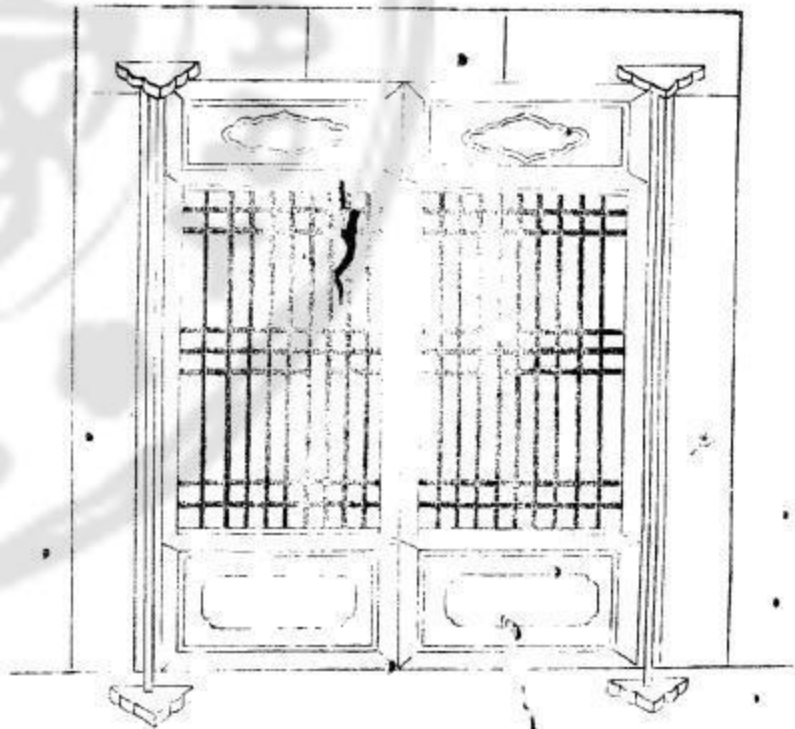


居家

天花板花板



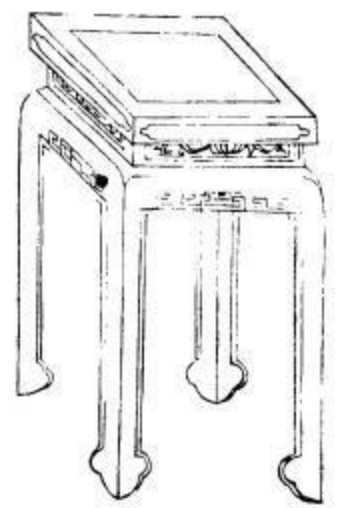
障子



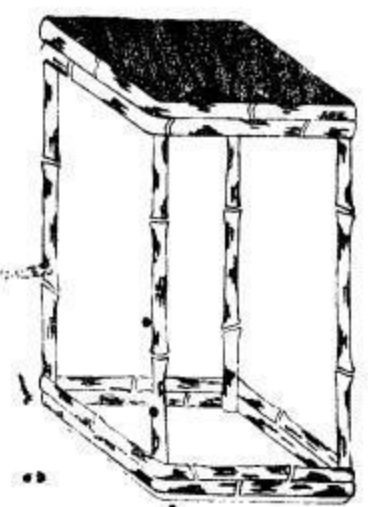
NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

居家

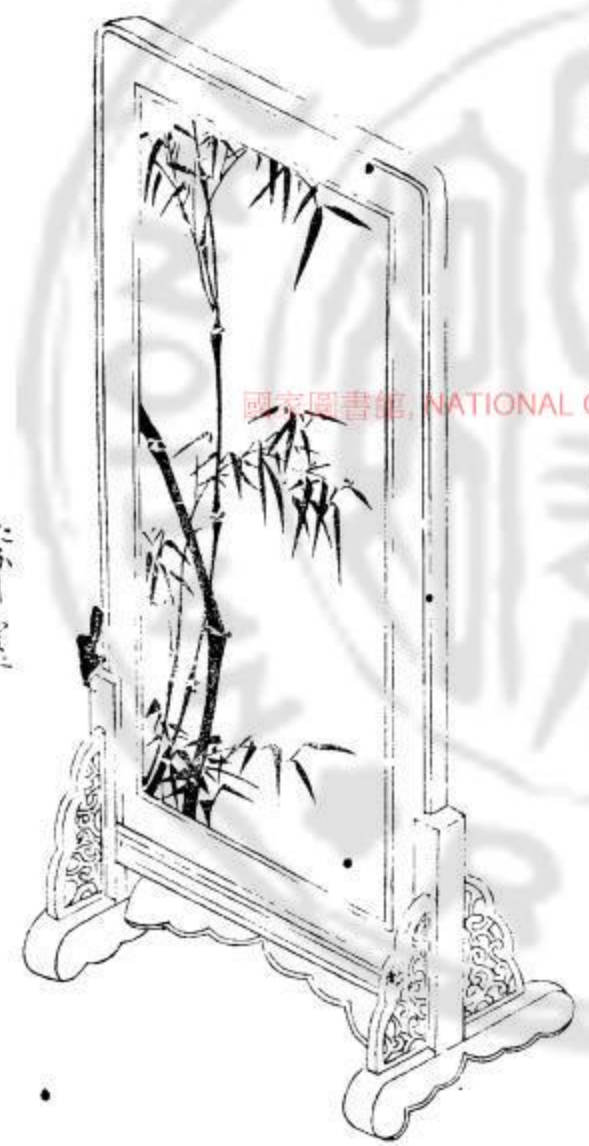
杌子



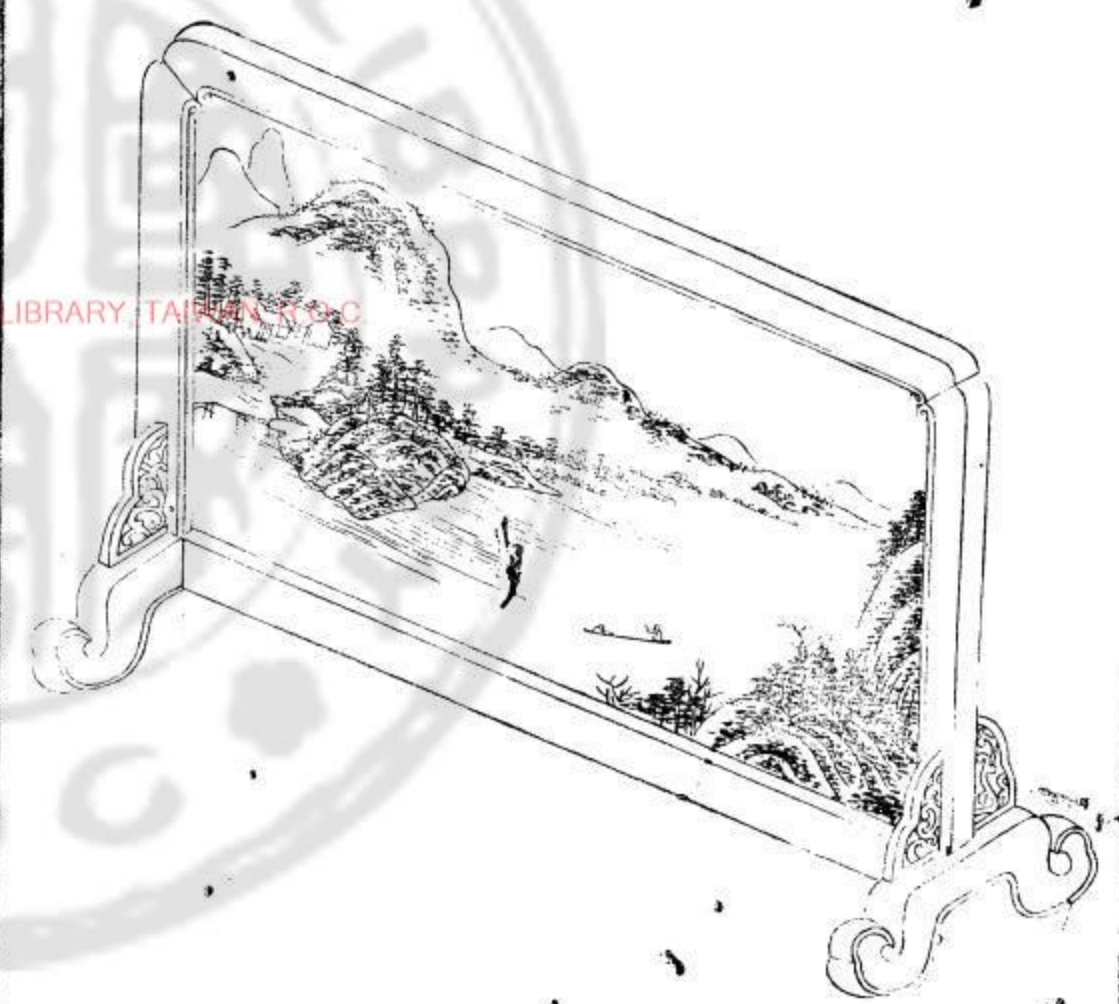
同上



插屏



掩障

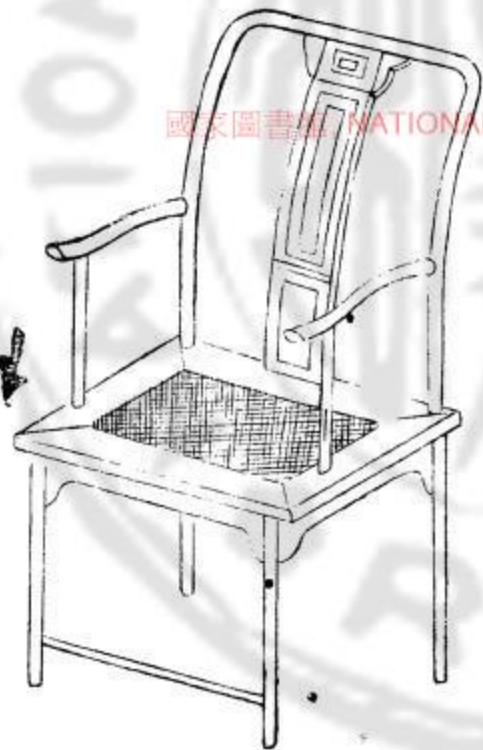


國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

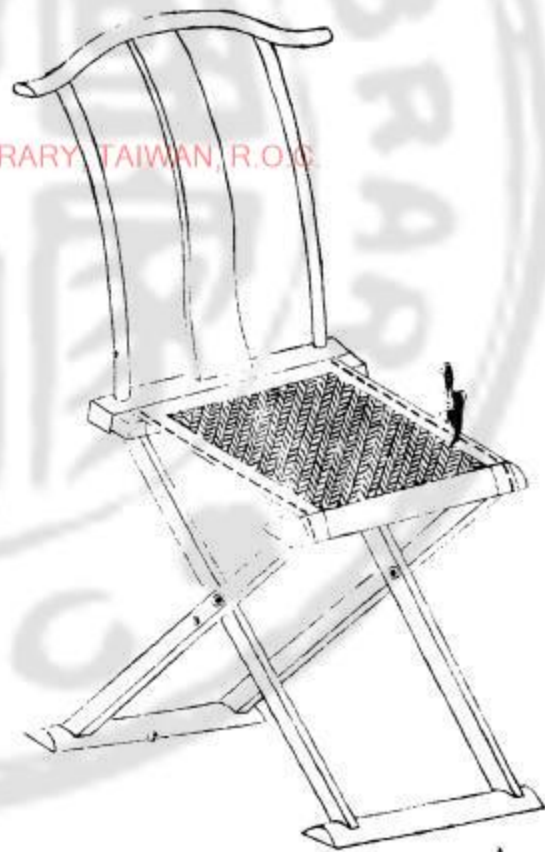
竹椅



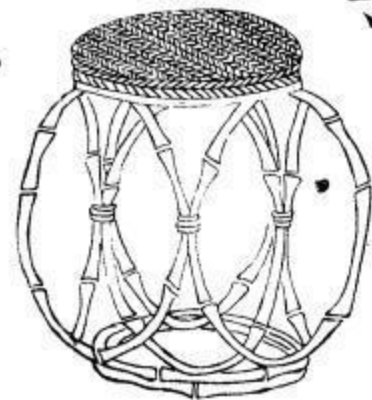
靠椅



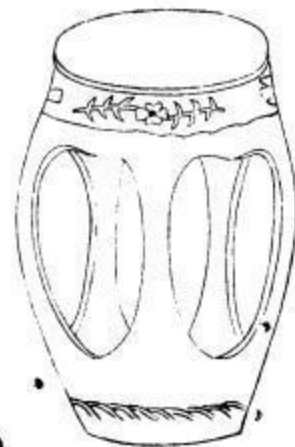
交椅子



杌子

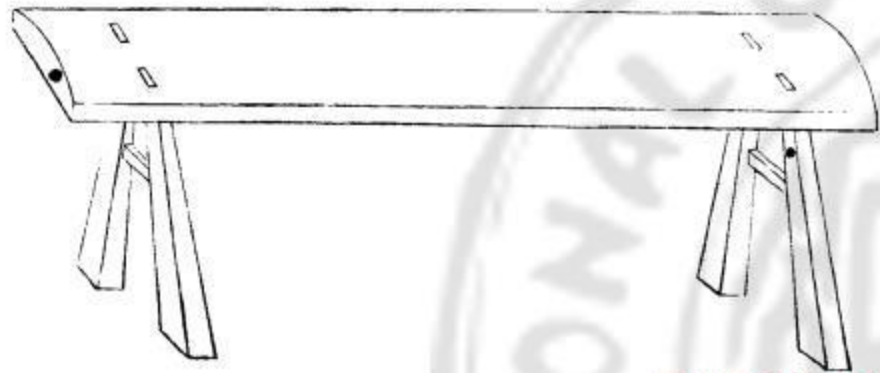


磁鼓橙



國家圖書館 NATIONAL CENTRAL LIBRARY TAIWAN R.O.C.

板
檯



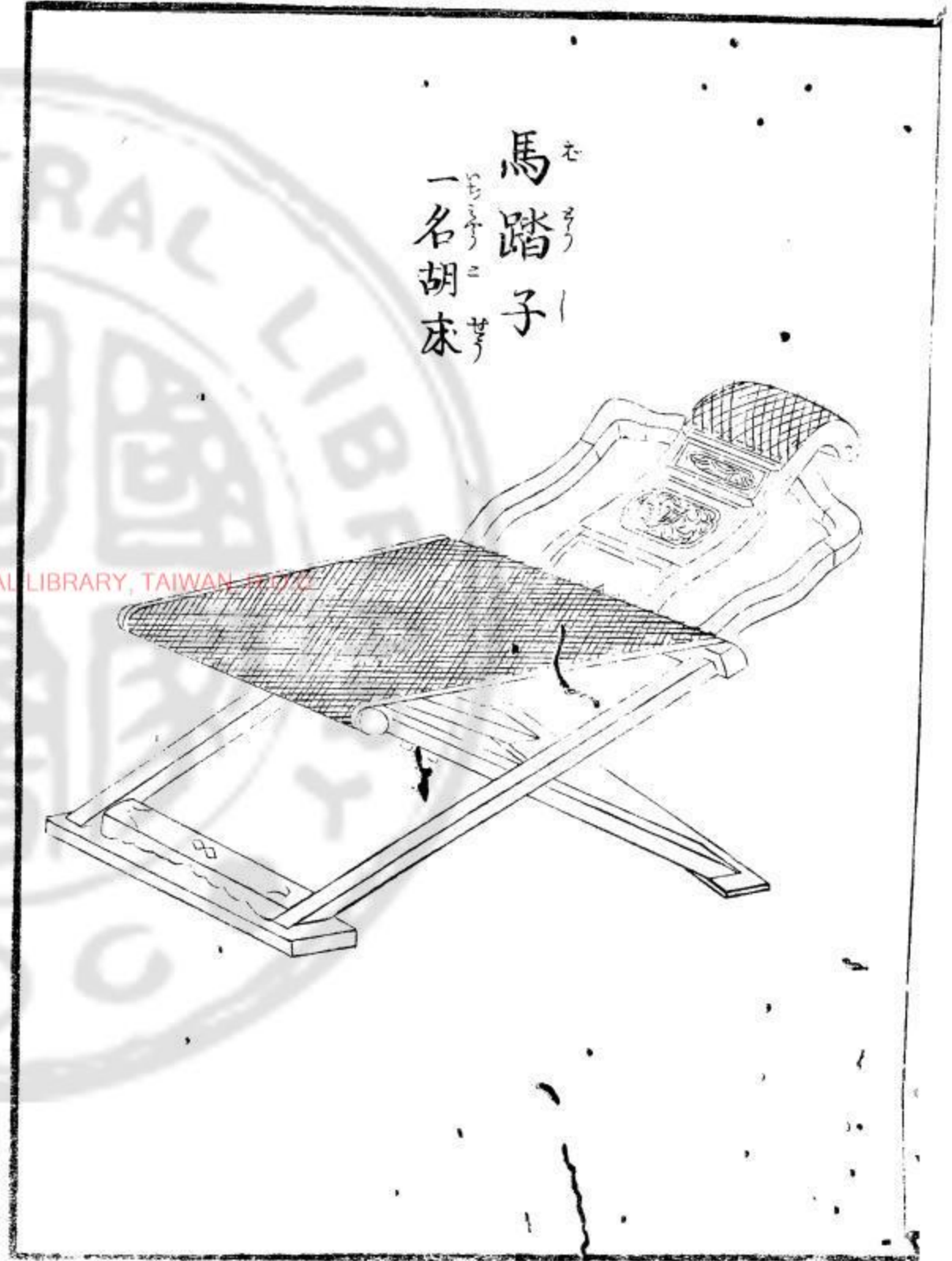
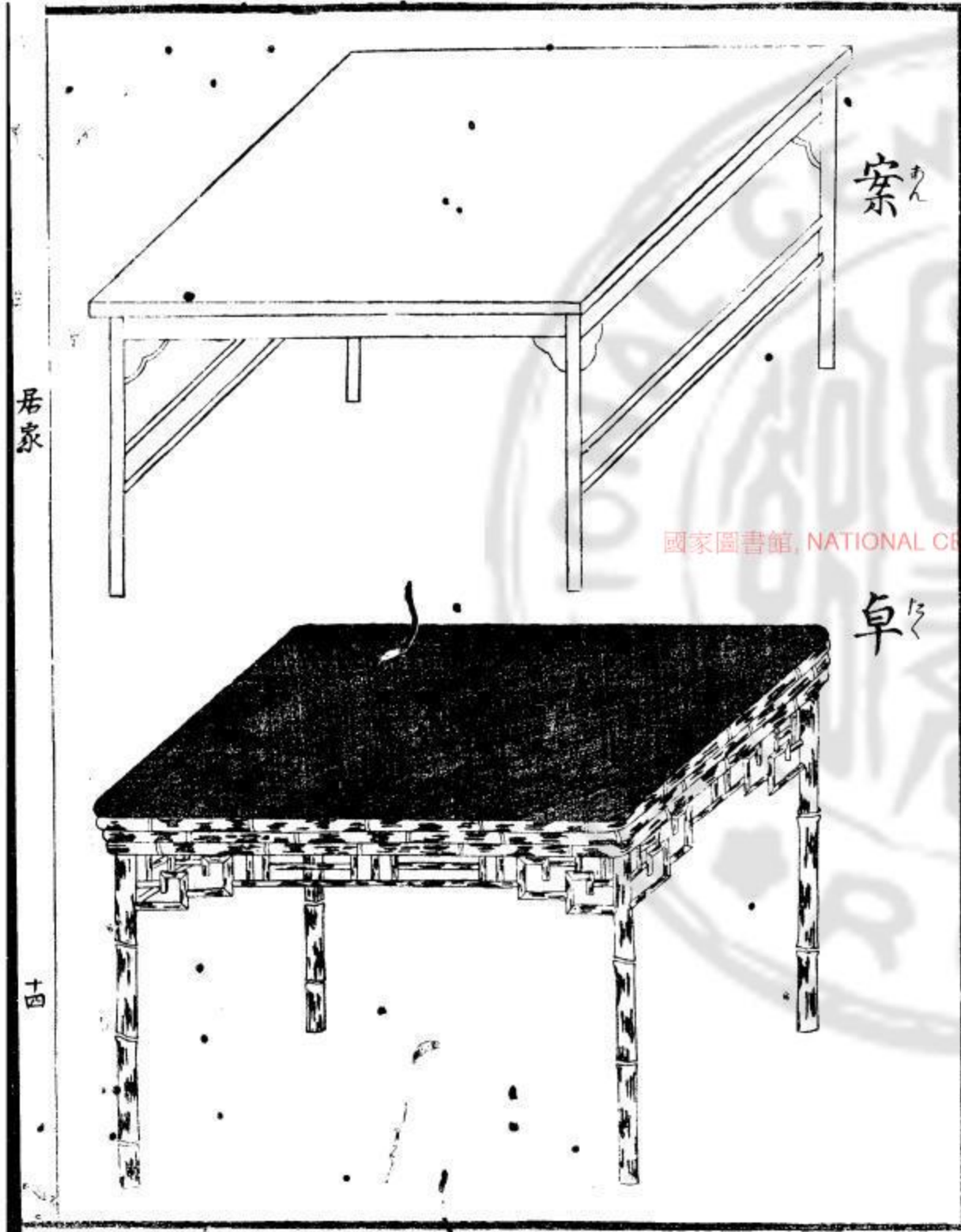
竹
檯



榻

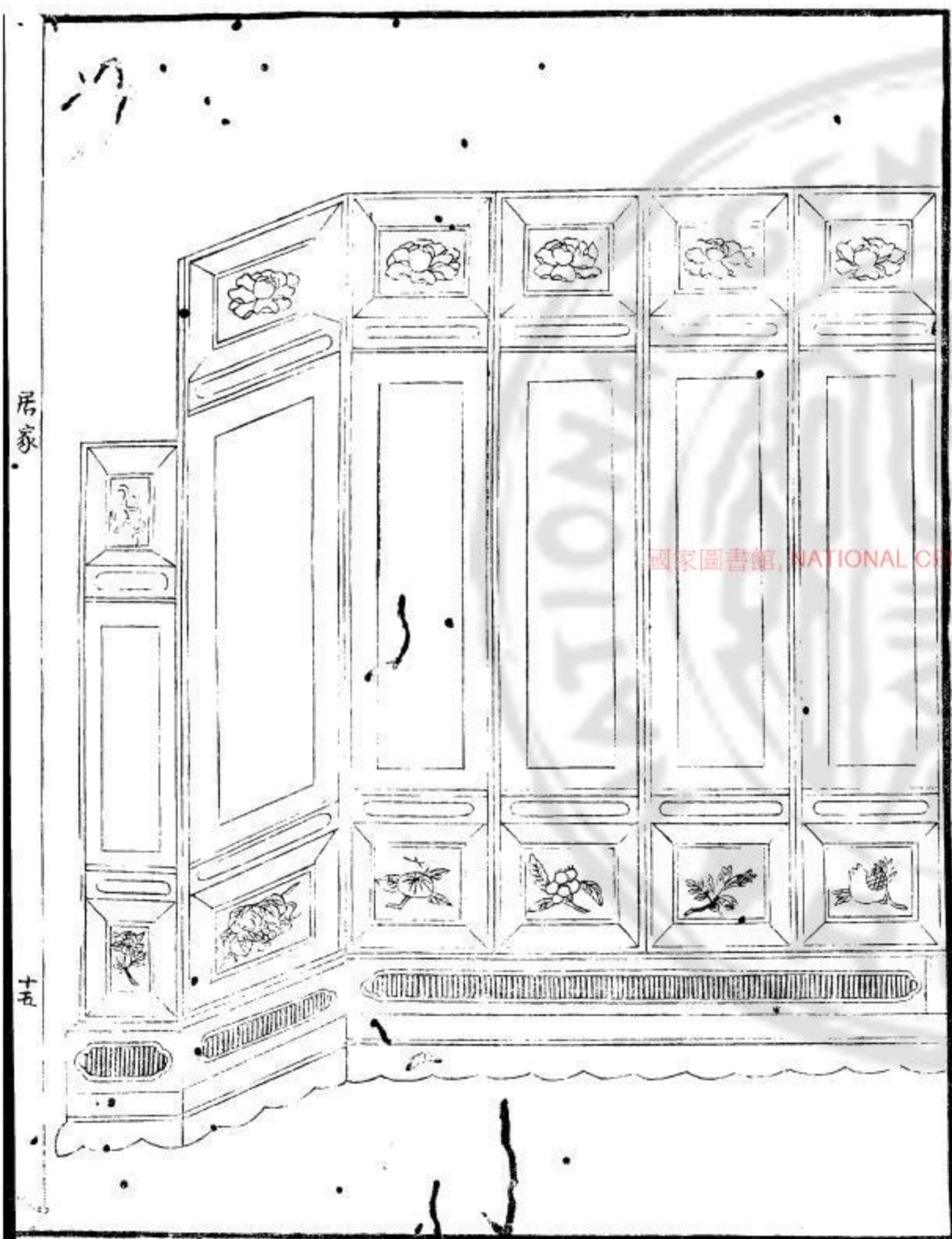
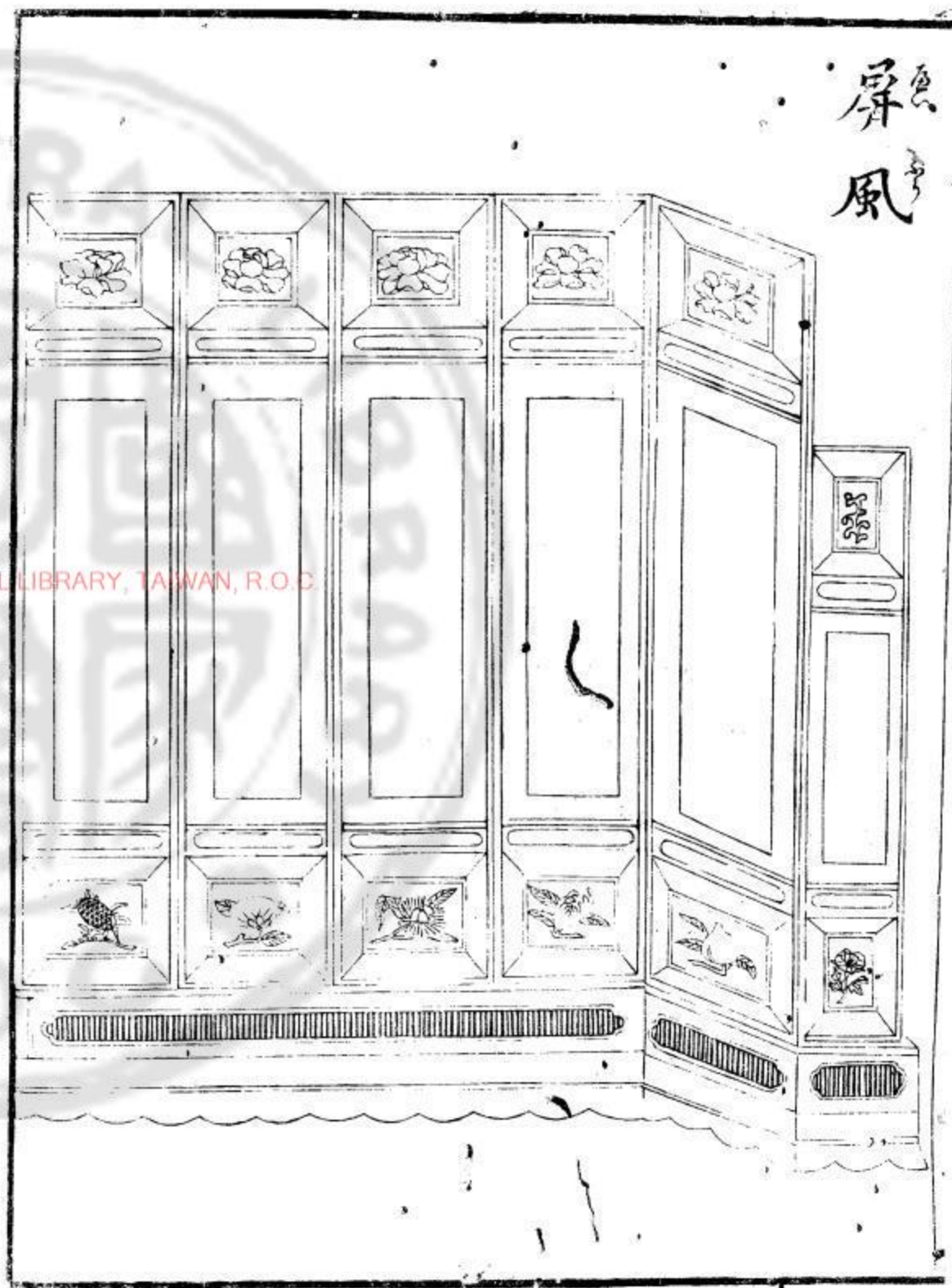


榻
風
向



國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN

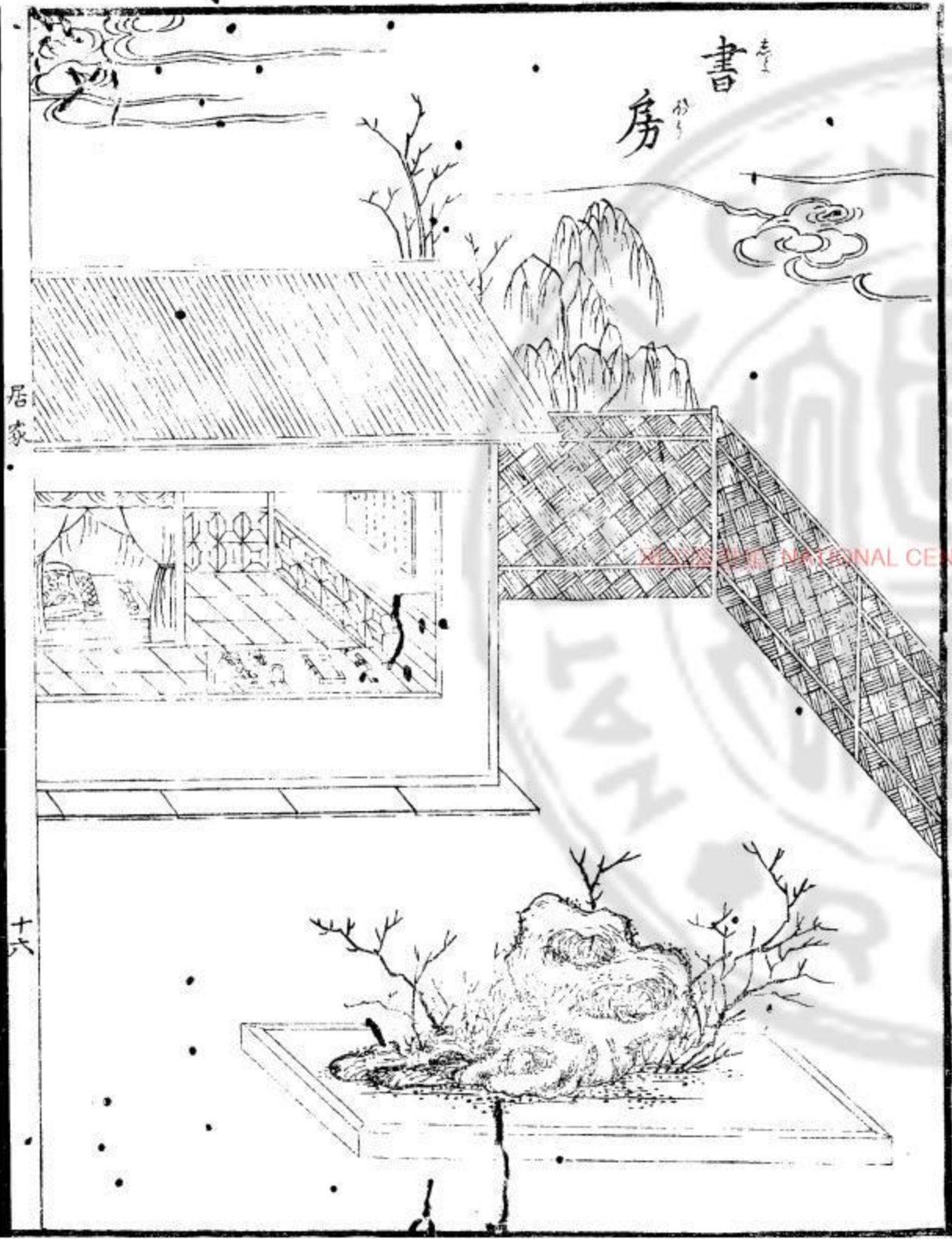
屏風



居家

十五

國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.



居家

十六

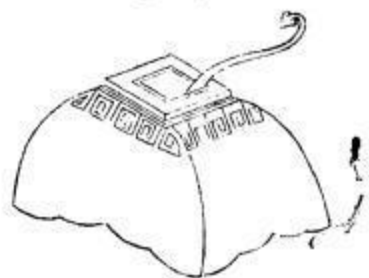
内廳を公堂とて奥手に建公堂の傍に建ふもあり造法公堂は右に
 又南向の地面の指子に空地位取く樹木等々急所ありハ幹枝の草花を並べ
 向竹籬笆等造を清浄みして並れり客來酒宴等ハ多く内廳めく設く
 公堂に多く設ふもいふ
 ○書房 一冊居堂 公堂より續きた建外あり少引取く別建ふもあり
 入口二枚之扉正面に書画を懸高几卓子に文房四寶を
 列陳擺式 水盂筆筒筆架墨床圖書 書籍をあらけ座椅子杭子を並陳ふ樂器
 帽架等々も並ふに色々古雅の品等かきとて並陳せり
 紙墨筆硯を文房
 四寶といふ

架の筆のひつ

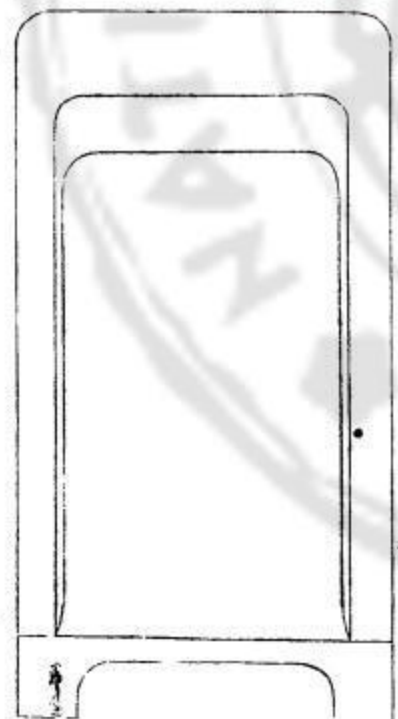


筆のひつ

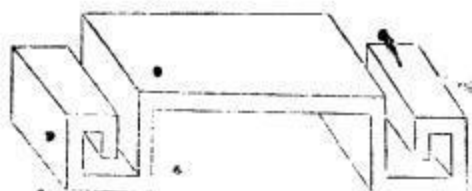
水盂すいぶ



硯端いんたん



墨床すみど



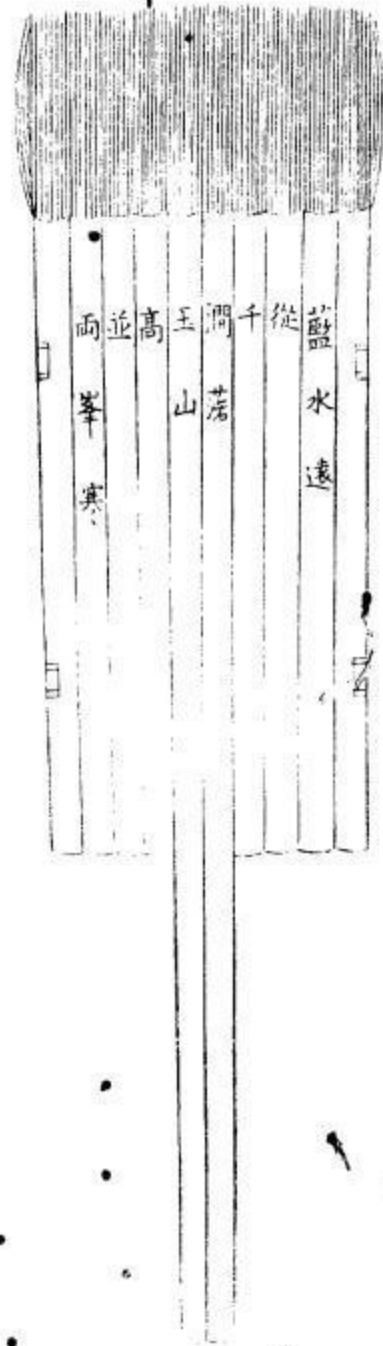
居家

十七

書房しよぼう



國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIPEAN, R.O.C



排筆
ひつ

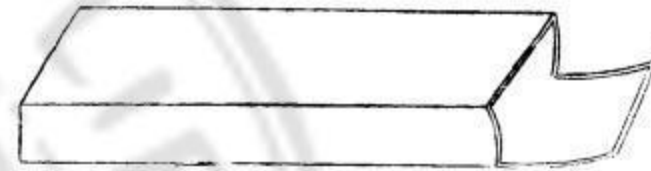
筆筒
ひつ



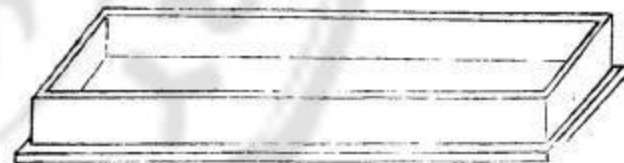
國家圖書館 - NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN



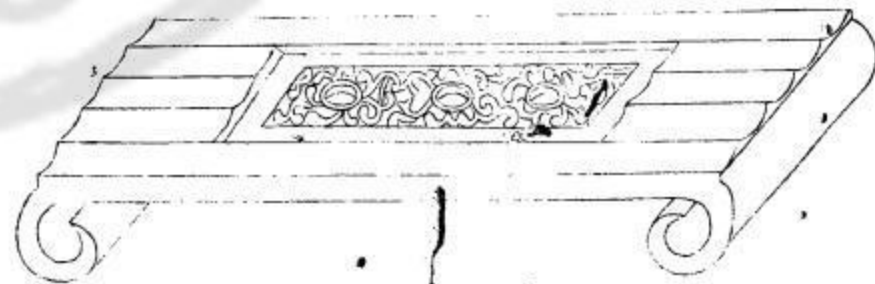
徽墨
きぼ



墨匣
ぼび



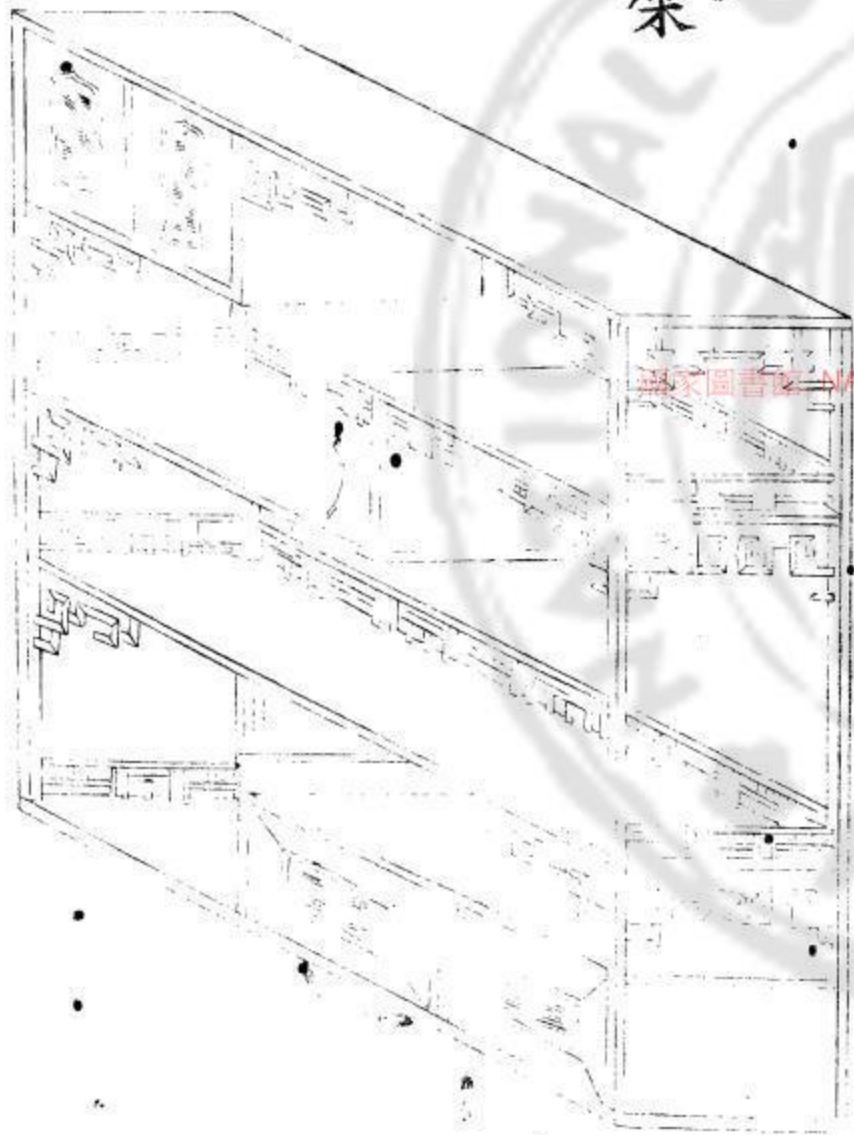
床筆
せうひつ



居家

十九

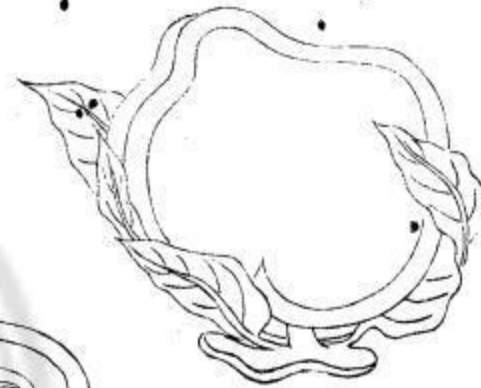
書架



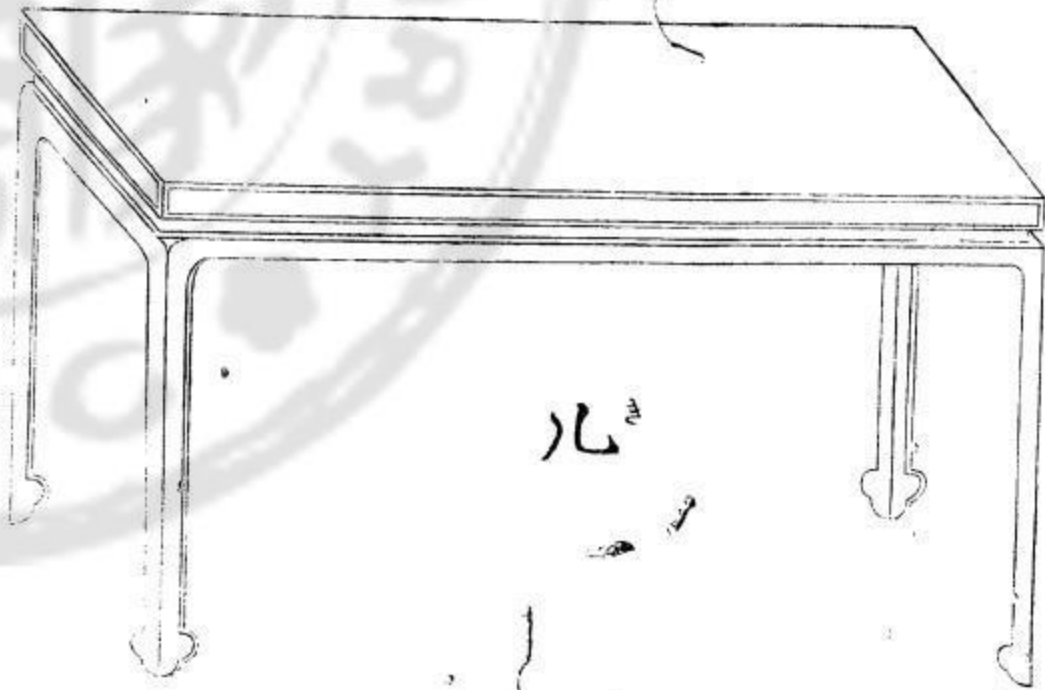
玉鎮紙



洗筆



几



國家圖書館 NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C

居家

二十

錯刀



印刀



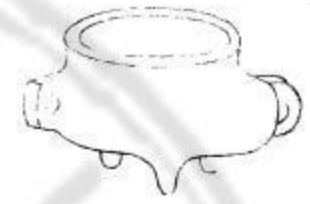
裁刀



筆筒



香爐



書架

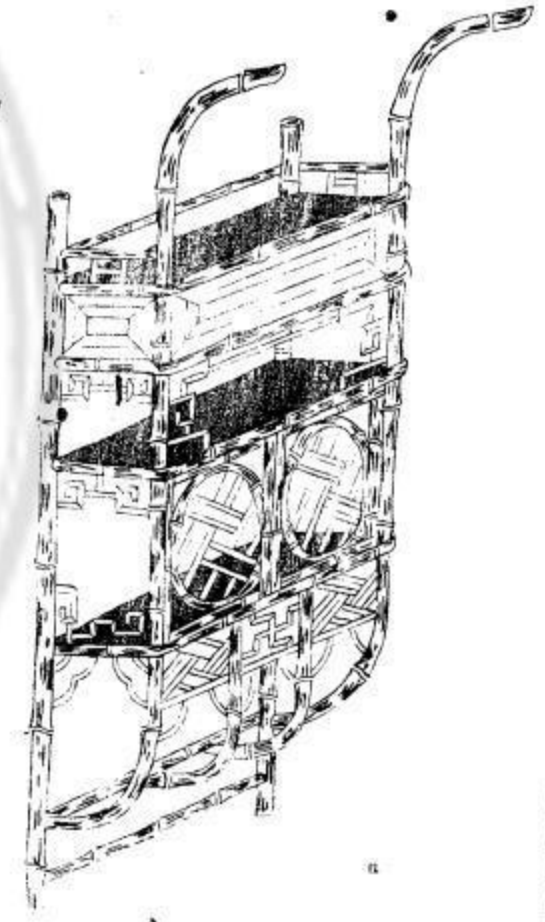
香盒



花瓶

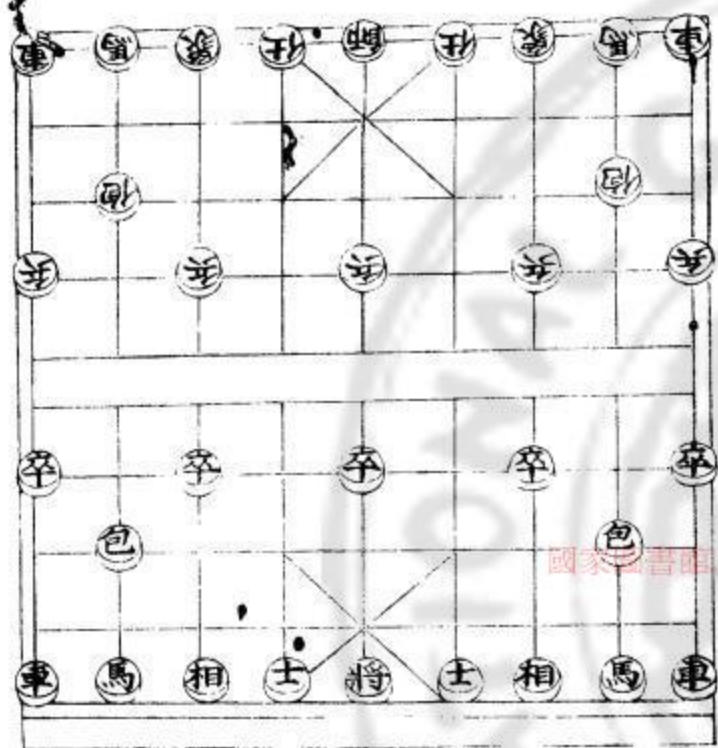


香箸筒



國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

象 棋 盤



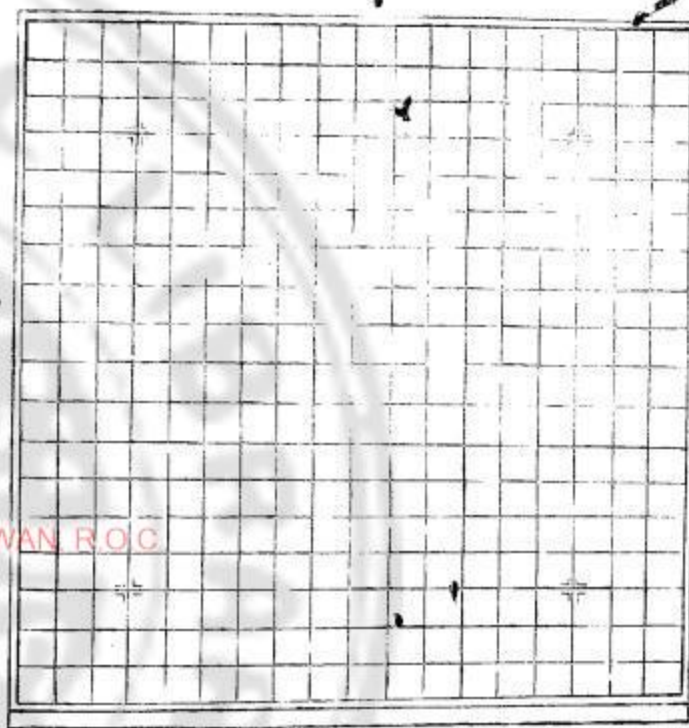
居象

琴



北

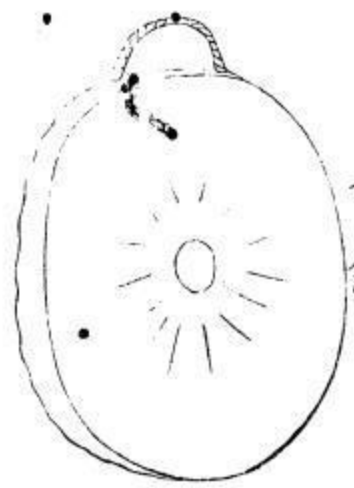
碁 盤



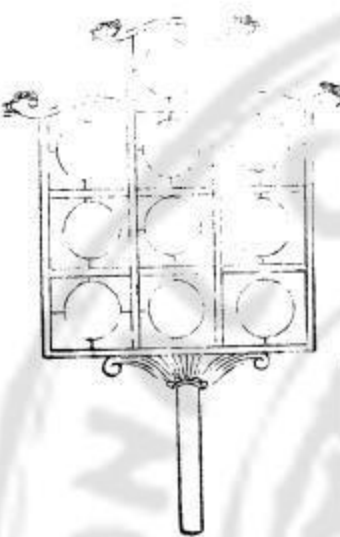
碁 筒

碁 子





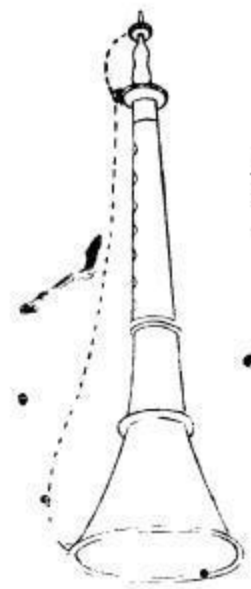
金鑼



雲鑼



撿子



鎖呐



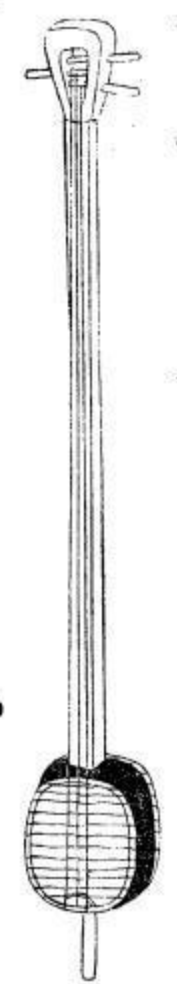
月鼓



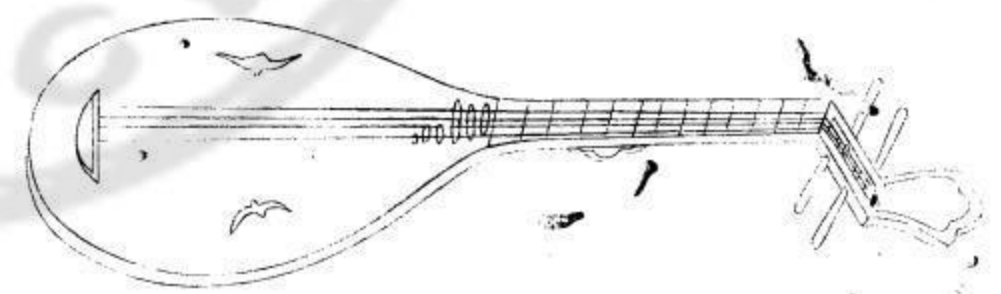
國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.



胡琴

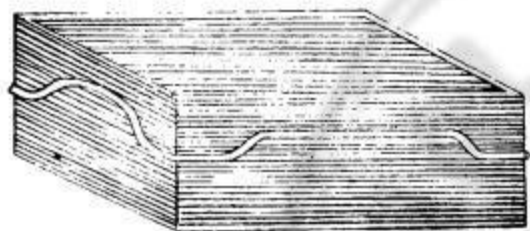


三絃子

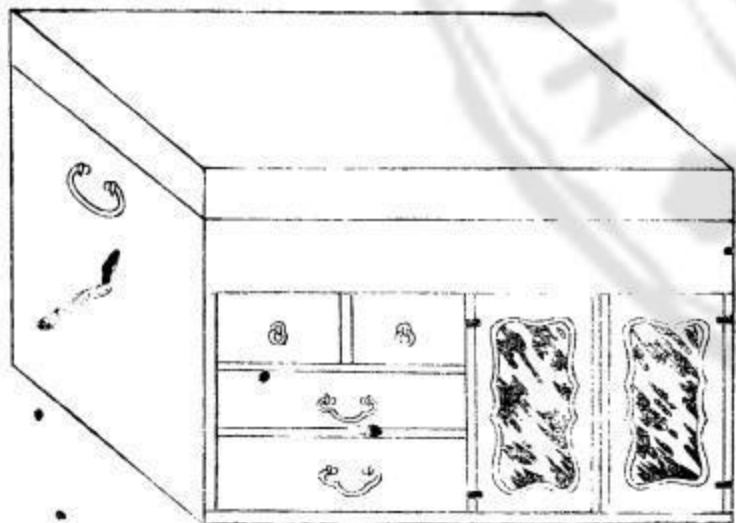


琵琶

紙箱



文具箱

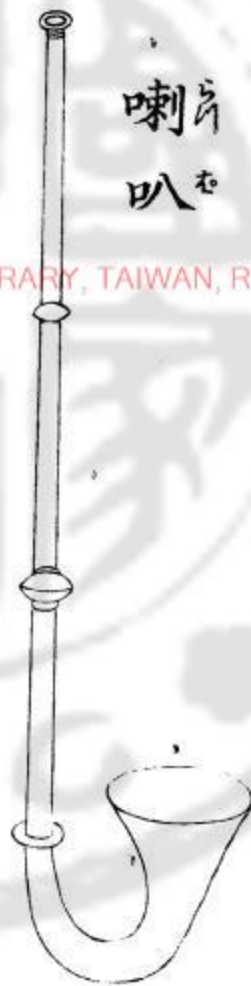


國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

笛



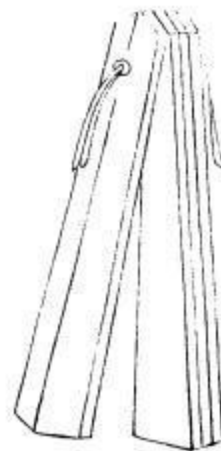
喇叭



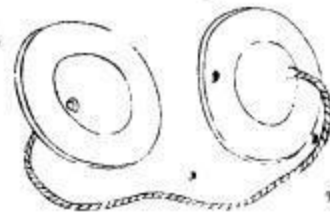
銅角 一名 唢囉



拍板



小鈸

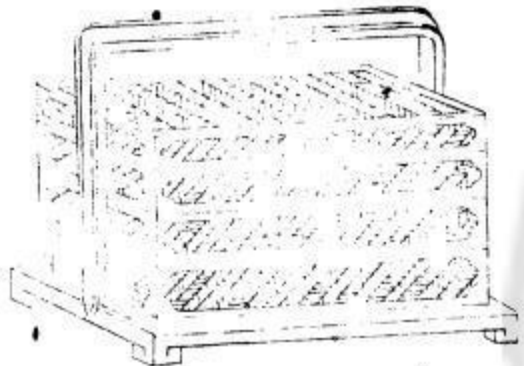


○内房 女の居間候 奥手に設け入り布簾をかき二枚扉夜分々内より開鎖は
 内の隅より睡眠を設け其側一間衣箱金銀箱手道具家財等或入
 出入の隙を設けて開鎖は片側より卓子或は女此手道具針箱鏡臺等
 をありて並下に椅子杭子或は壁に帽架ありて三絃琵琶等或は
 もありて便所へ通ひ口より麻鞋を並面盆架並面盆を並手巾を掛け並内房
 の上も樓を設け女子此寢所と爲

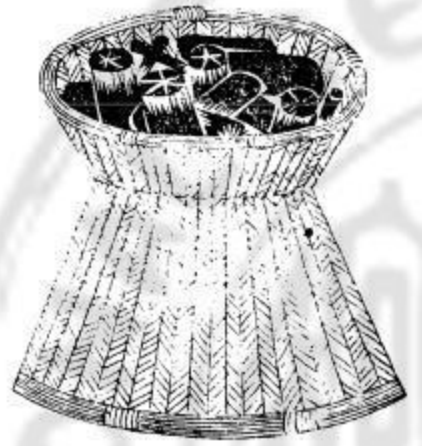
○樓上 上下より板瓦ぬく胡梯を捲く樓上残らば拭板ありて入口板
 扉板窓には藤蓆毛氈等或は卓子椅子杭子等或は窓より
 方圓均しつらば扉と左右屏とありての障門みすかもあり欄干を
 樓の先へ露臺或は設け地より柱を建樓に付く竹板を床のまわりに
 三方に欄干或は上より架子を造りて幔を張る目成或は露臺の内

房の樓より多く用ひ書房等の樓も設け夏節の涼所と内房の樓へ女子
 等此位居所寢所ありて窓とありて常に簾或は外見を避るなり
 ○蕪別 杭別等城裏城外の町屋は皆樓房ありて大物此方の位居や板敷
 隔漏漏斗あり竹板銅等々此分限ありて同一つらば郷里村居等
 樓房少く皆平房あり ○障子と紗ありて縮緬又油引の紙あり張る
 窓は明瓦雲母玻璃等或は用ひ紙襖を用ひ何れも板扉或は紗障
 ありて扉の上は板或は屏風等ありて或は天花板あり ○仰塵と紙あり張る
 草花の繪あり或は書或は合天井ありて大家官家等ありて都く仰塵を用ひ
 此小戸の家も同じ用ひ事あり ○衣箱 又衣櫃とありて手道具金銀入
 單笥箱の類あり臥房の側より列ねる ○夜分行燈を用ひて紗燈羊角燈
 等を用ひ書房ありて書燈掛燈臺等或は燈臺の點錫黃銅等あり

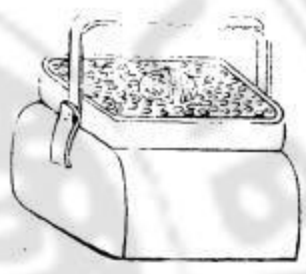
食籃あじらん



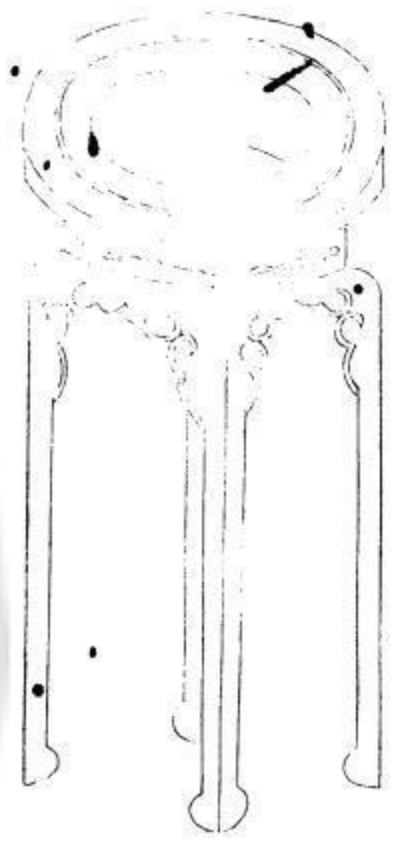
炭斗たんし



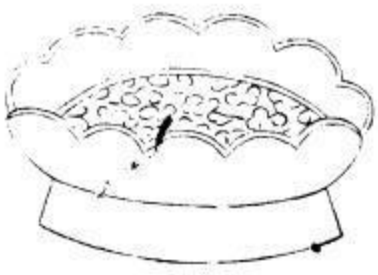
手爐あし



廳爐えい



盤ばん



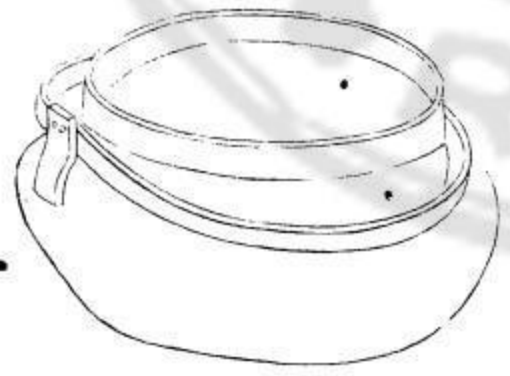
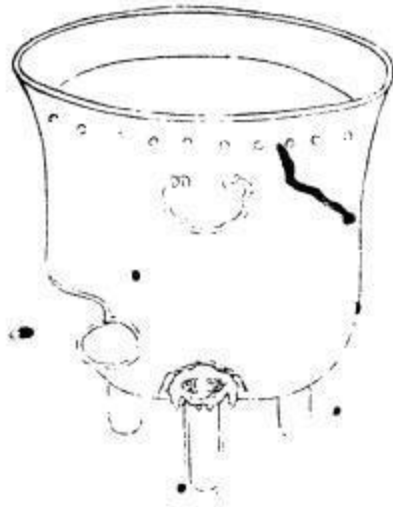
脚爐あし



火箸あし



風爐あし



居家

廿六

國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

布 抹 ヌグヒ



茶 罐 チヤカン



茶 籃 チヤラン



茶 瓶 チヤビン



茶 罐 チヤカン



托 子 トコ



小 碟 コダシ



茶 鍾 チヤカネ



筋 スジ



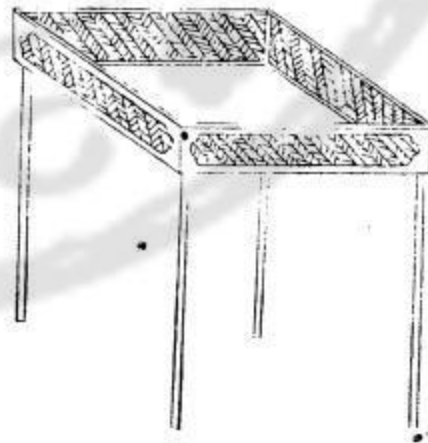
調羹 テウケン



茗 壺 メイコ

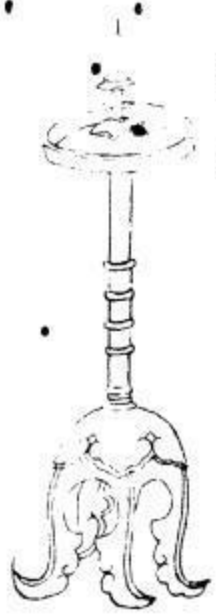


烘 籃 一名 茶 焙 カウラン 一名 チヤヒ



國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

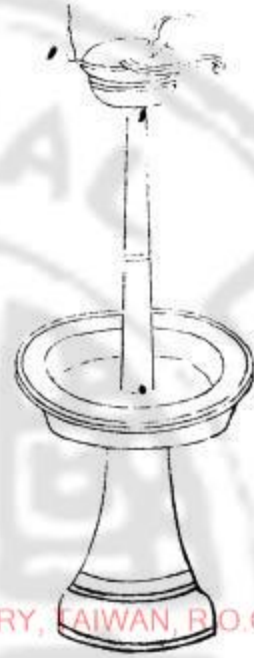
燭臺



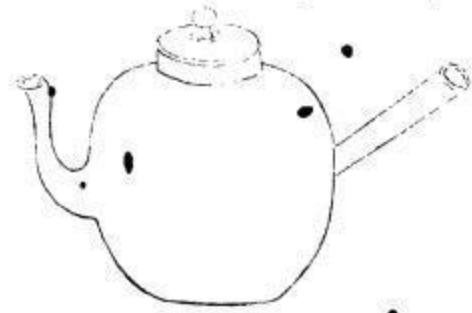
掛燈



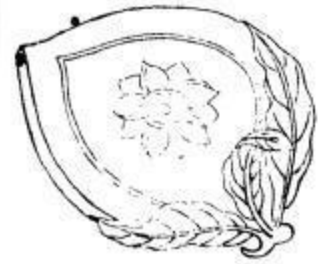
燈臺



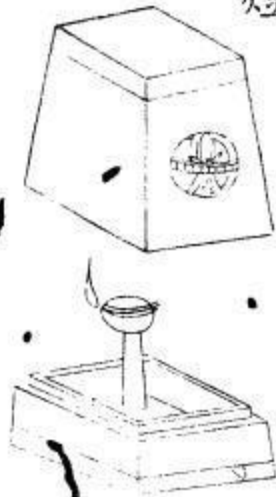
煎藥器



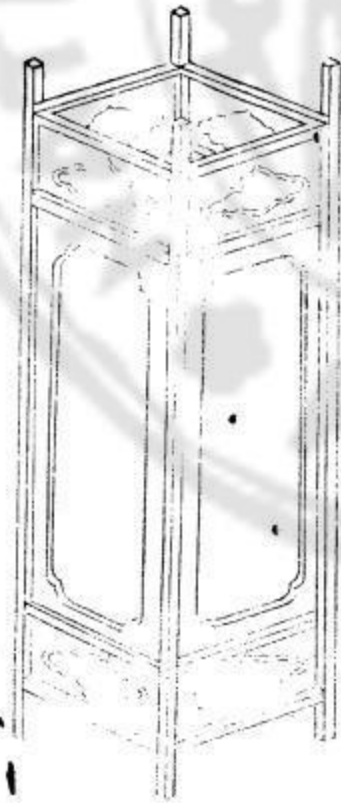
托子



書燈



書燈



蠟剪



盛春



國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

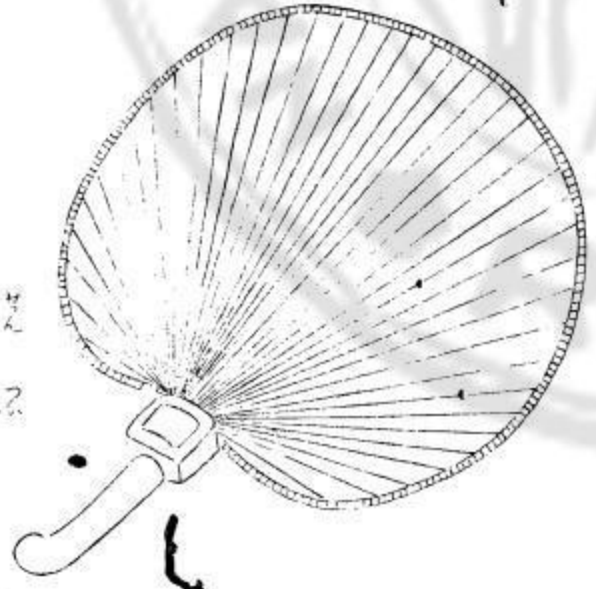


扇袋

扇墜

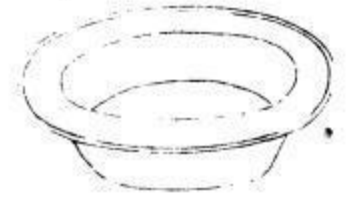


葵扇

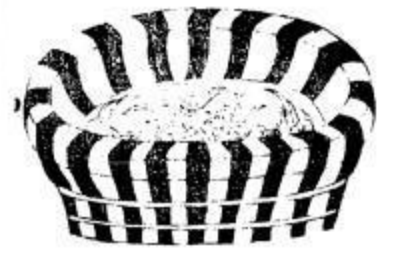


面盆架

面盆



同上



漆盆



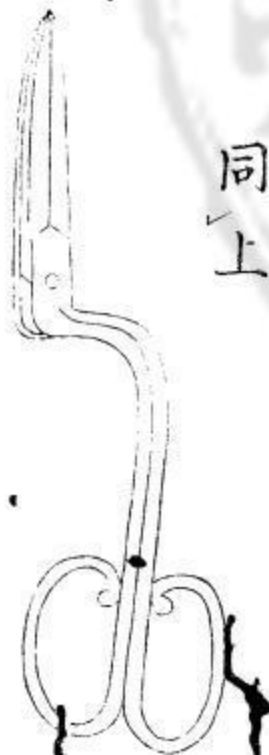
國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

量尺
リヤウ
シヤク



剪刀
シヤウ
ノ

同上



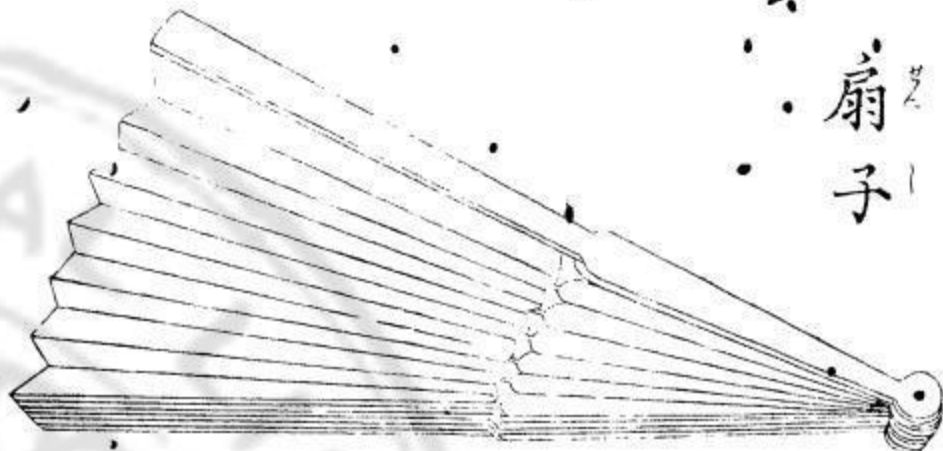
鑷子
シヤウ
シ



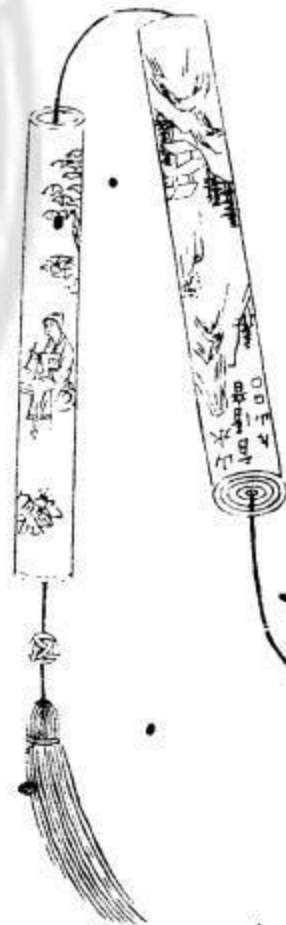
牙竿
カハ
シ
一名
挑牙



扇子
シヤウ
シ



消息筒
シヤウ
シ



消息子
シヤウ
シ



爬耳聒
カミ
ミ



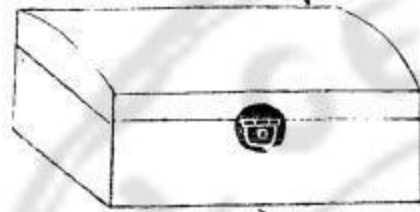
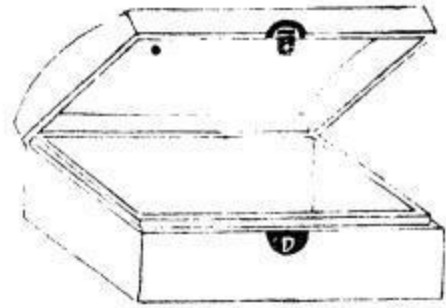
居家

三

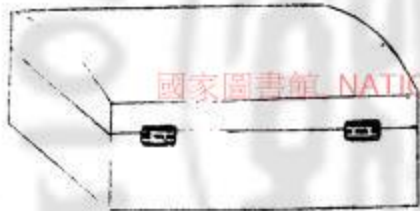
國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

尾家

箱皮

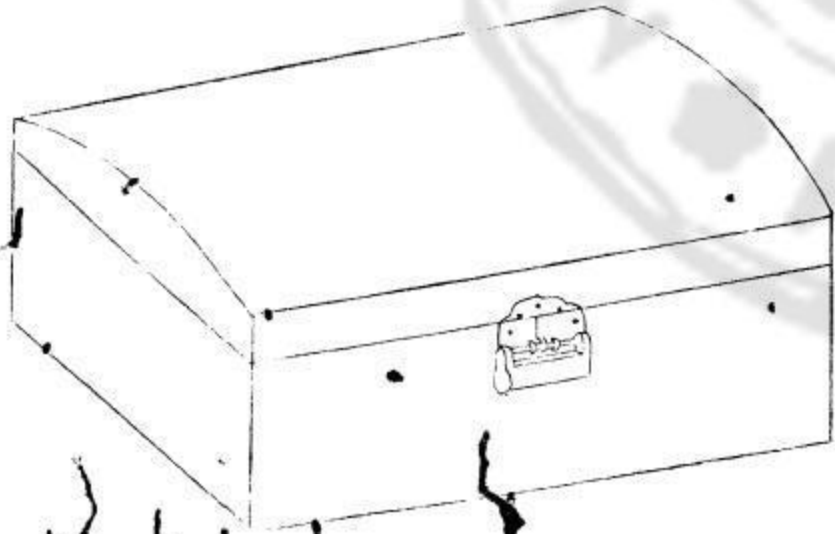


前



後

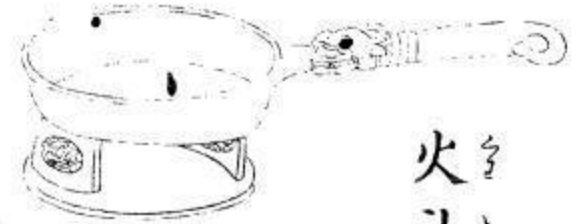
衣箱



主

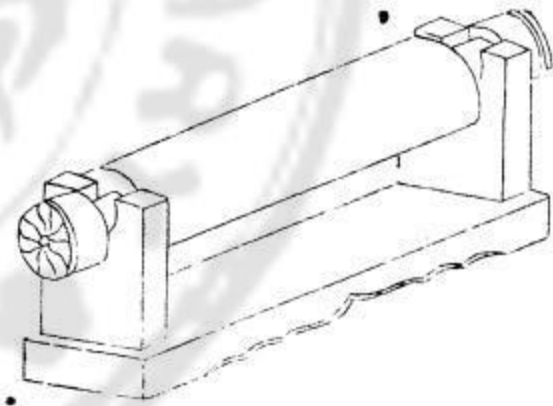
國家圖書館 NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

熨斗



火斗

碓

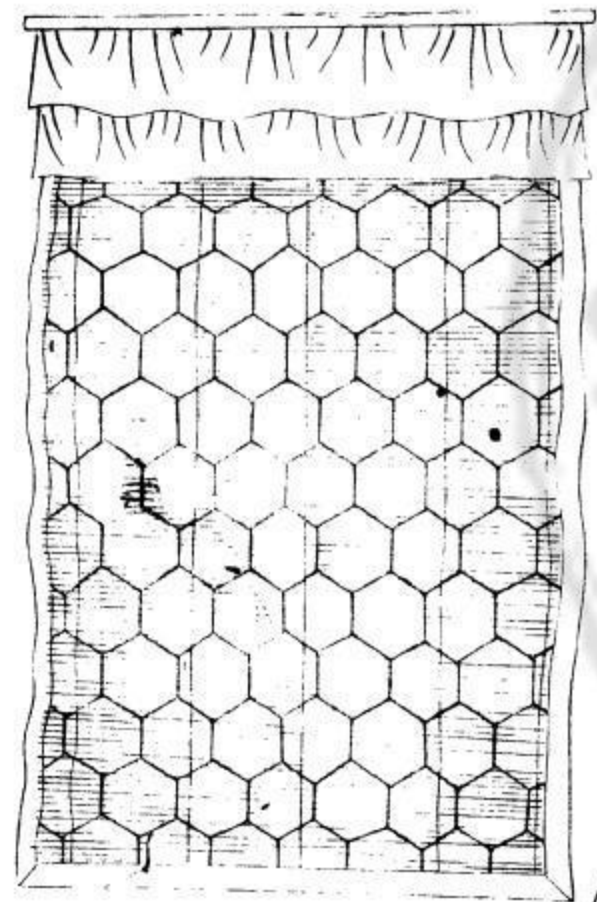


碓杵



一名
門帷
一
綉簾

布
簾



居家

三十二

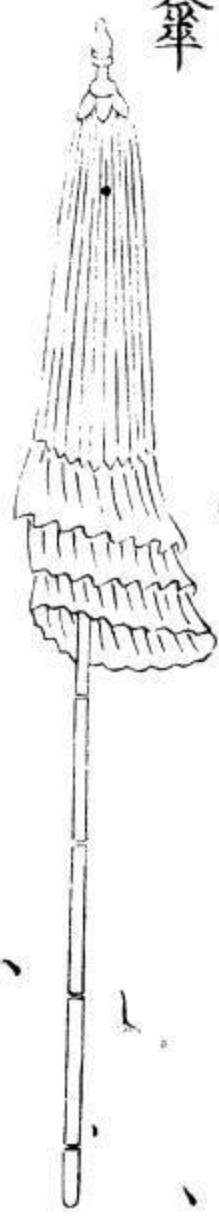
國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

涼傘

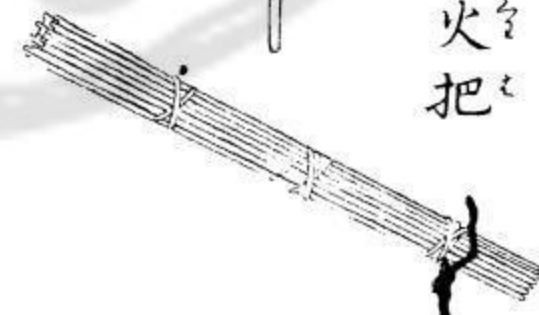
雨傘



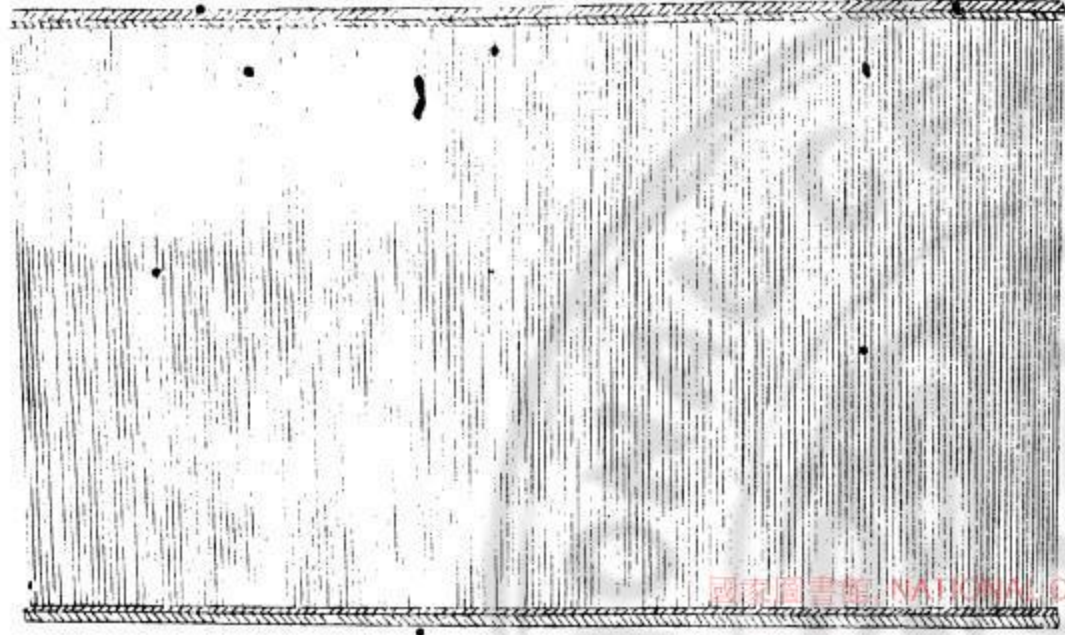
檠燈



火台把



簾 藤

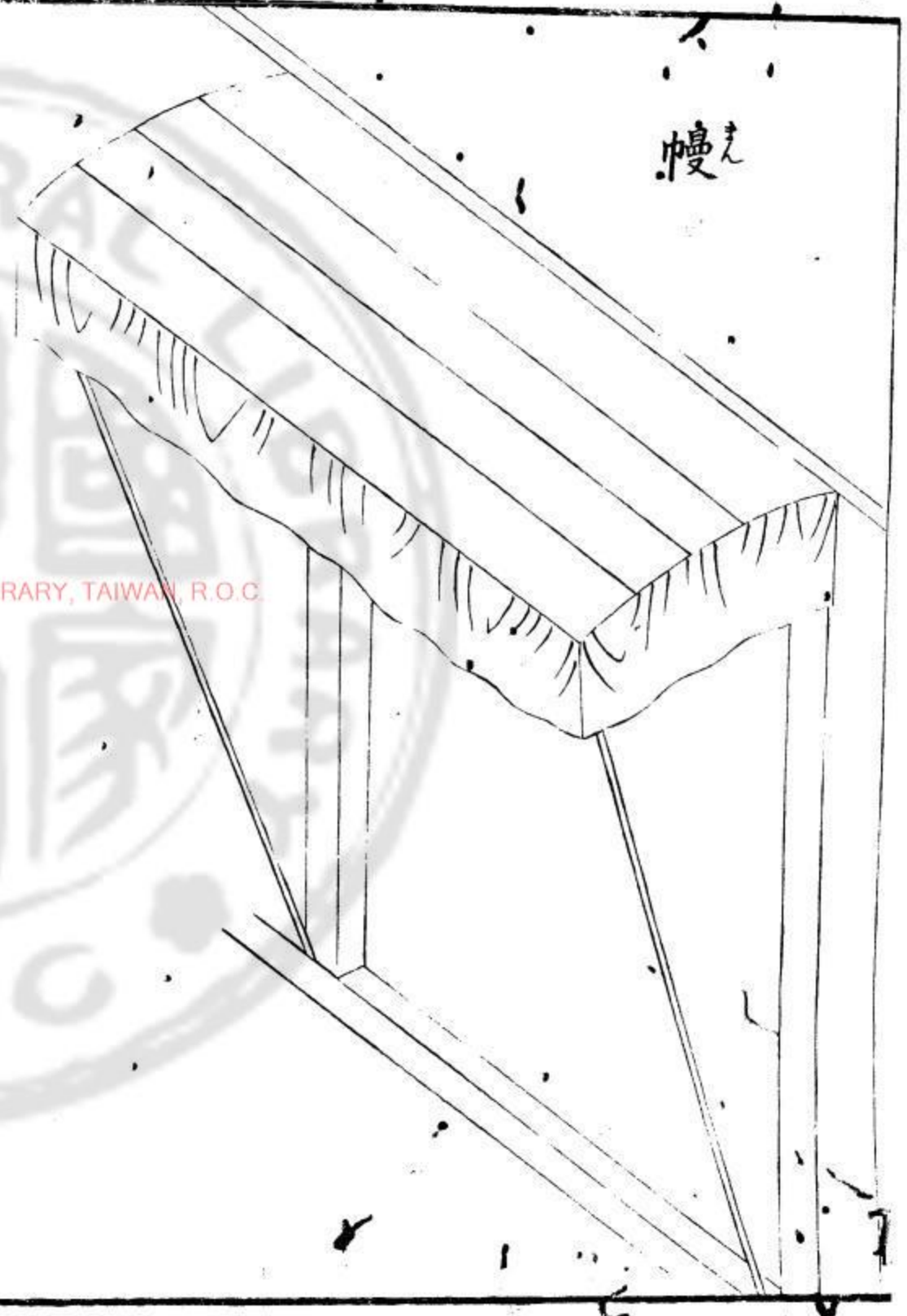


條 鐘



同順

幔

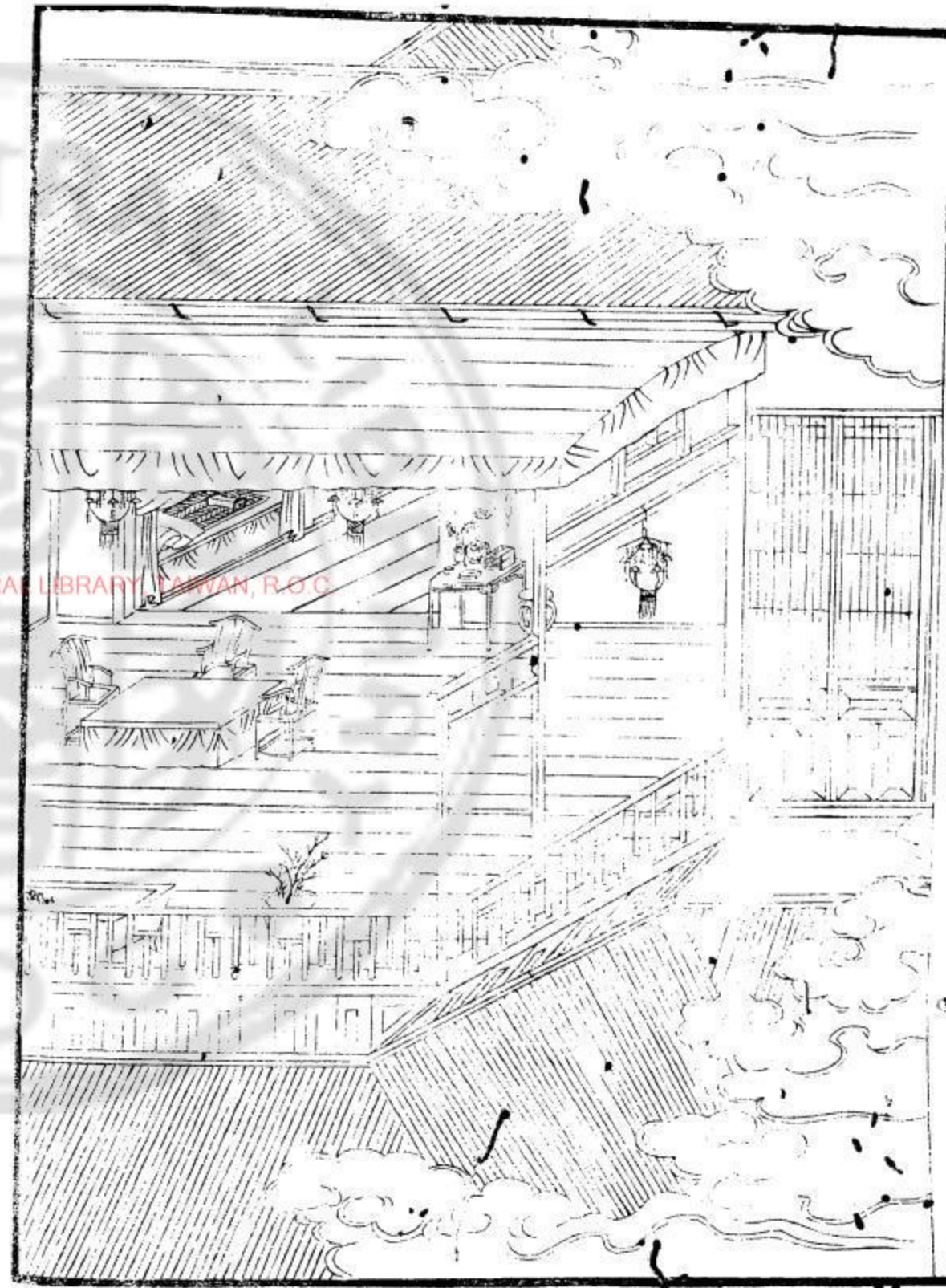
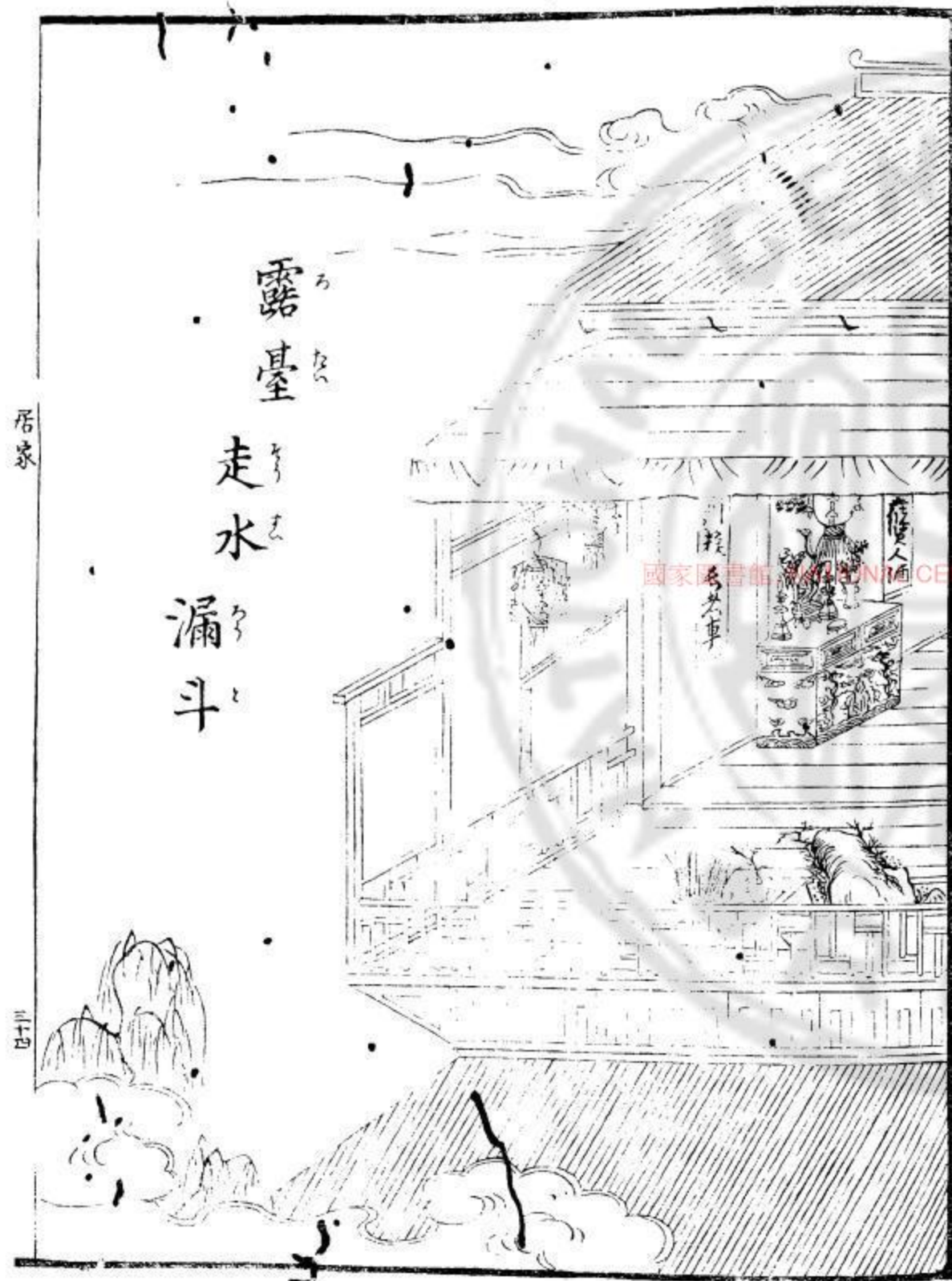


居家

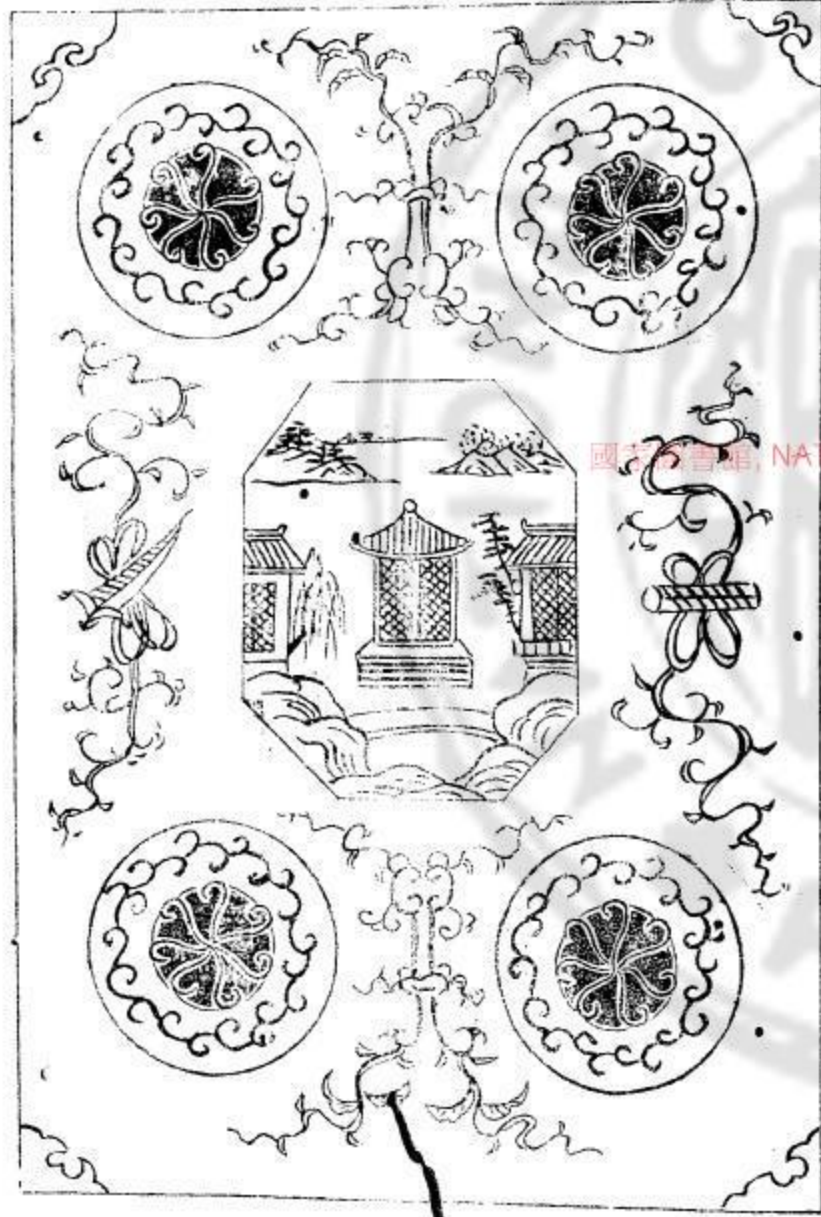
三

國家圖書館 NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

露臺
走水
漏斗



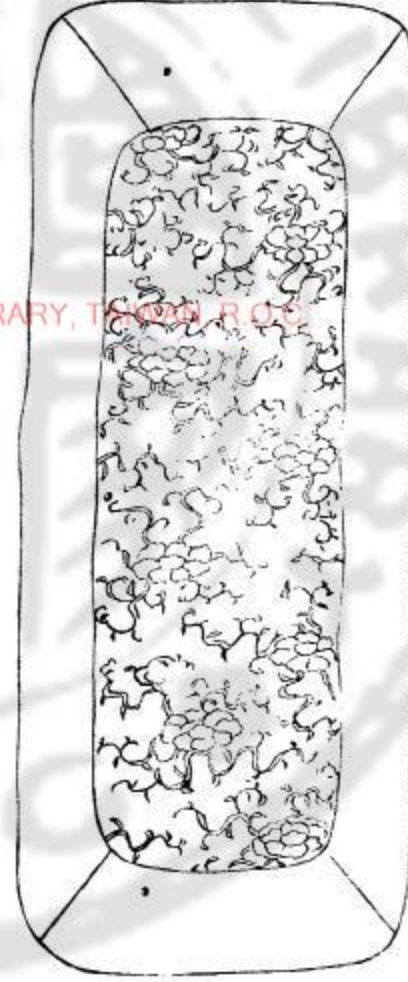
花之毯



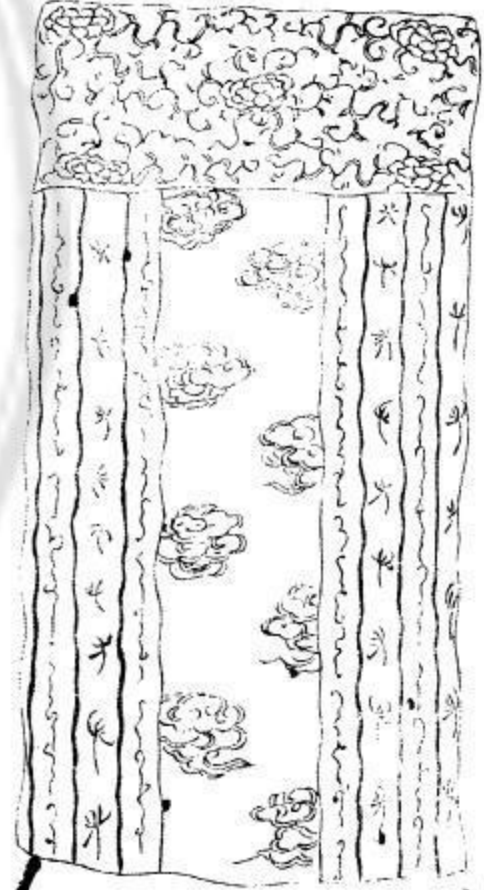
居家

三六

褥



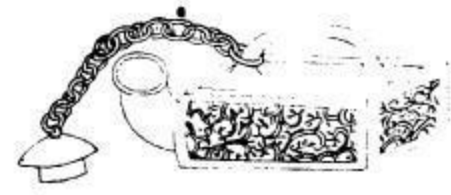
被



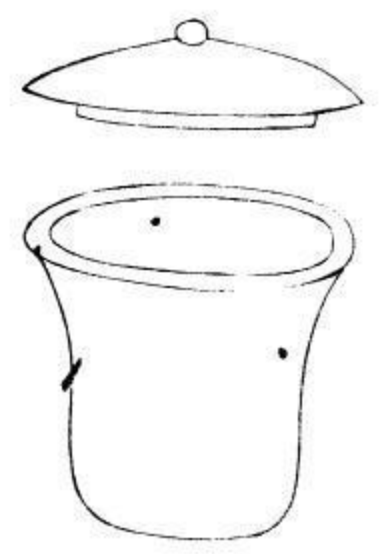
國立中央圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIPEI, R.O.C.

居家

溺瓶
一名夜不收



馬桶
一名淨桶

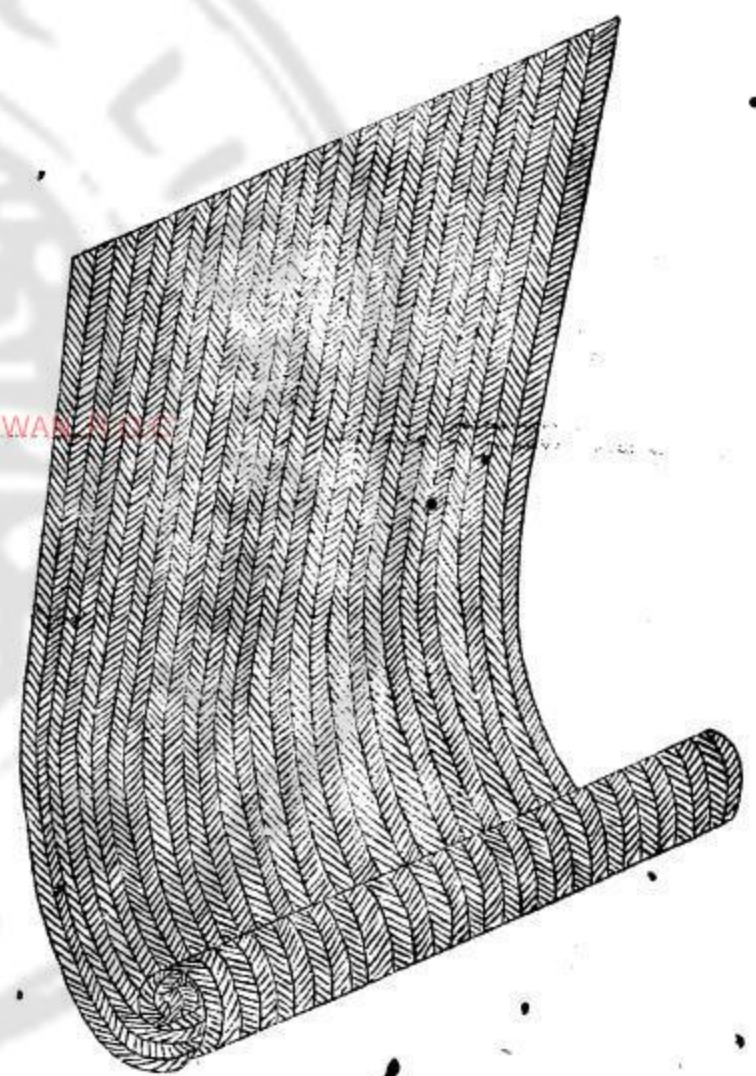


注

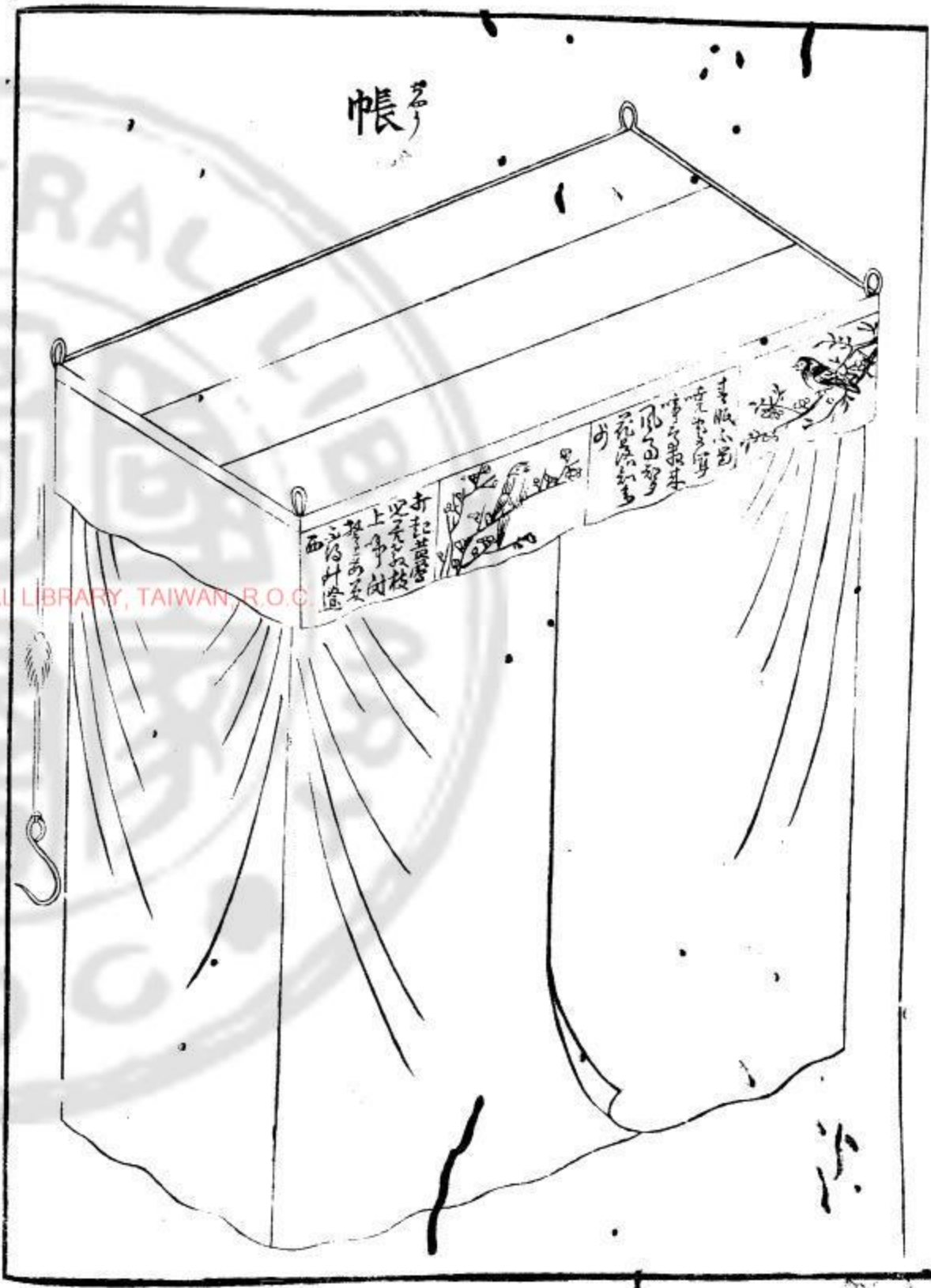
筵



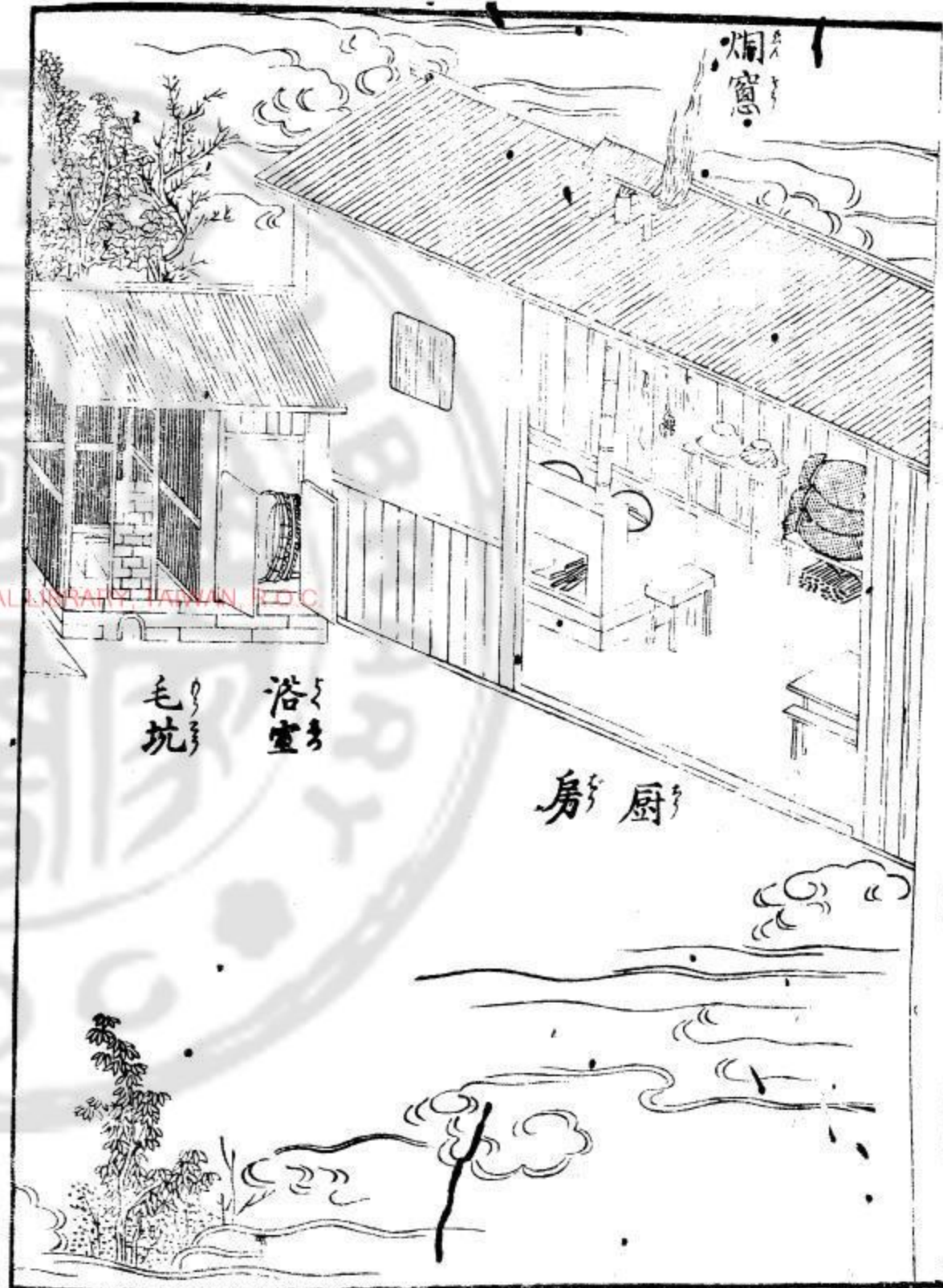
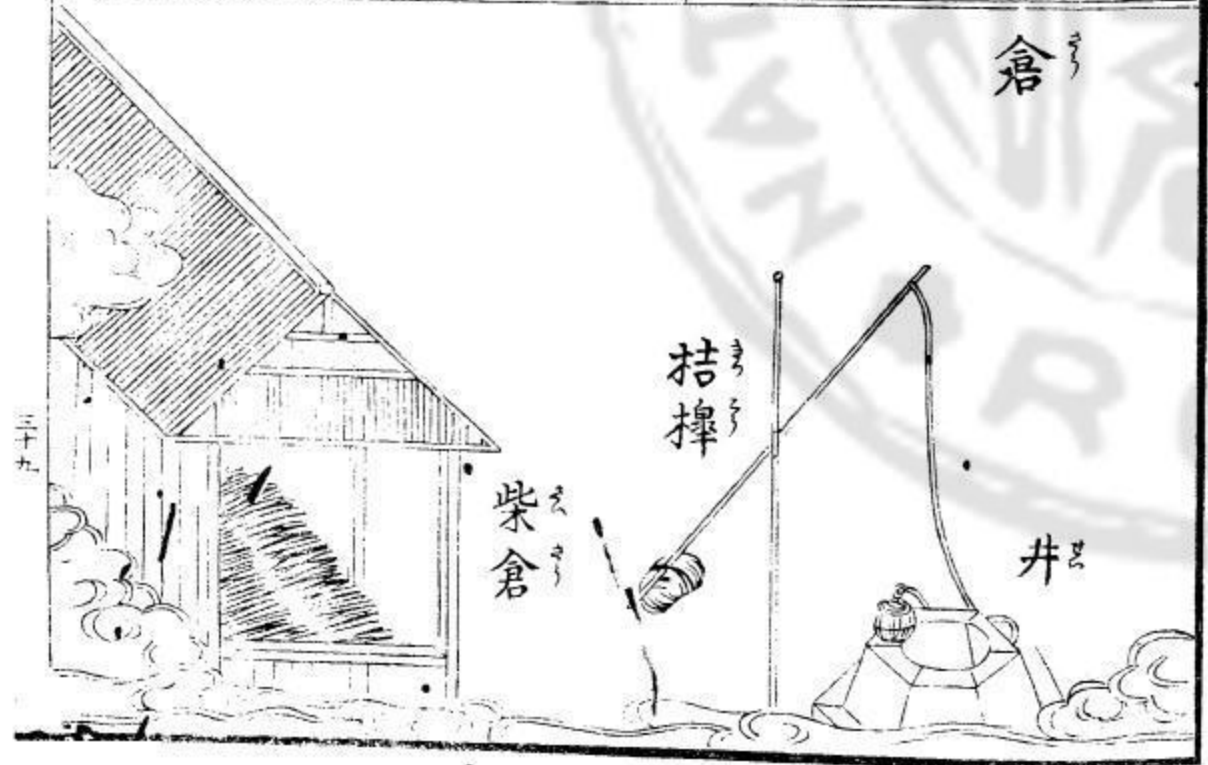
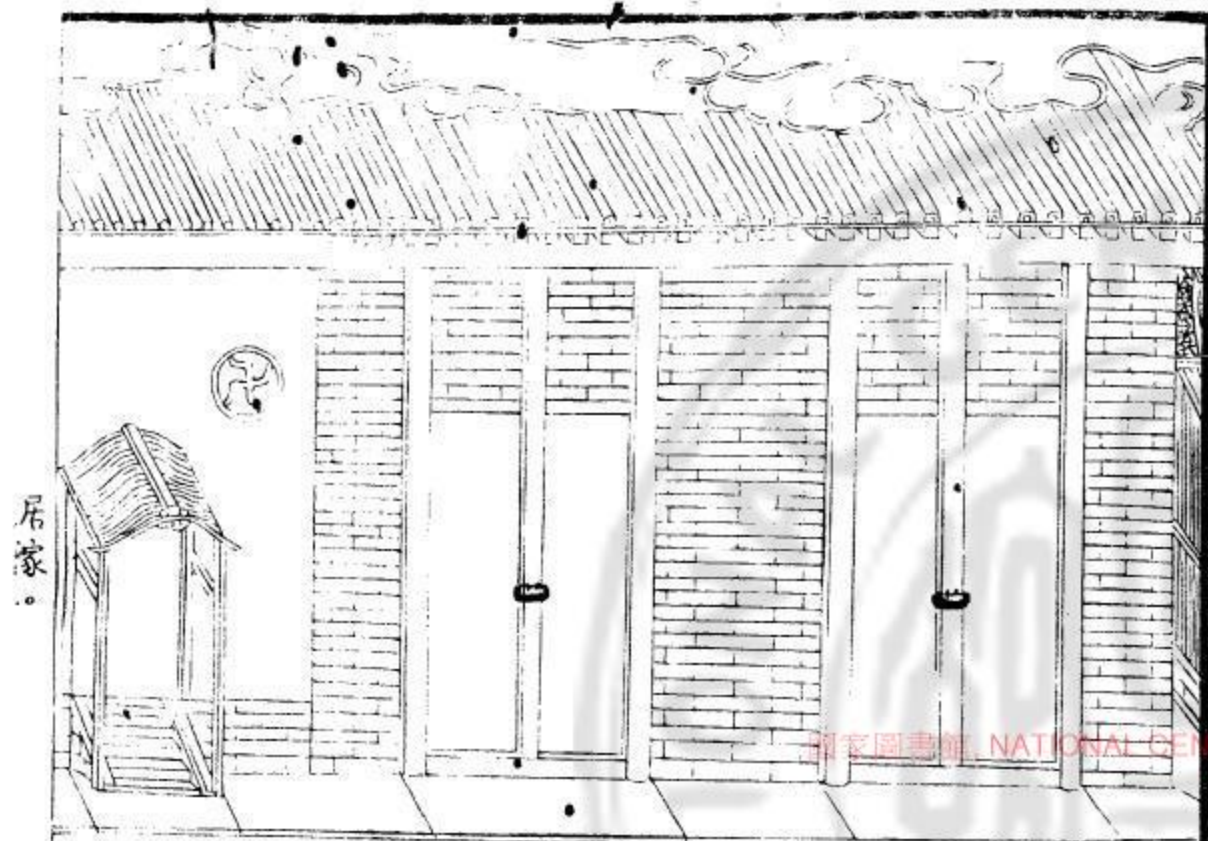
簟



帳



厨下（キッチン）の之間（間）或は板敷（いたじき）にして電（でん）を設け燈付（あかり）を懸（か）げ極等（ごくとう）の諸道具（しよたぐい）食器（しょくぎ）類（るい）は
 竈（かまど）の側（かた）水甕（みづがは）水桶（みづづく）手桶（てづく）等（ら）は厨（キッチン）房（ぼう）を設け奴婢（ぬべ）の睡房（すいぼう）と又（また）は耳房（みみぼう）
 を設け坐（ま）すもあつてを奴婢（ぬべ）夫婦（ふうふう）者（もの）多（おほ）し同居（どうきよ）は其外（そのほか）の者（もの）は奴（ぬ）の房（ぼう）と外（ほか）に設け婢（ひ）の
 厨樓（キッチン）も位（ゐ）居（ゐ）は睡房（すいぼう）の一（ひと）房（ぼう）づゝ出入口（でいりぐち）に廊（ろう）も内（うち）より鎖（かぎ）を以（も）つて閉（と）じられぬ婢（ひ）の衣服（いふく）も通（と）
 具（ぐ）等（ら）は自身（みづかみ）睡房（すいぼう）の側（かた）に貯（たくわ）へ置（お）けし（並（なら）び）に（一（ひと））奴婢（ぬべ）下婢（げひ）の朝（あ）早（はや）に起（お）き發（は）爛（らん）兒（こ）火（ひ）刀（た）
 石火刀（いしひたな）を以（も）つて煮炊（にひ）の支度（しど）は（一（ひと））鋪面（ふしめん）の制（せい）衣（い）化（か）の街道（まちみち）通（と）り成（な）店（みせ）月（つき）舟（ふね）に内（うち）位（ゐ）居（ゐ）
 傍（かた）に建（た）てらるゝもわりの又（また）店（みせ）の別（わか）極（ごく）も建（た）てらるゝ等（ら）は店（みせ）の向（むか）ひに抄（しやう）成（な）設（た）け物件（ぶつけん）は
 最（さい）端（たん）物（ぶつ）樂（がく）種（しゆ）店（みせ）等（ら）の側（かた）に天平（てんぺい）を設け銀櫃（ぎんこ）を最（さい）主（しゆ）管（かん）共（ども）居（ゐ）も坐（ま）して代（しろ）銀（ぎん）錢（せん）
 等（ら）改（か）め銀櫃（ぎんこ）も入（い）帳（ちやう）も記（し）す其（その）余（あ）れ小（こ）店（みせ）を天平（てんぺい）銀櫃（ぎんこ）等（ら）設（た）けし人（ひと）店（みせ）も坐（ま）し
 多（おほ）商賣（しょうばい）は商賣（しょうばい）さへも内（うち）位（ゐ）居（ゐ）廳堂（ていどう）内（うち）房（ぼう）等（ら）の造（ぞう）作（さく）異（い）多（おほ）形（かたち）事（こと）れ



碟兒



菜碗



大盆



水各
管 杓



澆水



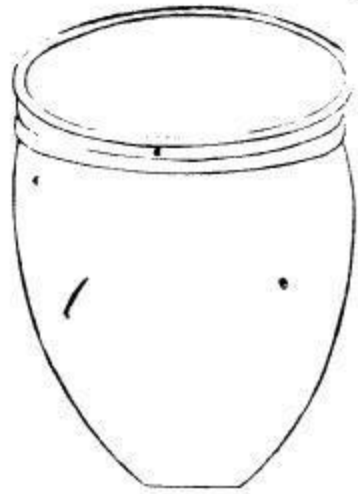
同



國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

水缸

水壺



汁瓶



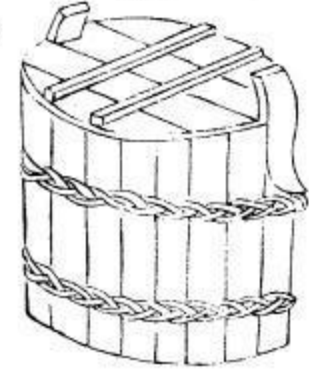
錫飯斗



銅杓



飯桶



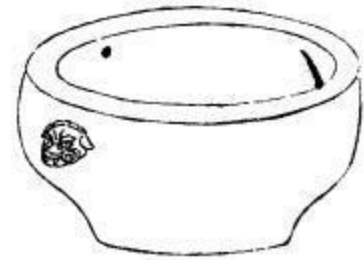
木杓



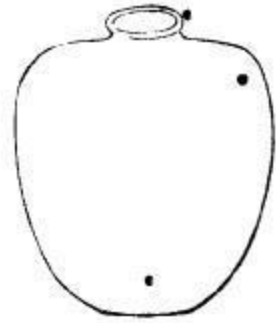
鐵杓



磁飯斗



缸酒



壘油



壘酒



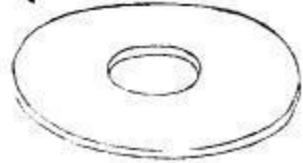
醬缸



油壺



漏斗



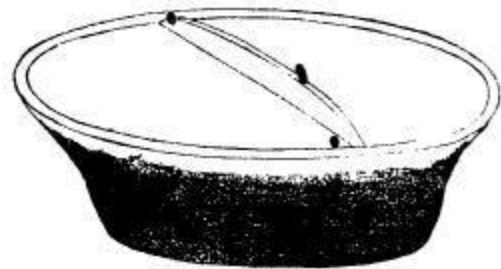
煖鍋



鐵鍋



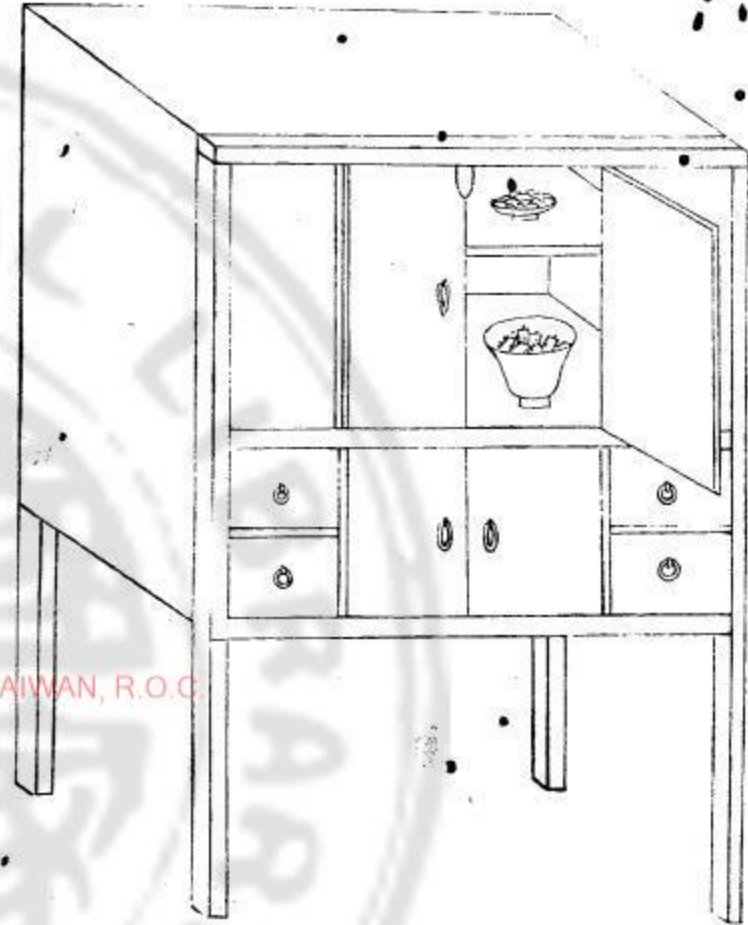
平底鍋



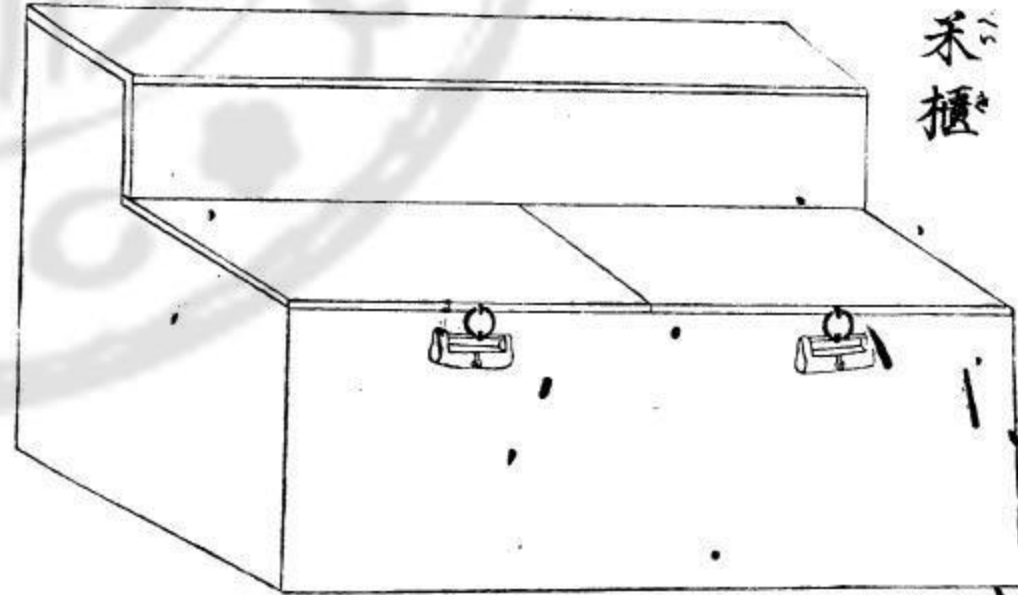
居家

四

厨櫃



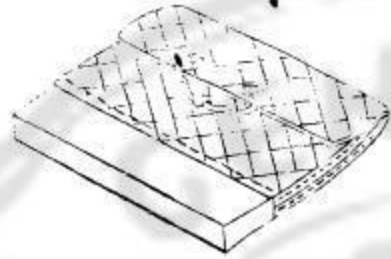
禾櫃



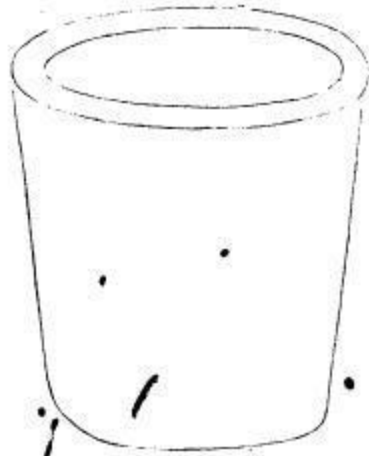


發燭兒

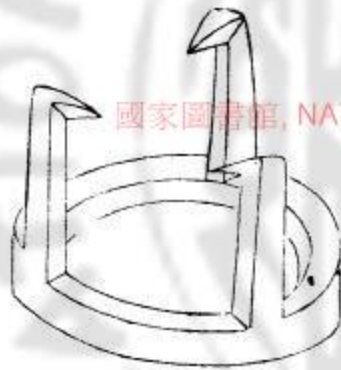
火連刀



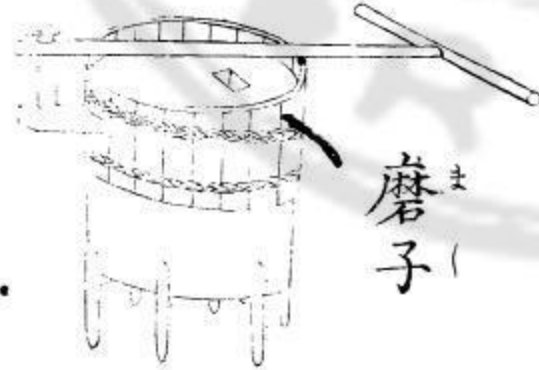
米臼



杵子



三脚馬

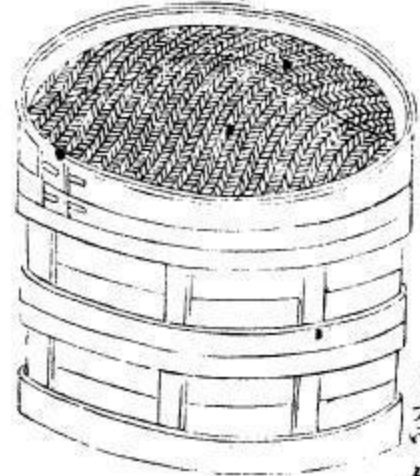
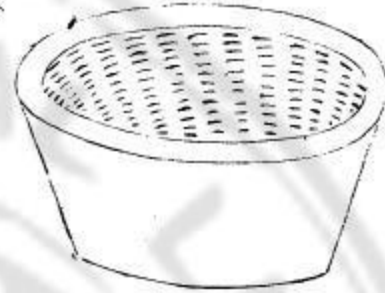


磨子

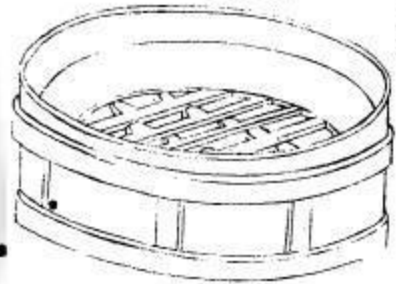


槌

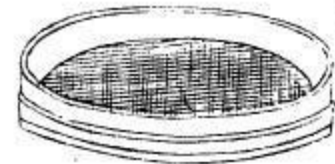
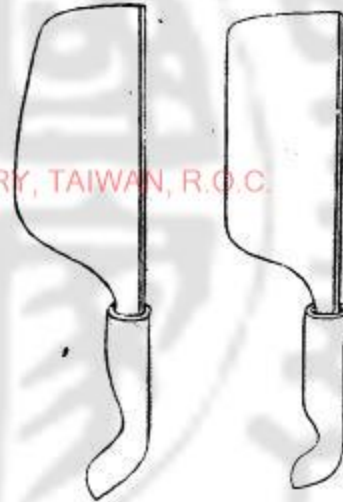
石盆



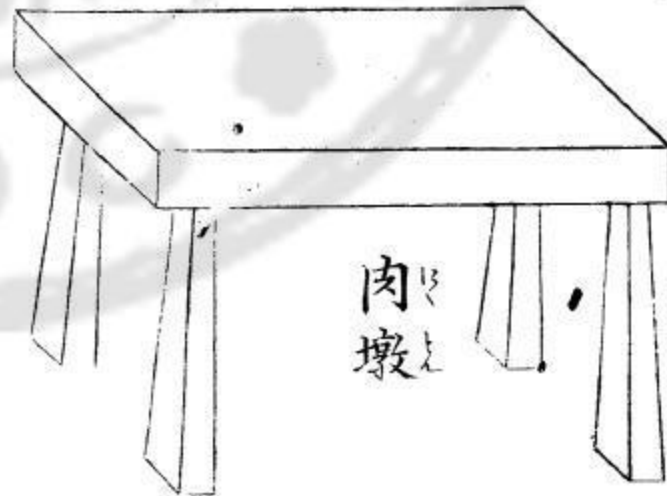
蒸籠



菜刀



篩斗



肉墩



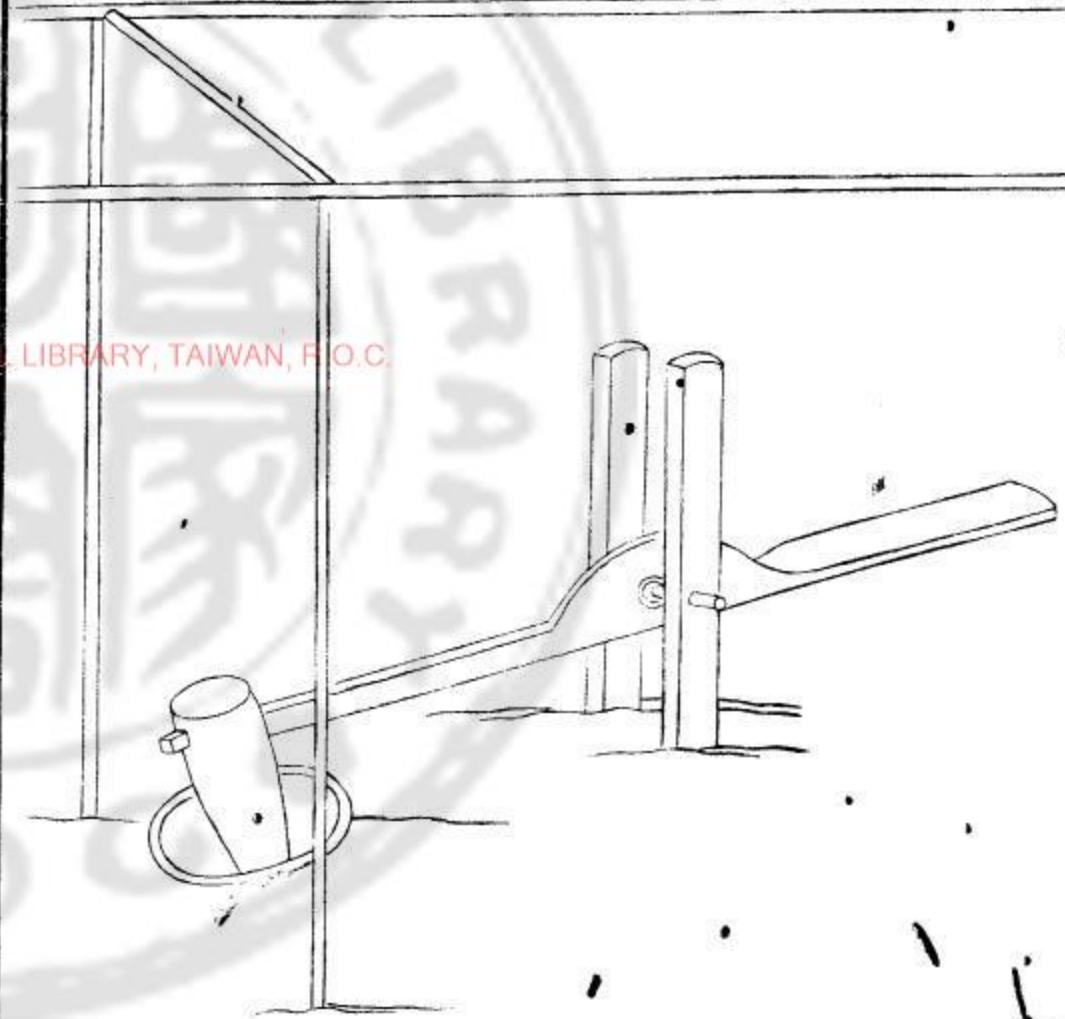
籃斗
一名柄籠



居家

甲三

一各
浙確
堀確



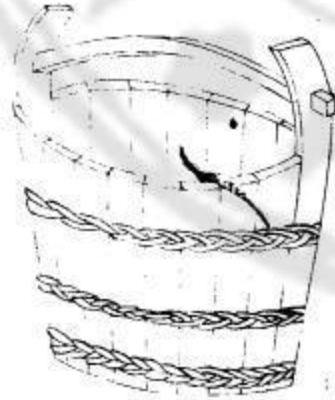
國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.



擔 扁

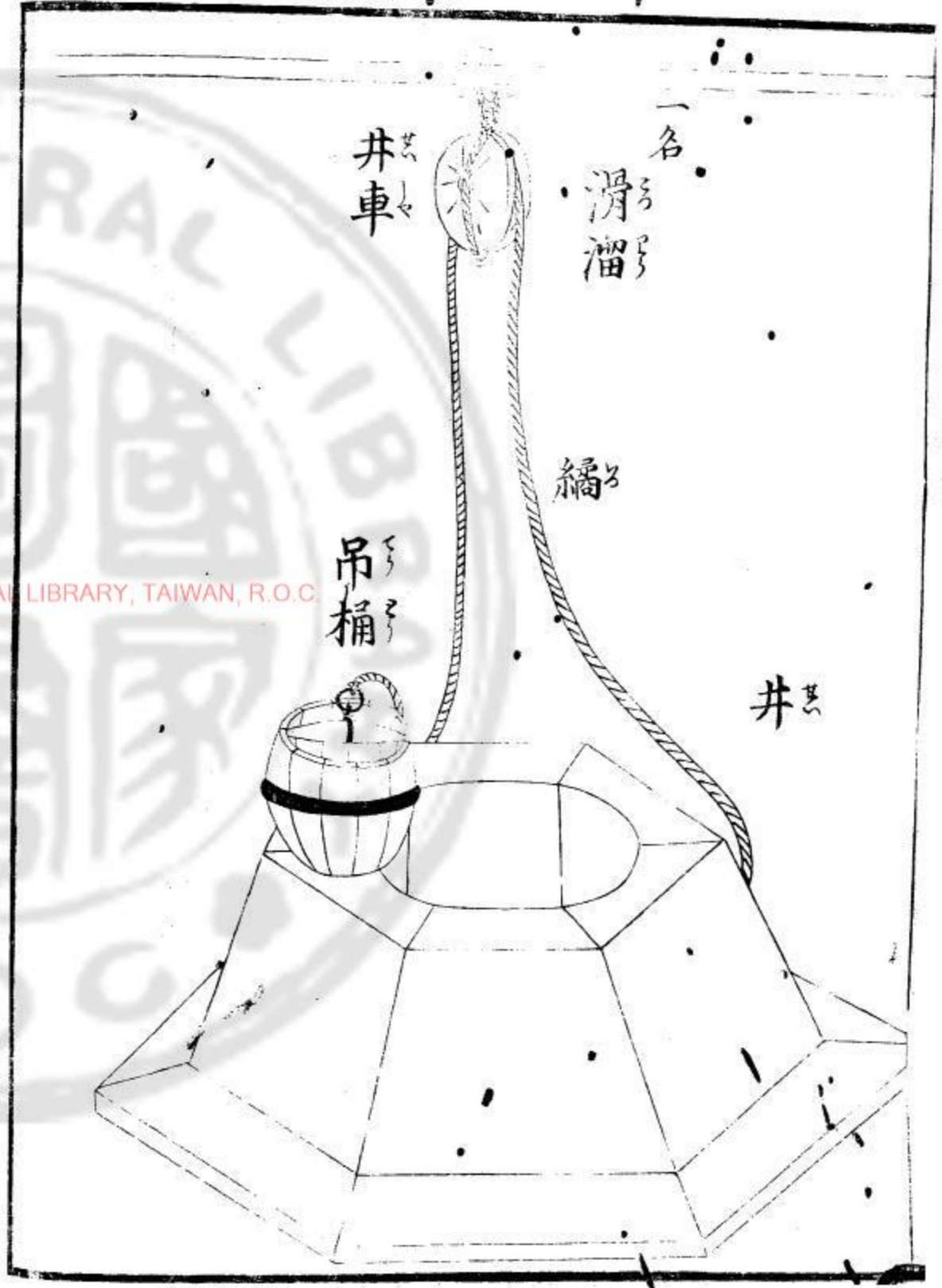


提 籃 提 水 桶



居家

四十四



井 車

滑 溜

一名

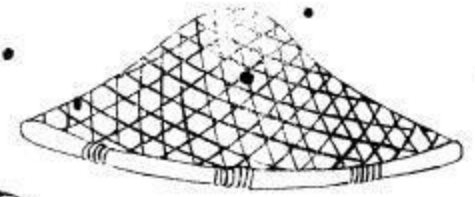
繩

吊 桶

井

國家圖書館 NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

衣 蓑



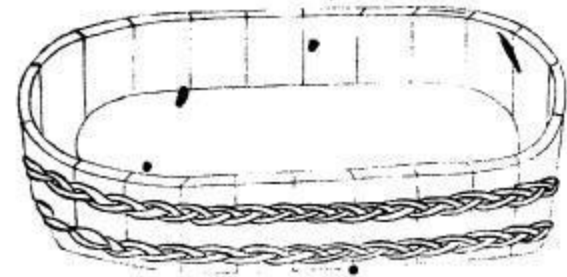
笠



提桶



盆 浴



○

主人起き梳洗畢く便服のまゝ内房の椅子に坐して茶たぐとのゝ家廟ありて
 信作の佛神を拜し家内起掃り朝飯迄吃申朝を惣して粥を吃は又稀飯も
 遠方多し行り又は化み出く用事等代勤ふ時と肉麩を食はす
 常ゆら本綿の縮緬の小衫に上み背心馬褂あり袍と顔を着り頭は
 睡帽を一冊小帽戴きそ人み面談すふと又外出の時と大帽を戴き外套着て
 扱食事の時八十二歳満ちる男女共坐して吃すを父子兄弟姉妹に限ら子婦共
 公公と同席せ居兄弟の婦ら更の兄弟と同席せ居多く男子は外房に吃し婦
 女は内房に吃は給仕の奴婢の類あり胡飯をみて後方勤ふ者ありは行商に
 人脚夫坐商等何止も更の職分ありは家事もほろ見はるは人を
 不事皆同常の衣服小衫馬褂背心外套
 小坐し針線等怠り大戸に家務を妻女衣類を縫事ふ一切細工あり

居家

四十五

繡花挑花スミヂカ好このしてすふもついで中ちゆう小戸等せうとらうのの衣類いれい等らう皆妻女さいによ

此業このわざとと男おとこ女めづめもも面おもて洗せんせせ先まづ袖そでをを捲まき上あめめしてして洗せんひひ直ただ茶ちや

後のち水みづ洗せんせせ中ちゆうにに衣い付つけかか○食くわい事じの時ときにに陸りく分ぶんをを付つけ衣い類れいをを汚よごすすぬぬややに

志こころくく吃くわくはは且かつ道みち踏ふ成なり歩あ行ゆの時ときもも泥どろ土つちのの付つけぬぬ中ちゆうにに衣い付つけかかはは仕し業ぎやうありあり時ときははららと

着き成なり脱だつ小せう衣いをを脱だつてて少すこくく着き成なり腰こし一ひと緒つづくく便べん利りをを考かんがへへととしし

○坐ますすぬぬ身みをを定さだめめ端はな坐ますす一ひと両りやう足あしをを飲のめめ手て成なり拮こつ尾び偃えん作さく傾かた斜しゃせせぬぬひひハハ凡まじ席せき一ひと

倚かた靠たかせせぬぬ人ひととと對たい坐ますすぬぬ身みをを飲のめめ莊じやう肅しゆしてして臂うでをを張はりり妨さ碍がいすすぬぬははららと

○立たちちぬぬ手て成なり拮こつ尾びててああ足あし相あ差さ多たきき方かた位いにに正ただしくしく立たちちぬぬ歪こま斜しゃせせぬぬ困くわん倦けんせせぬぬ

近ちかくく壁かべにに倚かた靠たかすすぬぬははららと

○行いくく走そうるる兩りやう手てをを袖そでにに入いれれてて徐じゆ々々とと緩ゆる歩あすす足あし成なり

拳こぶし不ふ事じ大だい小せう漏ろうくく左ひだり右みぎをを揺ゆ擺ひしてして衣いのの裾すそ成なり動うごききかからら常じやうにに立たちちぬぬ其その足あし成なり顧かへり

高たかにに立たちちぬぬ必かならずずず必かならずずず衣いのの裾すそ成なり動うごききかからら常じやうにに立たちちぬぬ其その足あし成なり顧かへり

貴たかししはは跳は足あしすすぬぬ尊えん長ちやう小せう貝かい少せう必かならず教おしへへ急いそぎぎ習ならふふ大だいにに後のちああららととしし

○言こと語ごとと常じやうにに以もつ成なり減へるる勢いき勢いき一ひと輕かろ急いそ小せう視し成なり出でるる言ことをを事ことととしし聲こゑ氣き成なり低ひ

俏せう姿さでで喧けん嘩かすすぬぬかからら初はつめめとと真ま實じつ貝かいとと接つああふふ事ことをを一ひと謙けん謙けんすすぬぬははららと

先まづ傲おごりりてて如ごとくく一ひと人ひと物もののの長ちやう短たん成なり識しせせぬぬ

○飲のみみ食くわいをを身みをを盤ばんにに逼おすす徒た容ようううとと筋すぢをを拳こぶし盤ばん中ちゆうにに筋すぢ成なり入いりり急いそぎぎ遠とほ

世よにに香か蔬そをを撥は亂らんしし咀く嚼くぬぬ香かををかかきき唾つば吐つ物ものありありもも會あひひ合あひひてて吃くわくせせぬぬ益えきをを助たすけけ

必かならずずず衣い成なり用もちひひ諂たんんぬぬ地ちにに衣い成なり酒しゆをを飲のむむもも多おほくく吞のみみぬぬははららと

○男おとこ子こ四よ五ご歳さい五ご六ろく歳さい小せう女によ止とどまましし書かき法はふをを教おしへへ讀よみみ書かせせぬぬ女によ子このの針はり線せん一ひとととしし

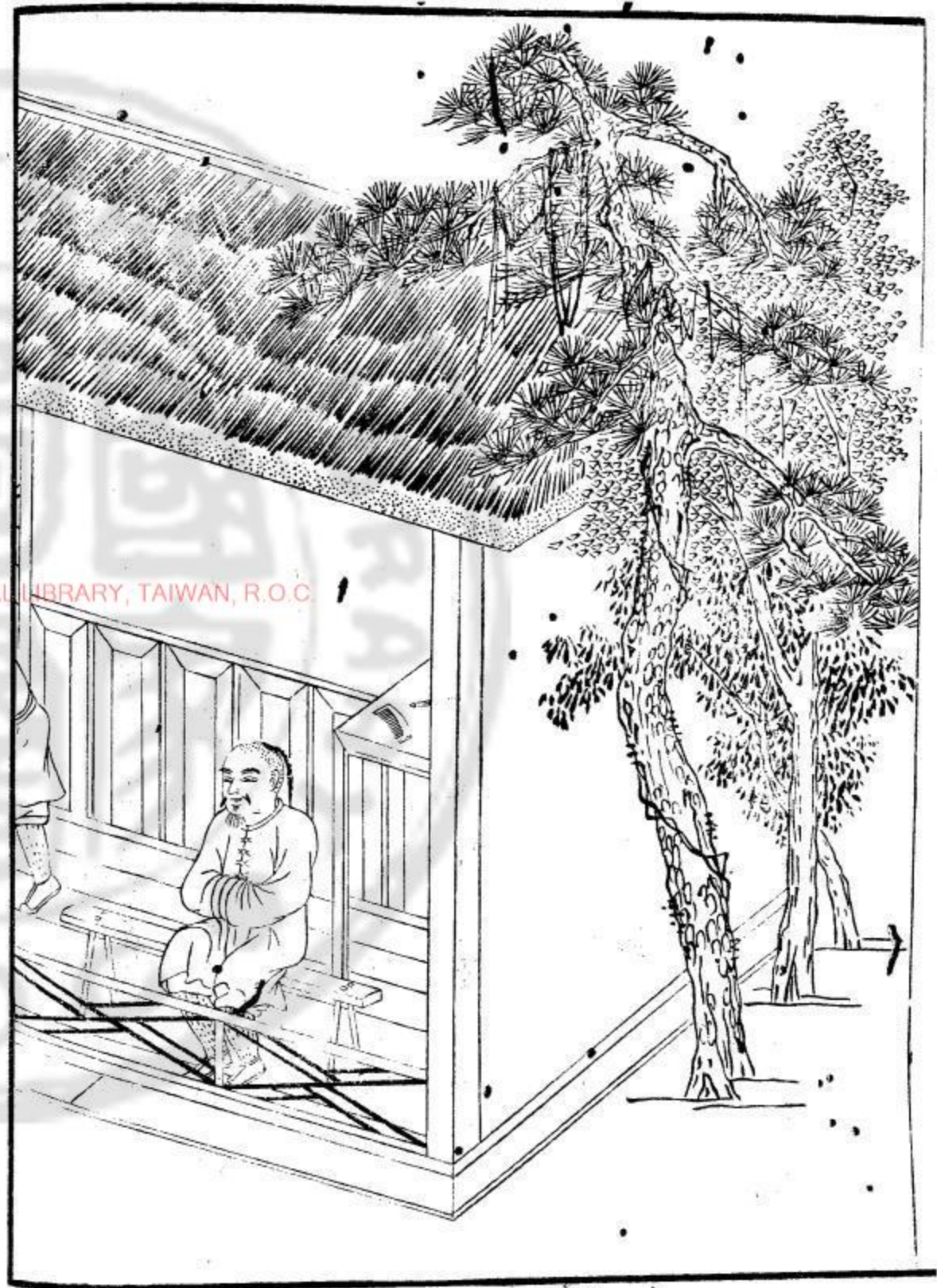
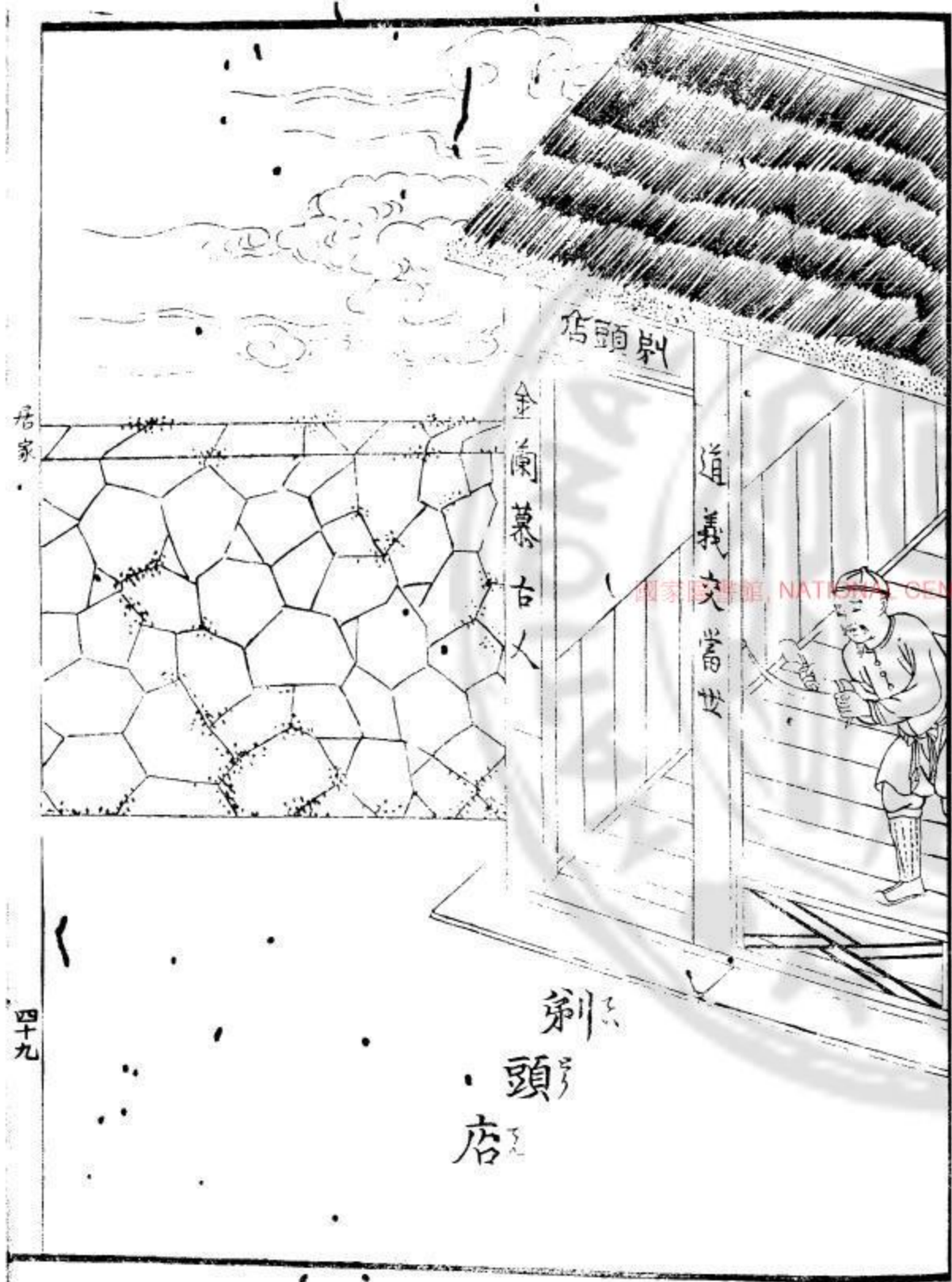
教おし中ちゆうにに女によ小せう書か法はふ成なり教おしへへ讀よみみ書か詩し仙せん等らうせせぬぬ者ものははららと

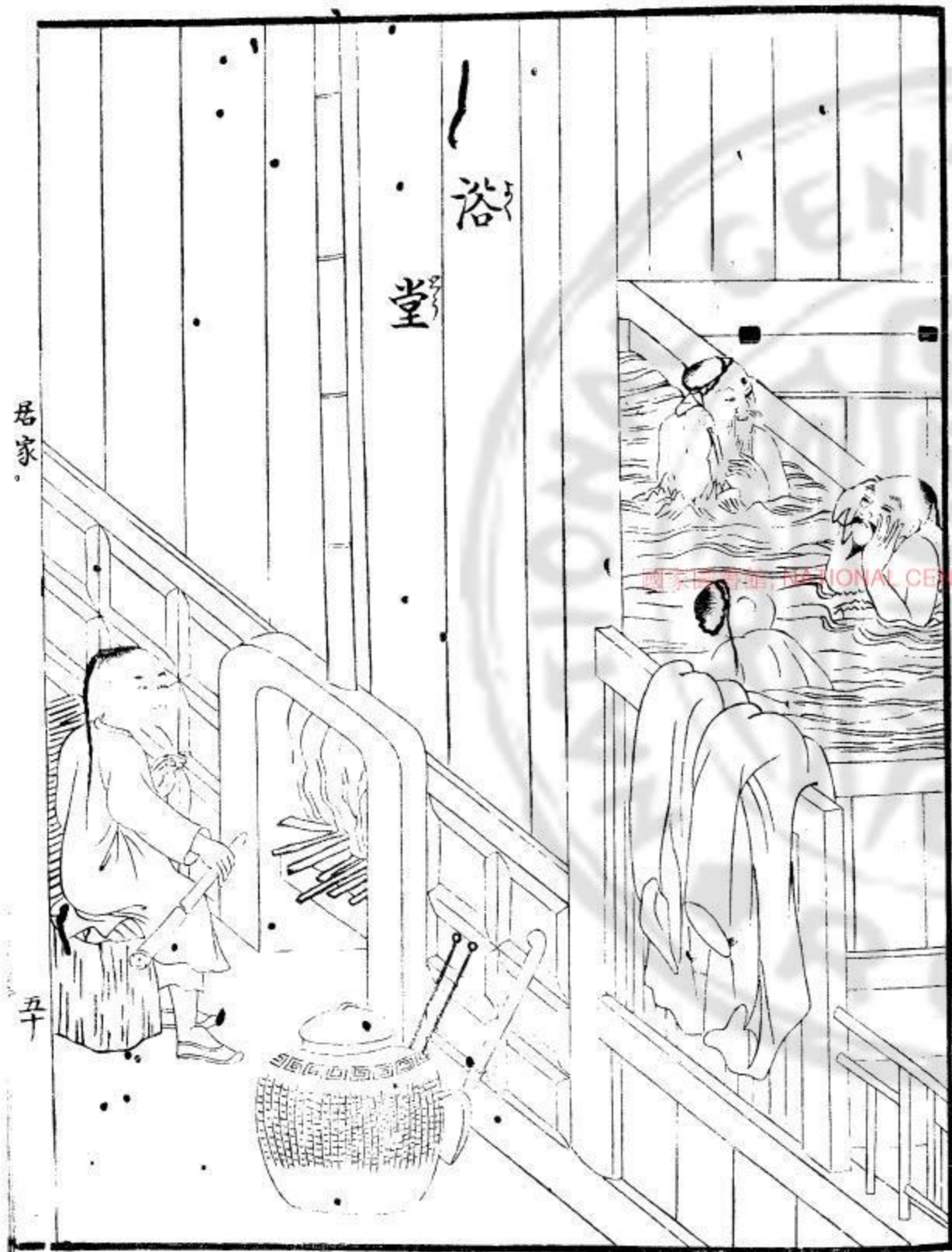
指さし書かよよとと教おしふふかかりり物ものをを書か法はふ讀よみみ書か此こゝ師しとと有ありり力ちからのの家いへ内うちにに館かん成なり読よみみ書かせせぬぬ

師し傳でん成なり受うふふ事ことありあり此こゝ先まづ生せい成なり門もん館かん先まづ生せいとと家いへ内うちにに師し成なり請こゝろすすぬぬ此こゝ力ちから

狸又管家と云く金銀の出入は外化下の引と云ふ者あり此方此時代の事なり
 然し中戸以下は家あり主人自ら料理の事多し○惣く沐浴の曆本に
 湯沐の日剃頭は日あり廿四日四五日或隔く浴は日湯の中み入て浴する事
 絶てか多く浴盆み湯成るとそ中を浸し強くと惣身を拭ふ事多し
 ○農夫雇工等れ小戸の浴室あり湯沐は浴室の浴池は八九尺方或ハ一丈二三
 方の大なる箱成捲湯を湛へ二十人三十人程も入浴し浴室の主人又か家人の
 類衣櫃を預ふ者あり是れ湯み入る人止む櫃み號數を以て共鑰匙み號
 數の札を付又手中みも同一號數の札を付共人み浴し衣裳を櫃み入止鎖
 を卸し浴池み入て洗浴すそ右は手中と鑰匙の號數を照し櫃を用湯銭成
 拂ひ衣裳成着湯銭を一人茶之銅あり○盆湯と云ふあり一人一錠の木盆
 を備へ一間宛仕切て一人宛湯浴せし是れ一人茶之四ふは死せり

○惣く衣類の洗濯は年中うたふ老媽の指ある者なり世格みすふ事多しふ
 奴僕類も討ふ事あり或は寡婦善し此者賃錢を乞ふ湯世みすふも有
 冬は手爐成因ハ極寒中好し手足冷し時ハ脚爐み火成入く一皮を覆ひ椅子
 の前或は睡床の前み坐し足を其上に坐て温め又ハ一向の行に大りふ
 火鉢み火成入く二ツも居坐るとはく火鉢の側み坐りて手成あふ事多
 地爐石爐ともあり此方の巨燧の杵み地に爐を捲く事あり此は南方
 温暖地土地あり用ひ也
 ○往來の書翰ハ皆紅唐紙或ハ斗方花箋紙を以て紙み坐りて免封筒に
 入し僕み持せ遣は亦拜盒み入く遣はも有り吊喪み白紙を用ひ願書も
 奏奉紙を以て折紙みして上み全啓副啓かき文字ありみ筋封を紅
 粉摺紙を以てたふあり是を格紙と云ふ





○九人み茶成出し又の自のく吃きふ時め先茶碗を能く拭ひ上げ茶は茶成

入止能く煮るふ白湯を入止蓋を覆ひて暫く蒸上り泡のゆるたふ成捨て又

茶四枚覆ひて客み出は茶碗と物と蓋物あり

○烟包の中著みして烟筒は棹の長さ二尺二尺位の紫竹方竹通天竹ふと竹

みく多く白銅みして呑み象骨の成すげたふあり白銅をとり好ふも

高佐高官の人を銀めく造つた茶成用ふもあり

○奴婢は幼年より一生買切みして身價銀何程と極め親より親類より賣身契成

つら成成長の後外れ縁ねとせんそ自分贖身せんと思は親よりえ極の身價

銀を納め引取事ある人柄よれ者めと主人の氣に入る數十年實躰み勤むと

相應の世帯成させ或は家内みあつと媳婦を撰と取つせ主婦もに石俵

とあると下婢も同一或は五年十年の間賣切又給料めと勤むを雇公と云

烟筒



烟包

杖丸



賣身契式

立賣身文契某人今因衣食不週情願
 央中保某人等將自己所生嫡子某賣
 到某府為僕三面議定自價七折制錢
 若干兩其錢當日一併收足自賣之後
 任憑更名使喚倘有不測各聽天命如
 逃亡走失惟中保是問追還並無異言
 立此賣身文契存照

計開

某現年若干歲某月某日某時生原籍某府某縣某鄉人
 年月 日立賣身文契某人畫押

中保

某人畫押

某人畫押

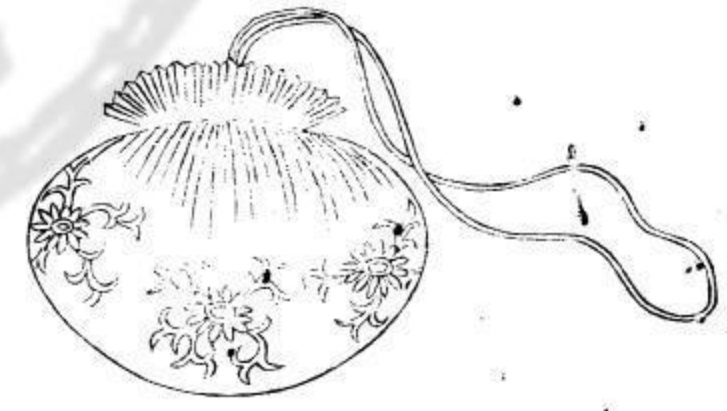
香袋



扇墜



香包



大抵辛錢の一年五六十月等は、一生買切の身價と二十貫文五十貫文と、此も
 不同の婢と皆買切なり

○九五節あつひの婚禮のやうな臨時に親ひあひの遊人門前ありて儀儀を
 乞ふ事あるは、此をいふは、此をいふは、此をいふは、此をいふは、此をいふは、
 目録ある親ひ事あるは、門前には遊人一人もあつたやうに銅錢五六十文あり
 百文二百文もあるは、甲頭とて投票を持越して門前も貼らば、此の
 票を張るとなれば、此の遊人一人もあつたやうに、
 ○官所より尋等の用事あるは、又る名成園など、時を不時の兼局或は
 管家も帖成持せしめ、此の行向の帖を主人のつて用事あるは、此の
 とも又居宅あるは、此の街の保長等も通し、此の通す事あり

套刷 竈
 端陽喜慶
 日遊 薑

或
 新春喜慶
 新冬大發

収票

一應乞巧頭上人打發母許強索

○卯の刻衙門に所属し吏胥出はすは本官堂にお出此時自隸の
 領文牌を持おれば諸官前より公文の申覆をま、持ありたる役人お後
 傳通みすき事、舖司お後其後お投文牌を持おれば辨詔の者新帳
 直み本官の公案に上おき退く其後お稟事牌を持おれば機密の事
 等本官にお違はる者おと口稟す右の事おと人お過犯の者おと
 出裁許せ ○吏胥お卯の刻衙門にお出はは是を點卯とす午の刻お退食
 政事お従ふ者お午飯おんで又お出はは此方お御用日お放告日期お
 訴詔箱お投文牌お當お本官の政事閑暇の節人おの好おとて
 詩文書學おひる琴棋射等おは家事の都會おと辨理お朝書
 自身お家事おつらるるお政事を專一おとて 投文牌の圖お領文
 高家お主人朝飯おとて店お見繕お夥計お指圖おて賣買お駈引酌

量し晚お至るて一日の賣高帳面等引合勘定し賣高の金銀錢兌換點見
 めく收貯し又大高おと店数多く夥計も多し物おおの夥計数お信
 お勤たふ者お主管お或は同族の者おは照管お諸勘定自
 お事お一月お二月お三月お徹底磨算お大高の他州他府にお店数余
 計持おは何お親類を頼おて店主お荷物買入等の引お自身料理
 お差遠方の場お或は本店の親類引おおる者お一將を任せお
 賣高の金銀錢一月二月お勘定お其店の入用を錢し余お本家お後お討
 債の端午仲秋年邊此三節を定お其限りおお止お債主お或は貨物賒賣の
 お書お成遣しお夥計お向おに債を討お物束の通り拂おあり又此季お
 延お再限お拂方おおる限期おを本家お主人三日お諸帳を調お金浪
 を改め記帳し欠帳お点を掛お年おお終夜取引おて欠主お拵不足等

衙門聽訟

居家

評法



告狀畧式

盜賊呈子

某都某里地方某等呈為被盜牛隻事本
 都某於本月某夜某時分被賊盜去耕牛
 一頭當投地方某跟尋到某處地方捉獲
 及得現賊是的係干賊盜事情不敢擅便
 私和理合送官懲究為此具呈須至呈者

年 月

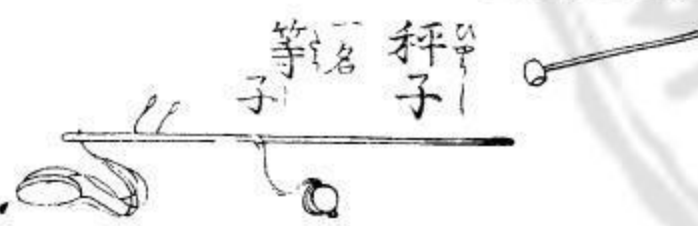
日原告某人

天平

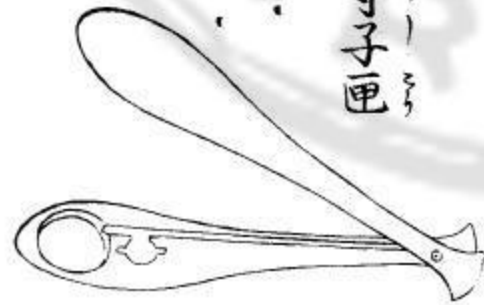


法馬

秤子



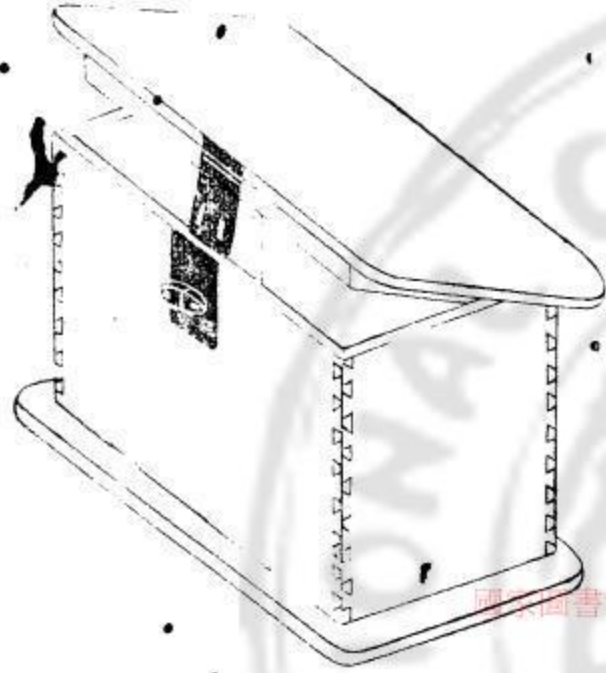
等子匣



鐘

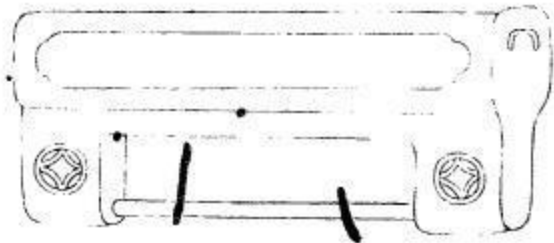


居家



夾板箱 一名 金銀櫃

鎖

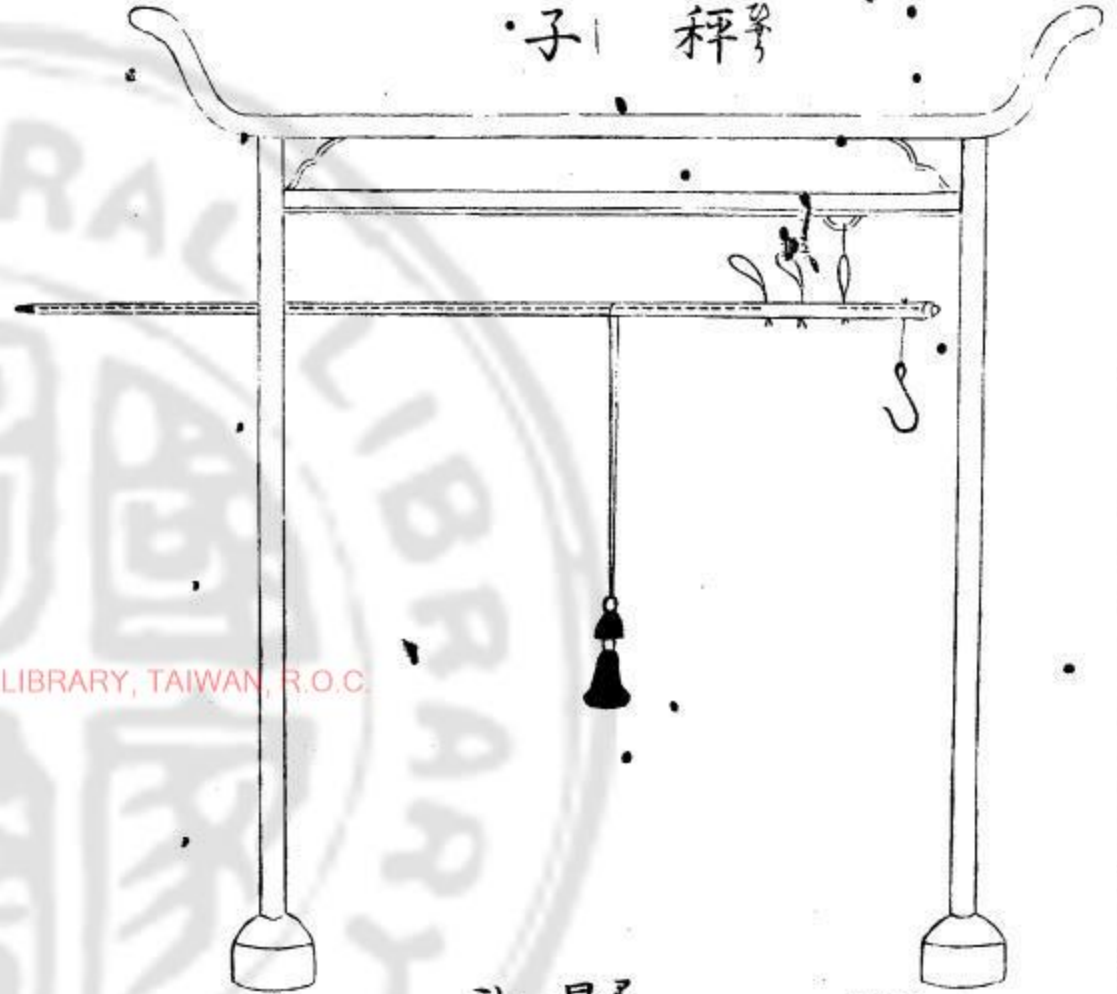


鑰匙

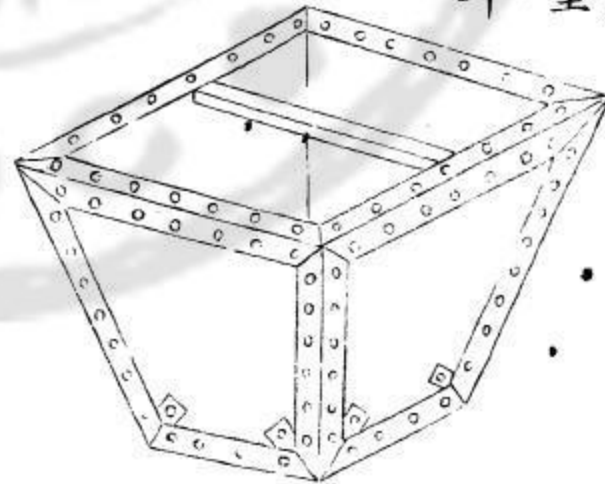


五十二

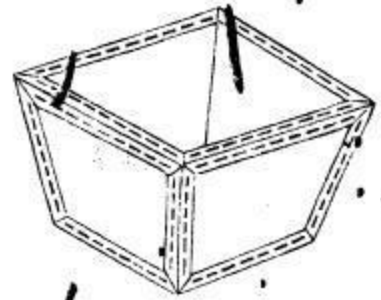
秤子



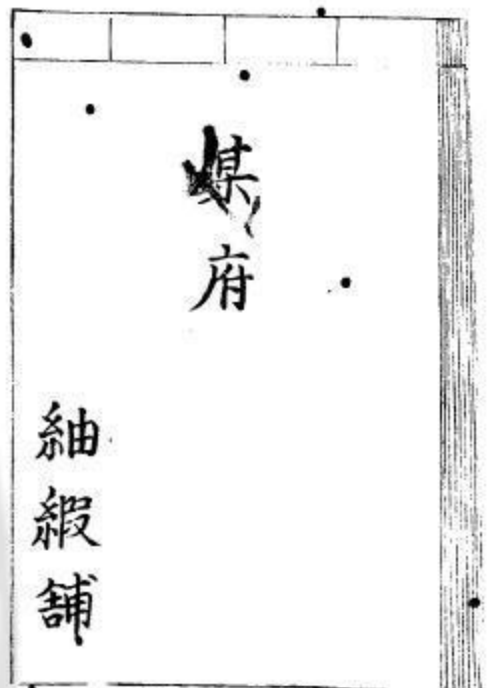
量斗



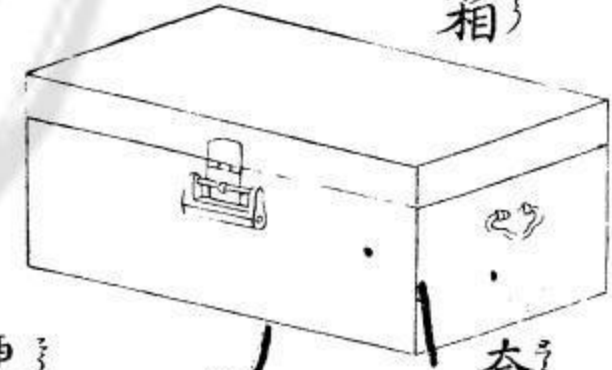
量升



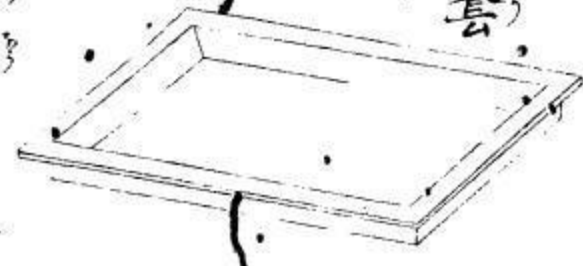
簿子



帳箱

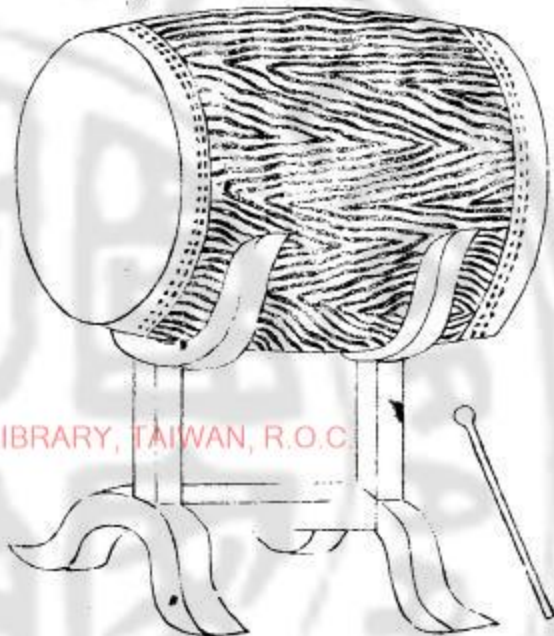


套

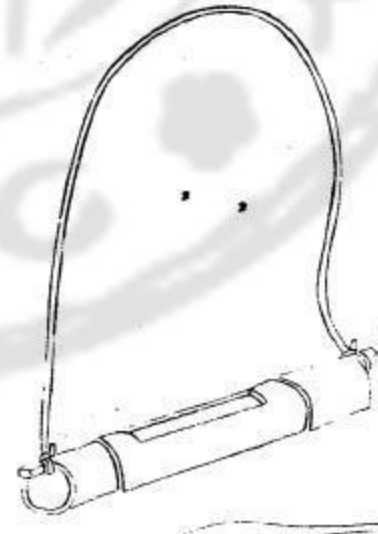


更鼓

一名 街鼓



更柳



○ 天亮了まで燈籠を点し往來に元朝日の出はありて取引代止り歸る

○ 諸店とも通い帳の括ある事あり拂方の二節或は五節あり

○ 柴相と百斤廿五位火炭の百斤廿五位食鹽と

○ 一斤廿五文位山國もむく一斤廿五文位錢相場當時錢一貫文七二三分

○ 位時の長倍等あり

○ 同屋を行戸又行家とも船宿代船戸とも一牙行を

○ 飄行ともつ物づく賣物等あり同屋は錢あり是代打抽豊とも船宿も同

○ 農家の都て草葺かして表泥牆板牆等代設け門構したるもあり小戸の君家

○ かりに草葺かして表泥牆板牆等代設け門構したるもあり小戸の君家

○ 同しく地面も倉庫を建て穀等貯へる

○ 都て庫藏倉と二間方二間方

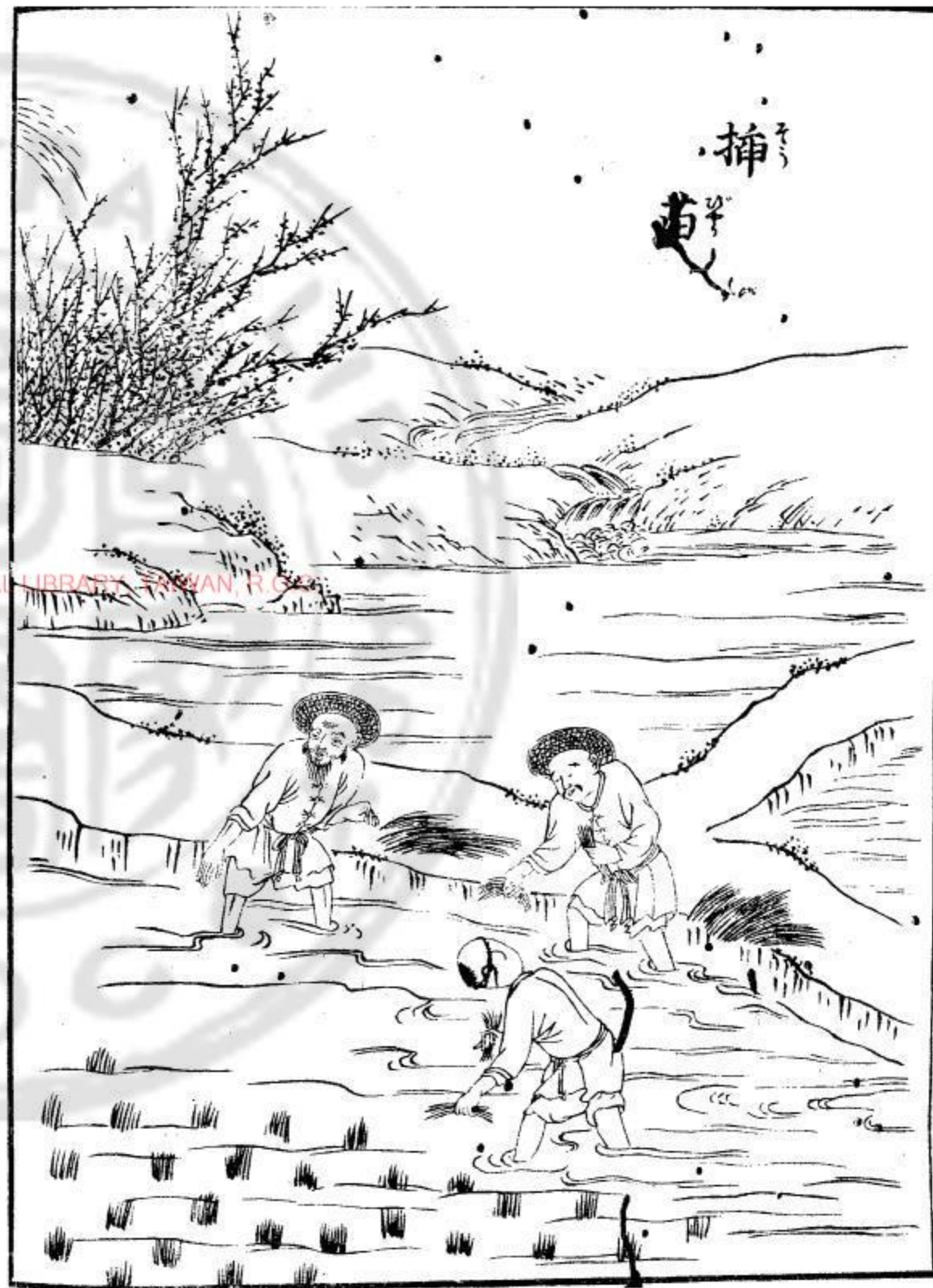
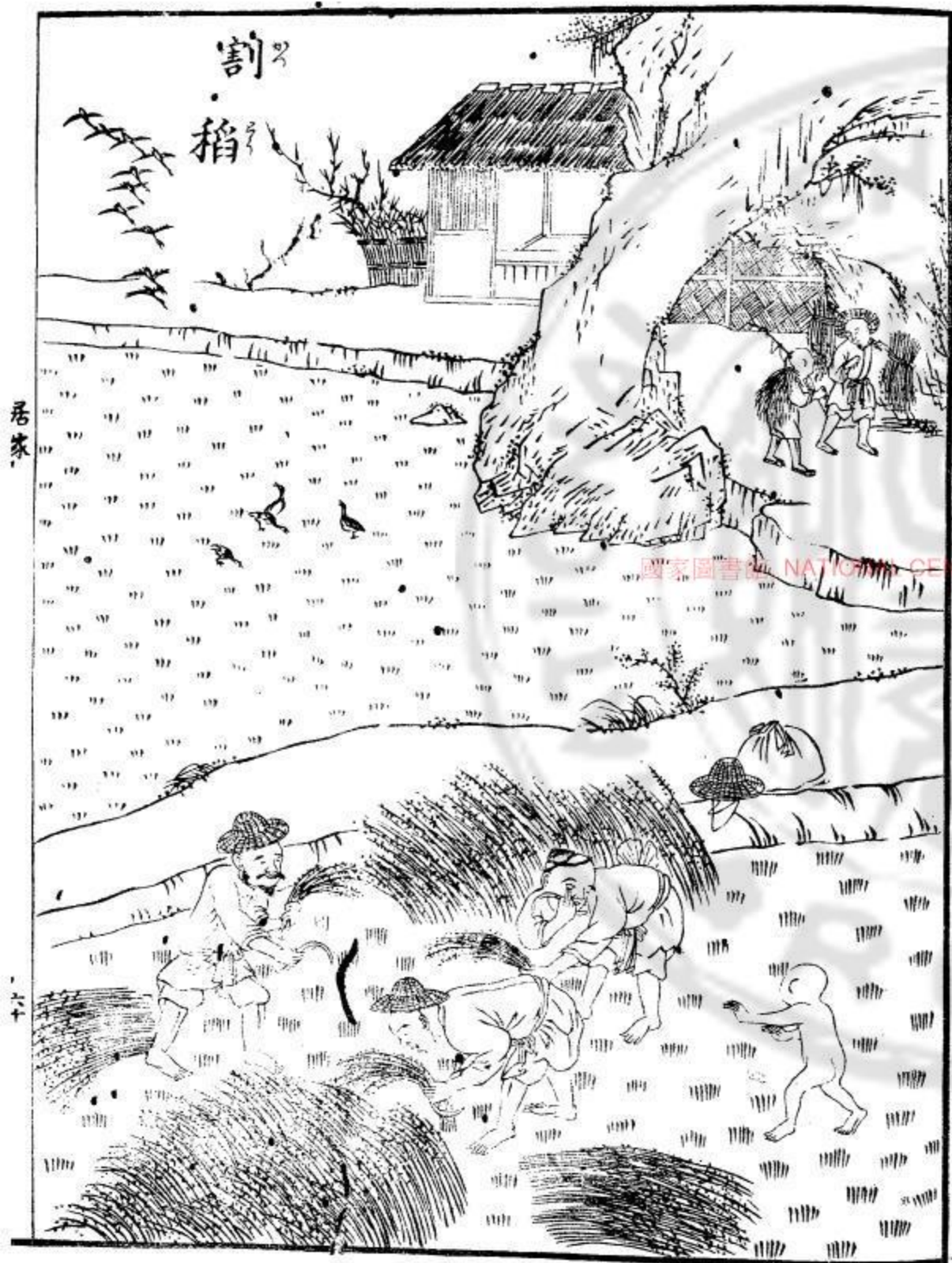
一方(出入)口設け内を板扉外は土扇みして開鎖内は樓を造る家とあり
 半建もあり両方(小)く塼瓦のけを樓を造る家庫藏と柱瓦の樓を造る家
 半建の庫藏と多く柱を用いど四方輒めく筑上屋根の所(梁)を造る家
 液(蓋)は作り瓦葺葺下(之間)或は輒石を敷俵物等積込みと成填(り)
 多積(り)形(り) ○農家ら日朝早く起て耕作或は耕作の餘閑はるして朝出
 の遅速ありとく(り)即(り)刻(り)刻(り)飯を吃し田園み往く(り)早(り)食(り)ら(り)近(り)見(り)別(り)事(り)は
 帰宅して吃し(り)是(り)遠(り)方(り)かれ(り)家(り)肉(り)と(り)食(り)事(り)を(り)調(り)碗(り)皿(り)箸(り)等(り)の(り)類(り)を(り)竹(り)籃(り)に
 入(り)且(り)女(り)房(り)あり(り)小(り)女(り)等(り)持(り)行(り)て(り)吃(り)せ(り)且(り)暮(り)茶(り)み(り)帰(り)宅(り)一(り)晩(り)飯(り)を(り)吃(り)し(り)休(り)息(り)は
 其(り)耕作(り)餘(り)息(り)を(り)此(り)時(り)款(り)又(り)至(り)く(り)小(り)戸(り)の(り)農(り)夫(り)或(り)は(り)佃(り)戸(り)等(り)の(り)女(り)房(り)も(り)に(り)お(り)く(り)耕作(り)
 亦(り)亦(り)あり(り)家(り)肉(り)残(り)ら(り)ば(り)耕作(り)み(り)出(り)る(り)時(り)々(り)食(り)事(り)朝(り)と(り)用(り)意(り)して(り)持(り)越(り)田(り)比(り)み(り)亦(り)
 吃(り)さ(り)る(り)是(り)あり(り)耕作(り)の(り)物(り)米(り)麦(り)等(り)收(り)納(り)して(り)例(り)の(り)ど(り)く(り)官(り)糧(り)を(り)免(り)除(り)か(り)す(り)

國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.



居家

五九



木
礪

居家

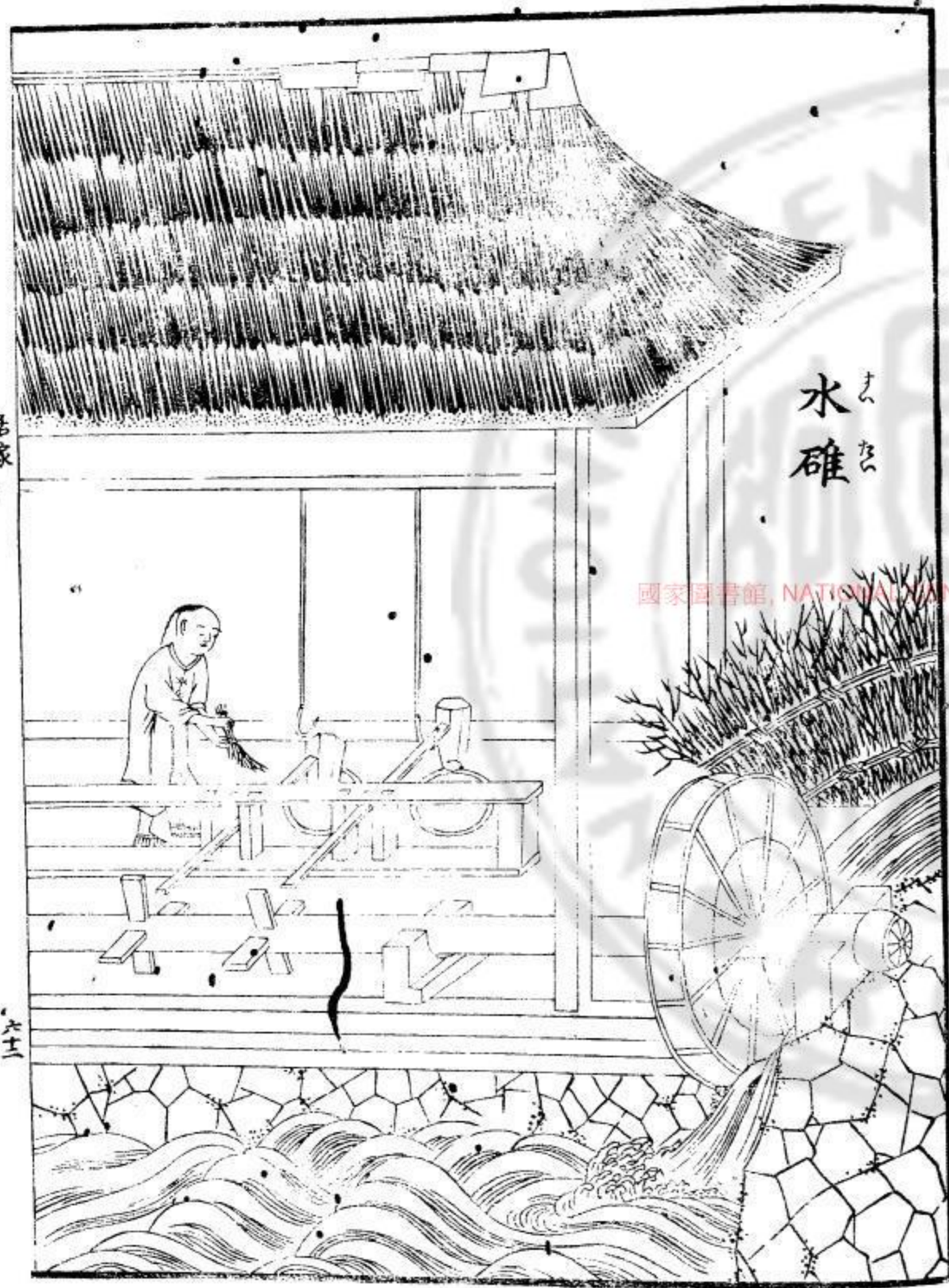


空

麥
笮



國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.



水碓

國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.



土羅

居家



阿鏡あがた

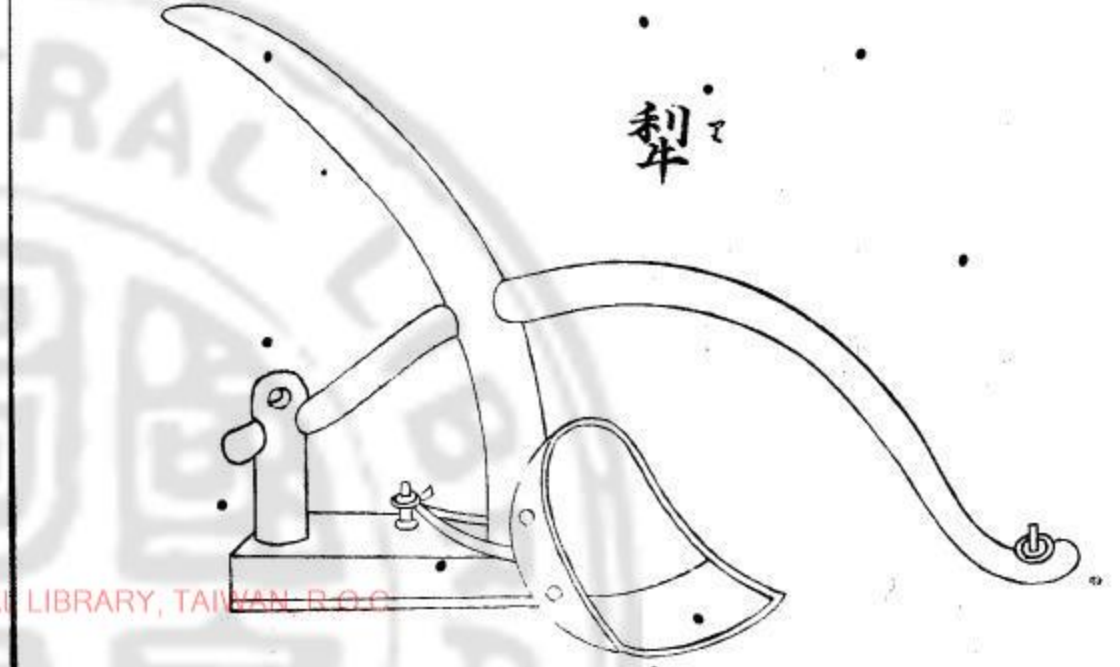


鉏あ

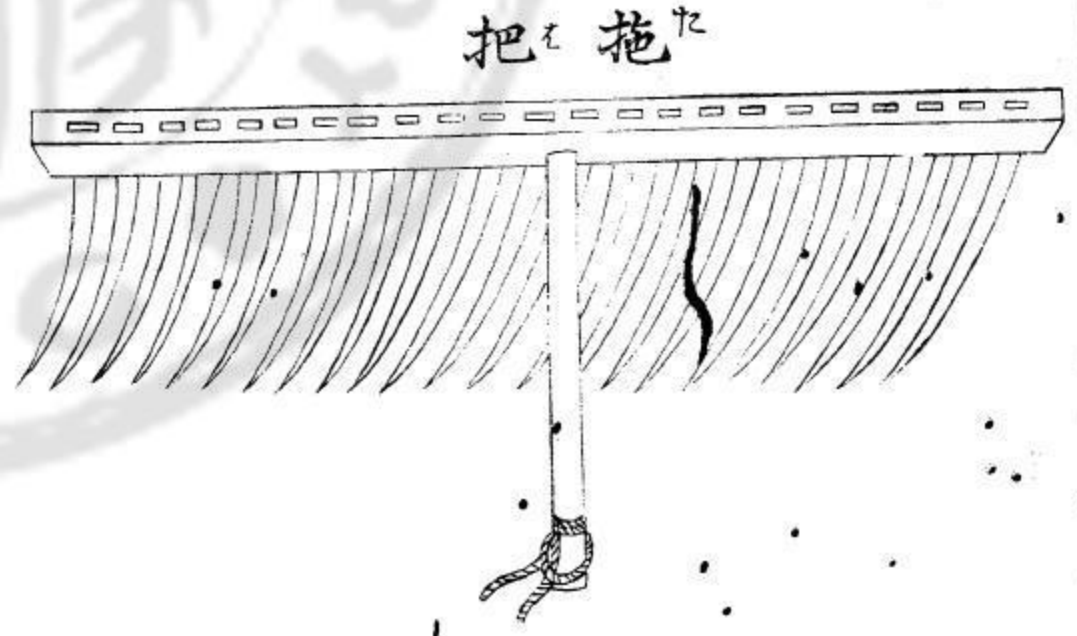


木斫きく

三三



犁り



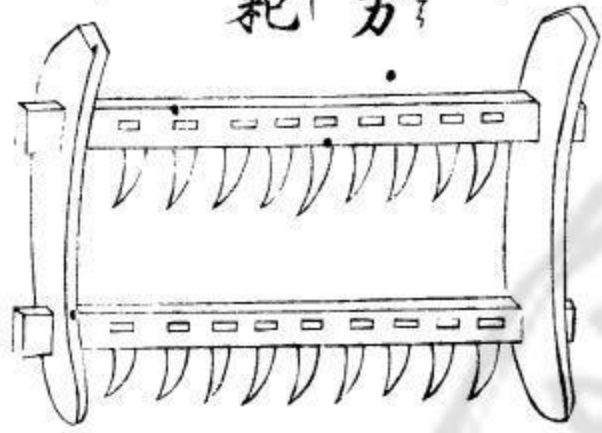
把拖た

國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN R.O.C.

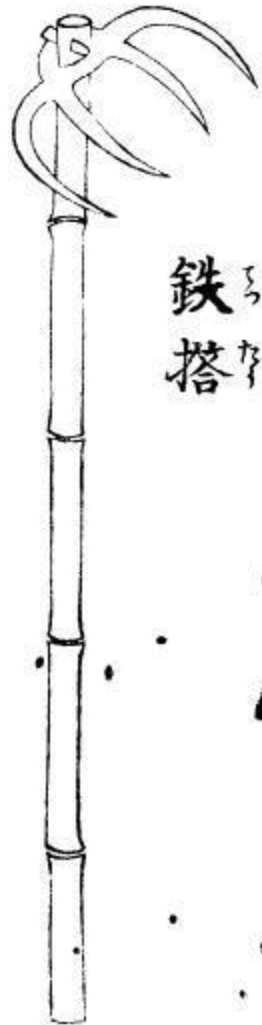
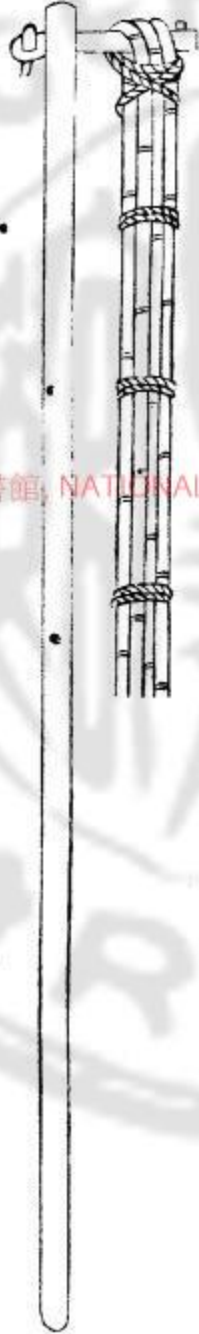
曆次

日十

方耙



連耙



鐵搭

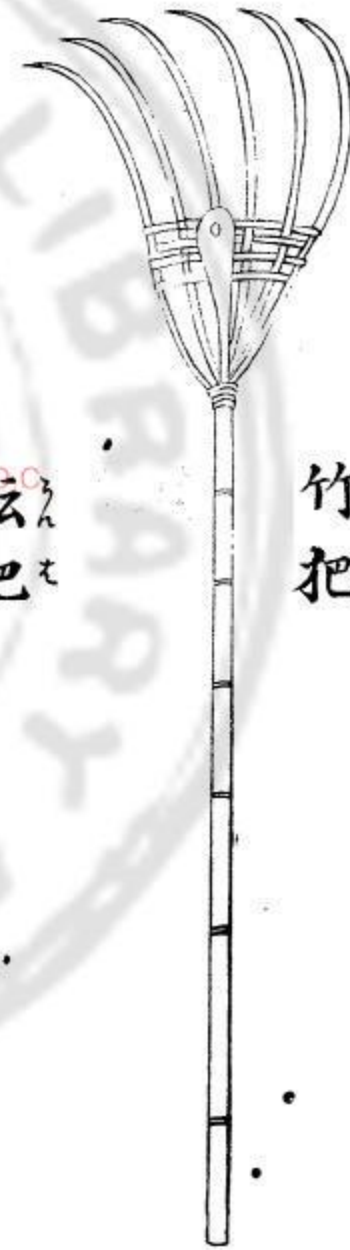


搭爪

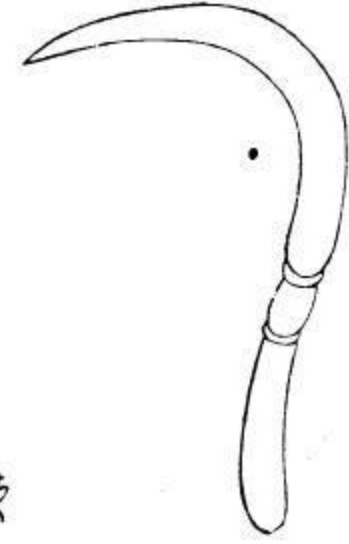
耘把



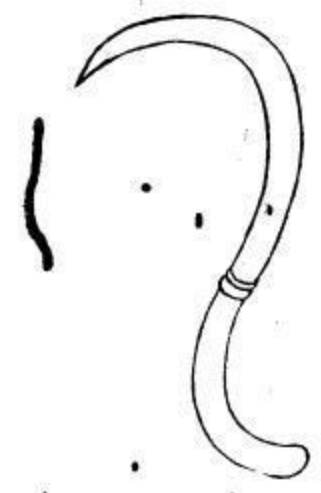
竹把



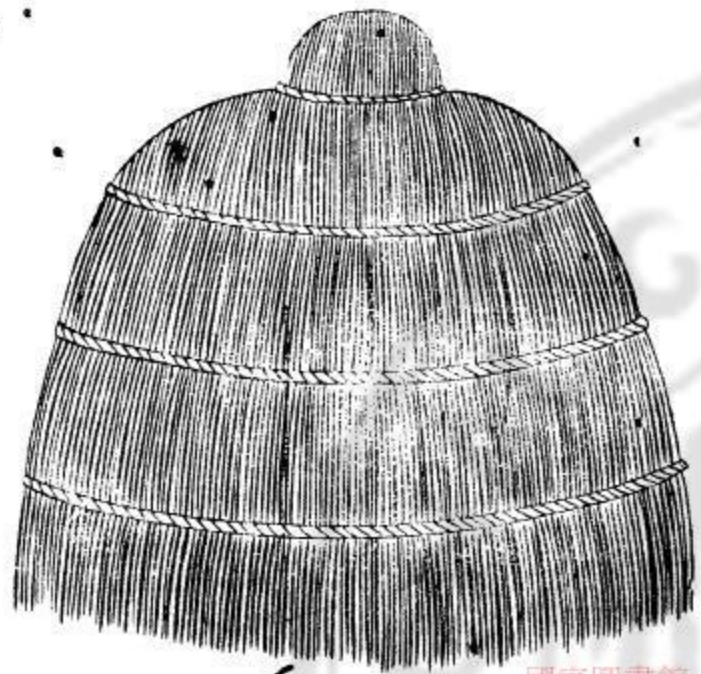
艾



錘



國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

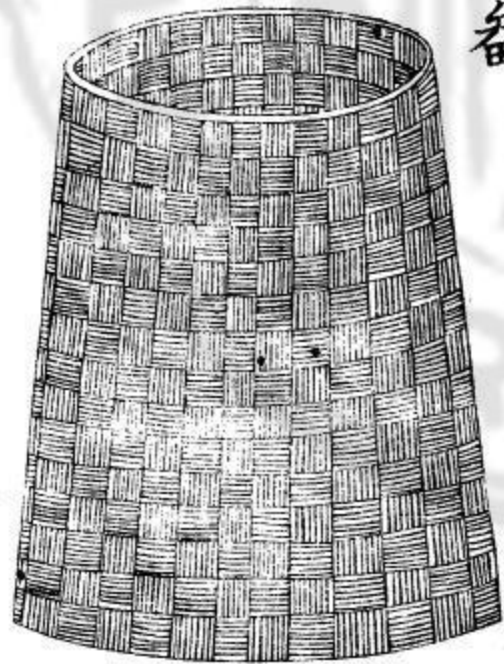


積草せきくさ
苫と

筒銀包つつぎんぱう



定

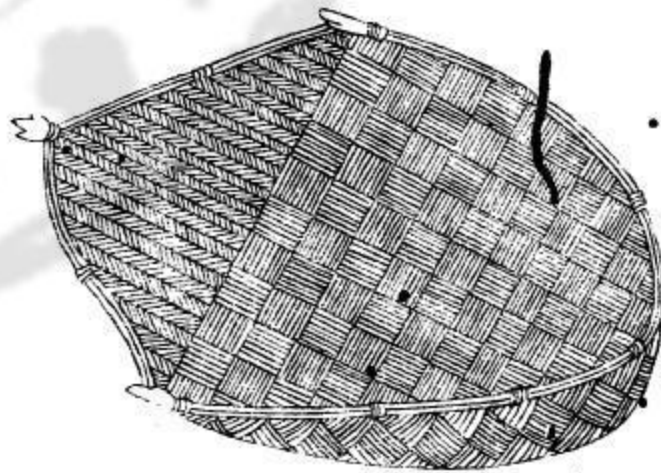


草くさ
番ばん

國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

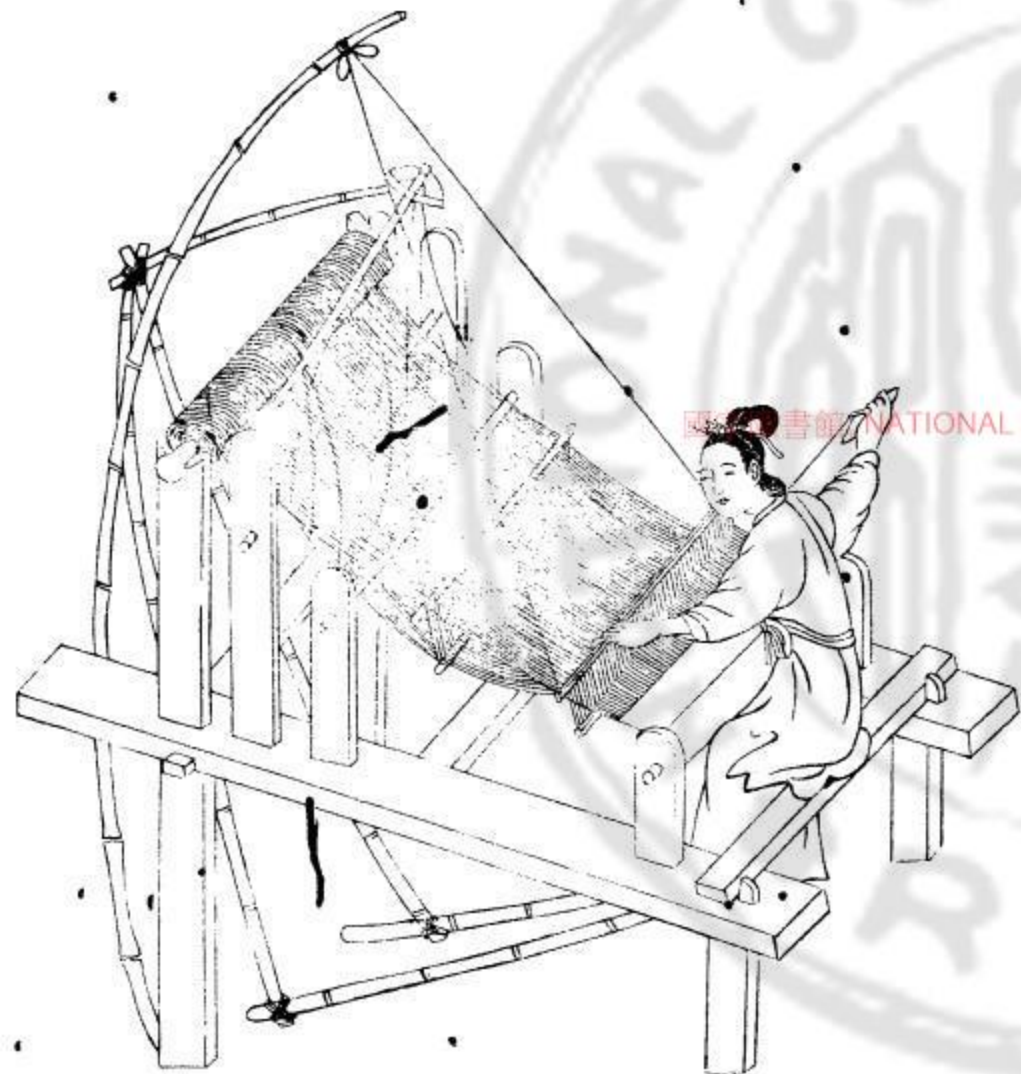


喬たか
杆か



簸ひ
箕き

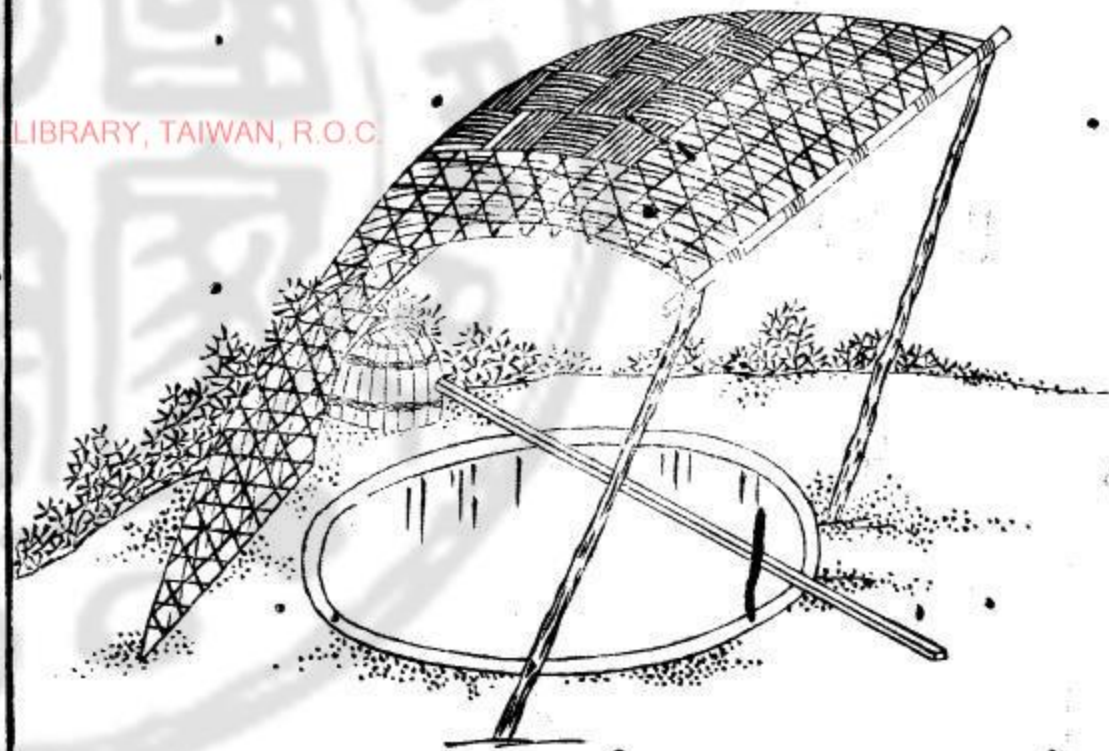
機

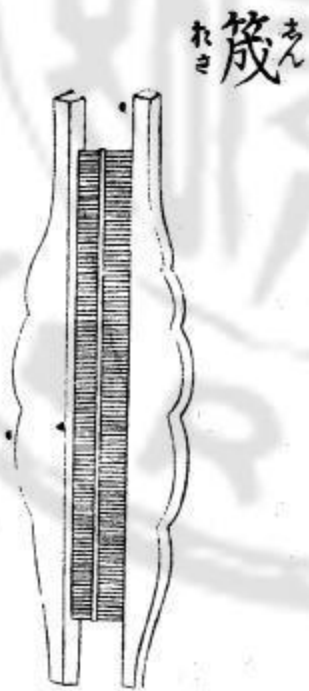
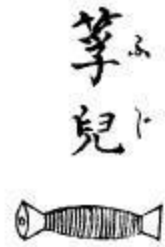
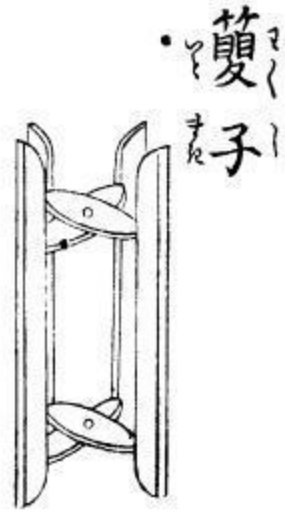


居家

六十六

窰





國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

繅車



家内貯貯へ至時めあつて賣ふもあつ

○大戸田地持つる人々都て農まふ命とて耕作せ先年分何程とふ田租をこ

と自家めく作すふ事れし佃戸よと約定の通り程を納め其内めく官

糧を納め残る成貯へ至家内年分此食糧を存留し餘分の時み随ひ賣去

○官糧九田一畝み分と米一斗程を納む上田下田此差別あり米めあ

納めめり銀納ありい銀米納あり米納と耗米ありい米色善悪の作難ありて

至く面倒あり少大戸の米多き銀納あり田租と一畝み分九一石と一石五六斗

まで不同あり田比の善悪農夫の貧富によつて不同あり官糧の穀を玄糠米

高納む麦と一畝み分一石五六斗と二石ありい二石三四斗まで出

○惣と人別を花名とふ戸別を花戸とふ花戸十軒を一組とて組の成戸頭

と云此戸頭より十軒分の銀米成催促して取らるなり此戸頭十人の成甲

長とふ村里の大小に依り甲長多少あり此惣頭を里長とふ此里長一村の納銀

米成催促して縣に納む此時花戸自身納む其納銀成包む袋あり厚紙二

枚合せめて遠く定の字に捺判あり納銀と櫃吏とふ役人包の銀を請取袋に

上其某の村某此項納銀米何程何月何日請取役人某と捺判收簿みも同程

み記と米納成上倉交糧とふ納米の外み加耗茶果倉書斗級紙張量斛

看倉等れ入目あり又船運漕舟水脚塾船神福等の入目あり

○米成貯へ至めら倉の下に五寸角の本を埴り上み板を敷て米成積置

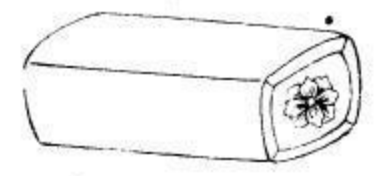
時倉の扉牕門を開け風成透し虫入るは括り成用也是一年貯へ至て新

糧を収ふまで餘り残ありは皆陳米を賣出し新米成貯へ倉の方位に空

地の有るは従ひて制を従等かへ家道殷實めして善事を行ふんと思ふ人々

寤に顔や年分何程の米成納む非常の備へみすべしとて米穀を輸納する有

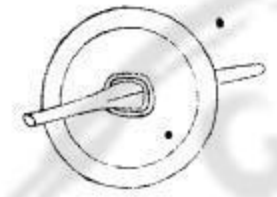
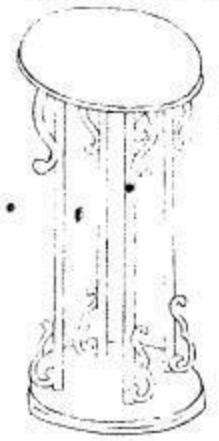
枕 脉



褥 脉



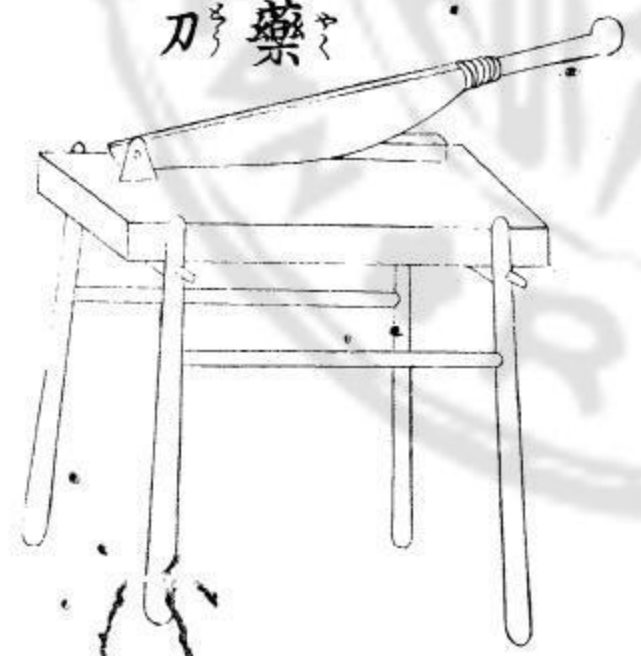
床 脉



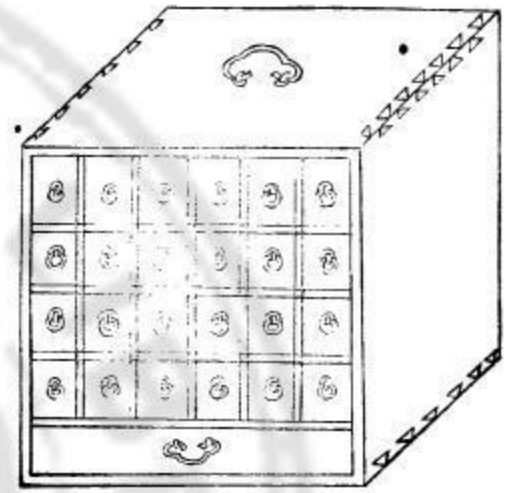
藥 研



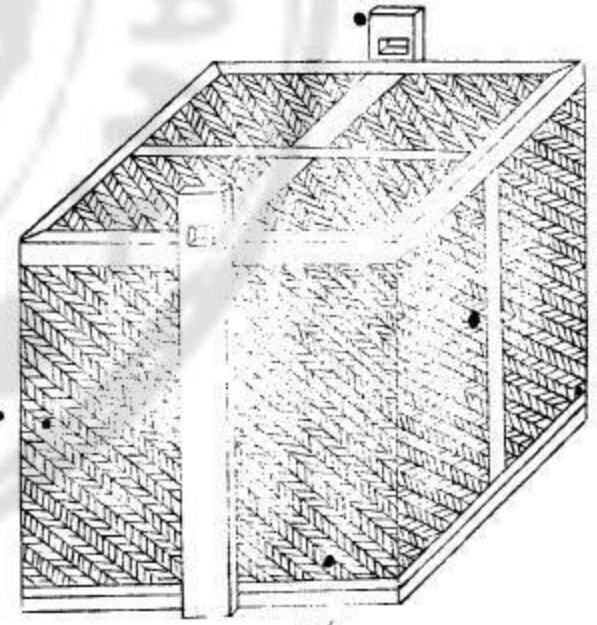
刀 藥



藥 箱



套 子



居家

中

國家圖書館 NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

膏藥刀



膏藥器



攤板



○金の上品成足赤金と云 正金 其次を九程 一歩 八程 二歩 七程 極下品成六程

可成量目通例五百目以下桁あり合厘の小切成零碎金と云惣じて金を國の
珍宝あり人平日調物等の通用あり 銀中く買ふ時ハ十二七双替位との餘の金ハ
足赤金の割目準ト十二五双又ハ十二三双位等カハ

○銀と云寶足成元系此名目あり何れも真味あり元寶成足成銀三付ハ
銅成少くは表成ハ 其收を元系に辨むる時ハ銀十と云九四五分位此上品を
上品と云中品成鼓封と云下品成三輕と云三輕と云元の割目と云一刻五
歩成鼓封と云元系銀と云五歩成の割合あり元寶銀一挺量目五百ハ
足成銀ハ二十三と云元系銀一挺量目十一と云元寶銀一挺成磅子と云又碎
銀と云と云六八入用ハ切げハみす云

○金銀の産る省府州縣ともあり布政司の下司ハ庫司と云あり此庫司

○糠一斗同三斗程屠家より買入る家楮の飼養用ひ又牛馬の飼養用ひ
 兼く得意ありて麻布或持越く買調ふ ○米麦等の粉くみ限り升賣也
 其の余の諸物皆斤賣 ○指本綿類品々名目多く代銀等かゝる本綿一端
 七八分より十寸位衣類一、表裏本綿申して一番虫限九十六七寸綿入と二十目
 二十二三寸程掛ふ在綿よき本綿を持越して城下の同産格の別み賣込不あり
 是を字號と唱ふ是へ兼行ある遠く格別之金代貯入たる者あり是れハ能く
 紙類品々多く代銀等かゝる奏本紙とて一本十寸五分又と二十目位練紙
 と一帳百廿八枚あり三寸位時ありとて二寸位のものありと上品を三寸五分位
 もあり松江等とて五色の紙を一帳二十五枚又と二十枚ぐる定式なり上品を一帳
 七八分位ありひの拾分位下品を三寸五分位のものとあり
 ○茶一斤中品の一斤九銀二寸位上品を二三十目四五十月まであり竜井雨茶武夷

在上品より ○塩一斤九錢五寸位是も江南浙江の産成上品とす
 ○酒一斤九同三寸又三寸六分七寸又程 飲食の部 小妻 ○種油一斤百四五寸位燭にて燈
 油物何れも種油成用と種油成茶油と唱ふ茶種を油とす
 ○薪百斤九銀二寸位蘆柴本柴西成田白蘆柴若草かゝる成長三三寸位
 切竹ありと胸二所に輪を入持運ふ本柴も同じ九二尺位あり一把握三寸五分
 位 ○銅一斤九錢百四五寸位 ○鉄一斤銀二三寸程鉄釘一斤七八寸又程
 ○石大小による代銀等かゝる長六寸位方一尺位あり礎石も一尺一枚九寸と
 位礎の稍粗みと七八寸位もあり ○竹長さ四間程あり四九寸位一本礎
 二百文程 ○杉木大小長短本料美悪本名の差別ありて代銀等かゝる杉
 六七寸角長さ一丈五尺位の別ありと寸程より二十目位まであり又六七寸位
 よる八九寸のものあり松を杉より一割も下並なり本の上下によるて代銀等かゝる

○石灰百斤銀四文程 ○炭百斤同十文程 ○大根一斤銀二文程 ○水菜一斤
 同二文程 ○たね上品一斤同四五文程 下品百六七十文程也 ○鶏一斤同五二
 十文程 ○いせ七文程 ○ゆめ一斤同八十五文程又と百文程 ○麦粉一斤銀二文又
 三分程 ○錫一斤同三十分程 ○鉛一斤同一分五分程 ○大工手同賃銀百
 四十文程 手不揃ふは二百文程 土細工人と六文程 ○日雇人足手同賃
 一日同百字文 九官石匠等も百四十文程 ○在郷者月奉一人一人一月の
 給料同三百文程 ○金汁一年分請ふる作人より代目物とて種油つら
 ○家屋舗地租銀一畝中一年九銀三十分程 上納田地と科別あり等あり
 ○家賃と家の大少度狭みより等から九五間表りゆく店張へき家江種
 の地より一ヶ年九銀三貫目程又二三間口の屋敷一ヶ月家賃五六百文程の石
 とあり好場所をば二三十日位のもあり春家と月掛秀文等の類を商賣

の人々三素拂 ○不賤の者一人暮一方一人茶錢三四十文ありハ者ハカ
 好むも三人合食するは百文程あり安く暮らさ食事を魚野菜等也
 肉食を出来候 ○中ノ商人躰あり秋に九十人程あり六ヶ年暮りか
 三貫目程あり ○吉凶音物諸雜費貧富み應じ等あり

清俗紀聞卷之二



國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.





今
紀
周

五

國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

函號	
架號	
順位	

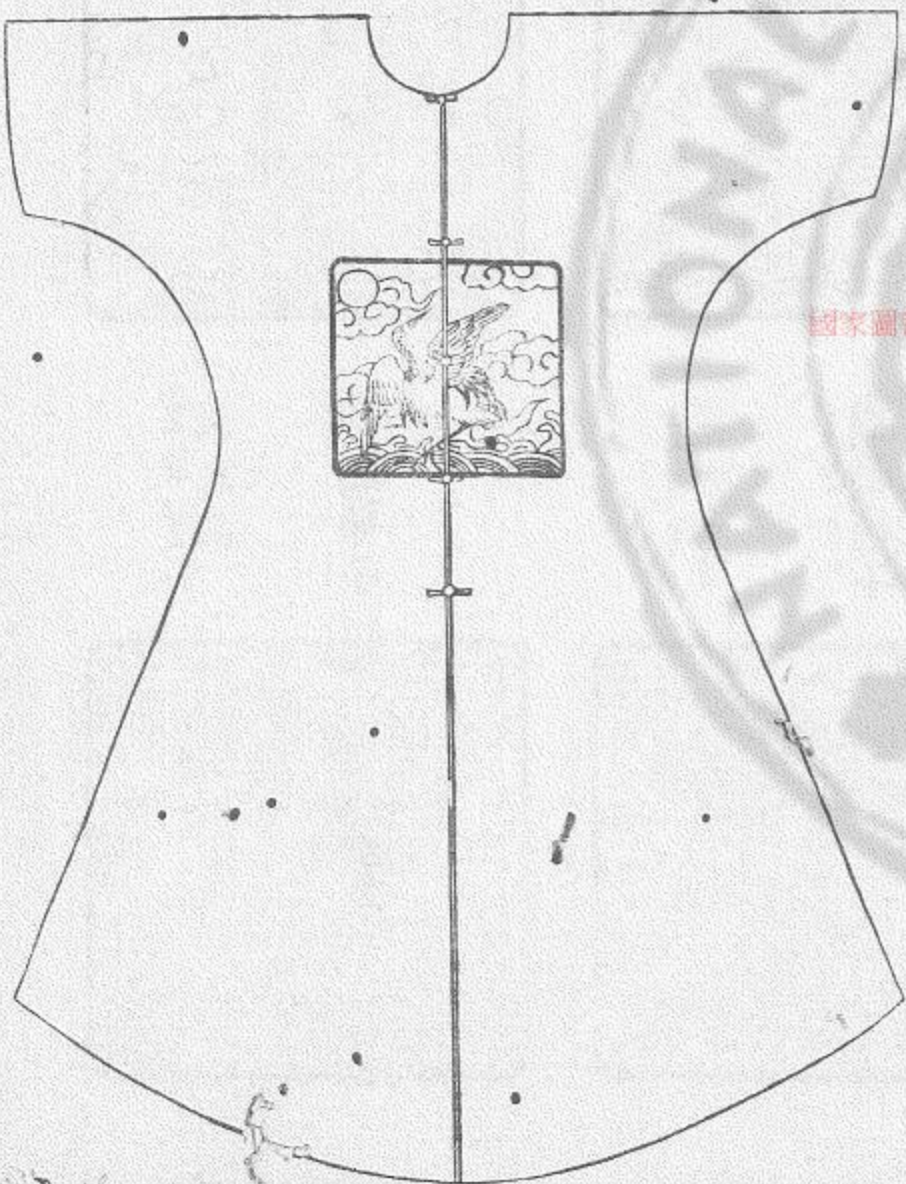
清俗紀聞卷之三

冠服

文武各官黼
服俱天青色

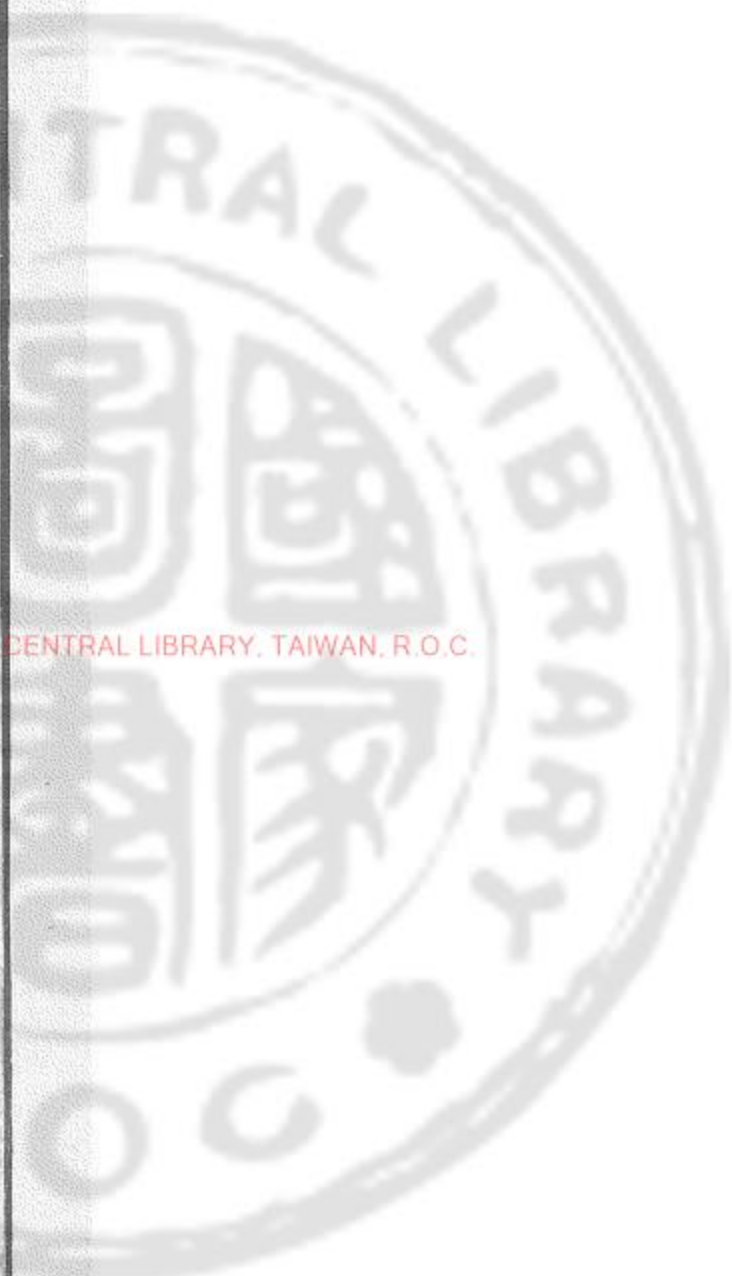
蟒衣

職之大小看前
後心補子分別



冠服

國家圖書館 NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.



鴻鴈補子
ひんがしほし

文七品
ぶんしちひん



白鷗補子
しろあしほし

文五品
ぶんごひん



鶴鷄補子
つるけいほし

文八品
ぶんはちひん



鷺鷥補子
ろいほし

文六品
ぶんろくひん



孔雀補子
くわんぐわいほし

文三品
ぶんさんひん



仙鶴補子
せんかくほし

文一品
ぶんいつひん



黼子
ふし

鴻鴈補子
ひんがしほし

文四品
ぶんしよひん



錦鷄補子
きんけいほし

文二品
ぶんにひん



國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

文九品

黃鸝補子



獨角獬豸補子

都察院及外省風憲各官補子



武一品

麒麟補子



武二品

獅子補子



武三品

豹補子



武五品

熊補子



武六品

鸞補子



冠服

三

國家圖書館 NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

藍雲緞披肩
文武各官司

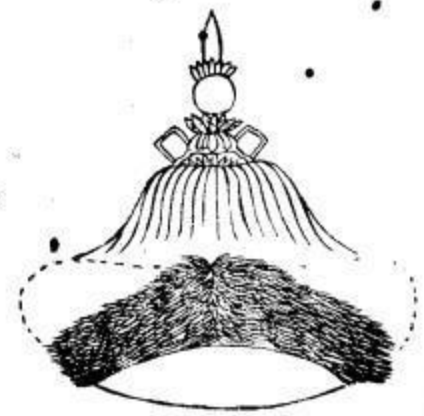


蟒袍



文武官員朝服
藍者俱多

文武冬朝帽



文武夏朝帽



冠服

四

帽頂

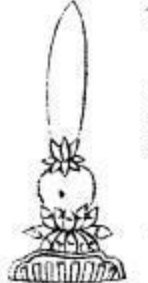
起花金盤頂上啣
紅寶石中嵌真珠



起花金盤頂上啣起
花珊瑚中嵌紅寶石



起花金盤頂上啣藍
寶石中嵌紅寶石



起花金盤頂上啣青
金石中嵌藍寶石



起花金盤頂上啣
水晶中嵌藍寶石



起花金盤頂上啣
車磔



武文
四品冬朝帽頂

武文
五品冬朝帽頂

武文
六品冬朝帽頂

起花金頂中嵌
小水晶



起花金頂



起花金頂



武文
七品夏朝帽頂

武文
八品夏朝帽頂

武文
九品夏朝帽頂

武文
一品夏朝帽頂



武文
二品夏朝帽頂



武文
三品夏朝帽頂



武文
四品夏朝帽頂



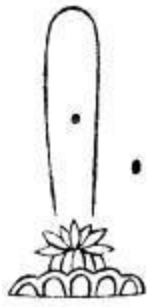
武文
五品夏朝帽頂



武文
六品夏朝帽頂



武文
七品夏朝帽頂



武文
八品夏朝帽頂

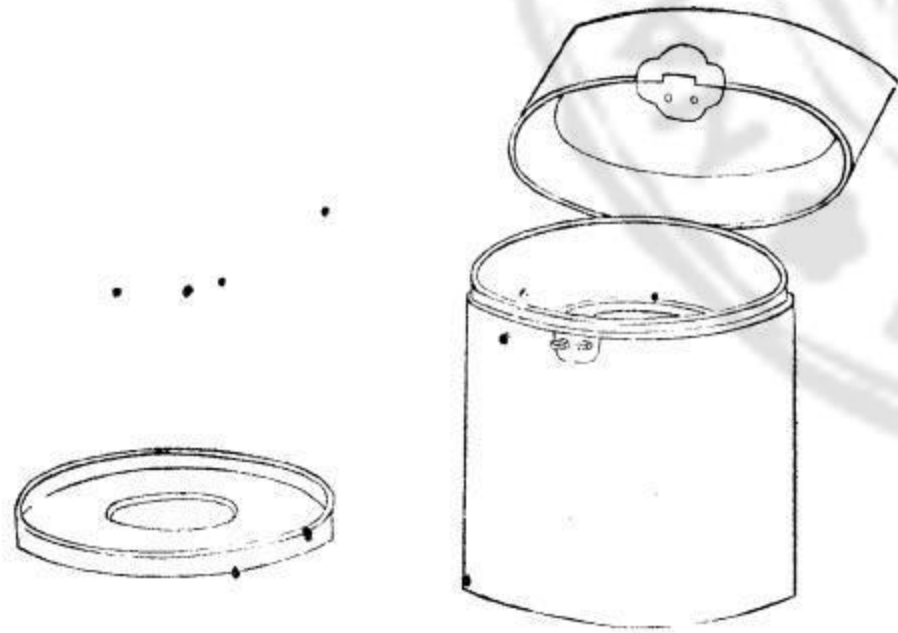


武文
九品夏朝帽頂



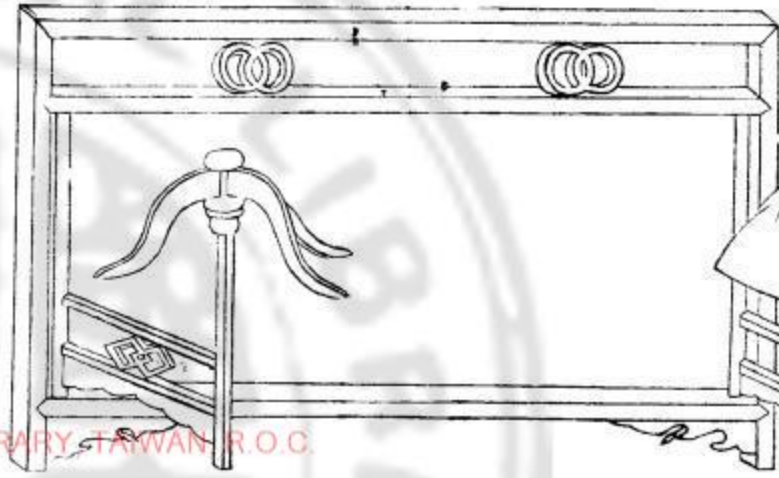


帽箱ぼうばこ



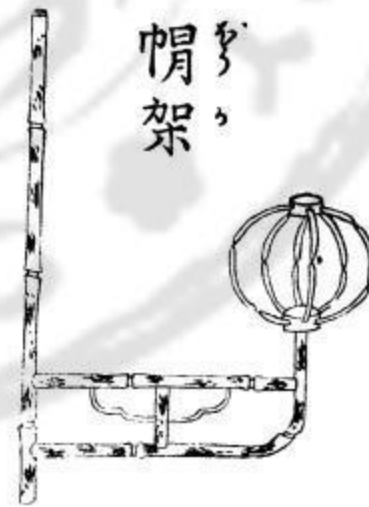
國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

帽架ぼうか

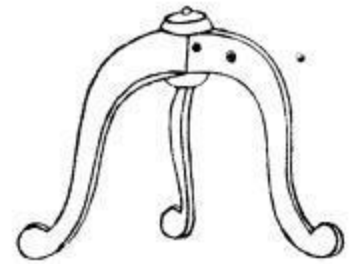


藤胎ふじご

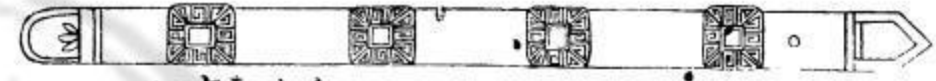
帽架ぼうか



帽架ぼうか



大帶



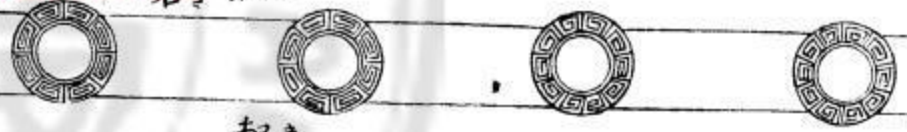
武文一品

金鑲方玉版
中嵌紅寶石



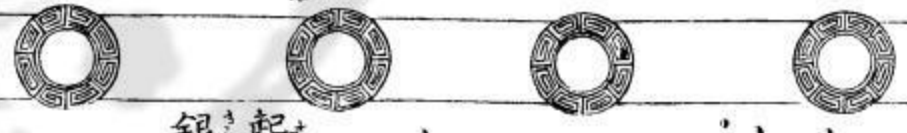
武文二品

起花金圓版
中嵌紅寶石



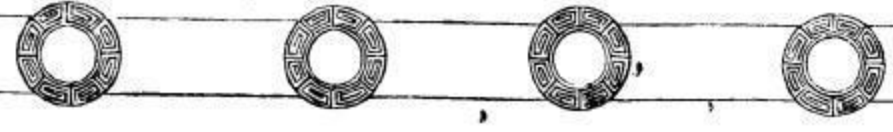
武文三品

起花金圓版



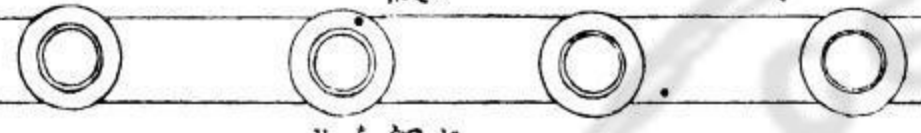
武文四品

起花金圓版
銀鑲邊



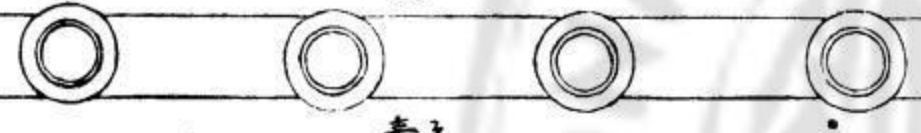
武文五品

素金圓版
銀鑲邊



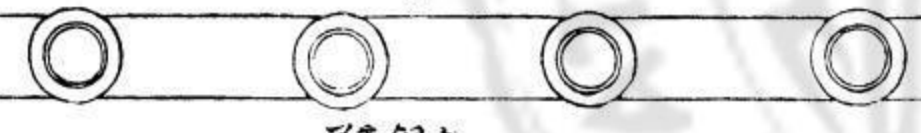
武文六品

銀鑲玳瑁版



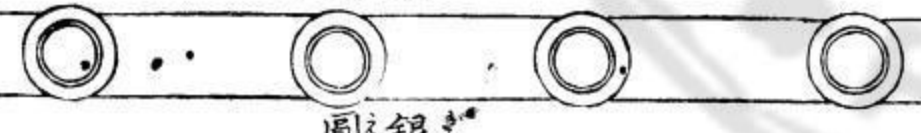
武文七品

素銀圓版



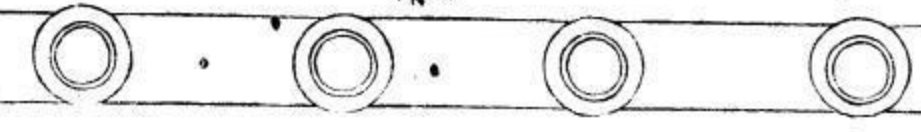
武文八品

銀鑲明
羊角版



武文九品

銀鑲烏角
圓版



冠服

七

國家圖書館 NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

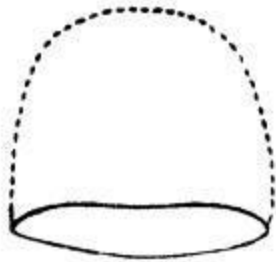
睡帽
一名小帽



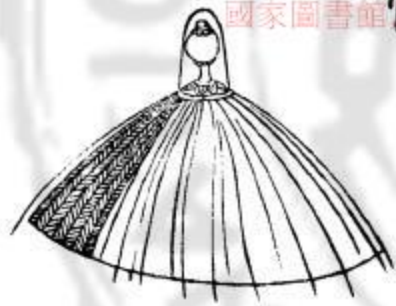
暖帽



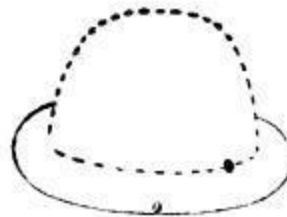
罈帽



凉帽



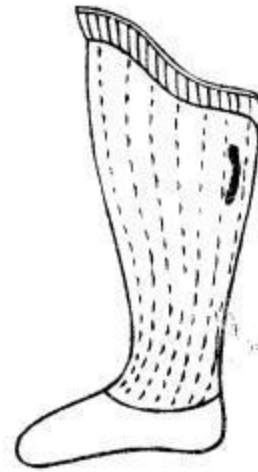
罈帽



笠兒
一名草帽



靴子



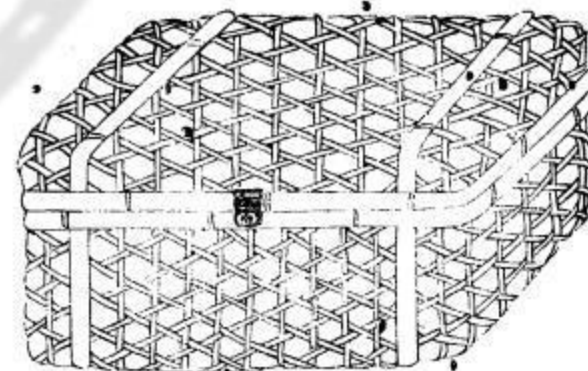
護膝

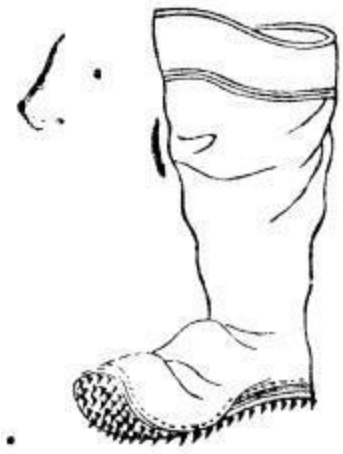


鞋子

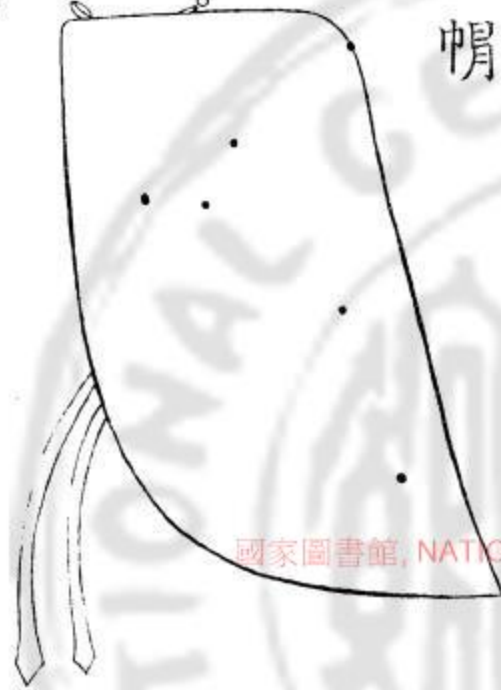


履篋





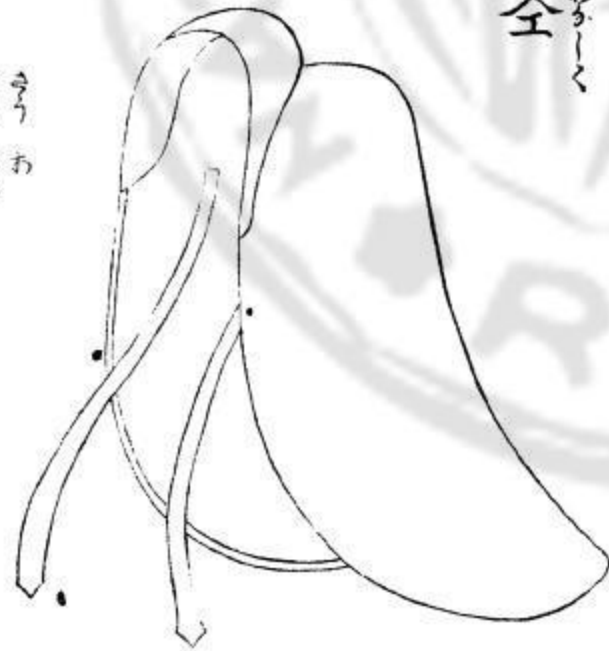
釘鞋



雪帽



草鞋



全帽

頂子



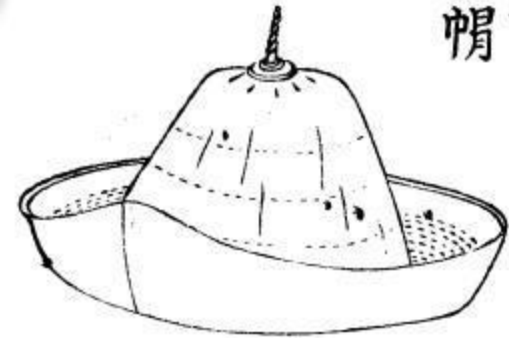
帽纓



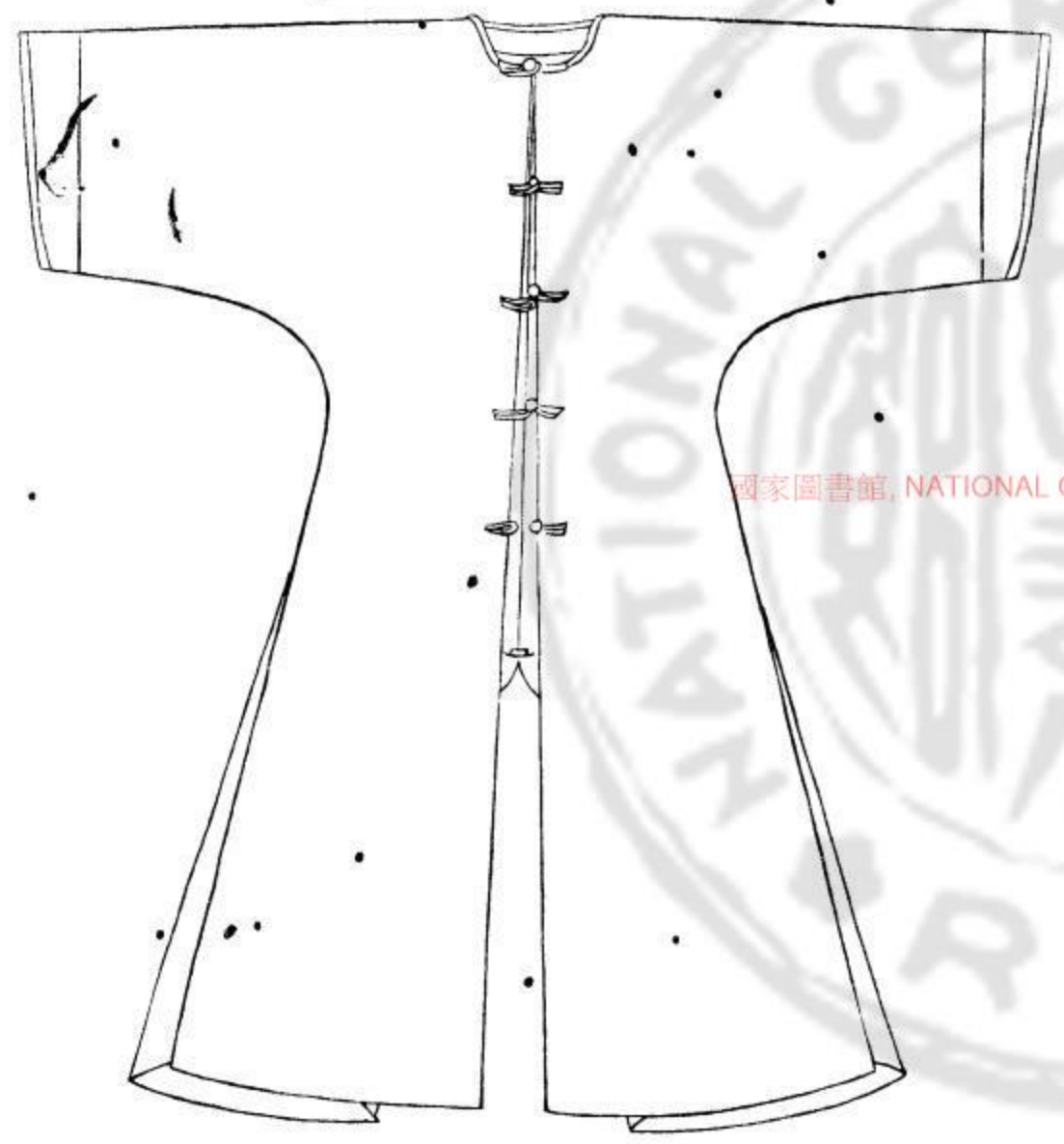
笠兒



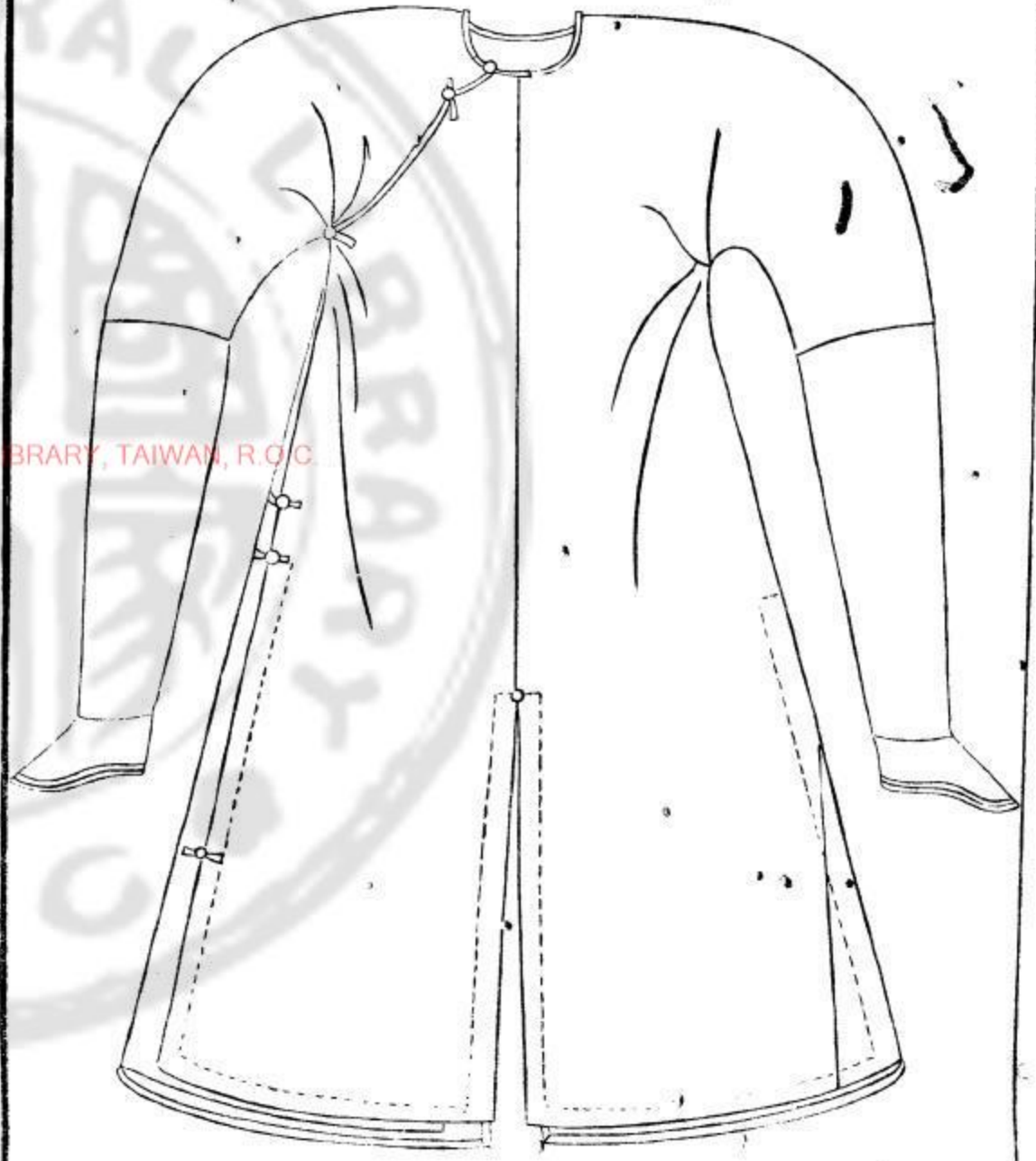
緯帽



套 外



子 袍

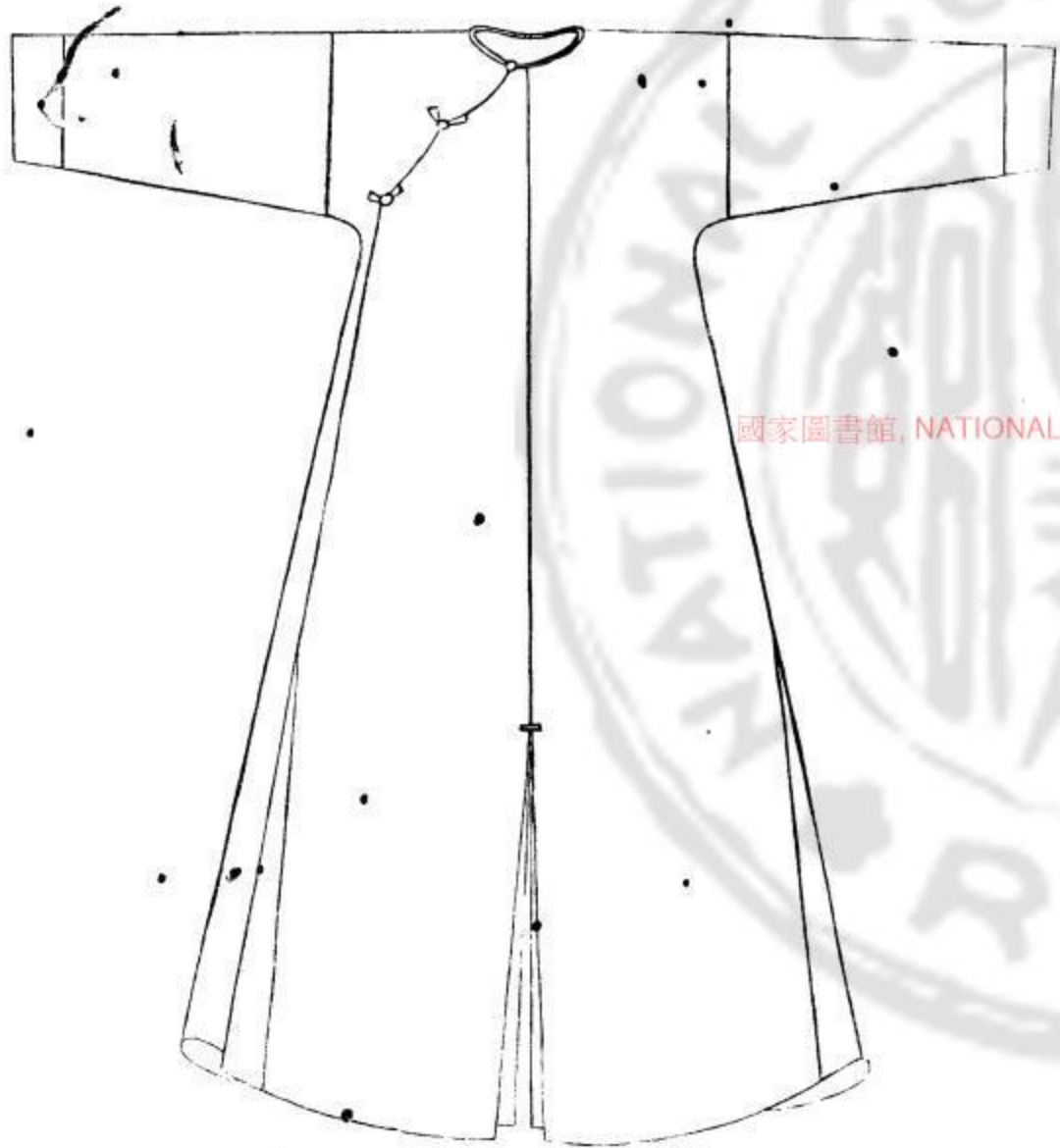


冠服

十

國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

大衫

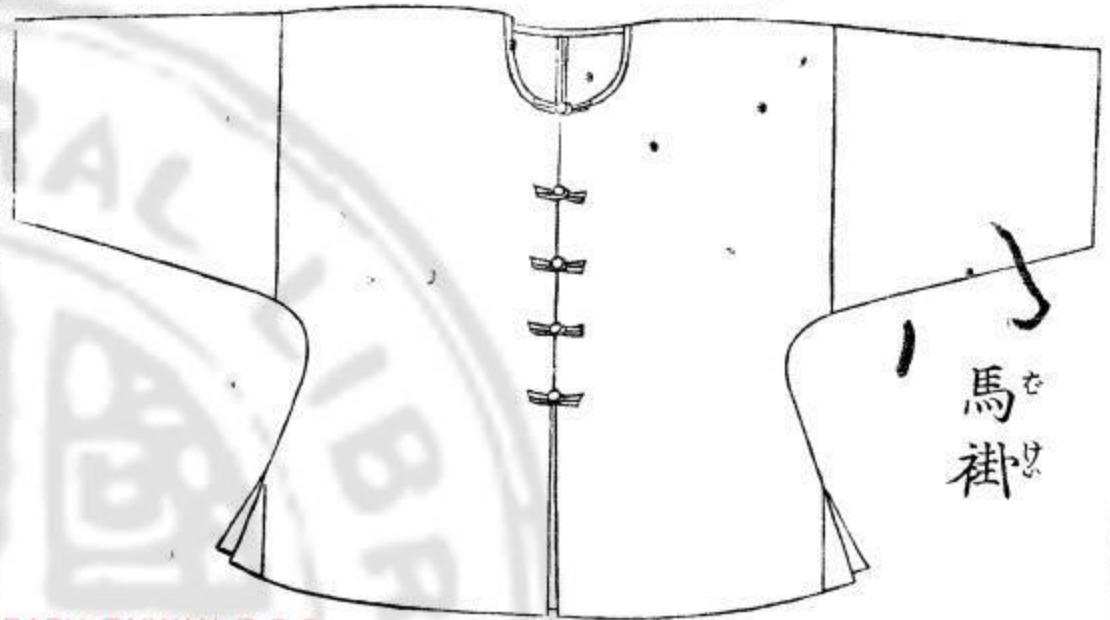


冠服

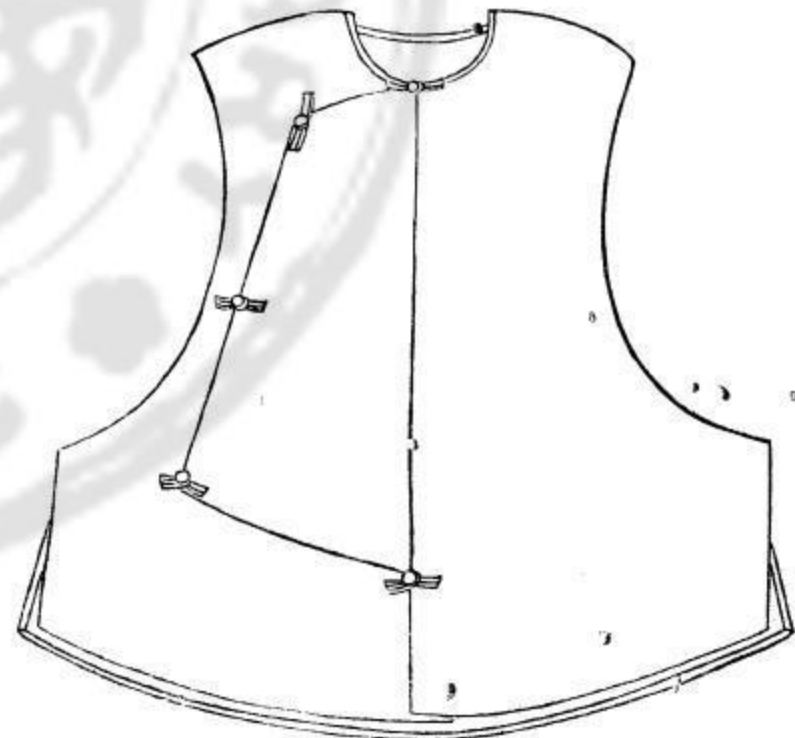
十一

國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

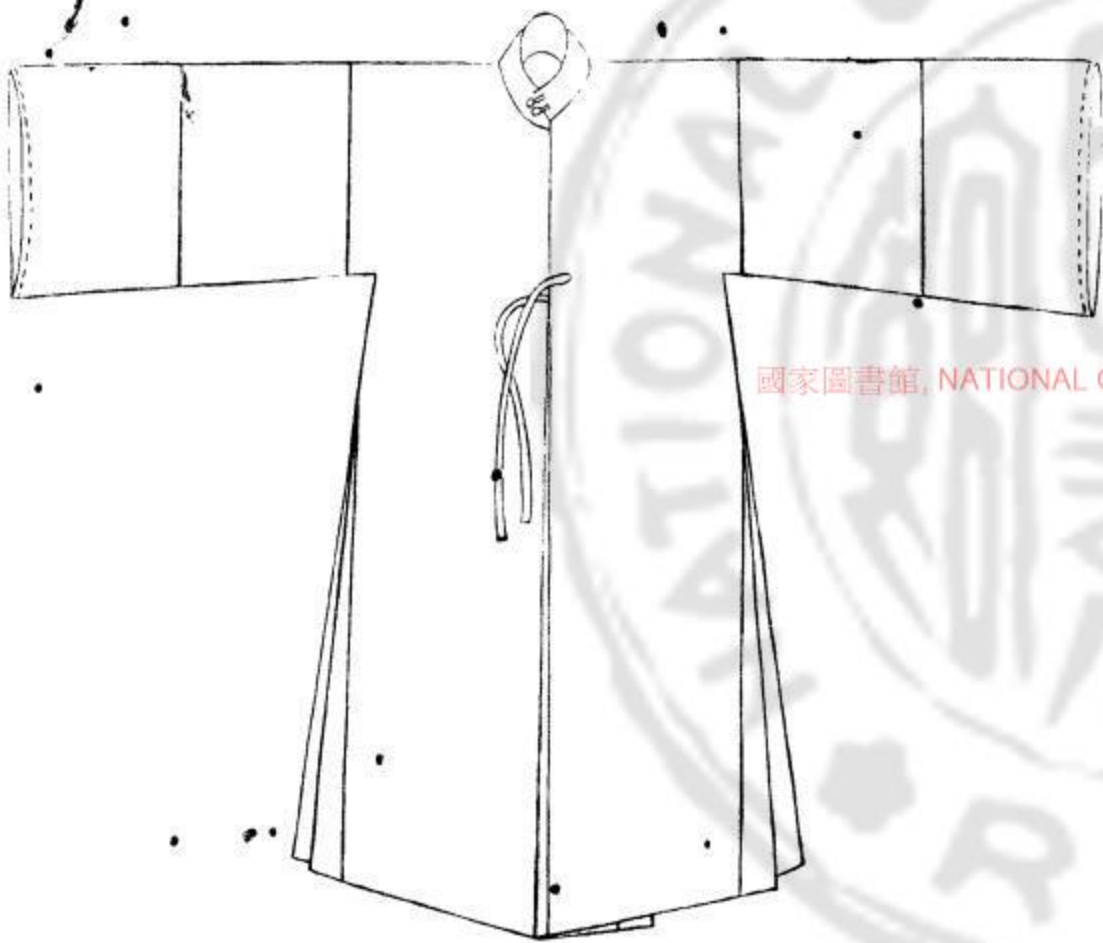
馬褂



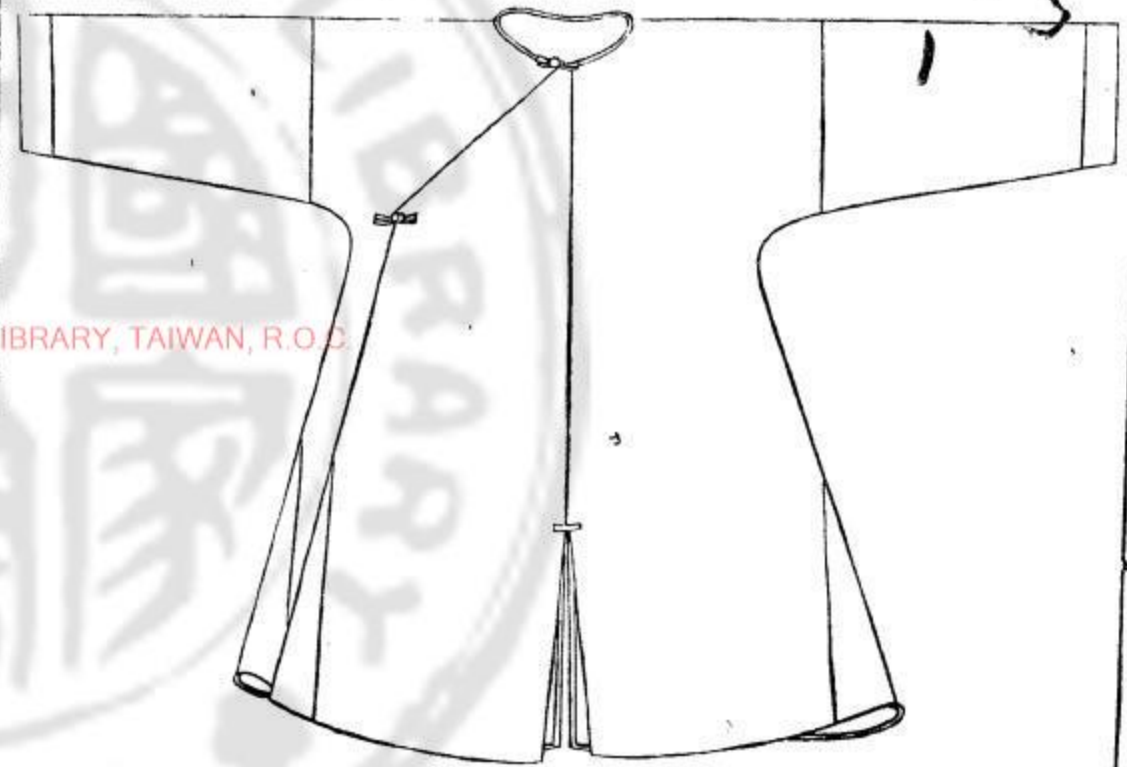
背心



披風



短衫

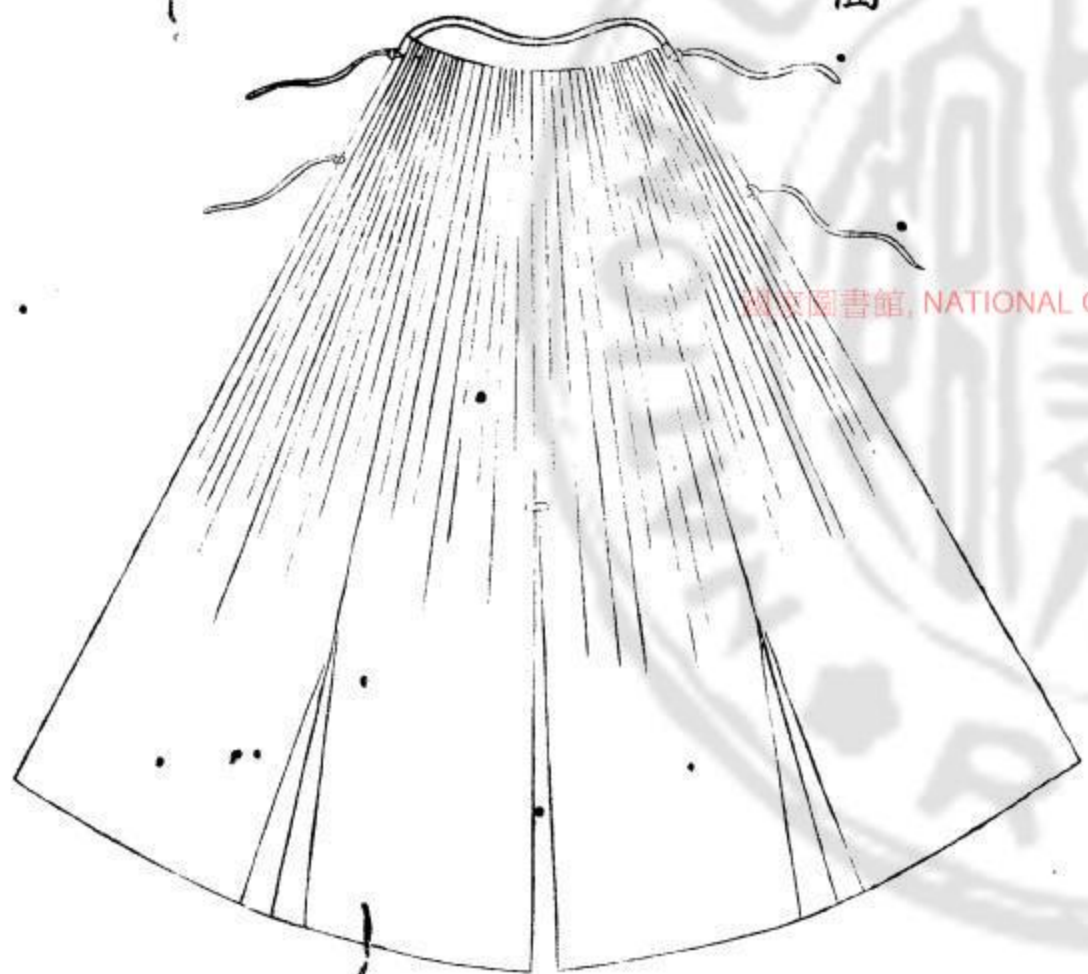


冠服

十二

國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

裙子
前面



裙子

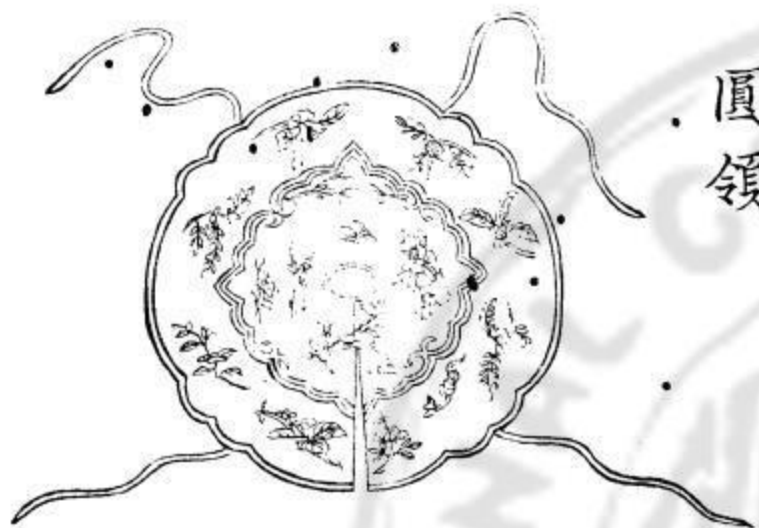


冠服

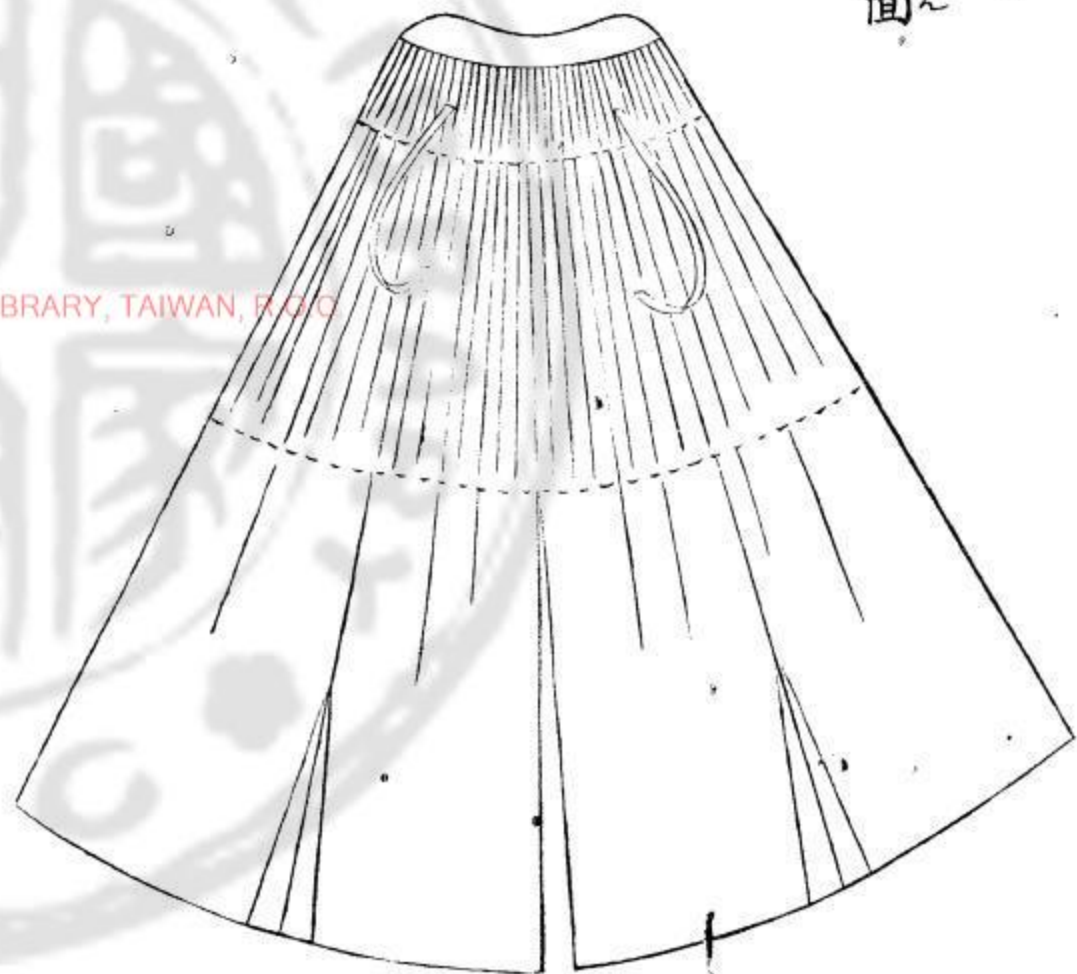
十三

國立中央圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

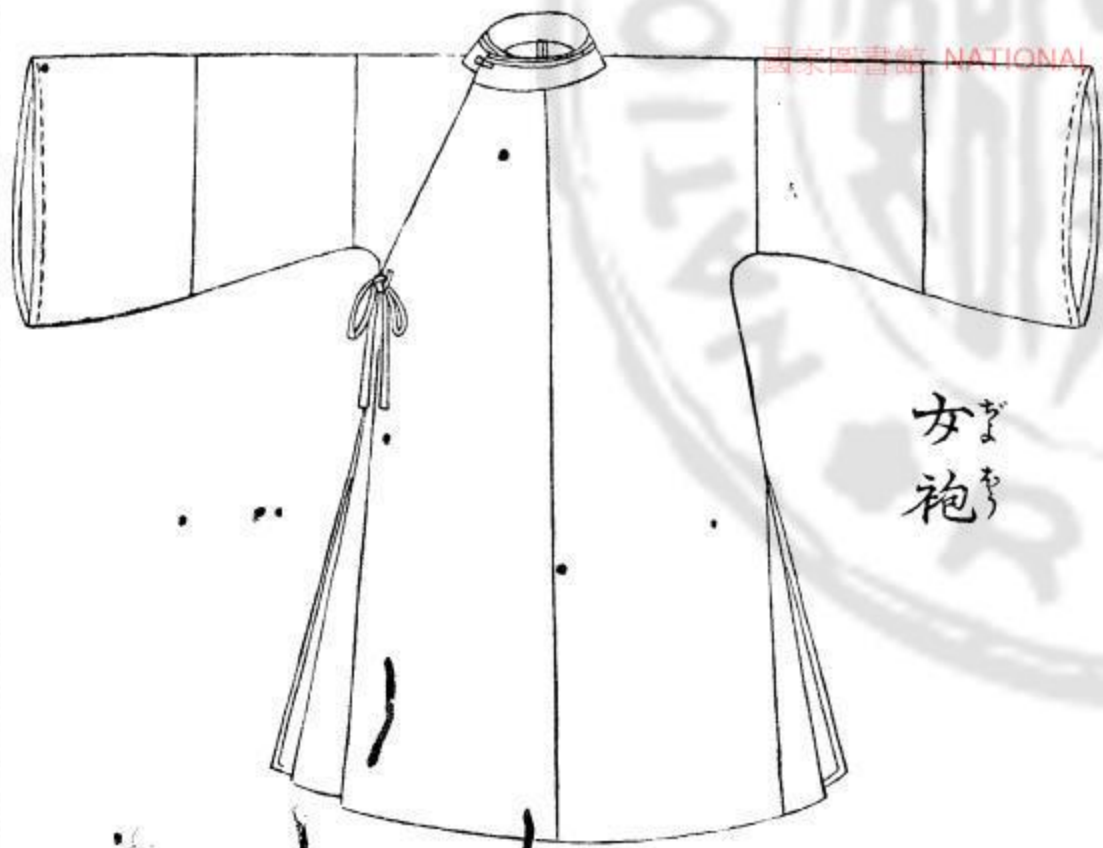
圓領



裙子後面



方袍



冠服

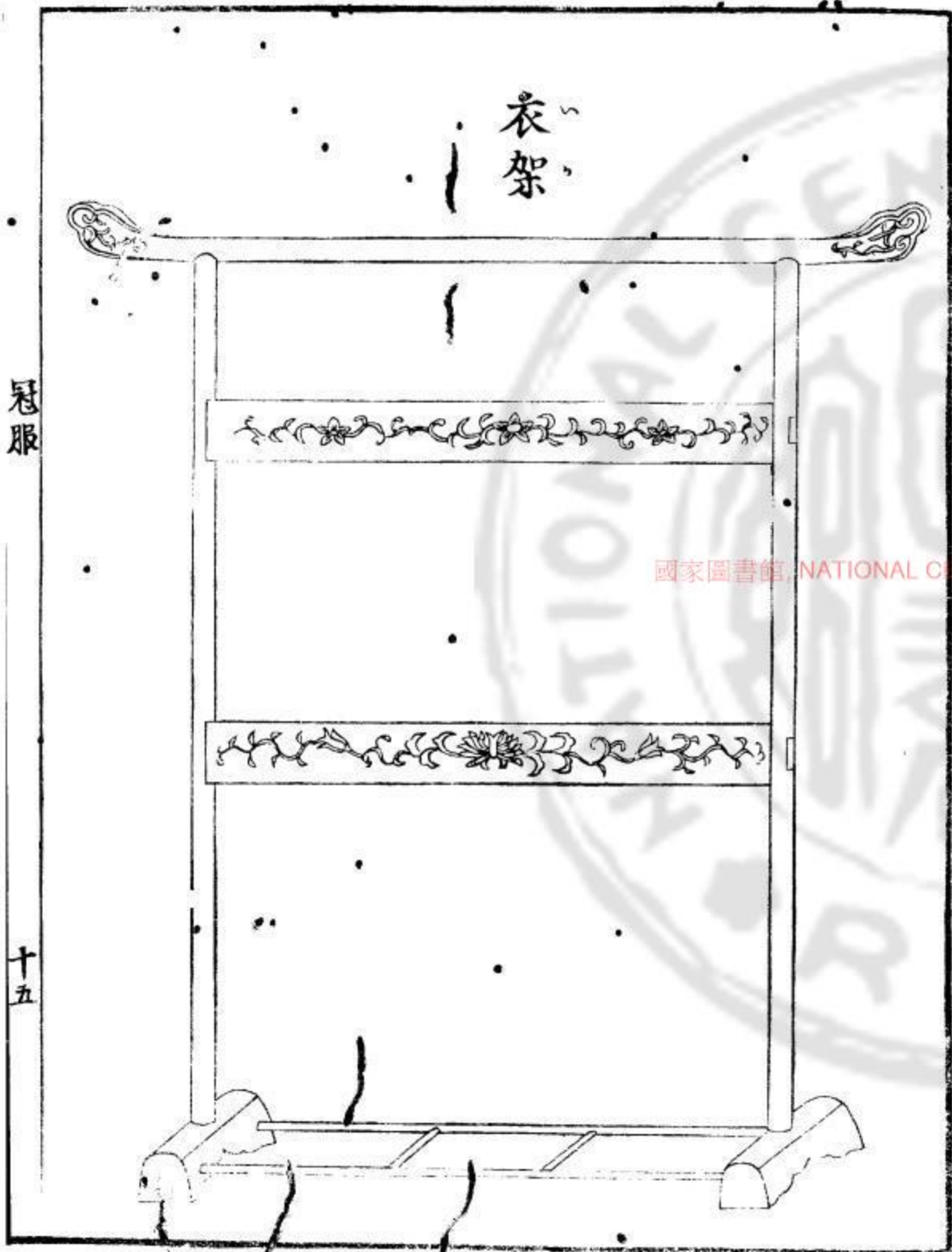
十四

NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

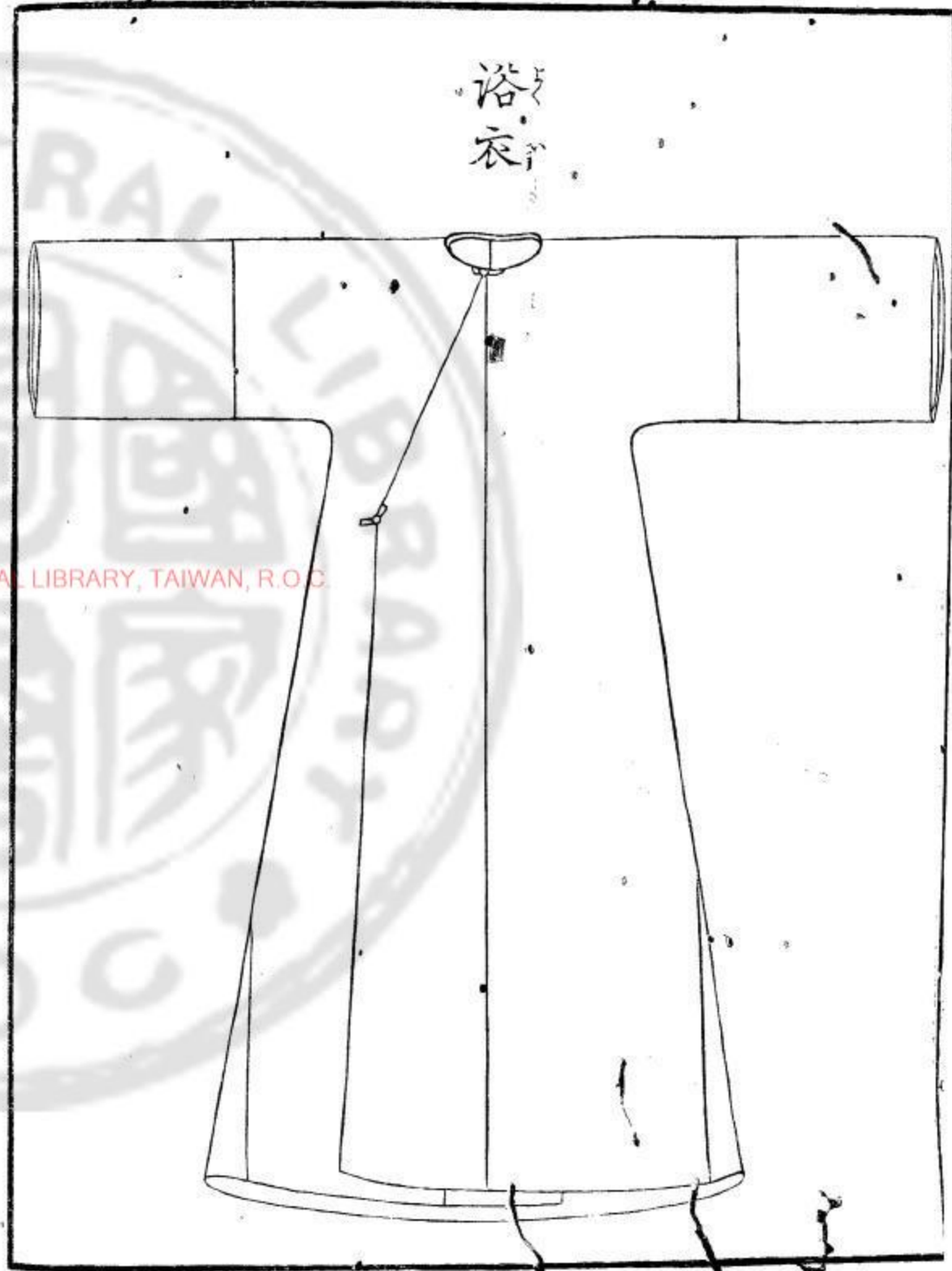
衣架

冠服

十五



浴衣

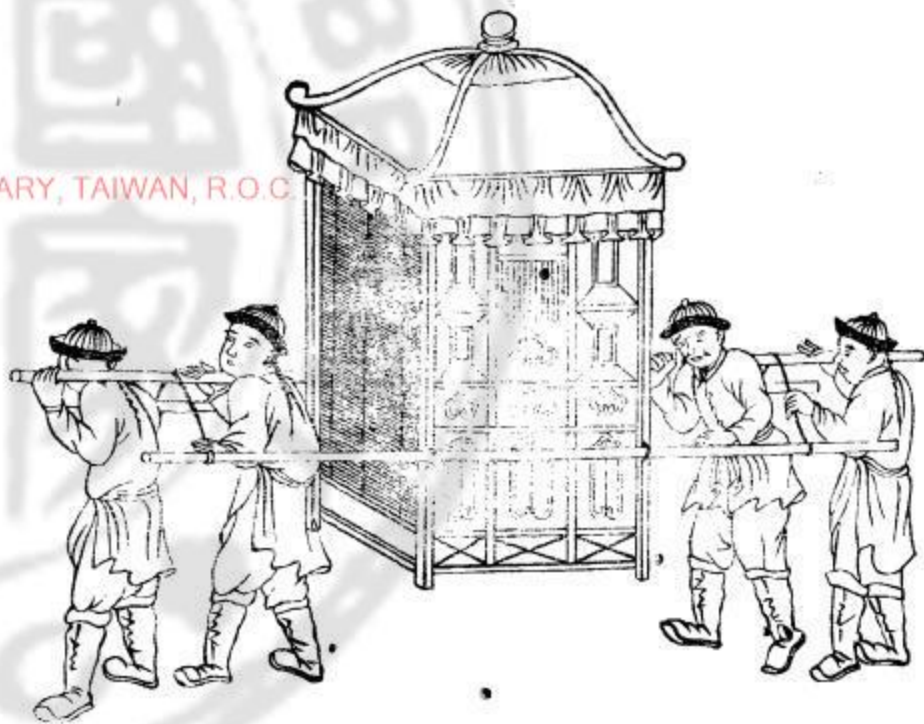


大轎

高連頂六尺

濶三尺

進三尺五寸

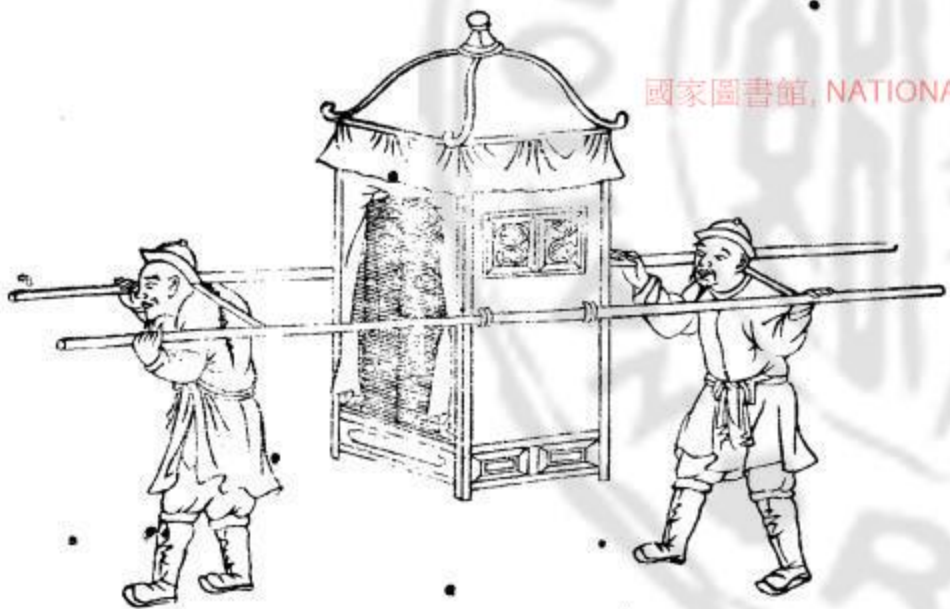


小轎

高五尺五寸

濶二尺五寸

進三尺



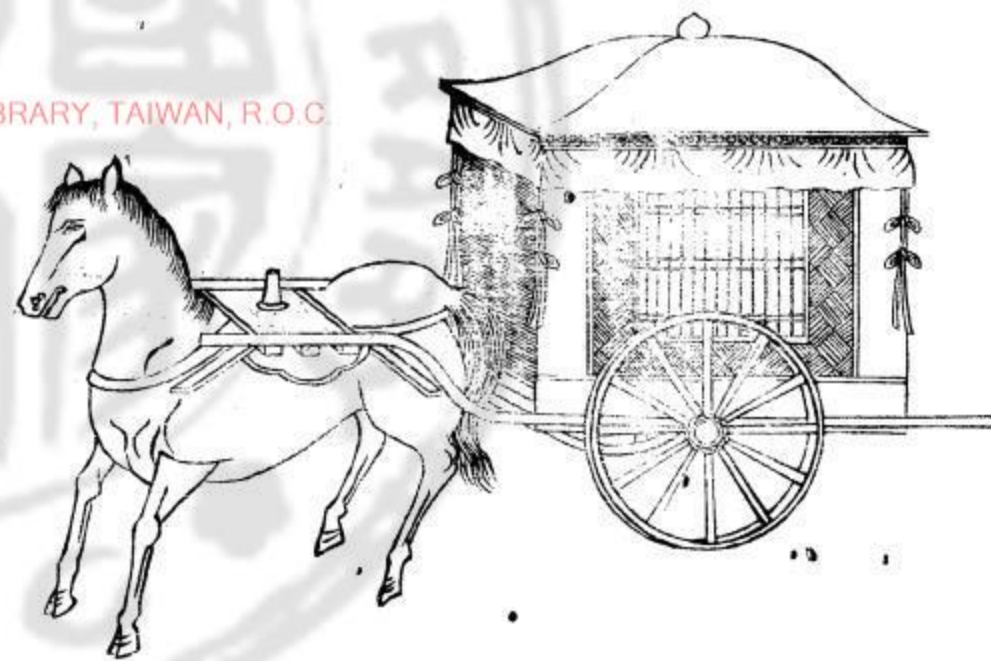
車

高五尺

濶三尺五寸

連甲尺

清俗紀聞卷之三



國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C

清俗紀聞卷之四

飲食製

○飯 桶水を入茶洗淘淨去水一回不銹鍋（此九茶上）茶籠（一）の寫
 ぶけ（み）を焙柴火（み）く炊く（う）み乾（す）ふ対柴を退け暫く悶蒸（し）し固（め）

○茶 三月穀雨節（み）茶葉を摘取銚鍋（み）く炒（ひ）越（え）し移（す）し手（を）を（ひ）く揉（み）絞（み）す
 其後穀遍鍋（み）く炒上茶（ら）と大約廿遍（や）も炒（ひ）終（り）

○茶名大畧 珠蘭茶 茶後去版（一）行
 武夷茶 茶後去版（一）行
 松羅茶 茶後去版（一）行
 武夷茶 茶後去版（一）行

○茶名大畧 龍井茶 茶後去版（一）行
 壽眉茶 茶後去版（一）行
 旗戲茶 茶後去版（一）行
 紅梅茶 茶後去版（一）行
 蓮心茶 茶後去版（一）行
 雀舌 茶後去版（一）行

○雨前 穀雨茶（に）は（み）を（ふ）一（も）青茶（と）と（し）去版
 總じて茶（ら）と（ら）大（ち）茶（を）入（て）賣（る）其（の）後（は）諸（行）又（ハ）進物（等）也（ハ）六月二十日（五）十日



の習人をとり白砂糖を入猪油を如くく煉合せ用也小豆一升のせん
砂糖三年の配法あり

蕨衣餅 一名太史餅 麦粉を菜の油と水等分おして搗あてを白砂糖を少

く入捧めくつ又丸くかきえて餅のまじりてほく少く押しあみして

油めく黄色おれをよとあげ白砂糖をぬりこき用也

○藕粉糕 一名蕨粉糕 蕨の 藕粉を水めくほき砂糖を入かみけく煉外も藕

粉を細末おしてお粉足たふ入能搗拌小豆餡を入用也小豆餡製方常同

○肉饅頭 此方饅頭の製法のまじりて肉も猪肉葱をよみ切白砂

糖をよみ切餡は多用也

水晶糕 糯米七分粳米三分おみして冷水めく搗拌白砂糖猪油少

く入蒸して先か付長角お切用也

糖糕 糯米粳米等分おみして水めく搗蒸籠めも蒸白砂糖を入

又よく搗き粉房くつ又一寸四五分おききり油あきりて用也九蒸粉

一升お白砂糖半升の配法は宜しうも加減等らば

○扁豆糕 扁豆を煮皮を去水代入搗けぬ祖布の袋お入ほきせん

をよみよくお粉をほき去麦粉少く砂糖成る入拌あてを蒸して

成待く一寸四五分角お切二つはあて其間お砂糖を入用也

おの外點心種くありてよくも詳ねく寸大約右の製法おねれ

菜類上等十六碗

熊掌 熊掌左右二つよく毛を二層より湯めく煮其汁を去酒燒る油か

ら多能者熟かく小蝦を炙り入り酒二分猪油三分の配法ありて

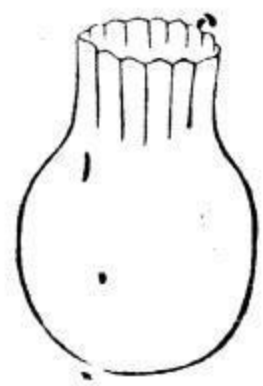
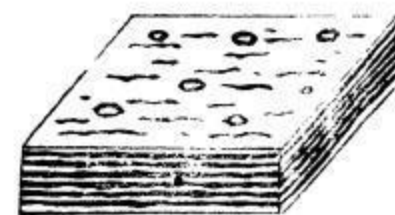
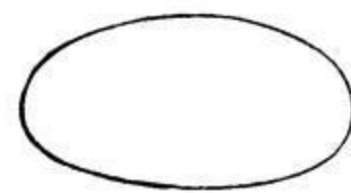
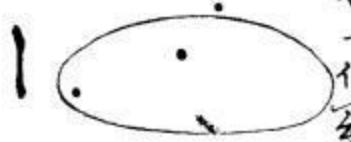
人の酒飲み應して加減おらば

藕粉糕
藕一作紅

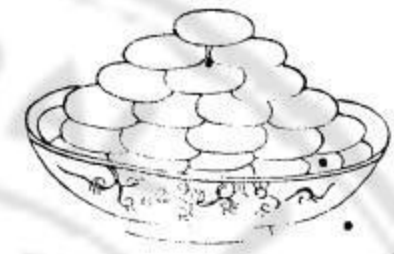
簾衣餅
糖糕

雪粉糕

餃子



點心盛器



像生花



○鹿尾 鹿の尾付の所肉を湯中へ半煮し近煮て湯を去酒樽油あく煮

あぐり小蝦を多く上み並菲茂きんみぬまのふらうと酒樽油配法茶目

○燕窩湯 一名大菜 冬んを一夜水み浸し又湯めて能洗ひ毛塵等茂

練りして細くはれ湯み浸し重鶏の煮汁み塩酒を加至極濃塩梅みし

鶏肉火腿 猪 魚肉系切みして煮熱し碗へ盛其下之右冬んを茂盛り

葱を炒りきりみ入ふ煮汁七分酒三分此配法塩ハ冬ん

○魚翅湯 鱧鮓を水み浸し冬ん寸同候みして鶏をさすり角切みし

鍋小油を入らんと炒將油酒水を入塩梅して細火めく煮あぐり鮓あ

茸葱心を入きりく煮あぐり成る時ハ鮓を上み煮み水酒等みりてハ

將油半分を以て之を淡塩梅にして用ゆ

○海參湯 いかまの皮は四五つみりみりして湯はく煮熱し火腿の煮汁

酒樽油を二匁塩梅一魚圓魚の丸推草葱葱の葉を入者酒樽油の配法魚翅湯魚翅の湯みね

○羊羔 羊の肉を一塊二斤程宛みして水みく能者熟一汁を去肉残し、あひ大根生姜葱心を令入樽油酒みく能者逆骨を去り冷する時湯を切用也酒七分樽油三分の配法を煮るに時酒をうり入者煮るもく一樽油を肉煮るに上みかお好し

○猪蹄 一尺東坡猪の皮付肉を五寸角なく切湯みく能者煮酒樽油と白砂糖南香をまじり皮付の肉色あく好するまで煮返木耳山藥葱を入酒樽油配法羊羔の制表みね

○野鷄 雉子の皮をまき腹付の肉斗落く切鍋み油を包れ炒和け酒樽油酒葛粉をゆ一炊汁氣をまじり用也酒八分樽油二分配法

○鯽魚 魚の魚を酒娘みく蒸塩加ふ

○鹿筋湯 鹿の筋を水浸し三寸程み切火腿七煮汁みくよく煮熟し酒樽油みく塩梅はけて肉圓推草乾草葱を入者煮るに酒樽油配法魚翅湯みね

○炒鶏 鶏を半にしはくみ切鍋みあがれ炒又水をい入半煮るもく酒樽油猪油少くを入栗山素蒜をまじり煮熟し汁をたき酒樽油東坡肉の配法みね

○全鴨 あひ分の取付残りして皮け損せぬやうみよく毛を去後をあひみ稀菜蓮肉を後み詰藁みく巻湯みて七分程煮和る者其汁をさるる火腿の煮汁酒樽油を加塩梅し又能者煮熟し世草を去全種の出しぬきみして木耳金針菜葱心を入者煮汁酒等からく酒樽油を用ふ

○鷲 鷲の肉以骨とも切湯みく能煮和ら香酒猪油みく煮熟す也

○解去美 蟹を煮るく殻を去肉以筋の煮汁み酒猪油を入葛粉を加葱生

姜を細くきり入煮熟し煮汁酒等分ちて八分猪油二分の配法葛粉

○煙乾 鱈を水み浸し石をとり能洗ひ猪肉を厚く切鍋み入煮し其油み

二ふ炒猪肉にも炒熟し酒猪油を加塩梅して葛粉細くきり入煮る酒

八分猪油二分の配法

○魚肚 魚の干物水み浸し湯中煮和らけ鮮肉火腿の煮汁み酒

猪油を加煮熟し椎茸乾筍木耳等入酒猪油配法蟹美実同

○都て煮物ハ酒猪油少みして何品の品も洗塩梅ありらも小皿猪油

を盛置入し洗鹹のころみよと鹹をまのむ煮る猪油を付く吃せよめま

らから用ひし配法み一定け分量み多く洗成よりきと

中等十碗或八碗

八碗の時ハ羊肉魚翅湯を成す

○燕窩湯 煮んす煮方示みねかし榆肉乾筍鰯の皮を入みり

○全鴨 煮かこ支み同し脂結よめねし蓮肉木耳葱を上置すみり

或は猪油み水砂糖を加煮るみり

○魚翅湯 煮るみり同し魚圓鮮肉火腿等みり

○猪蹄 煮るみり前ねねし蝦米海粉葱みり

○鹿筋湯 煮るみり支み同し肉圓葱をみり

○海參湯 煮るみり前よおふし蝦魚圓葱末白菰を加

○羊肉 羊羔のおろし煮込山藥をみり

○鯉魚 ぶねをみ煮みりし椎茸肉圓其非をみり猪油を添み又油わけ小

煮く酒猪油みり煮るみり

飲食

○鮑魚 干鮑或水浸し薄く切鰹油を引炒すも揚げ鮮肉を薄く切
 如酒樽油水と煮る大蒜をくふ

○炒鶏 鶏茶れとく炒魚の身を油あがめて栗葱を加へ煮たり

○醒酒湯 鶏を煮煮みしと肉残去右の煮汁み塩成かへ入葱成すんか
 きらきらと入る

回千 昂撒美盤(一) 餅よ成す卓子の上は餅

- | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-------|-----|-----|-----|
| 荔枝 | 龍眼 | 松子 | 榛子 | 蓮子 | 橘餅 | 胡桃 |
| 菓子 | 雪梨 | 杏仁 | 雲片糕 | 落花生 | 瓜子 | 梔子 |
| 柿餅 | 明姜 | 太史餅 | 芝麻扁 | 連環 | 冰糖 | 火腿 |
| 鴨 | 眉公餅 | 冬瓜糖 | 枇杷根 | 夾砂糕 | 桂花糕 | 佛手柑 |
| 玫瑰糖 | 風雨梅 | 山查糕 | 造花五六種 | | | |

右の外時新の菓物桃李花紅香圓橙子等此品対み随ひ用也

精客各品排出の次第

茶 桂圆湯 蓋茶碗に成るに湯煎す

○卓子 熊掌 鹿尾 同上 煖窩湯 大饅頭 魚翅湯 同上

海參湯 同上 猪蹄 同上 野鷄 同上 鮑魚 大饅頭 鹿筋湯 同上

四點心 通 雪粉糕 小饅頭 餃子 同上 紅粉糕 同上 蓑衣餅 同上

醒酒湯 菜碗み盛り一人 炒鶏 餅み盛 全鴨 同上 鷄 同上 鮮虫玉美 大饅頭盛

煙乾 同上 魚肚 同上

四點心 藕粉糕 小饅頭 肉饅頭 同上 糖糕 同上 扁豆糕 同上

○茶 ○飯 右屋まで卓子を引回千を出せ也八碗茶

十碗茶の時も茶数四五碗の後點心を出し醒酒湯を出し又茶成出

飲食

朝暮平合の茶敷の餅肉鶏魚鮓付くる合の餅子茶敷とて分考する之回
 碗徑は大碗小碗と懸心多し好くは朝の粥み干茶將曹瓜干蘿蔔等成食
 一魚肉茶敷の合食晩合むりに用也○九村の餅子の合飯も志好く
 茶敷の合食はふ半むを麦粉とて六麦粉を飯餅とてくま水れり此は
 けふうちへ觸るとは油せむけく同量して合分分量不同り麦を丸め
 茶敷餅半り其外大豆小豆黒豆粟黍等油餅とせ炊く吃すを
 市中のまれば油餅と下餅ありふ合分茶敷り力作人とのまは餅は
 茶飯を食は

月餅製法

第一餡 熟麵一斤五合 菜油半斤 白砂糖二斤
熟麵の粉を籠み布を
 去る茶敷りたるを云
 右三員拌あらせ橙丁紅子瓜子核桃茴香五味見合を二斤餅皮型み入餅皮丸

打出の型み入て打出茶敷りの量目十文徑足を茶敷り造りて並

第二酥 生麵一斤二合五夕 菜油半斤 右二員よく搗り分並

第三皮 生麵一斤八合七夕五夕 菜油三合 白砂糖半斤 温湯
茶敷の粉と油の加減を合合せうん人の合
 加らんかあはれ湯めくす知れまふ也
 右第二の酥を茶敷りの合分中りに捧み

そのの人数八十に餅皮を方徑みして第三の皮を茶敷り加減したる皮丸く
 長手に捧のごとくころろと足数を八十にちたり平めみ壓く其うへは第二の酥を
 三宛うさ餅皮を以て一揃ふ是をのまは右の粉ころろと捧みすはははは
 茶敷り棒を被とれ右の粉は茶敷り解れ奉るころろとあはれ茶敷りを茶敷り
 よるよのまはは茶敷りの酥と第三の皮と幾重もとて茶敷り茶敷りを丸くのまを
 其内ふ第一の餡をばみよく揉合を履張の形れごとくしころろと上り生團子れ
 茶敷りめく印を押又板皮以て平めり餅皮を以て壓下みらるころろと角み切り

唐紙を葉菓子鍋み入上下に火を垂焼せしむ

雪片糕製法

糯米二百目

大臼みあらげ水まかり二三日も経てよくあらひ水をえ

熟麴百二十目 白砂

糖百六十目

油ちりめん小まてい終水み各

右三只分合せよくこねし錫此型にい

上より圖のまじく搦へる物みく能たるも上も厚紙を覆ひ鍋の内より

煮く其粉も湯気の通るた成度よく取ふる也を型を隔み入る水型火の

内れ粉の高さみ調り内れ湯もかたむら半分一也粉の言さう湯をくれば其

其湯より上も知さる粉蒸熟せれば又粉より湯の方多れば型の内も湯入る

粉爛々也火のかたむら炭火みくともく焼たさうぬやうに火を強く焚は

湯玉あつても型の内も湯入粉爛々也鍋蓋の蒸氣よく搦へるも其粉

田家み用ふ鍋蓋のごとく右の粉蒸熟したる餅型の内もくもよく三度小切

傾け出し麦粉の内も押し盡冷ふを待て取出し薄く片も切用ゆ

連環製法

生糯米粉一升

麦粉八匁

白砂糖二十目

膠銘七

水五合

是れも右の粉砂糖を餅みある後み加減を右より勢あつて任二寸に五寸程

の餅と粉湯煮別生糯米粉五升麦粉十目白砂糖百目膠銘七

えんも一盃入一諸も搦せ右白でうる湯蒸焼小二をい程みくよ記かかんり

まの林すむ糯米粉をうら粉みして和らくのへ漉のまじく切丸を延して團

のまじくうら油もく搦冷ふ浅すら砂糖浅めりかき用ゆ

火腿製法

寒中み猪の股を足材好く

一腿は切らうよくあらひ毛を二重うり乾口く

すらし乾し丸肉一升に塩二十目程のほりて成ぬよくすま入日に乾

做・餡・器

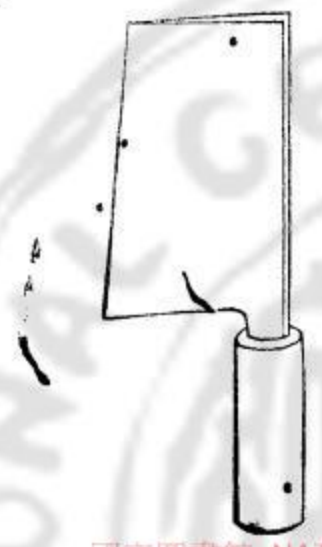


鍋蓋

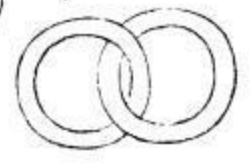
錫匣

空風のあつた行舟十日経はる一壺又塩湯を冷しその内水浸し
 于は事の上はみして終つたらかきかき一壺のあつたはみして
 肉類をこき煮初るふみぬる鍋の内肉豆冠を二三粒入煮れば玉に
 和らぬる也志く肉は味よやくは塩分細火煮く縁くと煮初るはみ
 煮

七切片刀



連環



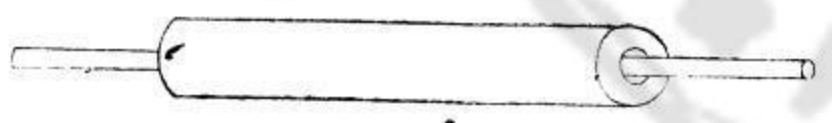
打皮棒



木壓子



杆棒



國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIPEI, R.O.C.

清俗紀聞卷之四

國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.



清俗紀聞卷之五

問學

○問學リイヤとり一郷の中そんにま館まを設けま仰ま黨まにま子ま牙ま成ま教ま授ますま所ま亦ま志ま先ま生まをま元ま下まとま安ま位まとま官ま此ま人まあるま家ま家ま又まハま居ま宅まをま換まきま時ま々ま宅ま借ま成ましてま書ま生まをま集ま免ま教ま導ませま此ま所まをま學ま館まとましま制ま造まもま式まをま定まむま事ま也ま庭ま廡ま門ま墻ま等まのま制まもま又ま春ま秋ま祭ま祀まのま禮まもま學ま官ま亦ま執ま行まふま事まありま猶ま且まてま文ま車まにま志まあまふま者まハま毎ま年ま十ま月ま四ま日ま孔ま夫ま子ま聖ま誕まめまをま奠ま米ま白ま礼ま辨ま也ま祭まらま事まみまへまらまくま所まをま神ま廟まのま祠ま堂ま或まちま寺ま院まにま菴ま室まをま借まりまてま聖ま道まをま講ますま亦ま事ま何まのま世ま亦ま何まれま祠ま堂ま菴ま室まをま借まりまてま也ま明ま朝まのま時まもま借まりま用まひましま事ま亦ましま博ま學ま者ま亦ま先ま生ま代ま請まふま其ま地まのま初ま學ま幼ま童まをま教ま育ますま亦ま事ま今まれま盛まなりま凡ま男子ま五ま六ま歳ま也ま亦ま其ま天ま質まをま見まてま聰ま明まありま子まハま五ま歳ま六ま歳ま

問學

又ハ生後見ルルハ八歳也ハチノトシも學館ガク入イ日句讀キテダクを授マふ事コトあり皆人みなひとハ生なま

 付ツめししりり女メハ業ノ入イ學ガクすす事コトありあり事コトありありのの以もりり教ナ始メしし也也

 亦また其その父ちち兄あに先生せんせいの詩うたハハルハルクク後のちアア

 同どう先生せんせいの詩うた教授けうぎょうを受うけけてて頼たの入まくく叮嚀テイエイハハルハルクク

 時とき先生せんせいとと作揖サクサツ一ひと何なに時とき也也亦また亦また亦また亦また亦また

 然しかララ高たか月つき又また来き月つき何なに日ひ吉きち日ひ也也

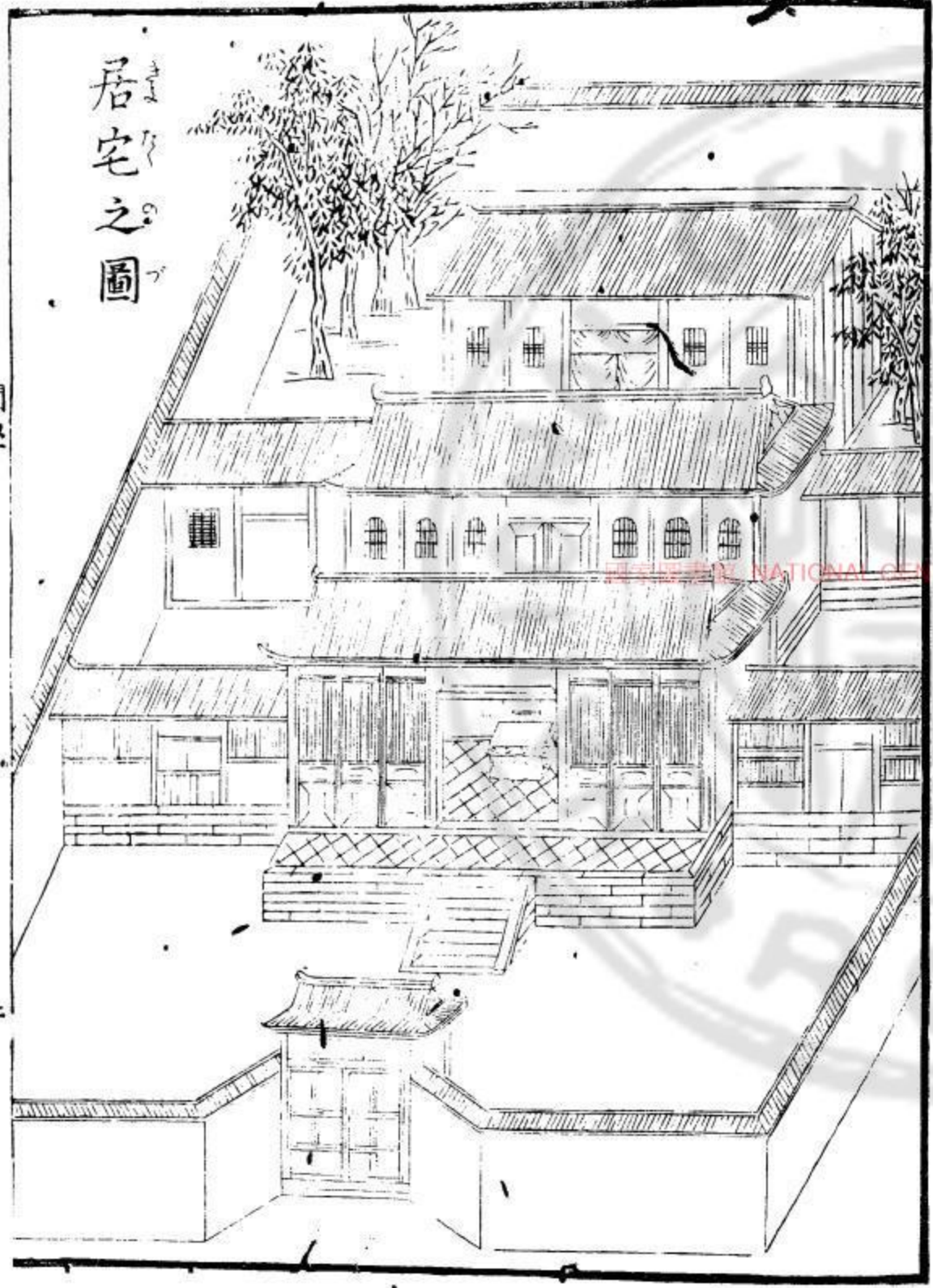
 とももともも又また入い門もんの前の吉きち日ひ代しろ選えんとと並なら何なに月つき何なに日ひ寡くわ酒しゆをを

 法はふ入い来き下くだささるる一ひととと約やく束そくすす事コトもも亦また亦また亦また亦また亦また

 費ハイ心シンとと接けつ接けつすす父ちち兄あにもも一ひと札さつをを

 定テイ式しき亦また富ふ家か家か家かのの孩わい兒にをを學ガク館カン入い遣けんすす前の先生せんせい代しろ招まう請しんすす

 を厚あつくく頼たのむむ意いありあり此この時とき初はつとと孩わい兒に書かをを教ナめめ事コトもも亦また亦また亦また亦また亦また



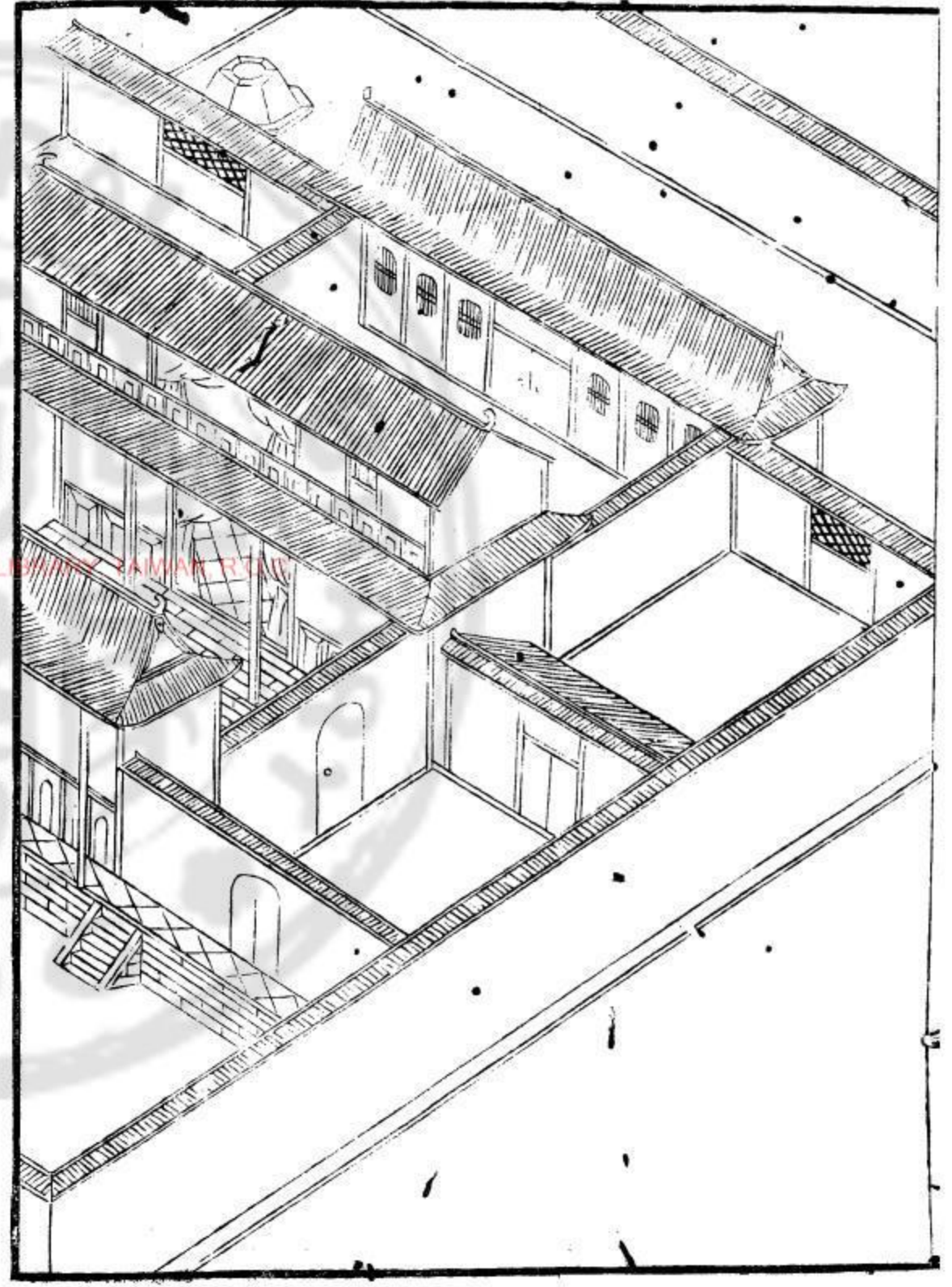
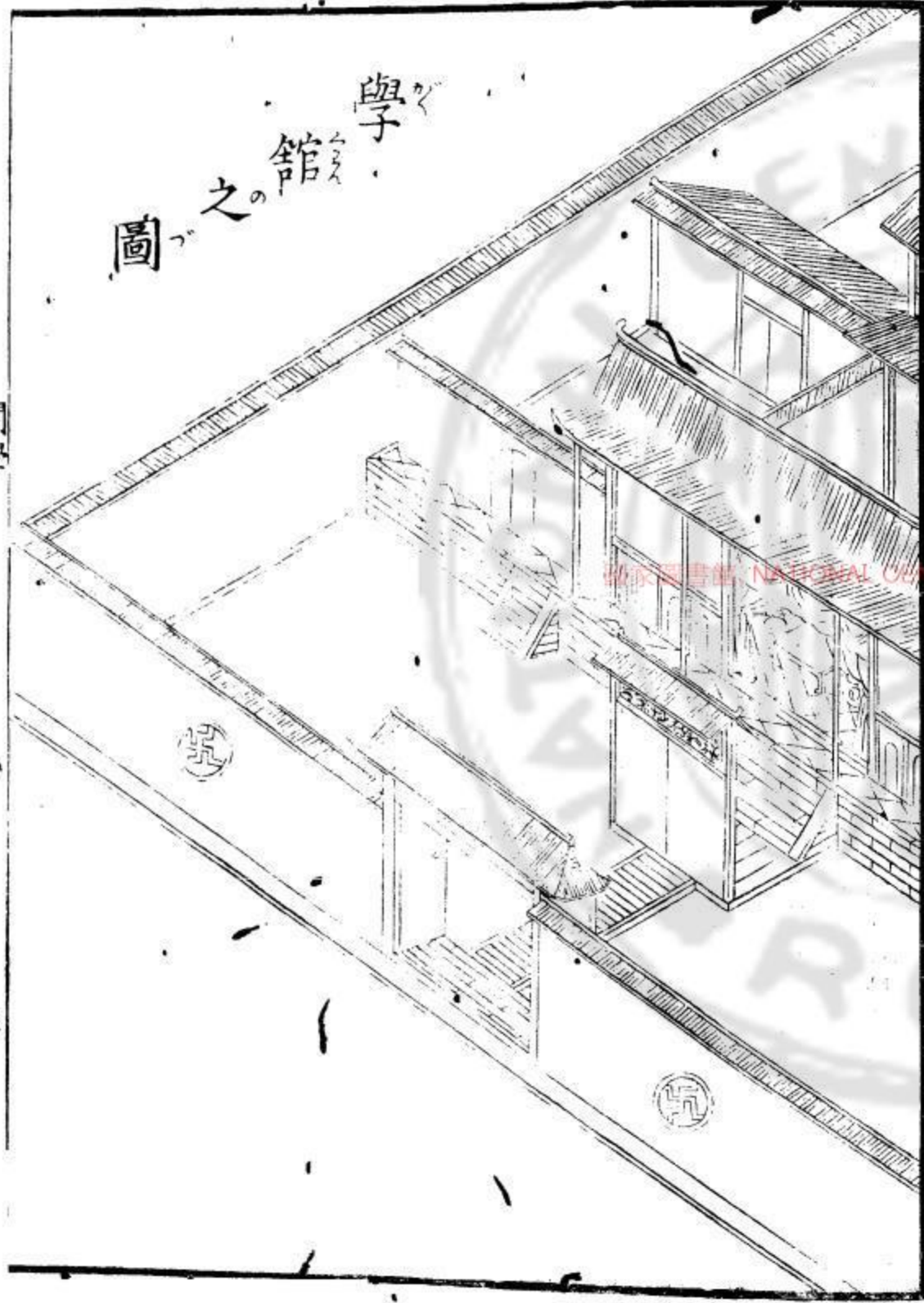
居宅之圖

閩學

學館之圖

學館

三

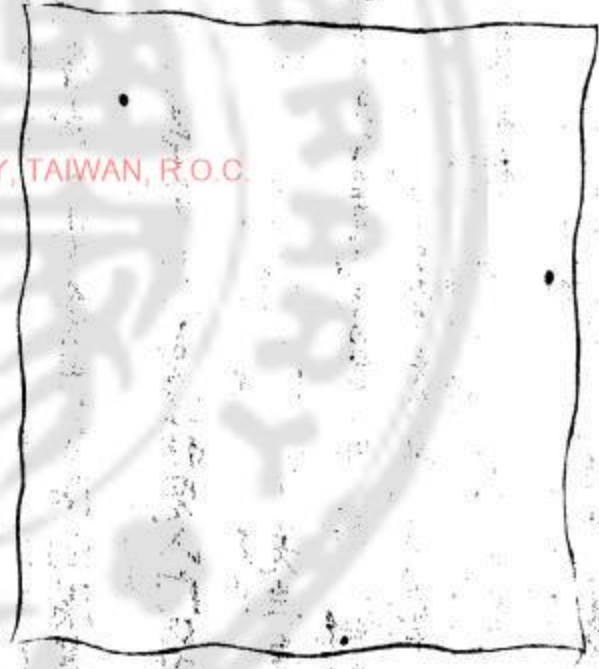




招飲 先生之圖

○ 孩兒を連れて入門のとき其父兄と一同小籠くの帖紙持来し学館へ
 へおえよと学館の造作尋常此事あるは東階西階等の事あり門を入
 外廳とらふるは所の出入口よりお入あり孩兒入門の時着する服を實
 客付来の服と制同一度人の禮服別制あり先生と書童管童
 とも小側 小云付聖儀 兩儀ありは至聖先師の字成用も多し燕衣幅中あり又書儀成近
 國の字館も供奉す事あり 他國も賣出は所ありと云ふ 此是毛纏をのみ香燭成あり糕粽 糕粽は高中の首途儀
 を備へ果は孩兒聖儀も禮儀 拜ハ儀礼を用ひ 次ハ先生氏拜を此時執儀と云
 身分相懸み銀七八文ありは拾はば封筒も封じ其ハ小袋とて紙唐紙
 を小さく切張付其紙も執儀と書先生捧ふ事初見の禮あり此時先生門
 の書生或集先和氣湯 瓜仁東肉を白ゆを飲ハ是ハ朋友の和氣和すかお好こと
 何国の字館もくも用ひふ事ありは江南の地方ありは事あり人みよと云

書包藍布



他国でも用事あるは是より毎日切課のたゞく稽古あり早晨中學校小
 あり先座の上の正儀小向ひに揖し次小先生に茶茶小来り他揖し自己を
 請持の椅子小かき書物を取あし小並休息後長く先生書生小ひり
 來々讀書とふ其時先輩の者より先小秘有古其朔如席の遅速みり
 次手を之ふもあす 到着儀向 都て書生小書物成先生の安あし小並包を披
 き書物成先出し前日授てくる一冊を三四遍讀み其の先生右の書成りて
 背誦をせり此時書生に先生に背見前日習ひ得るふ一冊成誦を毎日
 固給り若背誦の時一字めくも讀遠ふ時の元小坐み返り其次第の
 書生成出し句讀を授せり句讀の授けり先一句宛先生れり
 ほう小讀三四遍も一回小讀くのち書生一人讀あり其間小成成り句讀
 ありひ小點圖を加ふ句々行の右小圖一讀々行の真中も一點成加ふこと

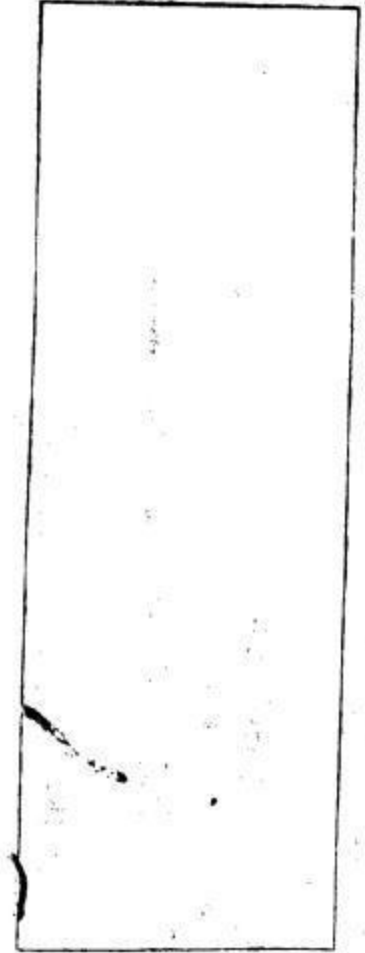
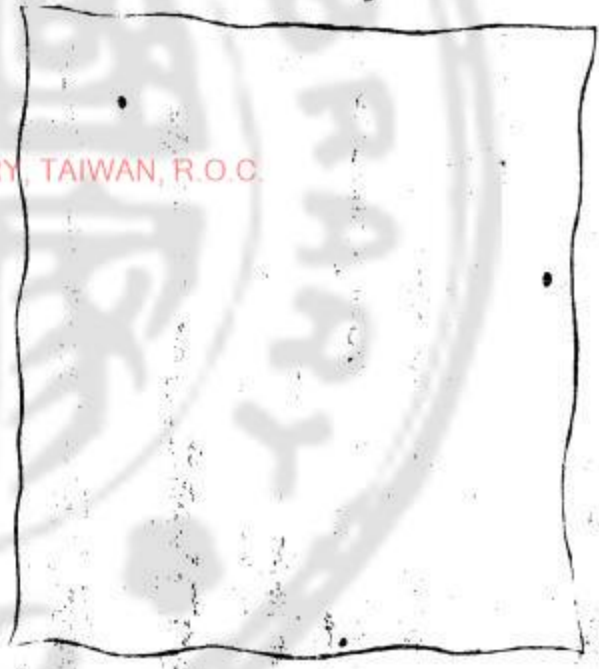
小園成加の事もある若一字両音義理異なる字と其四聲あるを以
 平上去入を分け小園成懸は凡門生十人己三四十人近成教育を以
 法あり又十人己下此書生なり凡初學の時塊頭字塊頭字は凡唐紙方一寸半あり切文字を一字に書き置る
 を以て一日小一字二字三字と次第に見知らしむる也認字と云ふは初
 日小認二字二日月と認三字前日此二字成り打合せ見知らしむる也
 且凡の才氣厚凡者あり凡初稚の者且凡門生とす凡凡時書讀行えぬ
 己下小教養す凡法あり凡認字三百字小過凡凡書讀成り人漸く字業
 進む四書五経成讀む且毎朔讀書の時凡客成書之志成定む句讀了
 凡成付字々分曉し讀書中凡化所を見ふ事如く化物成玩不事如く遍
 教を細小記し且遍教満く凡凡月誦し凡凡時凡凡月誦する近成通も録し
 遍教満く凡凡誦ある凡凡遍教の満く手を讀く是すを凡凡凡凡凡凡



書生 禮拜之圖

問學

書包藍布



他國めくも用ゆる事あり是より毎日功課のたゞく稽古あり早晨中學校小
 あり先座の正儀小向ひに掛く次小先生に案茶小来り他掛く自己を
 請持の椅子小かき書物を案茶小並休息後座より先生書物小ひり久
 來々讀書と云ふ其時先輩の者より先小秘者古及共朝知席の遅速小く
 次書を云ふもあり到着後都て書物小書物成先生の案茶小並包を披
 き書物成れ出り前日授てくか一冊を三四遍讀み先生の書物よりて
 背誦をせらるる此時書物先生の先生に背れ前日習ひ得るか一冊成頼と毎日
 同紙なり其背誦の時一字めくも讀遠ふ時のを成返り其次第の
 書物成出り句讀を授けたり句讀の授けたり先一句宛先生れり
 けり其讀三四遍も一回成讀くの時書物一人讀あり其間小成成り句讀
 あり小點圖を加ふ句讀行の末小圖一讀行の真中も一點成加ふこと

小園氏加の事もある若一字兩音我理異ある字と共四聲あるか
 平上去入を分け小園氏點は是の門生十人して三四十人近成教育を分れ
 法あり又十人已下れ書生なりは初學の時塊頭字
 を認ぐ一月小一字二字三字と次第に見知らしむる也認字とらたると初
 日小認三字二日同と認三字前日認二字成も折居せし見知し志むる也生
 且月の才氣厚兒者ありひの幼稚の者且ら門生とすし初時書讀れえぬ
 己之も教養する法あり元認字二百字小過且其書讀成ぬ人漸くと字業
 進し四書五經成讀む且毎朔讀書の時と客成書之志成定む句讀り
 句成付字々分曉し讀書中か化所を見ふ事如く化物成読ふ事如く通
 教を細か記し並通教満く北月朔かたれ時と北月朔あり近教通も讀
 通教満く北月朔ありとも通教の満く手て讀く是すをわくし得るか



拜



跪



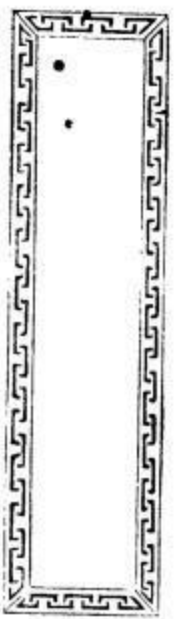
拱手



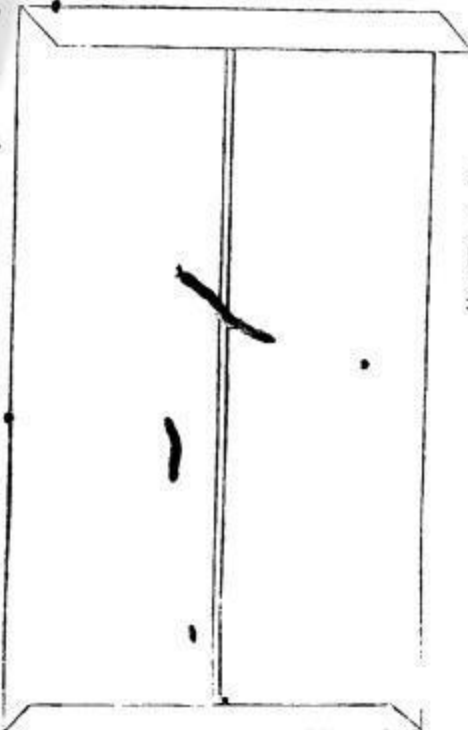
興



封筒大小不同用白綿連制製造 正面式



北月面式



封筒釘封面式 面用大紅或梅紅箋貼固上下轉至後面糊貼牢固

背面式

某姓某 字 老長翁台展

某姓某名具押

封 某月某日發 封

贄儀 脩儀

書成帶温復習之奉目之同修あり受業したる上ゆく會得せざる事あれば
 年長の書留せられたる如く先生に同少事於て先生に同少事にかゝるべきに
 整衣歛容し席をもち先生に参り申す事あり某於某事未明はるる
 某書未通敢請先生より先生より之あり知識傳へ聴く坐小席に坐す也
 午時乃至此迄迄とあり學ぶ書留せられたる先生に許容成りけり

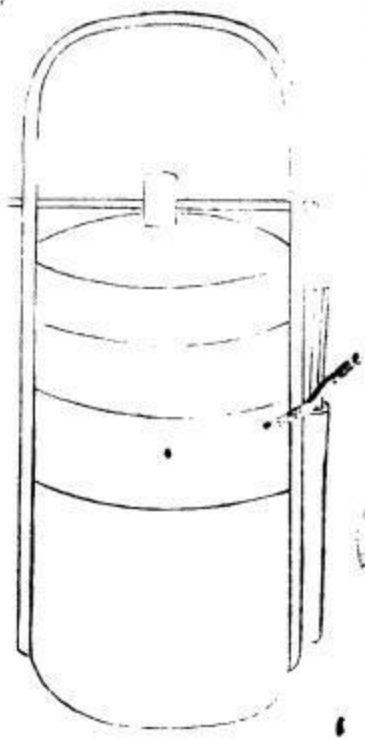
問學

吃中飯一又或以學館小多ふ二町三町も隔たなる書生れ終らるる
 を送ら火席ふみ及が午飯過く習字以八點時候めり先生講書一
 學館の書生位成ふして拜聴す先生講一それハ學業進たふ書生當
 日先生の講一ふふ所を輪縁以て又當日授りたる~~書~~熟讀以九點字ハ
 又拙み拘る専ら字畫炭整みして歌斜差落等の病を免るに如月學ぶ
 筆墨硯の取扱ひを毛替め一戲硯此面に書寫すふ等此事ハ凡ヤ
 戒むるも習字れ初めら上大人孔乙己化三千七士尔小生八九子佳作仁可
 知礼也とふふ~~字~~を~~お~~由是定法を先生書中書與~~は~~書目生書中慎
 寫~~は~~筆~~は~~指~~は~~大指中指人指めく筆管の中成とを握るふか~~は~~れ
 空~~は~~め~~は~~あ~~は~~成~~は~~指~~は~~足~~は~~を把筆とふ~~は~~成~~は~~指~~は~~と~~は~~送~~は~~め~~は~~あ~~は~~ぬ~~は~~め~~は~~ら~~は~~順~~は~~に~~は~~右~~は~~手~~は~~は
 足を磨墨とふ清書の法と同く字成二字ありハ四字書筆事たるは

塊頭字

上	孔
大	乙
人	己

錫盃



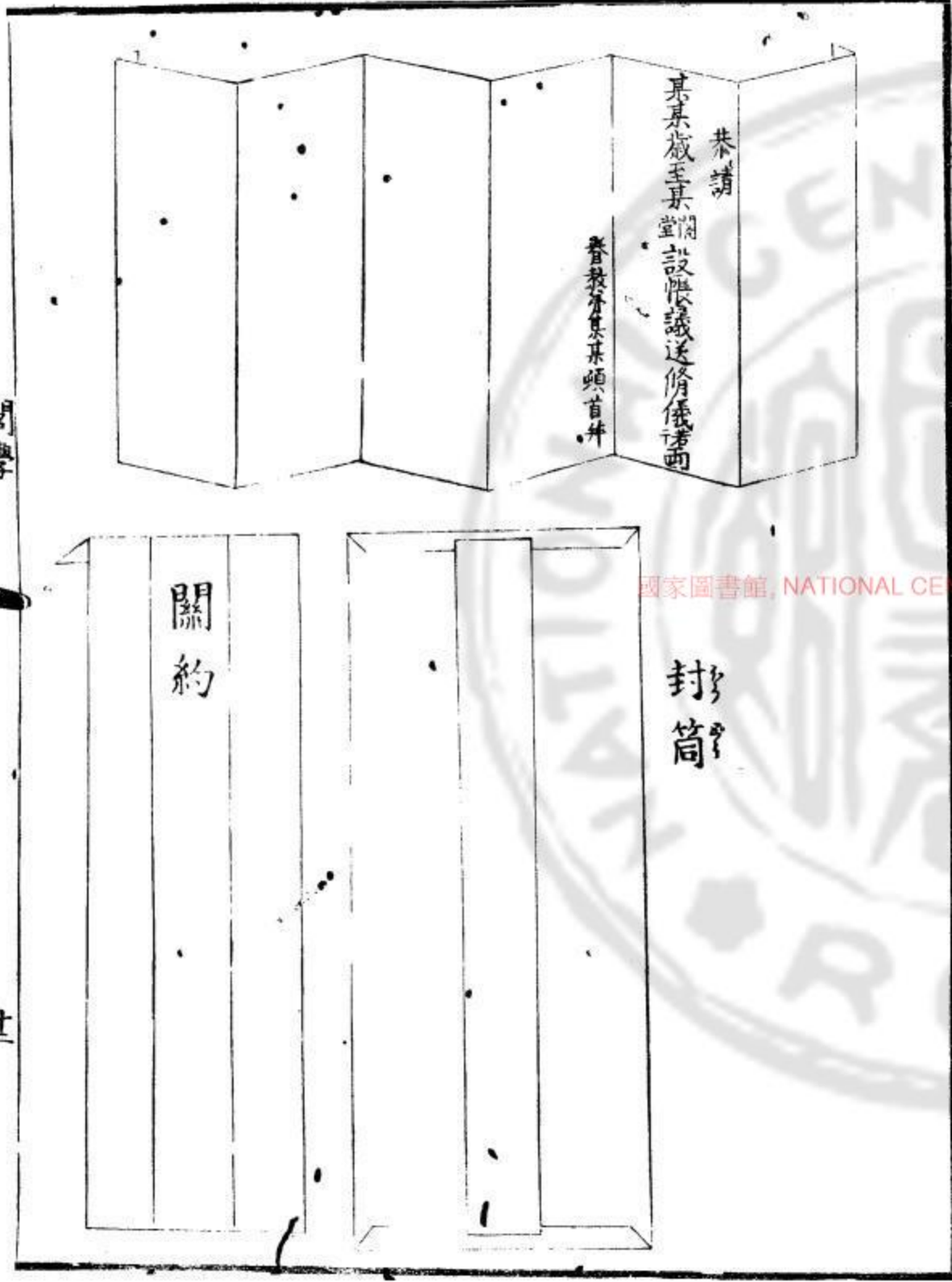
學館諸生列位之圖



上の字を二字書とて初の一字は填寫一殘二字は自身書是清書の
 法ありかくのぶとくあく毎日活書一請改一其未千字文まふ古筆法帳字成
 習を了む法帳成習不時の油紙をを位ひまけ写本習不黄昏に及ふ以て書生を
 家本席を又二月年月も活局とてあつを毎日家本席不書生ナに又早本以下
 舟く踏隔とてふ奴僕時刻を考へ途本本と取り午飯を送る本と湯の
 器物本入本本取り且入門の日とて書生に教へらる先家本席に神
 一礼一汲本父母兄弟姉妹本之礼儀一進退周旋の礼節懈怠あへりふは
 つひり(らる事本) 詩仙成教あつ本先對を作くとむ其法は二字
 三字本古くの句成書本對を作るとて進く五字七字法を教へ點削を
 加ふ其後五言七言の絶句成作るとて修習不時と其人の好みと韻書類書百字成
 用ふととも何の書成用ふとて本定ふ一又其間本唐詩三百首本月誦せ

此の事常が文章を属するは天然の氣の幼童の二三歳たるも
 左傳史記漢書に類をよく熟讀せし義理體裁等を遊く教へ
 又と先生に講すか其の流し講しあるに義理遠く行わし海
 子に逐一に先生の行（おなじり）の志とて向言文法成略なる
 消るるにみく先生類を出して文法はくらくわく文法無窮等を正し事く
 學籍も供奉する聖像の左右に文昌帝君魁星像を安置する事あり
 此二神の都く文明をばくすか神の讀書を人多く礼敬する事
 あり一好みざるはゆつぬ事あり○先生賓客と應對の事お止り書生
 次も階の序立し先生賓と礼儀する候待諸生賓に向ひ奉揖は賓退
 時も奉揖し送る賓と先生と諸生も命して門を出る事お止りお止は
 諸君位も凝立し先生賓成送ると帰く坐成命されえれ志とて坐す賓も

國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.



諸生中相見を欲す時先生に礼儀淑たふ人多く化揖を賓退く時
 遠く送ふ事を得じ又此類ありて親押す事あり
 知縣同知又ハ其已下此類人或ハ富家なり我亦博學先生成請ト
 孩児の教育成頼む礼儀ハ何共も同様ありを關約ト之る全帖を拜与
 或ハ三家五家中令先生成請ト孩児を教ふ之想トて我家母子先生成拓
 請を重何の世始りト也此者好ト其比也先生トすき人ありハ
 化下ト之招請ト孩児を教ふト其招請トたふ家ハ學館ありハ内房膳房
 等近構本家ハ孩児右の學館ト目ト行テ學人ト目トの敷成ト本家ト
 幼時ト目ト之衣服あり送ト事あり若先生トはハの者トハ時ハ招請ト
 多ク家ト之書童管童二人ト之三人付添伏侍セト十二月ト先
 生學館成收拾ト郷里ト歸ト正月十日ト以ト之トあり學館ト入ト

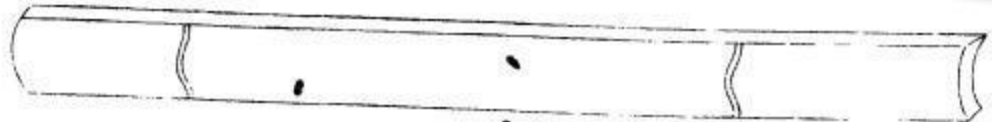
功課單

夫書生毎日清晨上學宜整頓
 几案令潔淨端正平心意氣將
 昨日所教之生書讀熟背誦仍
 理溫讀過書每本正文十張然
 後方教生書再讀計遍數成誦
 午飯後習字筆硯墨錠須頭放
 有常處不可散亂未時講書又
 熟讀舊時讀過之書務要讀得
 字字響亮不可錯誤夜間在家
 亦讀到二更凡在本館受業者
 慎之毋忽

戒方



竹引



○女子學問のはら男子み異ふ事ありあはれ女先生とて寡婦又ハ人の妻
 學者ありの諸家の女子を教ふるは思ひ女子は必しありて教授は初め女訓
 孝経を教へ後めら千字文百家姓四書等成讀志む事男子に同一執
 儀東脩の禮も同様あり習字も初め女先生に教めり上大人を習ふ後
 ら男女み限らず練書の先生成程に習ふ且豪家此女子み詩文章成
 教ふるはわり小家みても志厚ありはる其父兄の好むに詩作等教ふる
 此外女先生女子み教ふる事あり婉婉聽從等此事ハ女子の母常く行む
 あり折る女先生もあはれゆふ事あり

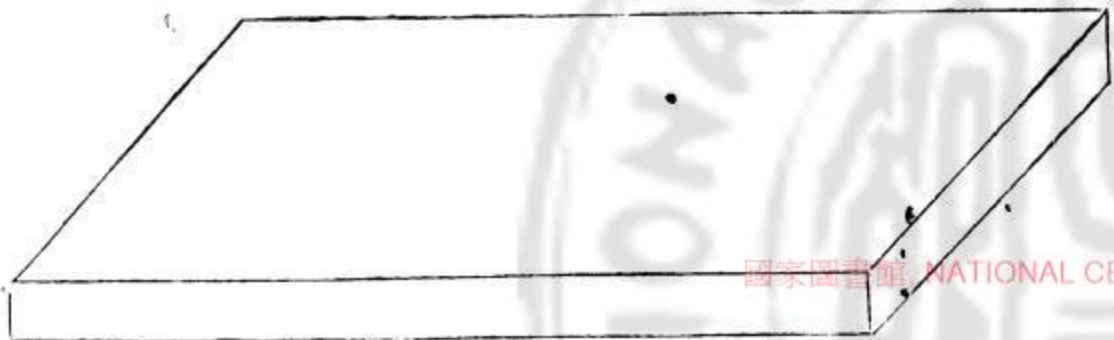
○學館の壁書成功課單とふ是を習ふ浪重く常み書生に見せむ是を控
 を北月兒偷懶作怪あらものら是を戒方一名戒尺とよゆふ竹片行ぬくはく
 ちくすちくすをみく打手心又おまを懲りみら打屁股すふなり

開館票

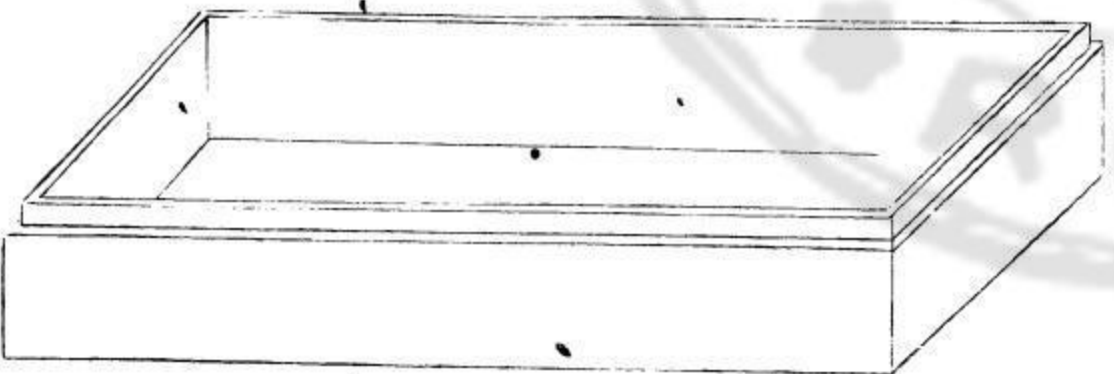
本月某日開館

○毎年放學の定日ハ二月清明五月朔日とて五日まで七月中元八月中秋九月重陽十月冬
 至十二月廿日及よとて正月十日祭後すて放學とふ是毎年放學此定日ありて
 至毎年端午中秋の日を放學とふあり其終日食月食國喪ふとの日
 放學せら平生のおと教授とあり先生毎年二月廿日及よを終言古及止り郷里み
 正月十日祭後すてりて請持此學館に入ふ當月何日とて終言古初を及よと日
 及代極め紅唐紙小書門には張紙の日限を見く書生上學以此時終初等の
 式ありて幼學入門ありて聖像子香燭供物等以儀禮洋書事尋常行ふ式
 のまら右の外年中放學此日あり先生又ハ書生の内子故障ありて放學

拜匣蓋



同身



問學

十五

帖單

面

元星
幾塊

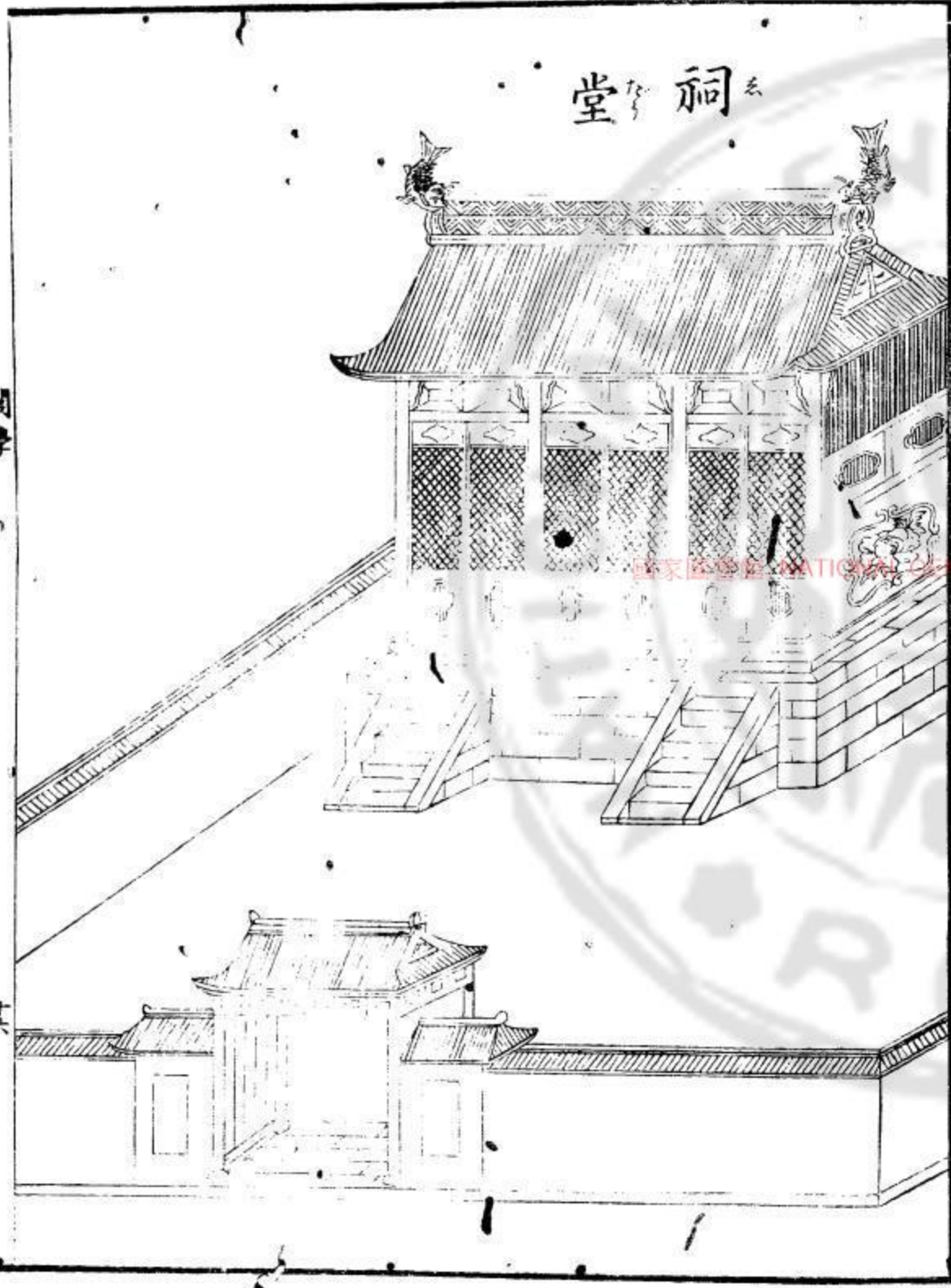
背

贅儀束脩包法

すふちをたぐり書生の故障あふたれ其者むらり

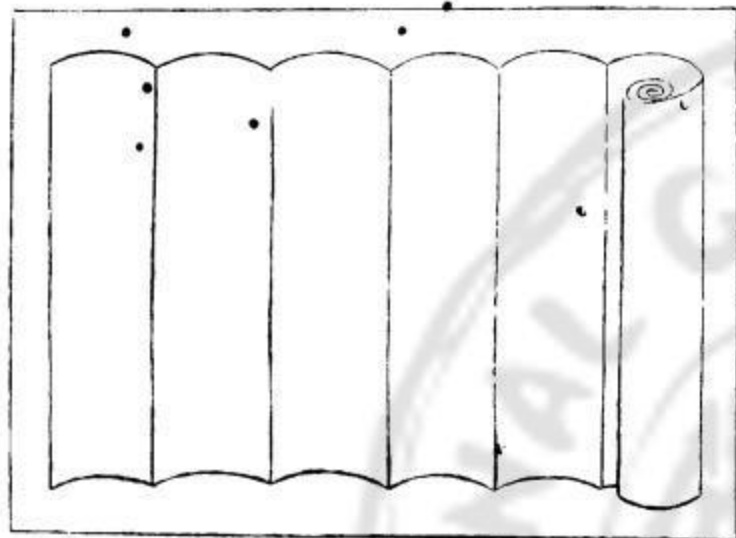
晚生某某頓首拜

國家圖書館 NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

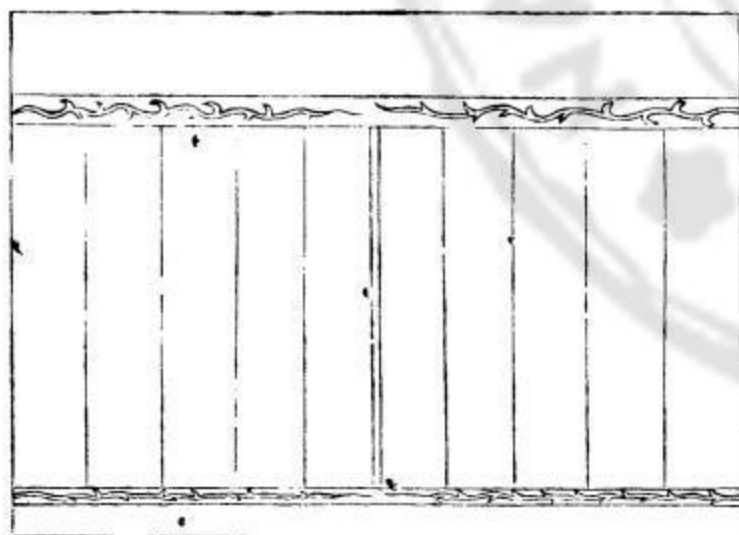


祠堂

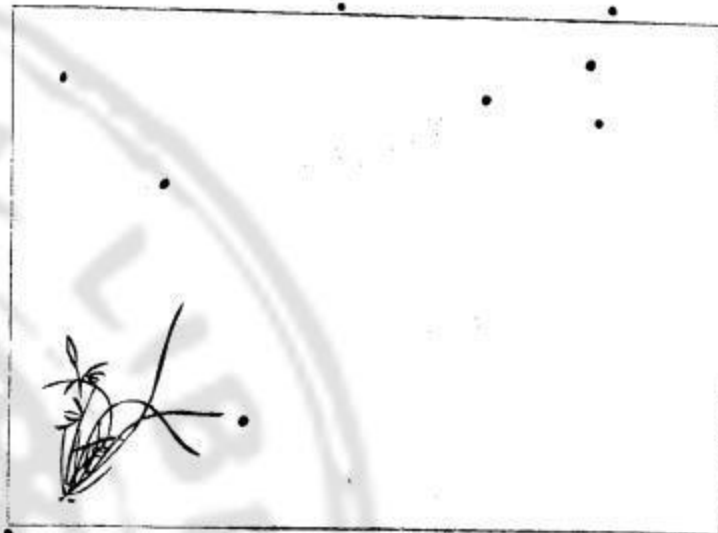
○ 毎月朔日十五日の書生早辰母學館へ来て先後の書生互に揖し皆く搦ひた
 りて年長の書生諸生後任へる儀れ亦も亦り林次香乳洋等々直子先生
 におひひ再洋此時先生之と揖すなり
 ○ 先生の家内も拓清したる人の謝儀と一年元銀五百目六百日ありて家内
 家中合せく拓清したる時々一家として一年百日二百目を送る事宛初
 護あつて先生も先諾のうあり學館の諸生も身代相慰は一年の脩儀銀
 五十目位と百日位とを不同る大家少家とも一年おの度
 五度 立度瑞午中秋 小刻合送事之銀の包や切銀あるは星幾塊
 と書全き銀々玩幾塊と書量目ら書載ぬやと其つを封筒とて紅唐紙
 小く袋を包み能封しよふか紙をうて脩儀と書拜画とて小箱にひき
 奴僕も持せしむ此れ先生請取の謝帖あり



格紙



白地紅格

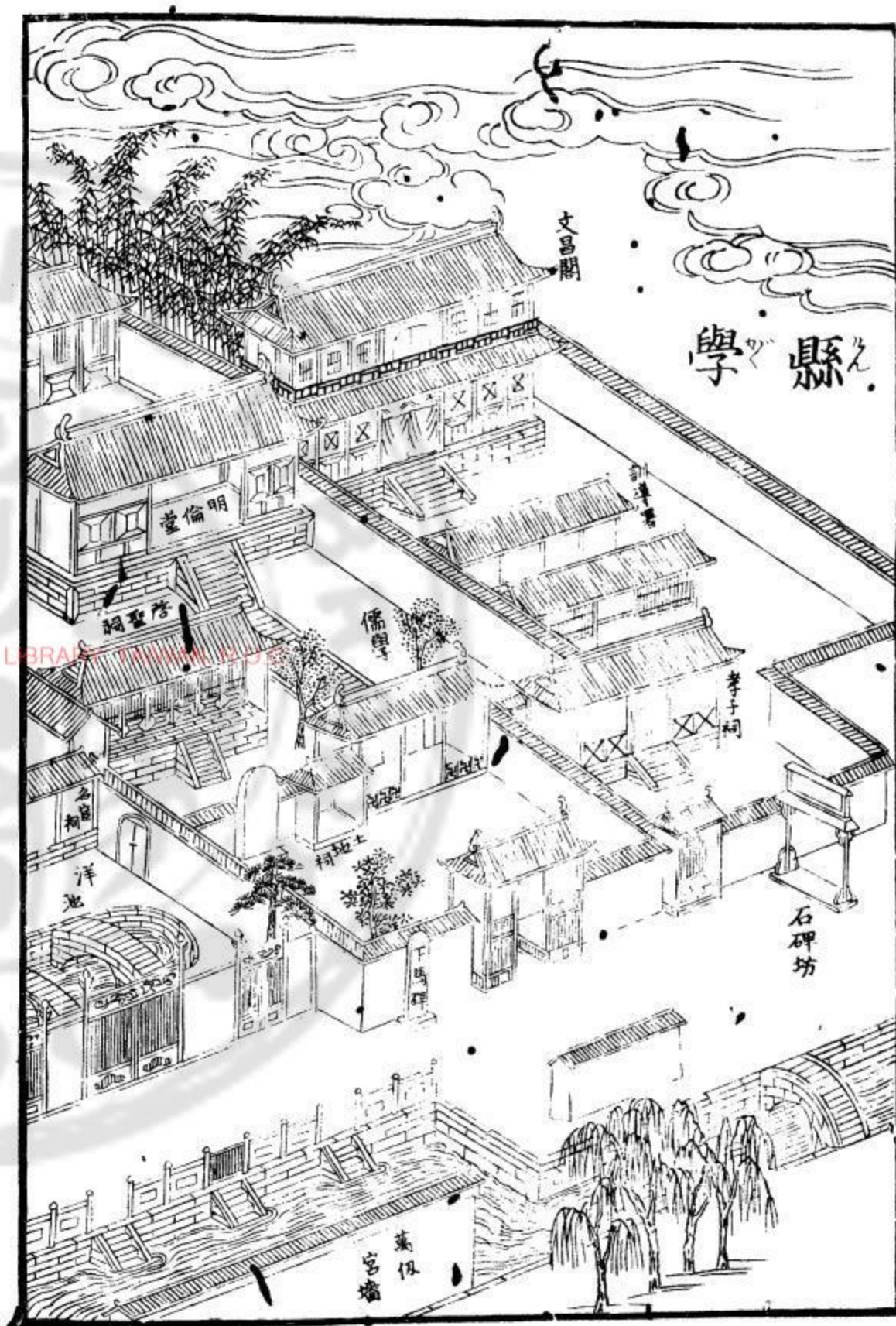
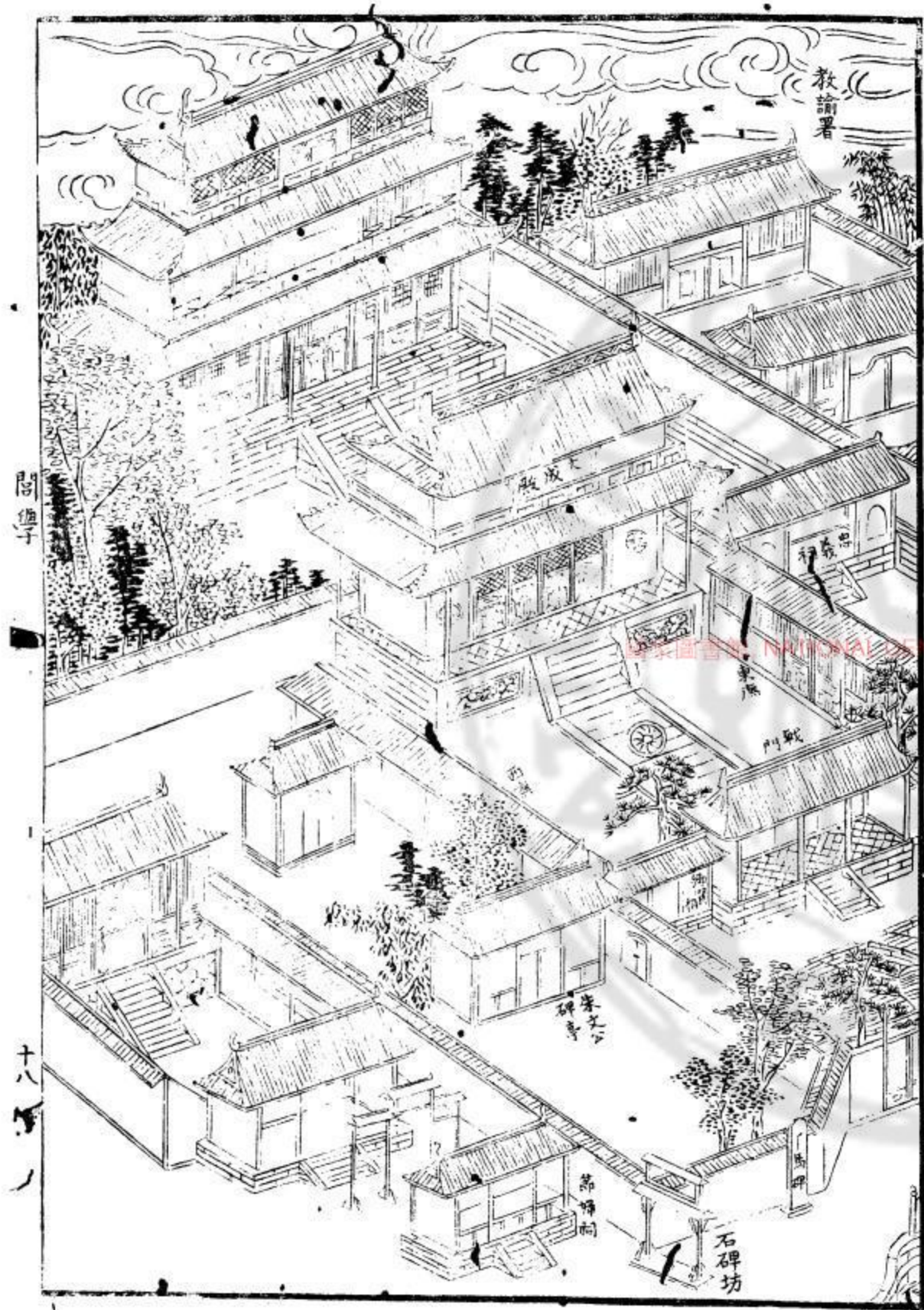


羅紋斗方紙

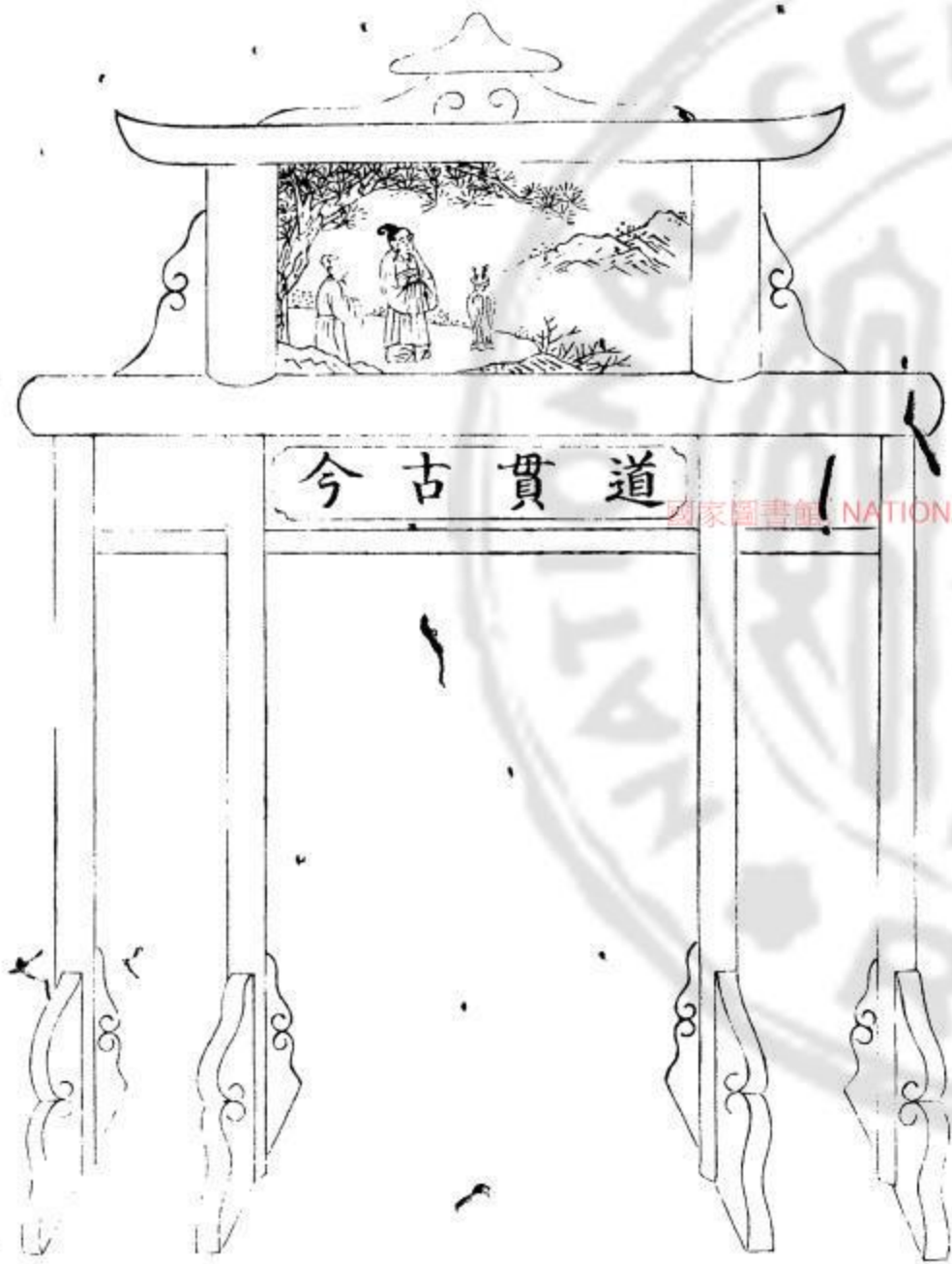


斗方花箋紙各色不同

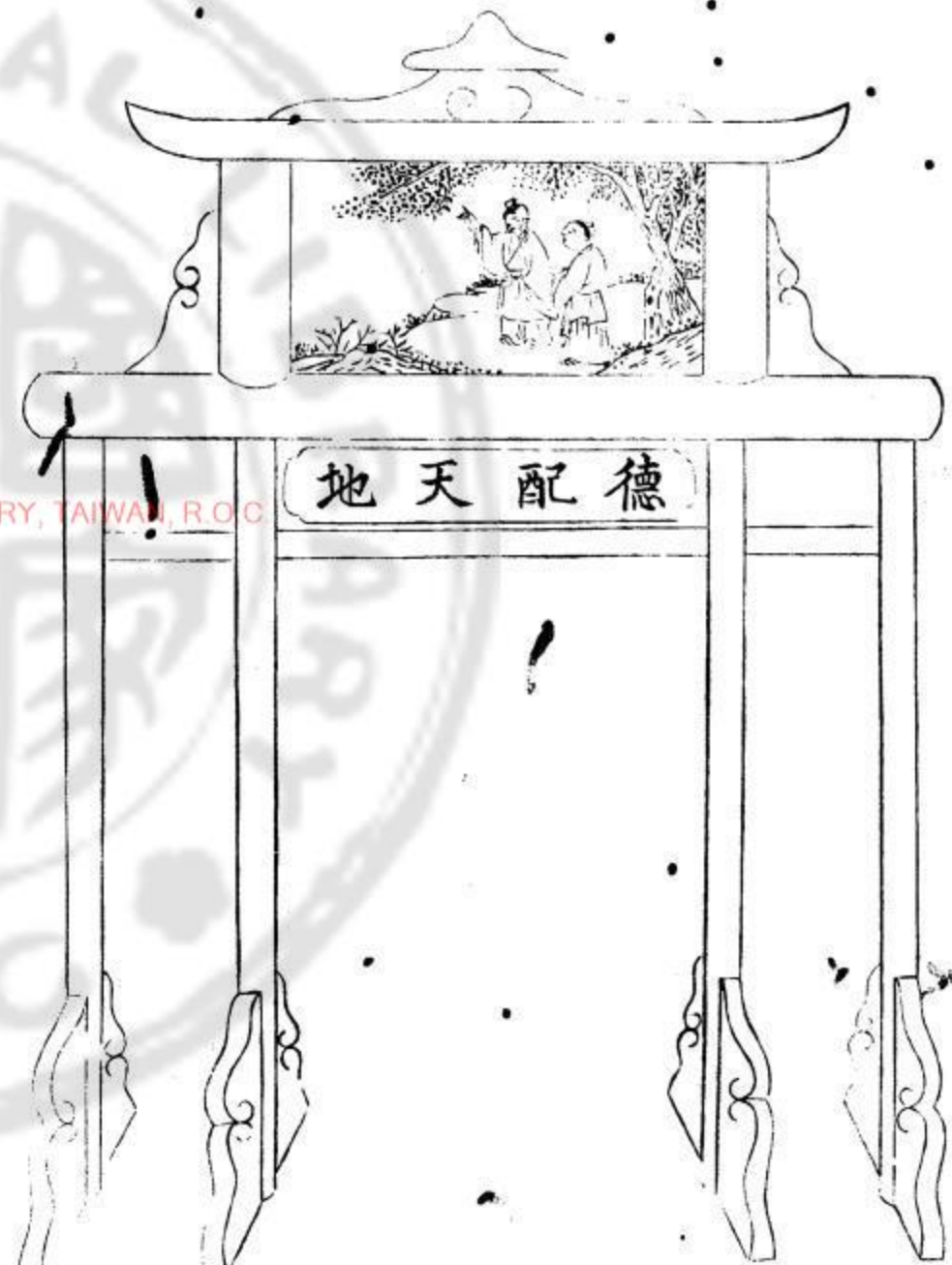
國家圖書館 NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.



石の碑の坊の西の位



石の碑の坊の東の位



NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

下馬碑 げまひ



奉 ほう
 旨一應文武官員軍民人等至此下馬

謝帖 しゃてつ

承 領 惠 謝

某姓某名

○義學とて所々あり大官人又々其地の名家等此志厚人なり
 先生を招請し郷中に祠堂設け成借り其の成学館より貧窮の
 東脩等此禮行ひかた人々成集先教導せし是を義學とて教授の法
 其外の他法等同学も同し ○九書生学業進み詩作文章等此格古大
 概熟習す人々の意思による良師を以てし其儀を討論し其後
 郷試とて一郷中の試み知く選り成請ふは是も志ある者ばかりなり

其郷試を司る官或主考官と云ふ是も原るを考試を經く當時翰林院
の侍らる詹事科道六部九卿等の内勤らる人を欽差すと云ふ具
郷試の第一場より四書本文を題せし文章三篇五律詩一首代作り
二場より五經代題し經志と云ふ文章一篇あり此論一篇代作り
場中より第五道表一通を作し是れ代郷試と云ふ此より進く縣府を
試み出く及第を事たり

清俗紀聞卷之五



國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

函號	
架號	
順位	

國家圖書館 NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

清俗紀聞卷之六

生誕

○凡婦人孕む事あり四月五月程に諸條沙袋本綿の類を以て幅長
 其人の肥瘦に應じ肚帯或は胎帯を造り胎を括ひ平日身を安静にして
 勞を減じ或は重き物を持てぬ高枕を敷き胎を安んずせぬやうに心を
 食事も随分淡薄にして胎肉を豊かに孕む事あるを穩婆オシバ一は救生
 を呼三日五日間胎を按摩せしむ ○臨月より草紙襦袢を用意し
 胎を氣はれぬやうに床の上を褥子を鋪安んじて穩婆を胎を搦らせ
 産ま臨むかた穩婆を腰を取時刻を考へて力成添産しむ産後一は
 穩婆女小児を取上手足身肉を改免竹筒を以て胎衣を切臍帯の切只
 清めて繫しむを以て包み胎を乾かすに草湯を以て嬰児を



生誕

あつらふし水洗ひ口中指代入て瘀血等を洗ひ出し身痒をよく拭ひ
綿あつらひの指切をぬくはみ上ら襦袢ぬくはみ人の懐中に横ふして抱
きたる母を産屋か一か産室 至らむ産室の常の床に上りた右へ褥子敷敷
多積が産中身痒の動くぬかみ安坐せし多き十日或は七日後平
外せぬ血暈たふれは五日日るく平外せぬもあつら産室に坐して早速
糯米の粥を吃せしむをいぢらぬ多分食せぬやあつら母時をいぢる食せ
し糯米粥も多く一度ぬして其後の飯を食せ三十日の内魚肉油物を
忌五七日の内姜辛酸味忌み七日日るく酸味を少くば吃せしむ七日日
向砂糖汁ぬく益母草汁飲し先毎夜瘀血を去る血暈たふれを
湯茶を用ひ産室に居る内老女阿媽の敷昼夜附添産婦の頭をこ
かぶれ片をぬかみ中風寒を受ぬやみ心づけぬ肉も物静め

高きあつらみ物音の響き多く産婦の乳代静か安寝し保
胎すかやうに心掛かたし
胎衣の少く磁器に入れて蓋を覆ひよく包く
産毛の内潔淨なる空地を深き三四尺程の堀に埋し水永遠動かしぬ
手つみつはあり埋む所の方位は産婦の坐す昔時古儀を文入る
埋む所あり高時高く用ひは
○嬰兒洗せぬは其湯水食塩を
すし入るかたは少くぬかみ入る洗ふは血汚を去るぬかみ入る
ぬかみ入るは臍粉を細末みして物身に擦る襦袢ぬかみは
臍帯は切くよく切は指ぬく指ひ包み脚み當り外を指切ぬく其又六
日るも指切代解く乾不乾を見て乾たはばれのつら指は脚の内入る其
時指切をす
○嬰兒乳を付る事十四時を待つ乳汁を呑む
一盃夜ぬかみして其あつら

あはるし洗ひ口中指入て瘀血等を洗ひ出し血脈をよく拭ひ
 綿あしひの指切を以てはみ上り襟襦ろくはみ人の懐中に横ふして抱
 きたる母を産屋か一冊産室 至らむ産室の常の床に止み左右に褥子敷敷
 多積かゆ床中み血脈の動くぬあみ安坐せし多く十日或は七日経て平
 外せぬ血暈たるれは五二日るく平外せぬあも産室に坐して早速
 糯米の粥を吃せしむをいぢらぬ多分食せぬあも毎時をいぢる食せ
 ぬ糯米粥と多く一度みして其後の飯を食せ三十日の内魚肉油物を
 忌五七日の内姜辛鹹味忌み七日るく鹹味を少しばく吃せしむ七日乃
 同砂糖汁めく益母草煎茶飲し先毎夜血を去る血暈たるれを
 湯茶を用ひば産室に居る内老女阿媽の敷昼夜附添産婦の頭をさ
 ぶら筋を片とせぬ中且風寒を受ぬ中み心づけ家内も物静めし

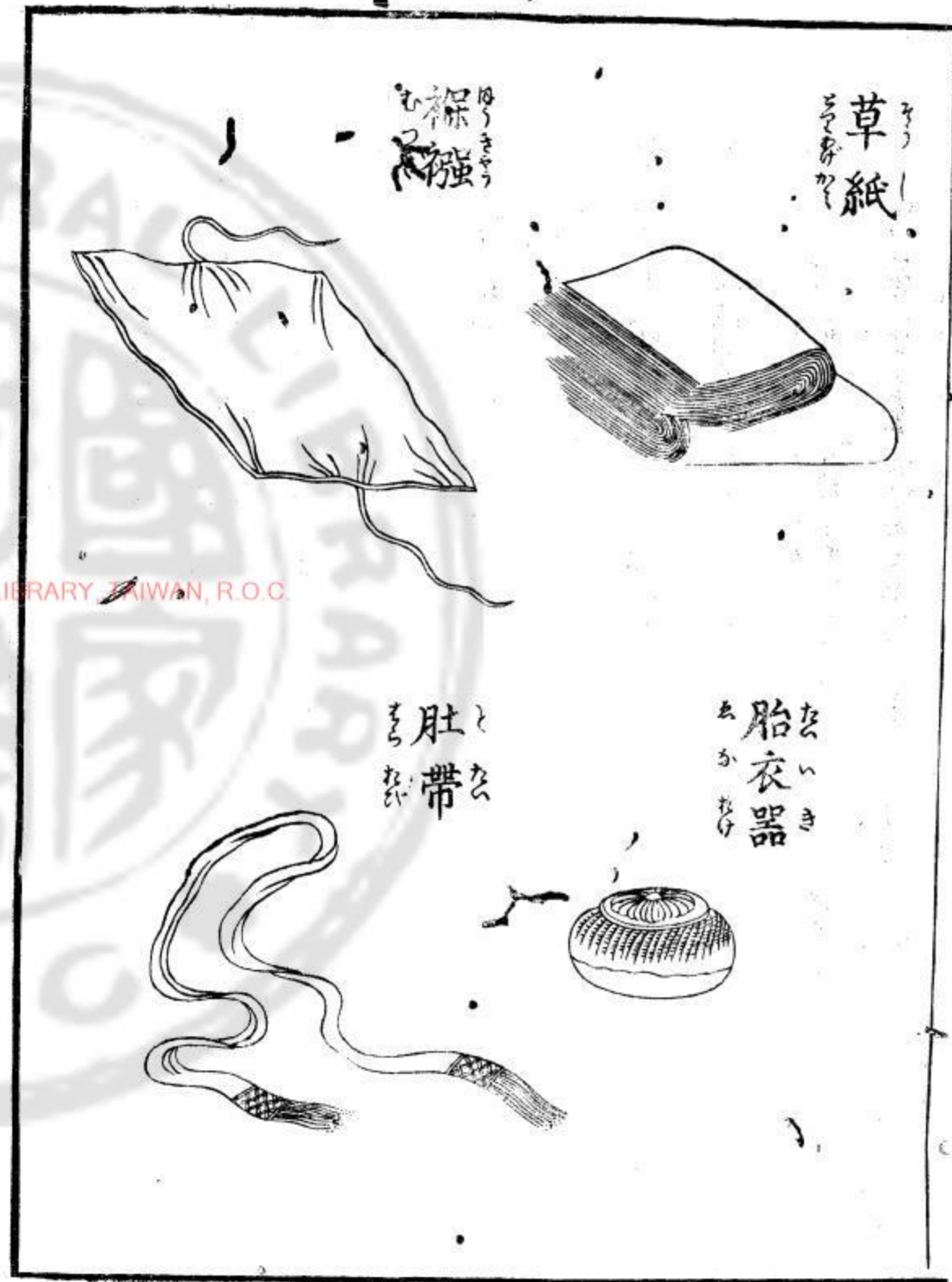
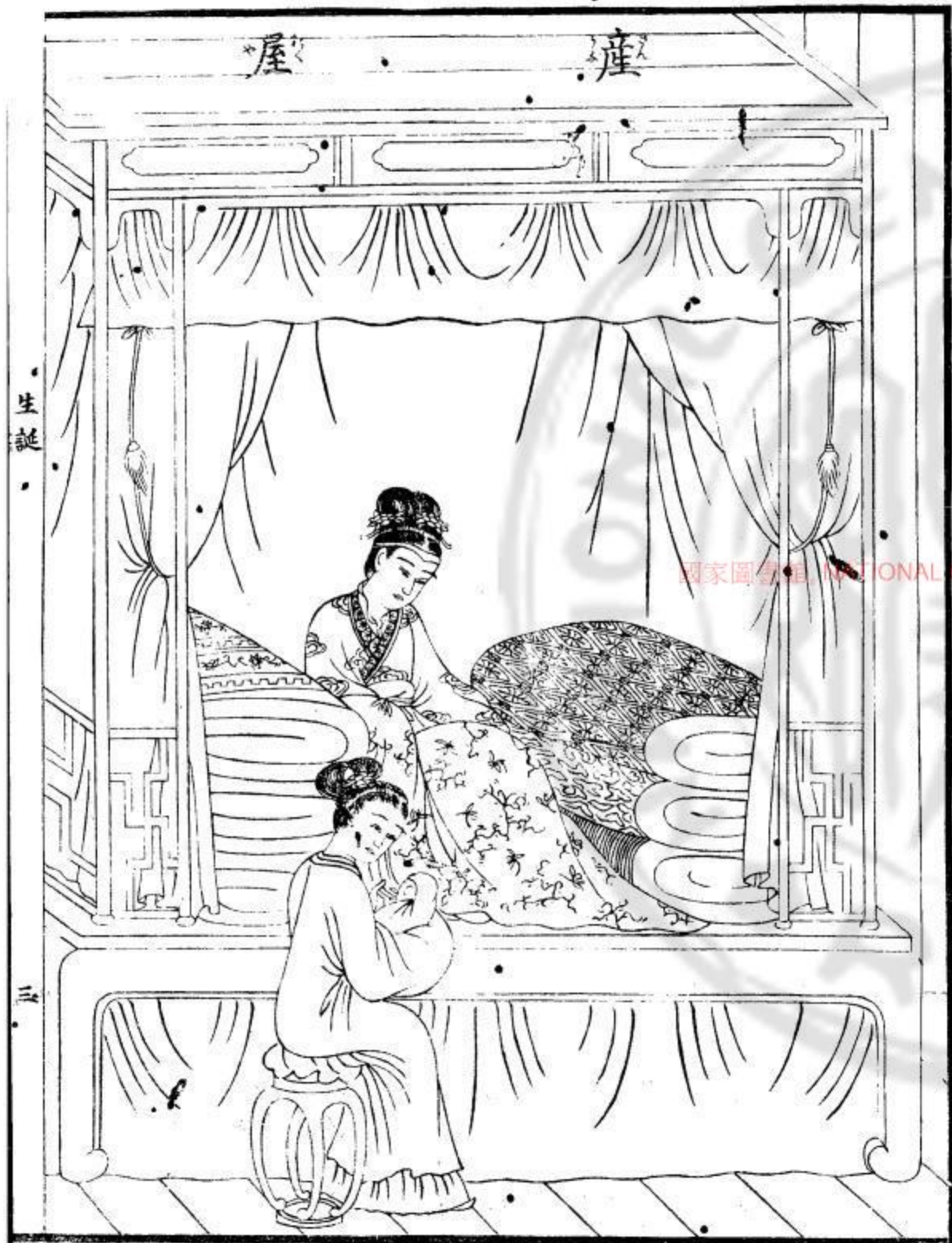
高智あるびみ物音の響き代林糸先随分産婦の乳代静め安寝し保
 ちますかやうに心掛かたり

○胎衣の少磁器に入れて蒸を覆ひよく包こく
 胎衣の内潔淨なる空比を深三四尺程み掘り埋り遠く遠く動かさぬ
 手みつひあり埋む所の方位英み流物等の事かり昔時古儀を文入る

埋り敷あり高時おく用ひは ○嬰兒洗ぬ乳の味茶湯み食塩を
 すし入るか乳を少くさるあみ入る洗ふ血汚を去るあみ入る

みあしひ畢りて臍粉を細末みして惣身に擦る襦襦みはし
 臍帯の切よく切られ指みく造ひ包み胎み當り外を指切みく巻く又五六
 日る多指切代解く乾不乾を見て乾たはばれつる縮み胎の内入る其

時指切をを寸
 胎帯を切ぬ長き寸程残り切ぬ長
 多し乳を付る事十四時を待ち乳汁を吞む
 一昼夜みして其あつら



物を入用也（物を入用也）赤小豆（赤小豆）成入小児の腰（成入小児の腰）或は押入（或は押入）是等（是等）此等（此等）小児（小児）と都
 多周歳（多周歳）の頃（の頃）すく横（すく横）抱（抱）く（く）抱（抱）く（く）事（事）を忘（を忘）む（む）又（又）生（生）れ（れ）て（て）日
 経（経）る（る）を（を）多（多）く（く）下（下）に（に）褥（褥）子（子）を（を）補（補）安（安）寝（寝）せ（せ）む（む） ○ 徳波（徳波）の謝儀（の謝儀）ハ銀三指目又
 拾目（拾目）或ハ百目（或ハ百目）身分（身分）小應（小應）して等（して等）か（か）く（く）大戸（大戸）ハ衣（ハ衣）振（振）振（振）足（足）等（等）成（成）送（送）る（る）も有
 ○ 都（都）て産（て産）の（の）時（時）醫（醫）師（師）成（成）招（招）れ（れ）服（服）茶（茶）す（す）ふ（ふ）事（事）ふ（ふ）一（一）産（産）前（前）産（産）後（後）と（と）も（も）化（化）病
 を多（を多）れ（れ）ハ醫（ハ醫）師（師）を（を）用（用）ひ（ひ）て（て）差（差）血（差血）暈（暈）あ（あ）ら（ら）或（或）ハ難（難）産（産）等（等）ゆ（ゆ）く（く）老（老）兒（兒）時（時）を
 醫（醫）師（師）を（を）招（招）く（く）や（や）る（る）血（血）暈（暈）發（發）して（して）醫（醫）師（師）同（同）か（か）あ（あ）る（る）時（時）と（と）石（石）あ（あ）ら（ら）ハ（ハ）跌（跌）の物
 を火（を火）お（お）焼（焼）て（て）磁（磁）器（器）お（お）醋（醋）を（を）入（入）産（入産）婦（婦）の鼻（鼻）お（お）下（下）り（り）て（て）燒（燒）た（た）ら（ら）石（石）跌（跌）物の顔（の顔）を
 醋（醋）お（お）入（入）嗅（嗅）せ（せ）く（く）醒（醒）覺（覺）せ（せ）む（む）又（又）産（産）後（後）昂（昂）時（時）お（お）童（童）便（便）一（一）盞（盞）天目（天目）一（一）盞（盞）用（用）ひ（ひ）飲（飲）し
 び（び）お（お）も（も）血（血）暈（暈）減（減）治（治）と（と） ○ 產（産）後（後）の顔（の顔）あ（あ）ら（ら）び（び）お（お）天（天）兒（兒）ハ（ハ）驚（驚）守（守）れ（れ）あ（あ）ら（ら）ハ（ハ）産
 前（産前）等（等）此（此）事（事）如（如）し ○ 昔（昔）附（附）ハ（ハ）襦（襦）袢（袢）を（を）男（男）子（子）ハ（ハ）父（父）の舊（舊）衣（衣）女（女）子（子）ハ（ハ）母（母）の舊

雲髻



戴包頭圖



簪



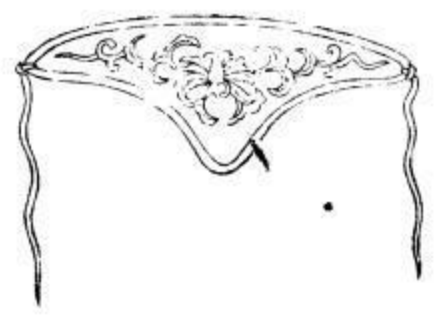
筓



全



包頭



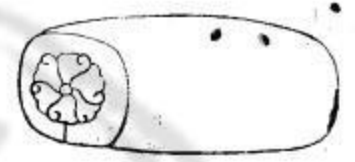
纏脚布



同上



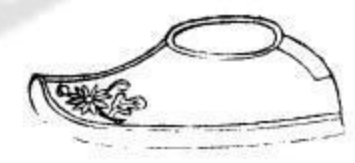
布枕



浩然巾



女鞋



衣成用ゆか類ありて高附袴とくつふ事なり

○子誕生の後母乳を以て乳母を一か膳抱入居て吃乳給ふむ

子又六果亦或は乳を吃せざるは以て乳母を隔らむ若し或は子長成の後官にはく飲或は家無乳母其乳母ハ子孫を以て倚靠

せざるもの多かれを呼ばれく一生を以て居事あり其後ハ多く又六果隔て居て隔らむ辛工と九ヶ月銀三拾目或は拾目不足に事

未分者ハ衣履行李等之自身備辨以若し村よとむく賤しき者成抱入居て一月七八日拾日程かり其日の衣服等も之を以て給與

故くくして一生抱入切あひの事多し人母嫁せしむ類の事なり

一

清俗紀聞卷之六



國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

清俗紀聞卷之七

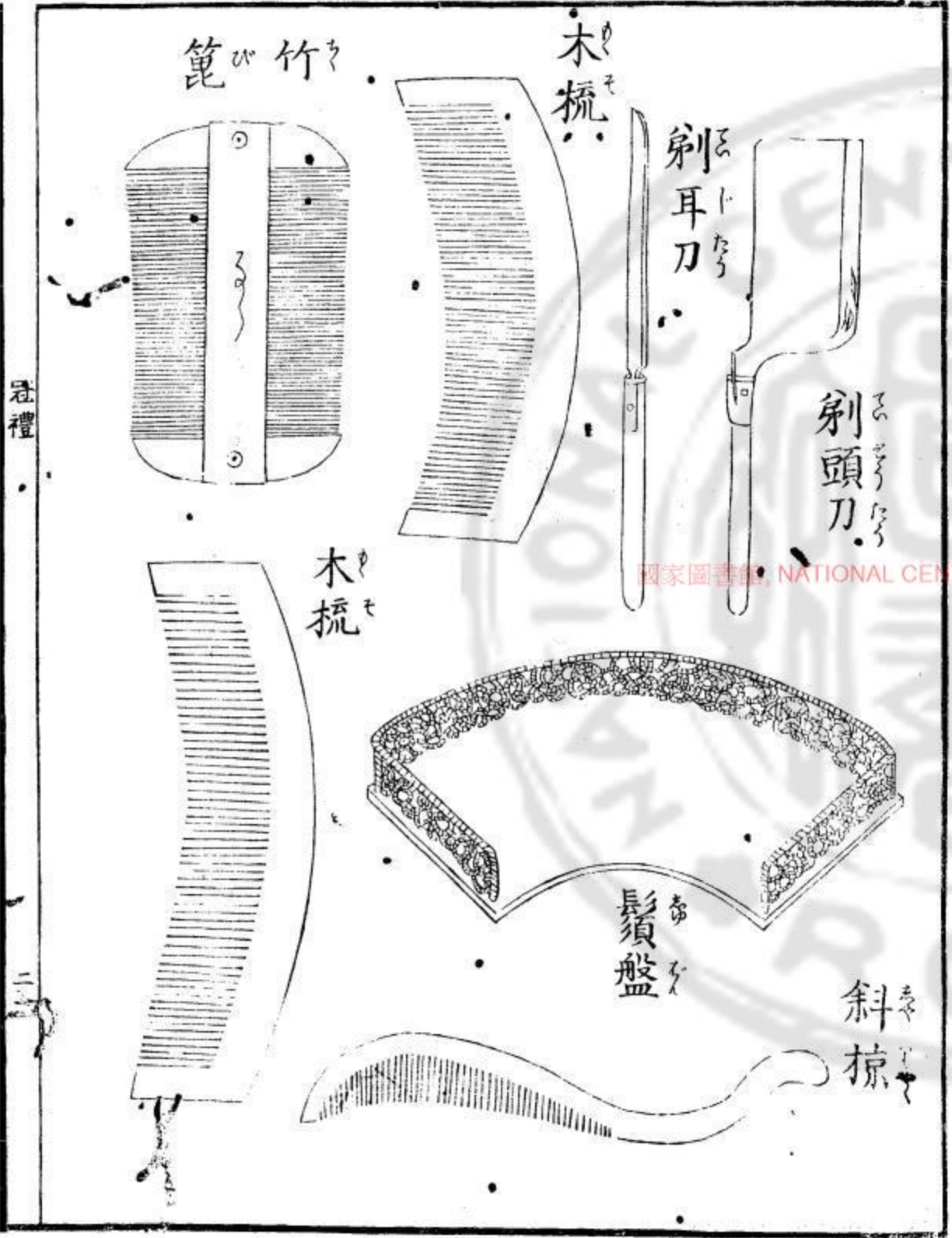
冠禮

○今清の代冠禮は古式絶く傳ふ事形一男子歳歳少て加冠せしむ
 定免も勿く十二に果の内恰好見あり髪え服を多しお賀する素も
 女子も歳果はく筭すやふ式也一十果以上にて許嫁す止ハ直子
 上筭は此日祝賀あふち上筭を程を以て許嫁成祝すふ心也
 酒宴を設く○男子ハ三に果よる頭の巾箱お髪を生し絲角お括ひ
 わち以て支方人王けく絲角を二つお括ひもあもあを張るは支障す
 利く花帽を戴き十二に果おならハ天徳月徳等此吉日成るる元
 服は○元振け而ち廳堂あふちハ房中おく利髪人を呼ぶ禮也
 命して面盆お湯成せしむ其刃を拵子に坐て利髪人湯おく頭

冠禮

NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

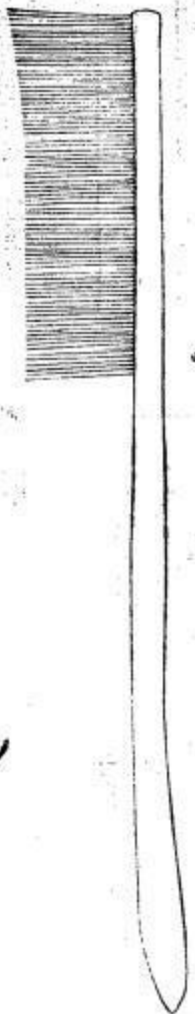
を志先し、頭の中は髪を剃り、餘り髪は剃り、剃りて志先は髪を木
 梳を以て梳し、竹篋に之を垢洗を能く振る、二つは辨分け打立髪を辯合と
 して、周羅髪を多し、髪先を紅黄の糸に留帽子を着、二十束余に
 も、此は花色黒等、此糸は用の帽子に左宿の時、睡帽を着、外出此
 節、大帽子を着、元振の目とて、親類は招請して祝賀を此事れ、
 都く剃髪人とも、下賤の者も剃髪梳、此は元振世より一人、
 の便、後六十五文、其間、以て元振此節、初く、髪を剃り、百文も、髪は小児の内、
 剃髪人を呼ぶ、及、髪を剃る、此節、命じて剃ら、九月、月、髪を剃る、
 是剃梳す、何とも、剃頭店あり、家内、亦、髪手を、三人、髪を剃る、
 行くと、剃梳せ、髪は、十文、十五文、も、遺は、一定、した、事なり、



冠禮

NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

抵子



油刷

○

女子の顔のあり或はぐんは髪を剃り胎髪を残しに又髪を
 髪残し髪ひき又足先を削り髪を剃り包む髪を剃り髪を剃り
 ひき先を纏足さふ十束頂を披髪とて顔際髪を剃り髪を剃り
 髪を剃り髪を剃り髪を剃り髪を剃り髪を剃り髪を剃り髪を剃り
 き十二三束になりて髪残し髪を剃り髪を剃り髪を剃り髪を剃り
 雲髪は髪を剃り髪を剃り髪を剃り髪を剃り髪を剃り髪を剃り
 後吉日伐え髪を剃り髪を剃り髪を剃り髪を剃り髪を剃り髪を剃り
 親類朋友等請て酒宴を設け祝賀す女の髪ハ婢命とて梳らむ
 男子三三束になりて自身食事を承ふ髪を剃り髪を剃り髪を剃り
 食事の時右の子に箸伐さう左の子に箸を持て合はるる
 朝夕二時を擧げて擧げに合ふ事許さば父と諸礼儀の道親

冠禮

類等此家多節作揖揖ハ好むを組掛を以て又手拱めと同一處を組掛す叩首拱めと同一處を組掛す
 等此作法長者み下りて兄弟と争ふは睦みふふ道を行く又此家此止
 士ら勿論農工商とてみ讀書寫字を習せ七八歳みたれば身成たさえ
 行ひを西へ先祖成大切み一徳家成眞道成ひきくせ身上福有かれ
 志先生を宿評み請へ至く貧賤ふ者も義學みばハ一中通りき
 學館みかくて詩書詩書ハ義を以ての義をわたりて詩成賦一文を作ふ事を習ふ
 進退應對の法法ハ式を以てを專ら教通り以若能也七歳發行ひかくあはは
 あつひの叱り又と赤擲して戒へ先西一再びする事を許さるひとて
 虚言成秘射弓騎馬算盤等此事ハ其人々の好みよと習はば
 女子ら専ら母の手もやみよと食事等の作法成たし由ふ事男子に
 習ら事形一五六歳みたれば起居の行儀法を教へ櫻りみはつてき

七歳の時先を承るるかみ成たす好に持事をかへ十歳みも亦
 日六繡花針工紡織の道を教導は六八歳衣履と多く縫匠を教
 へて仕立ふ少唯貨包烟包等成後事を教へも志し其程みよつて衣
 履の仕立ももてわたりわたり其母親繡花等法道を傳せされは近隣の婦人
 を請へあつひの繡娘繡花を傳せしかよひの教の人を呼ぶも習つて又七八
 歳の頃より女先生成煩して一字ハ勿論讀書詩作等を教ふ人も
 十二三歳みたれば閨門を知く人み見ゆふ事を由ふは後多く
 多々都屋成樓上み扱へ門戸を構へ出入成者みは年頃みたれば男女同
 席せは者焼れ事ハ其自然にまてせく詩文みおへ由ふ事か

冠禮

四

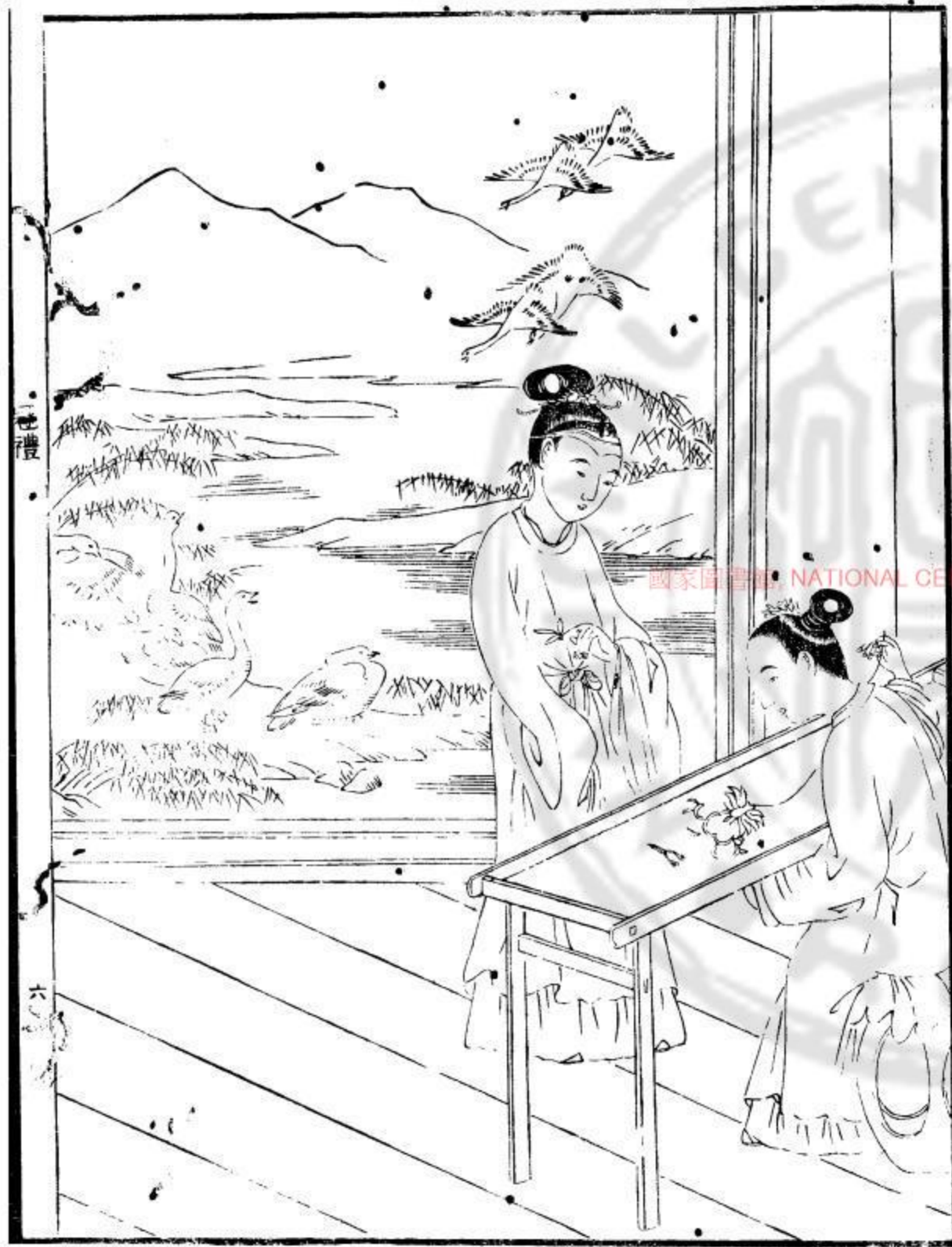
總角 花帽 辮子



後人可謂知禮矣
度德而處之量力而
行相時而勸善



冠禮



清俗紀聞卷之七



國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

式家女翰書

式家男翰書

台命

謹遵

某某郡年家茶姻弟某姓名端肅頓首拜

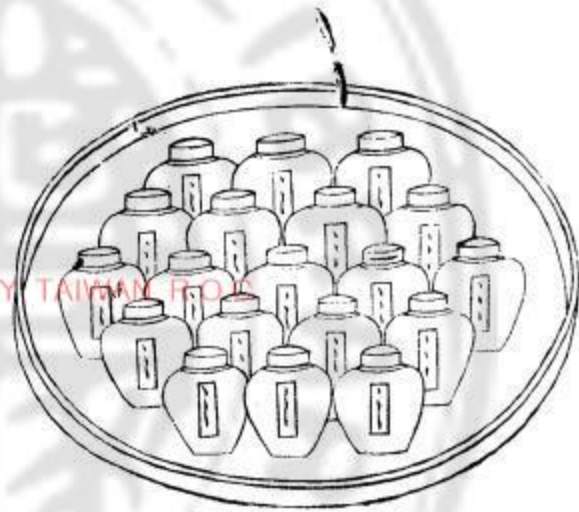
台允

恭求

某某郡年家茶姻弟某姓名端肅頓首拜

初訂姻禮帖式用梅紅全帖恭求台允四字用金箋寫
父或族長出名

茶授



色駕心龜みまふり初奉もあて女の方にはある存人在座請教と申入
取次の奴僕等々右の書翰茶授請取受取すに定す
人み違は主人書翰茶授受取す返翰を徳め取次の者より右の
使の者み違寸媒人等主人對面也

國家圖書館 NATIONAL CENTRAL LIBRARY TAIWAN

禮封筒用大紅紙正面金簽寫全啓二字

式面正筒封

全啓

接縫用糊牢貼口不封

露申

式面背筒封



○又數日過く吉日を撰り送盤送盤とは信札の送り物は事也一か送盒送り物ハ端物珠玉細工物并戒指工物并戒指多枚送る事を上算女が姑く算をりとす此時取結の

吉期を撰り女家も通す是を道日道日とは信札の日を定むる事とす此吉日陰陽先日取を男の方より通したる時女の方みりつゝ是ハ此方の氣え多る是ハ此方の氣

若故障等あり外此吉日陰陽先み吉日代撰此吉日陰陽先たる由媒の方み相候此吉日陰陽先とす是ハ此方の氣

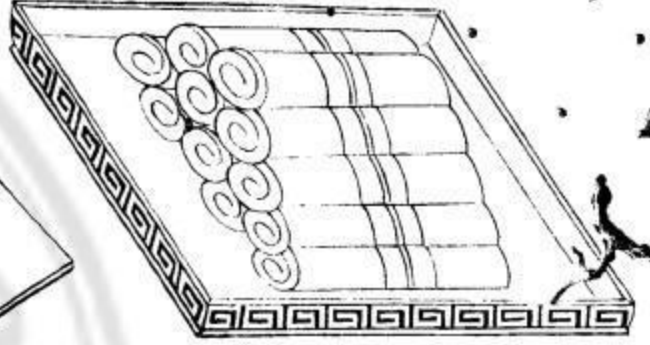
紉 紉



子 綴



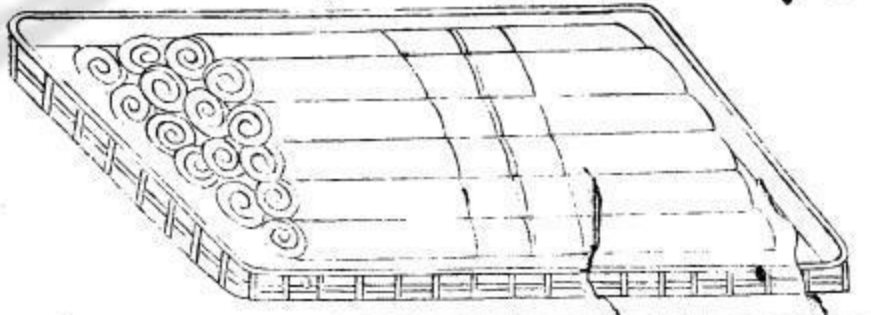
縷紗



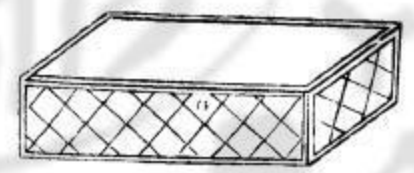
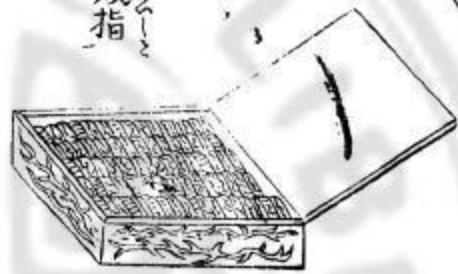
珠玉匣



緞子



手釧
俗稱戒指



○此時書簡及目錄を添へ使を以て女の方みせ及又嫁妝類を遣り申す有

双方より祝儀を以て使の者み銀子或遣す也書簡は父の名ありせ及父

あり者へ伯叔兄の名奉て遣す ○右結納の只受取の後四

五月も経く女の方より又嫁と物を珠玉緞匹の類不同あり及物珠玉

の類男家より物を以て送るも同物あり女の方見せ及又嫁を回

帖とつゝ返寄也 此時女の八字送る 双方の贈答は婚禮道具の

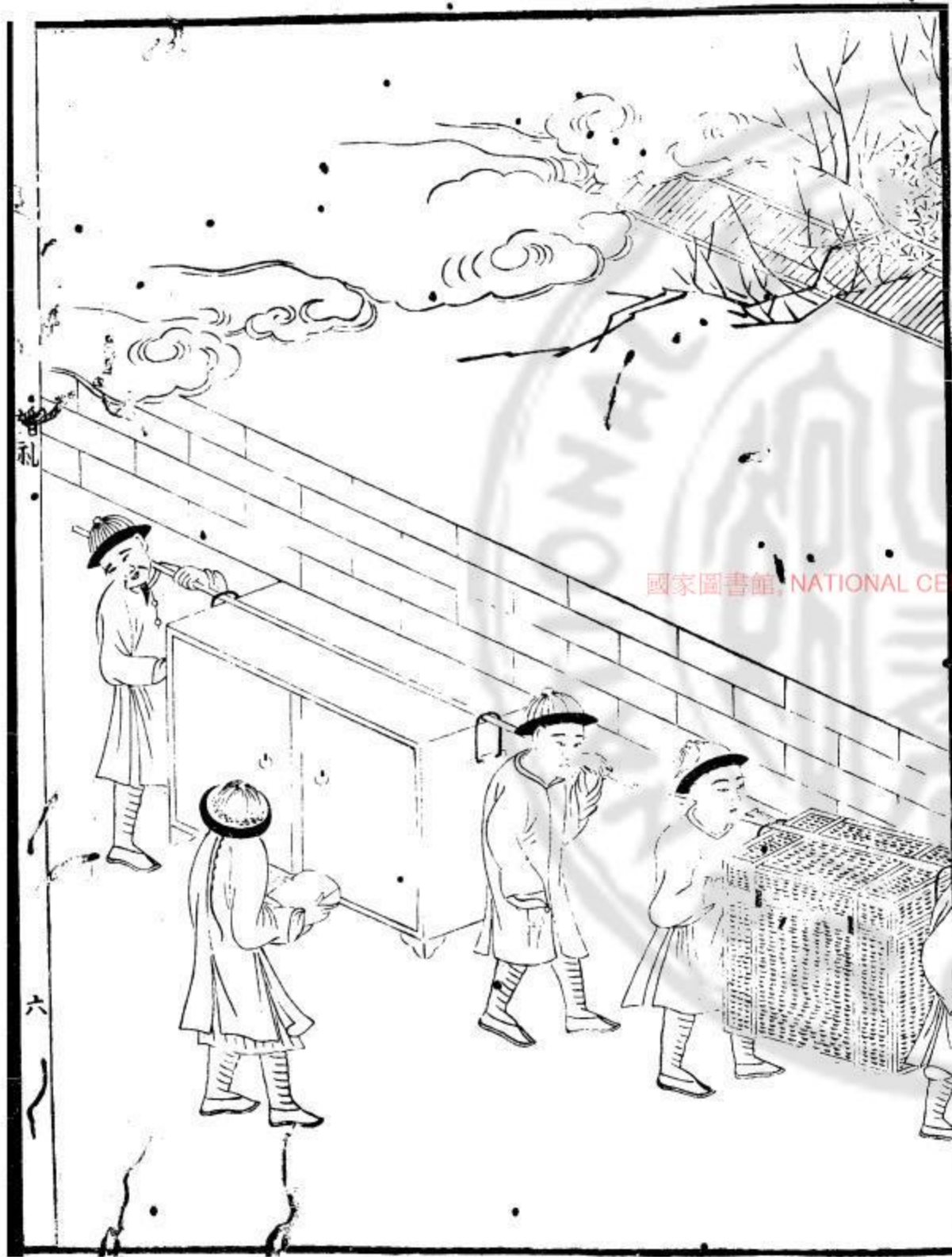
用意せ女の方み諸及具の用意出来て男の方より通したる婚禮吉烟の

三日程の如き粧奩を贈る ○粧奩の目錄男の方み使の者持せ男の方

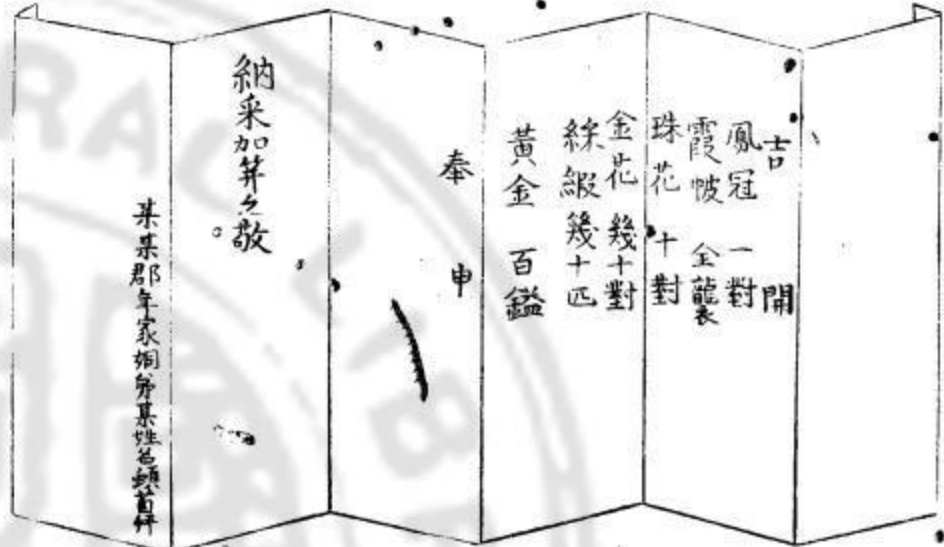
み及又次の者受取せ及又取る所並使の者み祝儀或は嫁入道具の

釣基やうねふものみへのせは道具も或兩人み中擔ひみ一人取

多く持運を圖儀せり

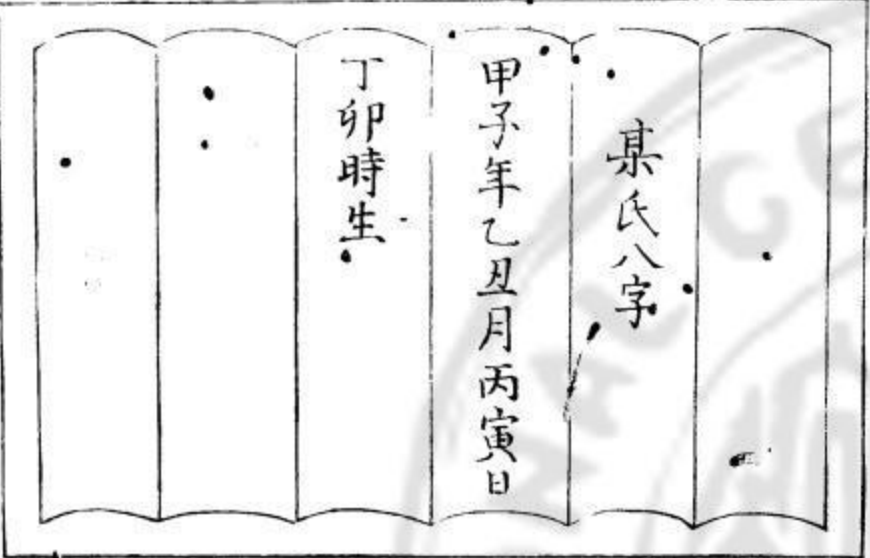


用梅紅全帖第七頁正面寫起每四行或六行不等納采加算之敬六字用
 金簽寫頁數六頁為率故其物件多則每頁多寫少則少寫出名與帖式同



女家同帖式寫法

吉 開
 朝冠 一品
 袍套 全福
 文房多寶全副
 京靴 成雙
 出名與男家同



女家送粧奩帖式同前

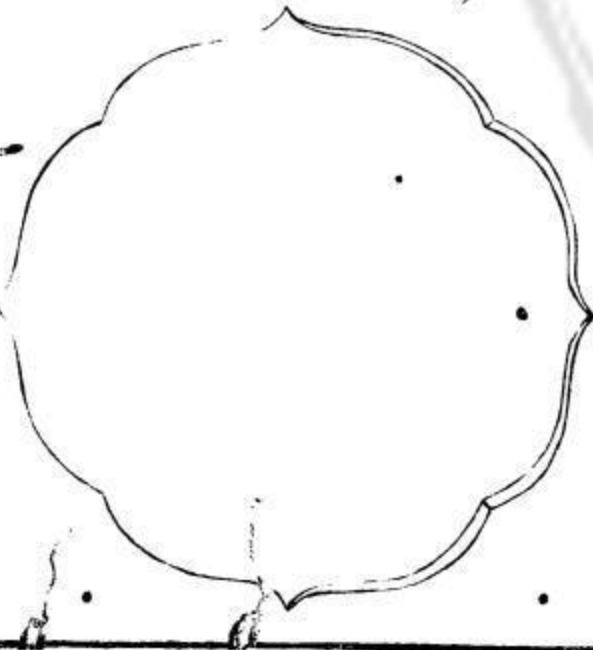
養生某姓名頭首拜

吉 開
 梳粧臺 全副
 圈椅 滿堂
 立臺 成對
 圓爐 成雙
 衣箱幾十對
 子孫桶千代
 慶 餘

鏡子背子



鏡子面鏡



手鐲



拜盒



針線匣



戒指



同心釧



耳環



鈕鈎



男家回謝帖式

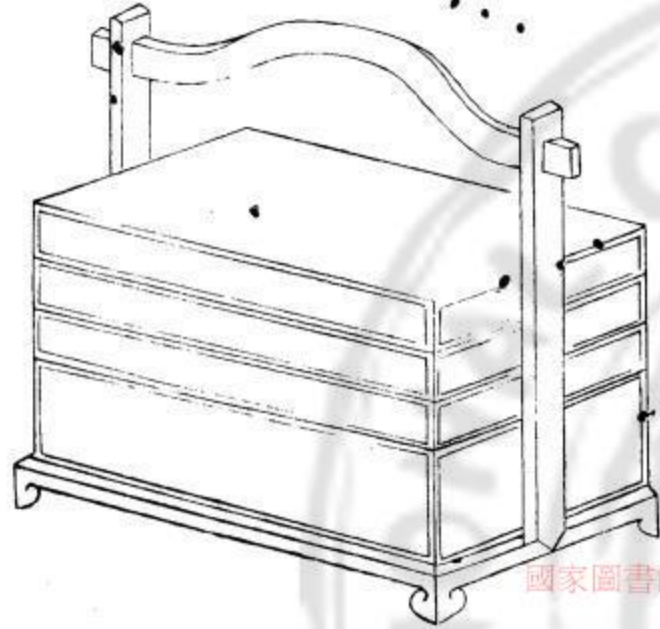
謝

領

領謝二字用金簽

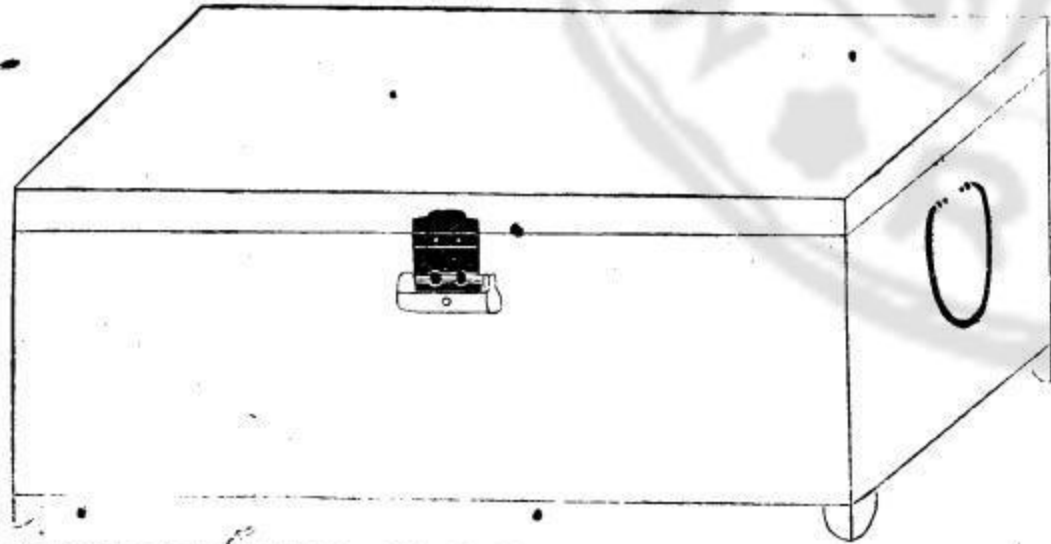
門下子婿某姓名端肅頓首百拜

櫛笥



衣箱

箱鋪蓋
一作箱蓋



贈礼

九

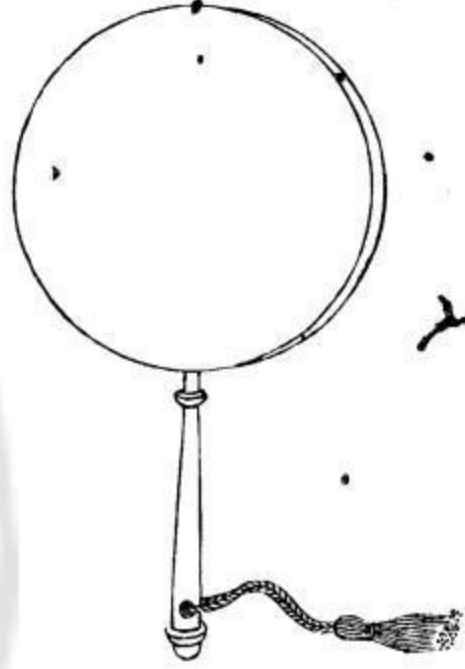
香水瓶



粉盒



鏡

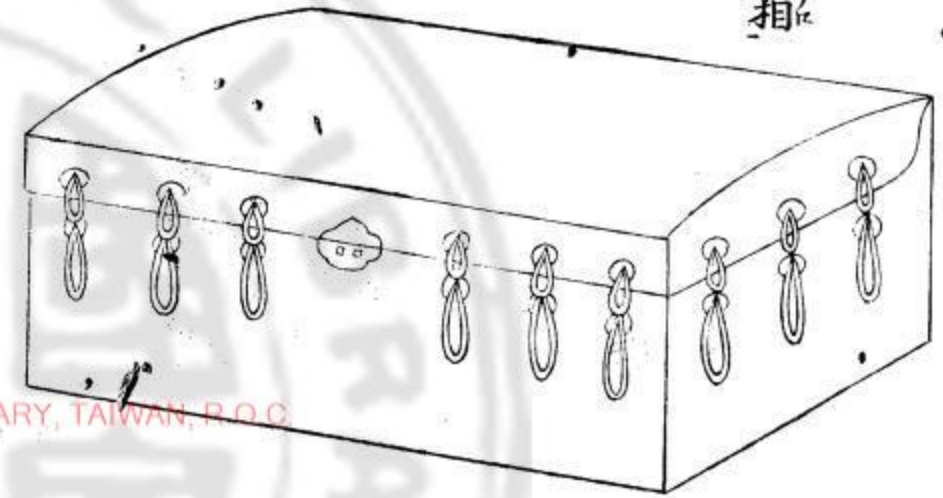


鏡臺

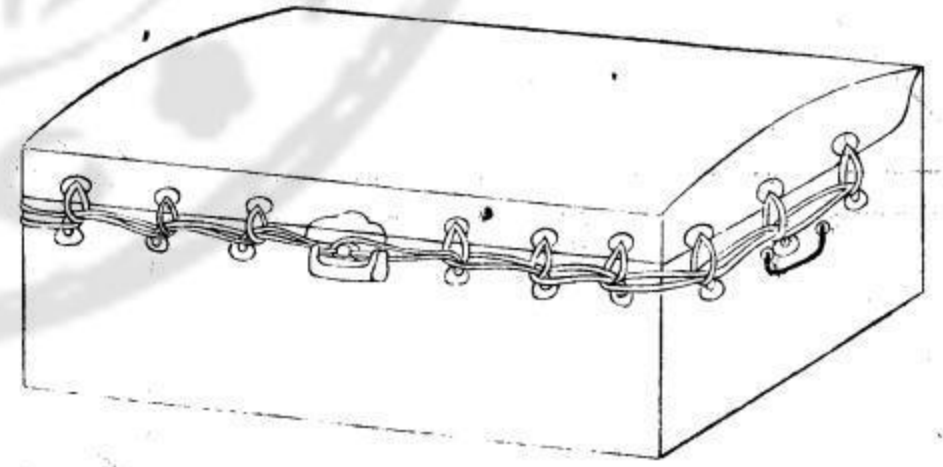


國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN

皮箱
一作衣箱



全上



○做親の目七時分より媒人男の方みより用意よりの同道をへるとは婿

衣服をひめ用意して 婿の衣振常より立派に出さ 花轎 花轎ハ旗子縮綿糸をめぐり寄

用意 在敷受樂人找つて 樂人は師者者の類やく盲人 女の方みゆく是を親迎

とふ 此時婿ハゆく媒人むらりゆく受もあり媒人も婿もさきみのも 婿親迎の時岳父

の廳上の中央に書置架設け婿の衣裳を試みて支房四寶を 筆硯

を文房四寶 教之云々受小詩の題を書き置或ハ文章此題を出し書置乞取

事と詩文の題ハ岳父と出は又女詩文も志る者ハ女より題を出さる

○大戸の家ハ 家口十四五人以上 媒人ありて男家の媒人の女家も好す

女家の媒人の男家も面談せむ中戸の家以下ハ 家口七人以上 好むてもな

しあられも始終の花送みの両家の媒人もありて花送成賜く媒人の



壻ひこの轎キヤウツツ子女家にの大門だいもん前まへに至いたるを見みて女家にの奴僕ぬやく壻にと祝儀しゆぎ遣やり
 求もとむ人ひと為なり門かどを閉しめて居ゐる此こゝ特とく壻にの下部しもぶより女家にの下部しもぶより
 祝儀しゆぎを遣やり門かどを開ひらかすといふ門かどは壻にの轎キヤウツツ子女家にの門かど内うちに
 通とほすは祝儀家にの貧ひん富ふによりて
五十日白目二百日等かきす
 此こゝ夜よ壻にの方かたより女家にの三度さんどの書翰しよかんを遣やり
 初度しよどの迎むかひ轎キヤウツツ子女家にの書翰しよかん二度目にどめの交まじり度どありたりといふ書翰しよかん
 三度目さんどめの合あひ色いろの迎むかひ遣やり書翰しよかんあり女にの家いへ半はん町ちやう程ほども之これを
 媒まへ人ひとの懐ふところ中ちゆうより初度しよどの書翰しよかんを出だし拜はい匣いへ入いれ止とどめ使つかひの者もの持もつ
 かるせに女家にさへ縁ゆかり得える主人しゆじん門かど前まへ近ちかひみ出でる

式帖道一第

男家迎娶三帖式用大紅全帖絲輿恭迎四字用金簽父或族長出

絲輿恭

某某年某月某日某某名端肅頓首拜

迎

速粧二字用金簽

速

同前

粧

式帖道二第

式帖道三第

恭迎合盃四字用金簽

恭迎

合盃

○女家の少一奉茶めく媒人も婿も轎子より入りて門前まで至ると主人出む

廳堂一母外案内して請上坐とて奉茶拱く挨拶以媒人も今日恭喜

と會叙する人より且請坐とて媒人手拱く得罪とて拵子

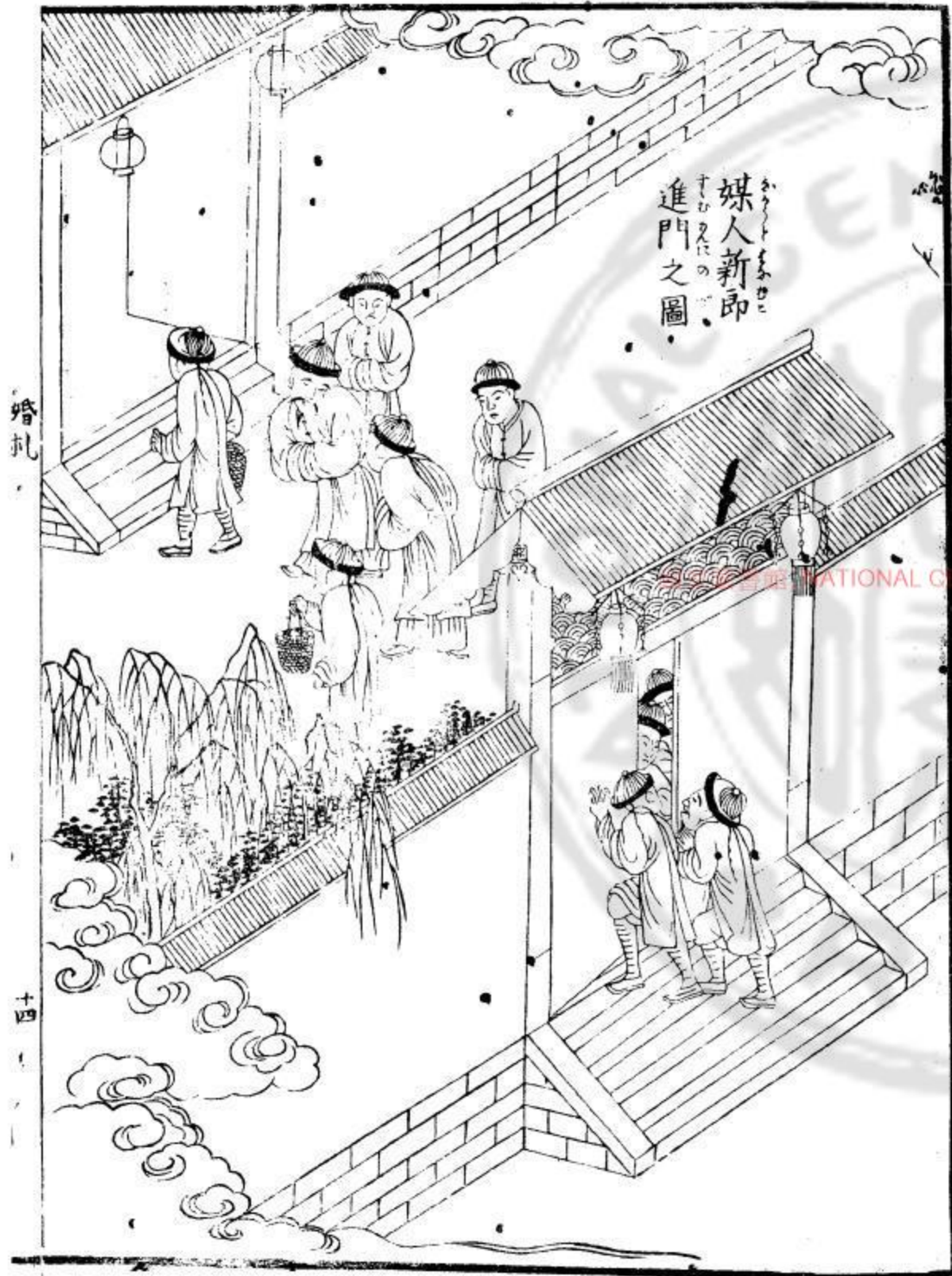
坐を婿の始終媒人の跡みし法と諸事媒人の指圖も位す

○花轎へ新娘の内房内房ハカの兵衛也

婚禮

主人自是後多々媒人み進め今晩多勞且請拜茶と挨拶は其の媒人
 椅子成さく茶碗を手に受取得罪多謝と會釈して元のく椅子
 み置し茶碗を親類朋友など相伴の面々ゆく媒人みむる今晩勞駕
 種勞玉成請阿と挨拶は其の媒人まう又たあしく請阿恭喜々々らの
 多々互み成掛く逸く挨拶は其の元のおく媒人の椅子み坐し主
 人の肉み入る相伴の親戚朋友をも椅子み置し其の奴僕も成持
 出く逸く其の進む茶畢つて柱圓湯茶篇豆湯ありひの杏酪鶏豆
 湯の類一種又二種出は畢く奴僕卓子を先媒人の茶み居
 ぬ兒其の成掛く卓子を其の出主人おく請々々あはれして夫
 之止着座し酒瓶をもちゆく媒人の茶は酒鍾み酒成斟く媒人
 之く得罪と挨拶して酒鍾をいぬ兒卓子のうゑみあはれ主人まう

相伴の面々も酒成斟く相伴のめくも裁き媒人みむる請々
 挨拶は其の媒人猪は成一存のむ相伴の面々も一同おのむ其の成
 上菜とくハ僕茶を持出く卓子の上おね主人請菜とく媒人
 之く多謝とく相伴人着成さく茶の上成さく其の成さく
 媒人み請々とく其の成さく媒人相伴人み請先々々々て辭讓
 之く先一着吃され皆く着成ね後一着吃酒をのむ
 の式賓客
 之く其の成さく
 大抵水酒寡酒ある類成さく一雙を成雙とくハ奴席を成
 席とく其の類とく其の成さくハ雙を成さく



婚札

十四



○媒人程合度見せしむるに二度目の書簡致出せ此書簡出さるるに
 花娘み衣服を着せんとて花娘交度出さるると思ふに媒人又二度
 目れ書簡致出せ此媒人より多蒙成設深感厚意且請成
 席をゆるす主人程より酒席致引く既花娘の用意物出さる
 内房のけしき直み轎子にのせ僕等を轎子を昇りて廳堂小送る
 出に媒人より辭儀をせし先みあるに花娘の轎
 子を昇りて親類の婦女ら内房のけしき親類朋友らも
 外廳のけしきより於其のけしきも主人みむるに多謝
 夫人錯愛とらひ又一度客みむるに各位先生少陪とらひ
 此れは主人とて縁とたてて婿不敢々々請留歩とらひ婿廳堂
 けしき出れば主人堂をみむるに禮儀をせし媒人堂をみむるに主人

並み親類朋友杯に辭儀をせし先みは門前みむるに轎子小のさ
 花娘の轎子と媒人の轎子昇りて行列をせし此
 花娘の轎子成さるは花娘昇出せしとて先祖四只
 以上の官み昇りて花娘の子孫を執事等の儀仗致せし
 四只以上の官
 知府布政司の類
 紅燈 執事 鼓樂 旺相 紅黑帽 喝道
 花娘の轎子成さるは花娘昇出せしとて先祖四只
 以上の官み昇りて花娘の子孫を執事等の儀仗致せし
 ○男家より一丁程もなかり媒人人を遣へ嫁の事なかり致さる

男家の門前に入りて出立の儀を成し、婿の母を成候世に媒人の使來止へ申す内、
 らし内申も用意して主人媒人の返りて門限を知りて身を措くは媒人輜
 子より下りて主人の言ふ事ば主人勞駕と云媒人豈敢と答主人先申事業
 肉にて廳堂におりて主人請上堅と云媒人不敢と答主人再意請
 堅と云ハ媒人得罪と云く椅子におりて此時主人婿婿内申入ふ其
 向ふ新娘の轎子來れハ傍娘類 新娘を轎子より下りて廳堂の口より傍
 娘等両方より手引引く媒人の次におりて養娘等傍におりて流養娘ハ死
 娘の衣裳の下に披風袂衣と云指常の衣服を穿し上り大紅の圓領と云
 上着成着し既にお頭面覆と云紅の被中の物成着し ○媒人より内申事
 婿を伴ひ廳堂にお出立花婿を新郎にお見えせしむ此時親殿の内にお
 年の者より又ハ奴僕の内より二人一對の燭臺にお金銀めて色々の茶碗を函

多か大なる紅蠟燭を立主人左右にお立並く持出て新人二人の前にお立
 花燭と云ハ新郎婿にお向ひ礼儀をせしむ傍答礼と椅子にお座す新娘ハ椅子に
 坐せし ○新人相見事ハ婿の父母廳堂にお上り椅子にお着し新人二人並びて
 天地を拜し次ハ家廟を拜し次ハ父母を拜す婿と新人二人を傍娘娘も
 業内にて房中にお入此際にお母ハ廳堂を立ち内廳に入ふ父ハ媒人並親親客
 にお請寛と挨拶して内廳にお入ふ外廳の客におく坐立と云詰詰におハ奴僕
 茶を持出て媒人にお先次にお相伴の客におく茶成出し茶成と云桂圓
 湯扁豆湯杏酪の類を出し卓子を出し酒宴を始め主人におく媒人の石を取
 ち酒を斟あしにけりて奉敬一盃種々費心多勞々々と挨拶して其外の客にお
 衆位相煩奉陪請寛暢飲と挨拶して酒成と云ハ 新娘を先にお房中へ
 申す事ハ新郎にお入り申すハ養娘と云相公請坐と云ハ新郎床の縁にお

女婦送出
内房之圖



新人
花轎



腰を掛ふ此の傍娘新娘を伴ひ同座みせしむ傍娘合丞盃を持出く二ツ
 小刻く手にもち了髪等酒瓶の酒を飲くこの酒みはくせしむるに
 移し合せし新人二人み一時み舌り心足合丞盃を合丞盃と
 合丞盃来て始く花娘の頭面覆をさる圓領を脱せ天青色の
 色やく男子の手に指す事終れば先祖も天子も
 類の婦女姉妹の顔みみして終活して盃事わり新娘と合丞盃終活終生傍娘
 養娘も合丞盃に○外廳の媒人其外の客酒宴深更みつゝも眞酎あまら
 管家 下部の内年よりみみ 紙みく張ぬきにさくさく獅子を持出く廳堂のま
 かに居まらば衆客酒宴無事みみ争て獅子のしをさる足踏をなして終り合丞
 小を終り○婿の外廳の客み陪坐せ天地廟拜して婿の臥房み入ふ翌朝
 の酒席み陪坐し 婿一人臥房み入 酒宴翌朝までみおふ翌翌日の衆客盛
 其夜陪坐せし

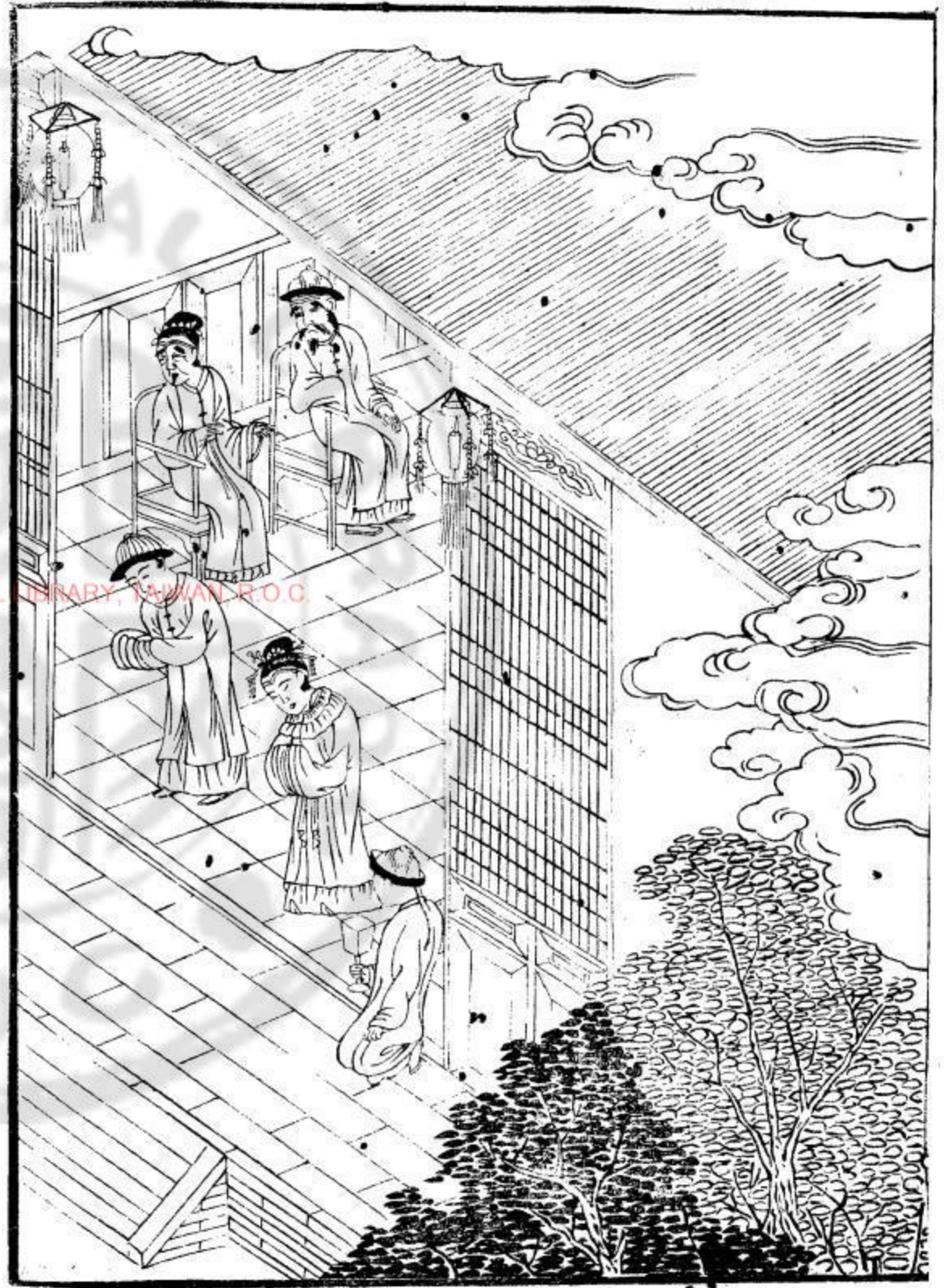
敬も言はるる花娘を外廳の上座み座せしめ父母並に親類朋友等盃事し
 之も音楽舞踏して其日れ夕つに早子をさるととよると圓千を十二つをさる
 皿のちねふ物み菓物山海の珍味を 圓千つゝも花娘多くハ房中み入く外廳
 つゝぬみふもち 備え 船皿あり ぬみど夜み入く傍娘と花娘は衣服改更させ睡房み入く此日ハ昏みふ
 且ても燭臺み蠟燭を點しなるとぬみど夜み入く酒席をさる 昏二日目也
 ○昏三日目みと花娘早くねれて父母の居同みゆきと拜し房中み入ふ婿も
 ちやくねきとて度し父母を拜し房中み入くは新人二人同卓みく朝飯を吃
 此此日ハ親類朋友都来道喜し親類朋友より慶賀其賜呈物みくは何れも
 謝帖を待する也使の者みハ賞封をさる 婚礼の日とて送る
 婚儀終り三日目ありハ五日目婿小婿の方より請帖をぬく外父外母を招
 請する事ありハ進門といふ 請帖ハ父の名をぬくハ入 此日ハ酒宴をりふ
 外母も母とて帖をぬく



婚禮



新人拜
天地





○酒宴後更におねで客をも挨拶せよと主人も程人を見合々席を納

○進門をみる教日して舅れこを婿を招請する事あり此時新娘も伴

ひり是を回門と云ふ此方の里初くさるる ○婿舅方れ門み入るは舅父廳堂

りみ出ひり業内を婿廳堂もわく下座のかみもを拵くおる夫人請坐

とへ婿辭讓して不敢と答て坐せぬ夫人強く請坐々々我也要坐

此婿得罪と云ふ夫人まげ主席み坐せぬ婿も坐せぬ親戚朋交も出さ

婿み對面を婿まて逸く辭讓して請坐々々と云ふ皆一同み椅子に坐す

○花娘の轎子れは、妻み内廳口まで歸さむ轎子もあつて養娘あど付

多廳み入る ○内廳み嫁の母をけり免姉妹姑の類までを相伴して嫁

食應に父を折くありて酒を初む外廳の酒宴事並に内廳も見合せて

酒宴を収む婿まて夫人み挨拶して廳をみる内廳もも嫁も

姉妹も辭儀して外廳み出さる外廳みゆる轎子に乗り養娘あど付

そひて門を出る ○婿姻の後月程もして嫁親里み帰省する事あり

此時人事として只く贈物あり菓物時新の物或は火腿の類等 親里み一月程も逗留

迎ふ事して帰ふ此れ舅の方よりもねらり物あり只くおとりの手紙

○舅の方より娘み逢ふ此時の奴僕を以て中遣せば嫁も公姑みう

かひ其のちまふ伺ひ候日みまふあへてそと目取を遣はる事あり

の方み返来して其日にありて公姑夫まみ候を乞くゆく親親朋

友より花娘成招請する事あり 翌之年の正月々あるいと喜ば延あどの

候あてにまねく態も嫁をはせゆく事あり

清俗紀聞卷之八

紙獅子



國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

函號	
架號	
順位	

國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.



清俗紀聞卷之九

賓客

○請客の時ハ茶以當飯日廉酒を進下度飯案内の帖成云々先使を以て

其為日廳堂ヤビみ諸不表門まで掃除一酒宴の用意成云々

請帖を紅唐紙をもち以指書ゆき云々先貴人ハ白唐紙

○相伴の向人ハ入るを請帖みかき事云々

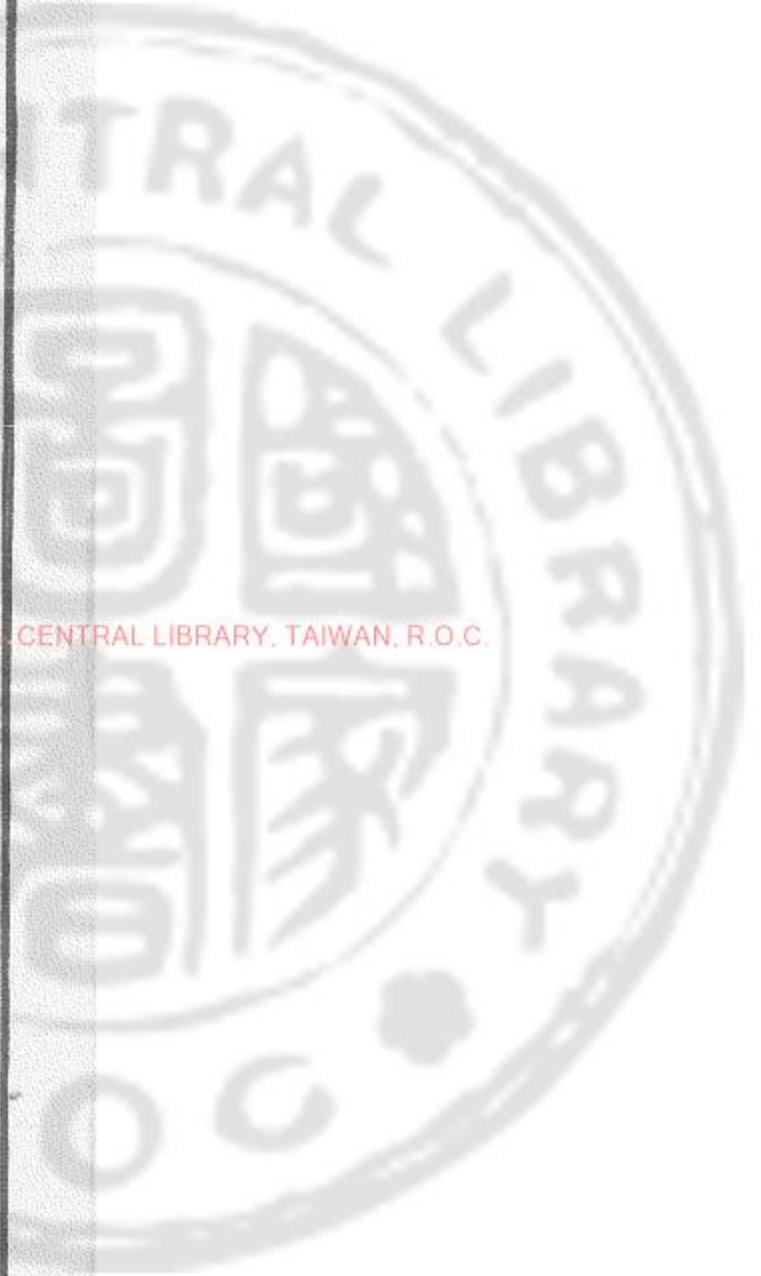
帖の文面み幾只某人を請を来と倍成頼云々

客方より茶礼み使者ありハ自身より謝す云々

客方より茶礼み使者ありハ自身より謝す云々

客方より茶礼み使者ありハ自身より謝す云々

客方より茶礼み使者ありハ自身より謝す云々



謹卜某日敬具杯茗奉迎

高軒側聆

鴻誨伏惟

惠然早臨曷勝榮感之至

右啓

大德望某號某姓老大人 臺下

春晚生某姓名頓首拜

CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

○賓當日持某此土產物なり貴人へて免て見ゆふとも贄等持来す類

事家一進物と兩三日以て亦小符系又ねくく事あり其席に書み

よらそ品く不同ありたよへ壽延中と壽麵壽桃と湯餅會満月等

の延中猪肉鶏蛋小児之のねくものねく帽子胸当等贄時の請酒み

魚肉猪肉あひの時新の菓子等あり ○廳堂かきりつけ先四面小蜂猴圖

蜂猴の封候と同音之寶成 或ハ祝意の文字又ハ花を此掛物をかけ上之類をうち

掛のく左右ハ祝意の文又ハ貴人有徳の人此書さず聯成け亦小寫年茂

居卓幃を掛卓此上小宣徳をふ香爐小香を焚錫の燭臺一對小紅燭

を五瓶一対時候の茶花色く取きてつけおれ申以て内室中の香爐燭臺を

貴客

二

式面正筒封

某姓名老大人帳下

恭謝

前席盛饌

某姓某名拜

式畧函書

用ハ唯掛物の花唐金綾物等此大さ形の花籠多分に生
むり卓帷々紅縵子羅紗等中造る金糸は麒麟雨竜蝙蝠等
を縫箔し布裏を用也

數日不面

足下屋梁顔色無刺不在念也

足下倘亦念及鄙生乎請移

玉趾早降話叙衷曲即刺竝聽

履聲不一

某字某姓老長翁

台電

某姓某名具

某月某日發

同答覆

別來數日真若九秋之隔忽辱

寵招恨不能飛

左右適緣冗羈姑容片刻即當趨

命此

覆

某々老長兄台展

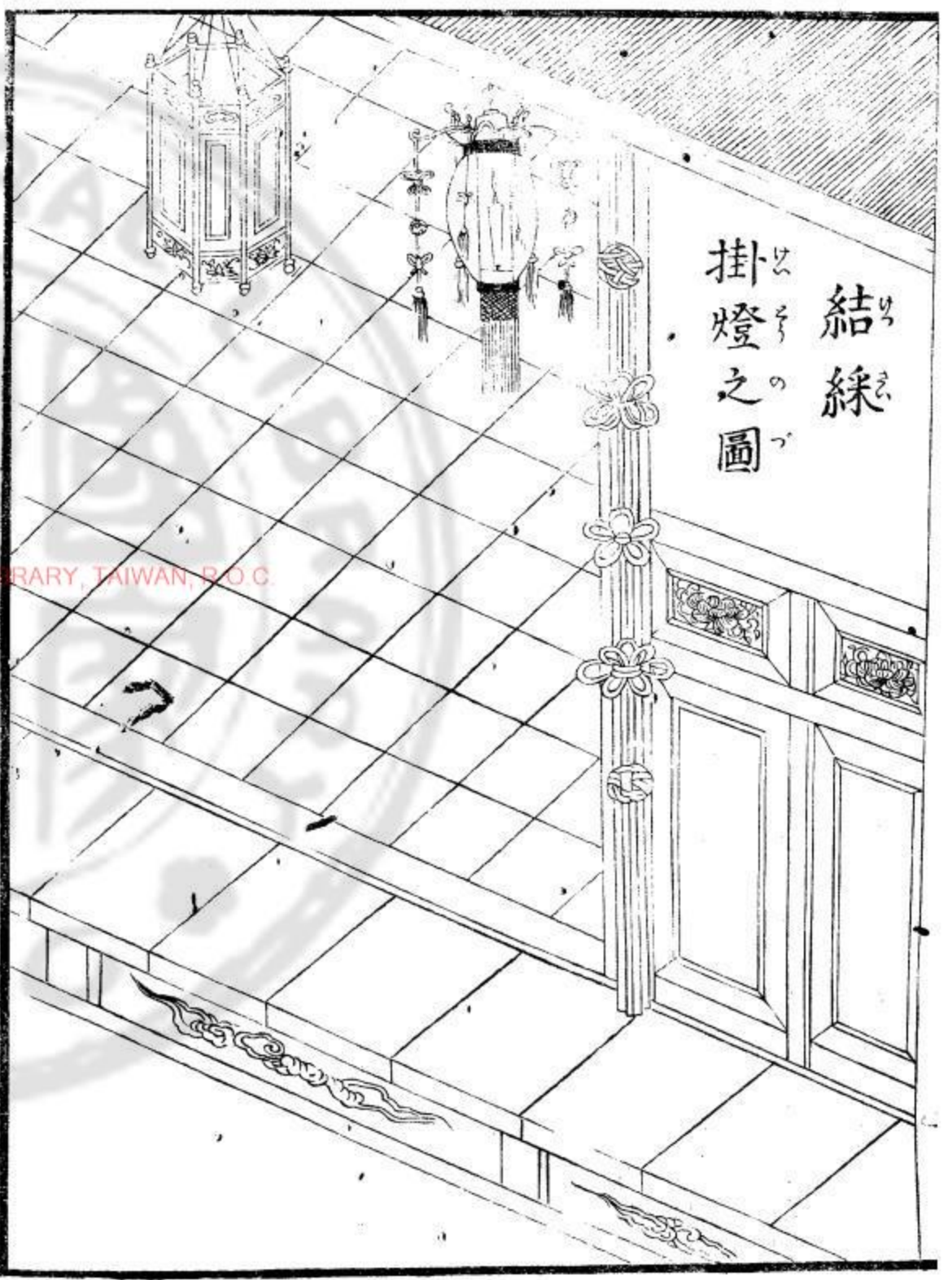
某姓某名

即刻

○廳堂の上面に楹に紅緒綿めく水引を張る一間二間を以て結縁し下ハ
鋪毛の上之残る紅緒を赤く冬向寒冷の多し廳堂を用ひて暖閣とて
下ハ板をめぐり四方とも小風の漏れぬやみあつひたか座をみ毛纏成

鋪く若暖閣を多し廳堂鋪毛の上みなんほうを赤長之毛纏成結
縁に紅緒綿めく牡丹花の形を結成下ハ上面卓子に茶に椅子を並上
座褥二二三の室糸をく人敷小應に上面小上客は座席を設け兩側
相伴人の敷小應に椅子を並同く座褥をのみか廳の内画蓋天井小
中諸所小紅燈紗燈羊角燈耀糸燈の成り軒先もたかき燈
籠をくけられた椅子のむきも廳の方位もあつ座褥も紙子天竺絨
等ほくまの綿成入し椅子は寸法もか多て造り夏向も佳紋席香
牛皮めくほく糸紅燈ハ紅緒綿めく張た糸燈籠紗燈ハ紗めく張る
死人物等成縁小羊角燈ハ羊角を煉りて硝子れぶくして張る耀
糸燈ハ硝子の玉を糸にけりぬれ色くまをすけて燈籠をまらんと
りの形を四種の燈籠つりて形ハ四角六かく丸等初かく

結綵
掛燈之圖



○座席と正面を上座とし右儀次座とし左儀三座とし正面は居座はき質は此

時ハ右儀上座とし左儀次座とし(○)正面より真向かありか下座のかかり

屏風ありハ右儀あり挿屏を左儀み卓子を並大花瓶み花を並ありハ

種々の造り花をかへ(○)廳堂の側書房小閣等あり正面は文字ハ

ありハ右の掛物成りけ卓子に文具書画の巻物書籍珠玉の細工物等

をかへ(○)婦女一同招請の節ハ内廳み席を設け傍付れ外廳

同一(○)勝平向ら惣食座の多ハ小座ハ料理の用意を並主人新ハ

献立成す事好し料理に一定の献立ありハ六碗八碗十碗十二碗なり

六碗茶ハ何れハ片點心らありハ後志好ハえハありハ後つち定りあり

ハ茶えん茶のりなりハ後志好ハえハありハ料理ハ此者ハ後つて惣あり

料理の品数者ハ此次第ハ飲食の部ハ詳あり

賓客



賓客坐位

卓子排設

○高位貴人招請の節は卓子二御上客一人別の卓子も相伴人一人或ハ

二人亭より下座も侍中以下は卓子一御に向客一人あるハ二人も

前の方に相伴人一人あるハ二人同卓もはく貴人おれば卓子に羅紗等に

多敷りの代敷は厚尺紙代もれ其之料理は排外を中通りければ茶物代

用ハ紙卓子ハ牙筋酒鍾磁碟調羹を傍に掛か著ら一せん紙代も

揚枝代一本で括つる包紙ハ口角折上之福壽等の文字を彫り文字は下

みらね唐紙を用も酒措口のハ皿一組づ茶代敷も懸り卓子もかき同卓

幾人とはよりて卓子二御三御五御をかく

○官民ともに皆卓子に食事をあし高位貴人を招請するも食

器は何れも焼物茶碗茶碗皿等あり食法は先右子も箸をとり並

み下してらんこれ内の貴物肉類を喫し終りて箸を収めし残り汁

廳堂下首

排設



をすくひ明ふけを吸て後又肉を喰ふ事なり初め汁を吸ふ事なれあり
 又膳に菜敷出の時と一碗とて以て菜を引くを其内小客の喫すは
 事とて好き菜と世を引すは強し並事もあるたは強きなりともあは
 菜のせまふよめく飯茶の菜を喫ふは失禮なる丸煮焼物等何方
 よも箸を下し何方より喰初むかふ不定なり菓子も下品く出さず時上

客とて相伴人へ挨拶する事も好し出物掃うと相伴ると上客へ向ひ請は
 と挨拶は長時上客と請ふとよく喫は又相伴同卓せられ煮物出さふと我
 箸をぬくはさしきで拭き上げ上客に詰むと上客箸有下して是を喫は
 客向きの名前の厨下よと持茶の同物にぬたを小器物も蓋を厚く持
 ちて卓上も蓋を蓋とせよとて持入る

宜しき刻限みかれは好時候請過來と使を以て中遣し客も時主人

衣服をあらうも先帽子被着し衣帯の振此新しく花垂れ多段ちやに
賓主ともに礼扱とそ外み形し色等も論する事なり官人とも胡見大祀
の外胡服代着も事なり武同みくいた人貴人高位み見ゆかた常
服の外礼扱なり客貴人かれ門外延延ひみ出中通りぬ廳堂口を叩
客も方一揖 揖はあひを相腰を ちやくも人今日屈駕不勝感激と挨拶す
客も今日相腰不必多煩ふと挨拶も及び主人も代扱す 扱はあひを相腰を
且請廳上坐とちやく先みたち案内は客路みちるひ廳上み登る主人は下
座みちる請上首座とちやく客不敢と再三禮讓して椅子のかわらにあり
相伴の者出れば客椅子をもち止り代扱す恕罪とちやく相伴人も拱
ちやく挨拶す雙方禮讓をもち天也和暖好熱阿凉快冷得緊好天
下雨久違尊翁好麼尊體沒有遠和麼長久不得拜候恕罪々々

ふやくちやく挨拶ありとて 挨拶も禮讓と歸儀を 互に請坐とちやく客先椅
子み坐に相伴人ち側の椅子み坐に客貴人ちみ相伴人敢て坐せは
ちやく侍中通とちやく成へ不底坐しちやく下座の椅子み坐は客とちやく上茶
又ハ献茶とちやく不勞賜茶と挨拶す僕茶成合みちやくせとちやく一ツゆもち
出さ 茶も無茶成茶成に入湯をて茶成儀ひ持ち茶成日 主人座をちやく茶を
請取客の茶も持し客もちやく兩手にちやくそつちやくたのちみ茶碗を持ちの
ちやく茶成取椅子の服も並座定も送ち茶成自ちみ持しちやく皆指ひ
ちやく人拱手して請用茶とちやく上客も相伴人ちやく各辭儀をて茶成喫
ちやく人ちやく喫は茶成碗をちやく持ちちやく請取茶碗とちやく僕盆を捧げてちやく
各茶成ちやくちやく茶碗を盤もちやくちやく移ちみ音せぬちやくに茶成あり僕
茶成を引ちやくちやく茶成むけちやく跡ちやくちやく引ふ是ハ上客を款待

賓客

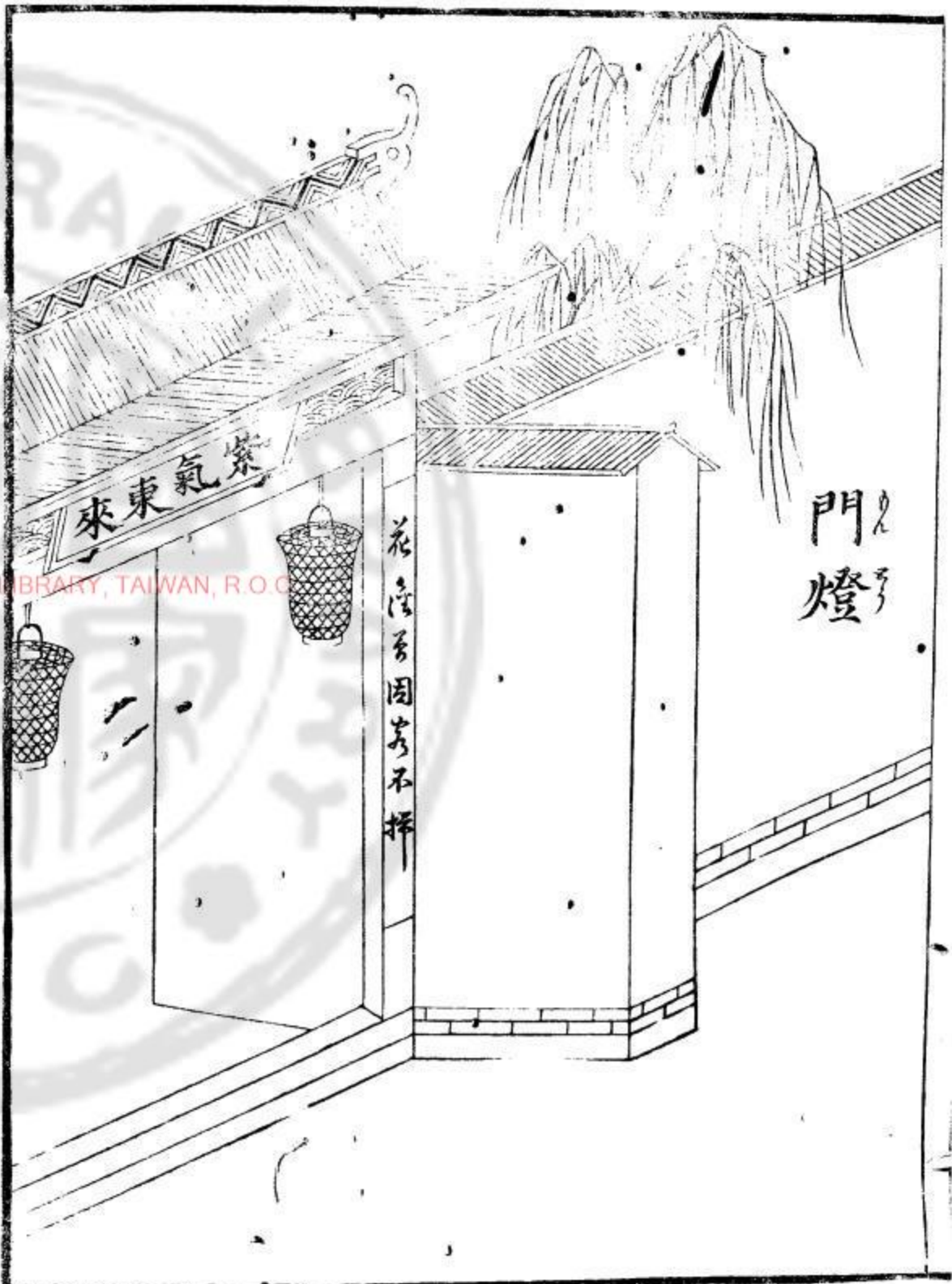
多不取請回と自ら人又進く請が客得罪とよく其成由馬駕籠も
茶を待く人毛門内(引)とふ其官人かた行ふ事あり

座並ち上客才一位お坐し年長の人才二席お坐し年若い其次お坐
す若親類一座お坐し母方の親類成其次と父方の親類を下座お坐
し父叔舅先生好く上座お坐し子孫婿才子等の椅子お坐せ
挨拶を受けて後お坐し又高位貴人官向かき長き勿論を官たるとも
我より排行の若長はらひ年長の宿へはる人敢てせは宿成
一廳の西面お坐し下座お坐し以宿する座成命して側お坐し相向
の宿へは對して見ゆ尊長の宿二人お坐し座の正面真向一席右の方
二席左の方一三席と順にお坐し侍は座の右の方一三席左の方一三席又
右の方一三席左の方一三席と順にお坐しにりゆく宿へは向ひの時右を宿位

たを宿位と定む但いりかとの上宿たるとも向成隔るは成陽か等(其事)は

○ 查客おく量方限と客限と時ハ其就相伴人成と親友なりお寄て
まの宿へは首尾よくた進く恭喜と祝しつは且も廳堂お請し改く酒
宴を備け飲酌は且成洗厨と成 厨の基石より相限の同成あり(其)残物をまつは
残物よく酒宴を催はる事も残物の用ひす別限お用意して成く
若夜客お坐し洗厨ハ翌日俣は相伴人の内お洗厨お残るもあはし
席おもわつ) ○ 客席お鼓樂成も做戲をうて款待す志し席中ゆく踊
ふ事成 廳堂の外庭へ戲臺を搦し踊らし踊る質人の集りたるか又
之因連の場お坐し古文の内より撰り出は鼓樂等の鳴物をもあはれは席
中ゆく相傳は 戲臺の圖を祭礼の
客席お分はし衣表門は小燈籠一對おけり灯は

○ 客席お分はし衣表門は小燈籠一對おけり灯は



客貴人あはれはる人共羽立日更お礼み以 昨蒙光駕蓬壁生耀特

來拜謝之小客もく在宿あはれの堂お讀み見之昨兼厚待盛設多謝々々

かして挨拶して茶を吐は替く控括して引取お茶を在宿せられお礼みとあるた

かして紙に次此者へおひねられてお客方お羽立日か又と一あり此内お礼みと

能方そまに礼おゆくとお紅唐帝此名帖を持ゆ親友等の請酒の礼お

名帖おねよ字貴人へかあはれ名帖を用由

婦女の親族の外ま移り奉あしたと親族たるとは男女同席する事お

婦女をかあはれ内廳内房ゆく酒宴をお

氣禮其外諸祝言或は見舞等以茶お客おはる人左宿り此廳へ請

し見入茶代出く親しき友人おれは有合の菓物二と程も出くして挨拶は

席とのまに廳堂口までわくお相違此賓と對座ゆく見由

○吊喪の客の親友にあつたれば見ふ事なく若親友の苦室を請
 見由席をよむたふ事なく吊客も自ら一人一対一揖して哭し
 不淑と挨拶する人言れして哭し特蒙屈駕多謝と互に礼義
 身して椅子を請う懸話むねふ ○吊喪も支配頭役等の別して
 懸話あつたればあつた吊喪の客は着後も常にお事なく帽
 子の赤盤代除くまでを ○法會の席の親族あつた別親の朋友
 ちつと招請は遠慮の素菜あつたお礼讓意對の言葉は杯の酒宴
 み等かき事なく鼓樂器拳等あつたお事を得ば
 ○平人貴人も見ゆかぬ披露の席に名帖を差出た見ゆかぬ貴人
 名帖をとり見ゆ何某かあつた時小的便是と言ふ服を披露する事
 一拜揖の貴人の品位より一拜揖三拜叩首四拜不平等

高位貴人眼光の席の門外止定(揖)つてくは披露請々といふ客
 各礼してまゝ先におまゝ大門の真中を通り茶内は客其時路を通り
 行儀門の中扉を穿た中道を通り聴堂におまゝ人聴の外におま
 ち敷請々といふ其時客にお聴お通る正面の椅子(坐)をまゝ人聴にお
 進んで下座を揖して見由客椅子にお坐しおまゝお披露請々といふ
 跟從の儀門外まで附添まゝ回りて儀門の内へおまゝ方は注官人儀門外へ
 出て跟從の人を請う外へ坐す儀門を平人製造する事を得て官
 府衙門の外紳衿等の家におまゝお披露民向かいたる富家高家民も
 一とて大門二門をりやく儀門を禁制する大門の扉は常に穿た二門を
 雁を高く事なく兩角門より出入を客の席の二の門の扉は常に穿た
 して客は通る民間も高位貴人も除く事稀あり若九十歳以上を



門前
迎客

老人あかろ又ハ功徳あり或ハ孝子順孫等みく格別ノ款けりて朝廷よ
 旗賞みあけりもさ家み官人も来儀あかり一役官人來儀あれ
 其家儀門を造事免許あり是ハ官人を通じたるよしは終
 閉官人の来儀をるに開くなり○高位貴人あはれも先生か
 老人等もあはれり人門外に出む事あり其外朋友親類等あはれ
 其廳堂口まで迎ふもつと又と直に廳へ通し直に見ゆもつと
 其親類の廳堂へつと直に内房内室へあはれもあはれ人左宿せ
 此ハ婦女見之應對を親類の外婦女見ゆ事あり
 客來かた馬駕籠等みく事あはれ大門前あはれ小厮二人
 附添廳堂みまゝ小厮と堂にみまゝ人堂み登るとたれば水邊側
 みかたあはれ直に退き耳房小部屋ありハ厨下みまゝ休息は氏同あはれ

賓客

供教人連系事なり小者一人ありひの二人すあり不時の訪問等みあるは
 門番人居止バ小者成遣し某相公在麼と問む某の姓を人止布ち終げ
 門番相公在家請進と云く直み人連成某門番ありゆ小者を内
 小入と問む某も人止布せぬと云ひ彼方け僕出きたり東人不在家と
 不實僕みむひ某特來問候と某も自身の云ふと云ふ又僕成連成一人
 某も人止布せぬと云ひ問肉と云ふ某も人止布時と某翁在麼某兄
 在麼と姓を呼んで某を登内より付主人或は奴僕出きたり對面主人不在
 家おく奴僕も居合せと云ひ女房おく内房は布簾の内と云ふ
 人不在家是那位と云親友某も人止布何某も云ふ之云ふ之云用事お止ば
 云ひ見候あれは其限と云く直み人連成某も人止布對面せぬ親友を
 直み内房一通ふと云ふと云く云閣下産後等の御衣なりひみ番人取

次等なり門番人も民間み大戸形にてわら事あり
 官府向馬駕籠大門前中下家大官たりとも諸衛門前大門

肉すて家と云事を得ず馬駕籠大門前中下家此時
 涼傘旗執事等の道具唱道供出の門前み
 左云み家と云事なりと云く人門内み進み入ると云ひ親隨
 四人附係入ふ此時主人出成廳堂登り時親隨云ふひ登り主人の
 左云み侍より饗應等れ高主人と云命じて退かむ時み堂を退
 きて耳房み入休息を足ら民間へ官人來臨の式ある官府へ
 たる官人同士對面の節親隨堂み登り事を済儀門まで附を以
 して並に退くなり門外み入ると云供出の主人門内み入を待く諸道具
 を架子み挿け諸官府門前み通具成皂隸房足輕被屋と
 入るに休息

廣客

在賓之候落敷刻みわらふ又ハ總旨等あり帰里延引すれハ供儀
 ますかもつり又ら至方至酒飯成出は毛あり或は下部絡み近不
 の煮賣店等に以酒飯を喫すかもあり供儀とて親隨ハ帰らず足
 非至方至酒飯等出ハ酒宴亦招請したるに耳房亦修以ハ客を急
 門番人々賓儀見を見く内み入至何官來到と告知守親隨眞に
 づりく之人亦達候を大門ハ諸官府もに言の内ハ門戸を閉さり儀門斗
 穿てり儀門ハ高官あると通ふ事あらは儀門も通ふ程の官來候
 亦此ハ門番門戸を閉れ直耳房(躲避)すふかり官人の通に門番
 目通り出る事を得候大門番人も肉告知せ直耳房(躲避)す門番
 々大門皂隸儀門皂隸とて番人別あり勿論民間かハ奴僕
 の形儀番人に居直是ハ大門儀門に別あり事なく一人みく番人候に

衛門内の儀式礼儀等其事ハ詳み終り候見及び守及いたる儀奉り
 病氣の上上賓訪来り其子孫伯叔兄弟内出候ハ廳(請)應対以直に
 病床亦善く之方賓儀も挨拶せ直方不敢と直に商ふ事て候
 ぬも強て之(後)止ハ礼儀して病床亦請見(志)候時病床の側へ
 椅子を備け病人ハ床の上み坐し衣服外套を着し帽子を戴き賓入
 其の坐の儀ハ拱と恕罪とつり礼を以て賓儀とて上物を訪ひ椅子み坐して
 暫く候若し子孫伯叔兄弟等側み侍り答候守賓暫く有とて病人ハ
 對し保重とらわく知事主人ハを指し三礼して得罪不能送とらば賓豈敢
 請便とつり別々病持重く起座不自中なれば亦み修めく外套を履以
 子孫等賓に向ハ恕罪とら賓床の邊み之病を訪て候若し及む寸直亦
 如も子孫等廳堂亦請し應対也勿論至親の友み亦これハ敢く病床亦不至



初て人を訪ふは紅唐紙の名帖を持門亦至貴人高位の家あり門
 子とて表門の番人あり是亦名帖を投し其特來拜望と達し後ろろと
 頼入る門子名帖を受取ると亦達する人達んと思へ廳へ請入ると
 門子出く請進上座とふく案内して廳亦お時主人出迎ひ見ゆも有
 又廳へ請し並坐く見ゆもあり主人出迎は客一揖して久仰高名特
 來拜識とふる人豈敢有失迎進とふく言れして互亦叙話する人請坐と
 つよと椅子をさむ客不敢坐礼讓して坐する人も座して談話はよく貴人
 の方亦好見ゆも時ハ客初く坐せは主人迎亦出亦奉かする人廳亦出椅子
 亦坐して待客亦見ゆもとれ椅子を放し言れす客見へて侍立し請
 坐とふる人座して懐亦椅子をさむ客亦さむし免坐々々といふ客再三
 礼讓して懐亦座し放て對座せは主人居かか客成堂に拓くと上司の

府(下司)信系洋の時の儀あり其外と尊卑異ありとも多しと人
 出迎ふなり ○廳(まかに東西の階等)式當時あり
 赴宴私行等の名前の武官たとも常劔せは武官の外該官人 都々常
 劔すふ事なり一を民間ぬるの常劔禁制あり

附録

臺(熨斗)は類ありびみ雜費又と高盛て五二なりふ類の事版の湯
 等出は事都々なり
 ○引造又五段重縁を依せありひの洗ふ事ありびみ長の制跳子に
 柄紙ぬく包之又加等此事給仕の仕儀等の式教くあり
 ○料理の内川物ありふ類の事あり ○夜客小童子秉燭の類
 らひ小燭臺出は事あり一板の燈籠を提燈あり

○年乳の客か喰摘屢身あり出は事ありびみ後言の肴振常服みか
 つか事あり 屏風(まはら)ありひに函文字等用ひなり列あり時
 随ひ用也 ○床邊棚袋棚ありびみ諸掛物等此制あり勝付み真形
 草等此列ありなりひに三具足(燗鉢)拂子又ハ板勝(書画)軸物文具類等
 の品勝(箱)定式あり浴(見)度寺恰好と勝(品)ありとあり三具足五具足ハ
 常に勝(品)定式あり別して儀式あり掛物ハ二幅對(二幅對)一幅物(一幅物)文字
 函等小房(別)形一色角(請)客の當り後意(れ)掛物を廳堂(用)以書房小
 閣等ハ秀雅の文字函等臨機(意)愛(用)以論(下)種(掛)花籠(と
 多く書房等此柱(掛)る廳(の)柱(も)用(ゆ)ふ事あり一定(か)わ(り)廳(の)
 ち(ら)み(り)多く懸(掛)る茶(玉)角(袋)等(成)燈(事)あり
 ○瓶(花)の式(茶)茶(枝)數(本)數(等)此(生)方(あり)ひ(み)見(中)事(此)儀(於)て(尚)時

知^チ尔^ニ者^ノ多^ク唯^ニ時^ノ候^ニ此^ノ草^ノ木^ノの^ノ花^ノを^ノ色^ク多^ク分^ル指^シ置^キて^ヤ

清俗紀聞卷之九



國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

清俗紀聞卷之十

羈旅行李

○江南浙江等の諸省は旱路二十里も三十里も

と同一但一里ハ此方の

六町弱あり是は一省の内は用向は通達する

とて書役一五人又其村の百姓五人或は十人宛

又京師の堤塘とては役取あり一省

師の所用向等を其本省通達する

悉く京師を本省までの路程遠き所は十四五人

勿論文書等通達のためは勤番の舉人

ふかり譯流は八十里ありは百里に車馬の

憲

天子より

其本省

其本省

其本省

件上同と云ふ公文皆治成以て諸首人通達し又々欽差小差小差も多し近通行の爲め款
出さす也

者も人馬分撥す外に所あるを継場の里数遠きもの腰站とて間此継
場の中專ら馬匹此疲しきものを澤を放けを不ぬり村落の内場不置置

の民家を用ゆるを惣じて勘合とて此方の御證文の如く物あり大差ハ兵部左
大臣ハ

差官有て右勘合を持行小差等ハ其官員自身も持行を立改め起馬牌取
差官ハ

差官ハ起り至ふ所の澤站此牌の數目合人馬代用意し其の持本も勘合と引
合及散差も至りて起馬牌あり自身も勘合取好く以て起馬牌も至り時々に

人馬を出さしむるなり以の大小に依り馬匹の定額あり或を百匹ありハ百廿匹
定む此頭分れば一人足を驛逐らふ次小書役も人ありハ三人あり是を驛書

とらふ馬醫一人あり獸醫とらふ又馬夫あり一以の養ふ所の馬六十四匹あり
馬夫八人あり一人の養ふ所八匹あり此八匹の中も官座とて主人の守り

き馬一匹次小緊差馬とて急用早打用ゆふ馬二匹包頭とて駈着を附ふ馬一
匹又小差馬二匹あり大官ありとらふ其の行も自分の家下と散差馬二匹あり

右馬夫八人の外も四人ありて養ひ方此助を勤む差定數の外も人馬入用の附
其別の一百姓中付く是を出さしむる民馬とらふなり民間の人馬車船の皆相對し

一僅不度ぬく此澤站の與ふ一町あり民間の宿毎も開行とてその數目も
多し是れも僅不度ぬく民開行の先觸込賃帳ありとらふ事なく諸民私用の旅行

と牙行とて牙行までぬくも多しハ終日僅ぬく泊まり僅不度ぬくあり右賃錢
驛馬終日僅不度ぬく驢馬ハ二里一文の積もあり但車ハ課二匹分の積あり一日

六とあり人足と終日百文を成擔すも二百文あり荷の重さ九八貫目と定む是れ重
き荷物と驛馬を僅不度ぬく驢馬の負ふ不れたる物重さ四十貫目と定む轎子の一日六百文

あり但轎子は大小あり民間用ゆふ所の如くハ皆小轎あり又驛轎とて轎子
驛轎

驛轎

驛轎

驛轎

驛轎

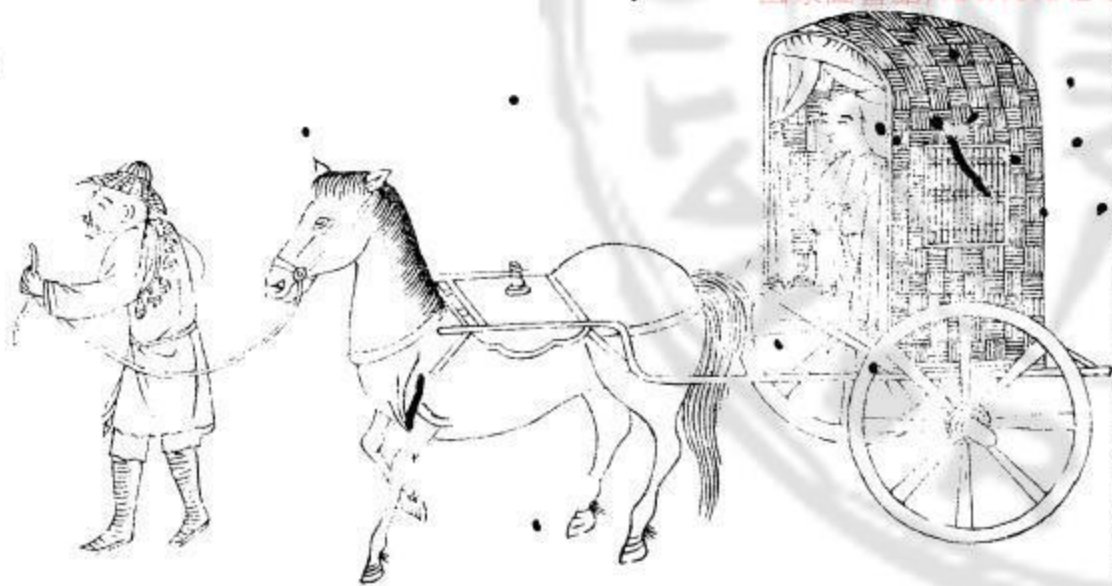
驛轎

驛轎

驛轎

驛轎

車轎
多
多



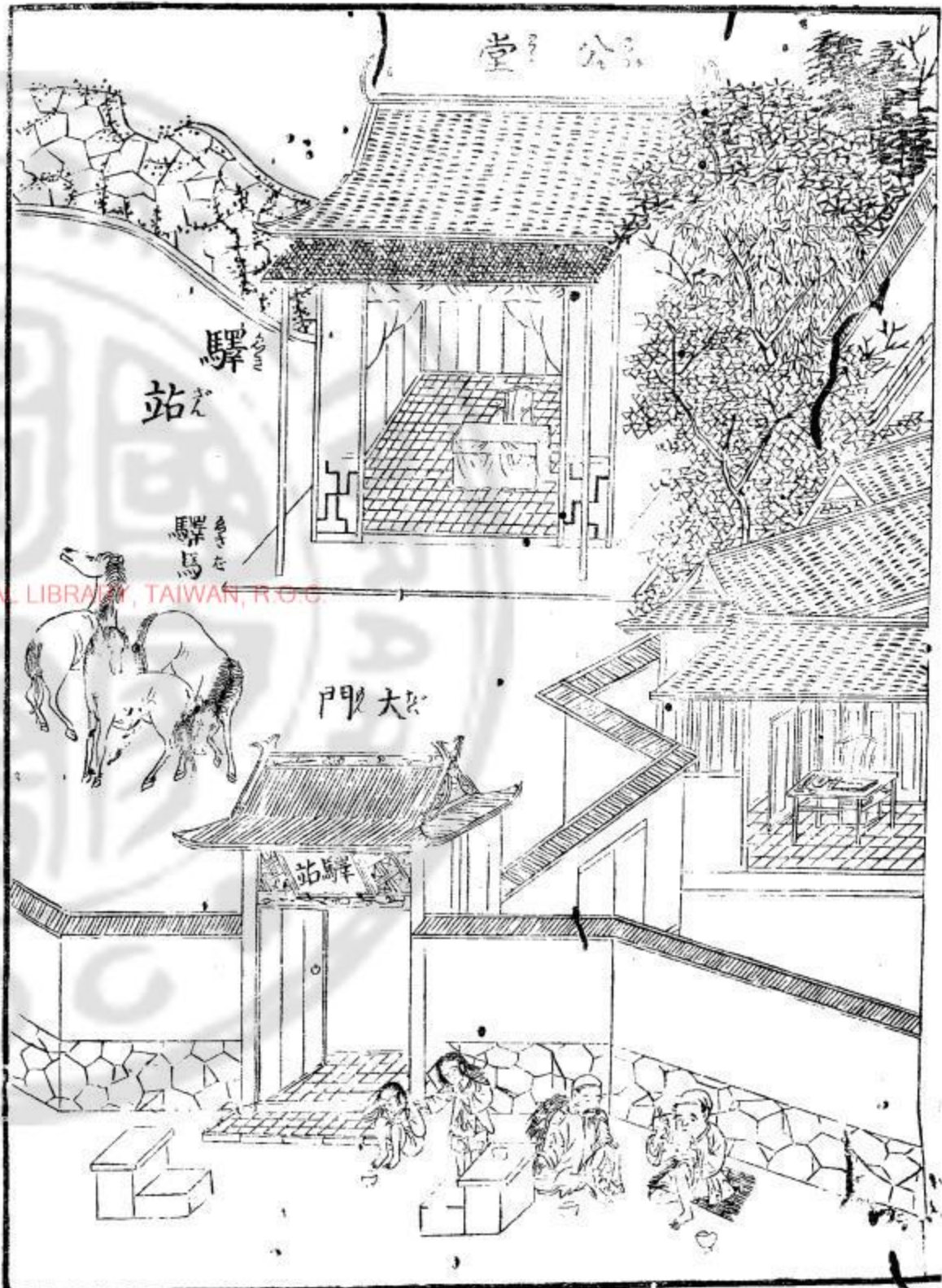
堂公

驛站
多
多

驛馬
多
多

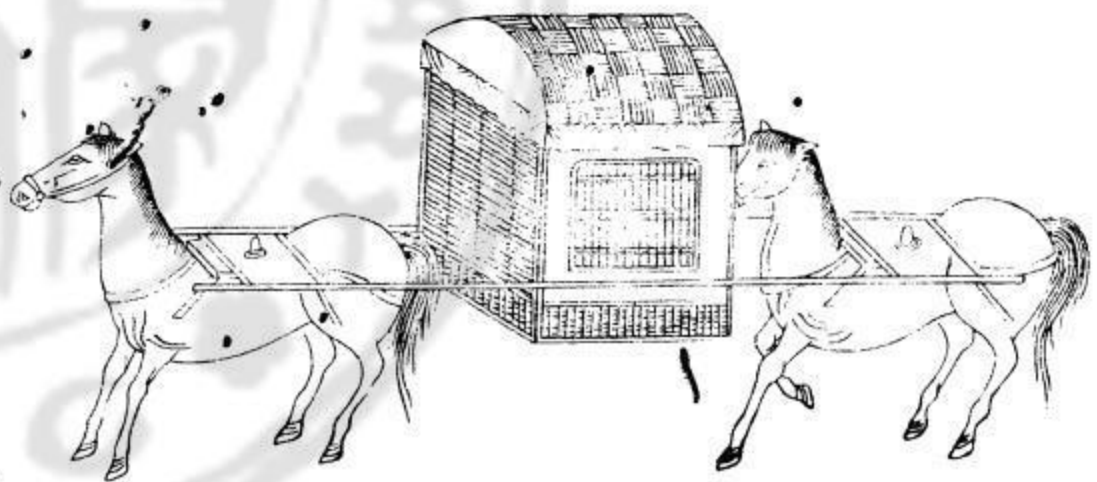
門大

站驛



國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

騾・轎



母何物成附課馬二匹をくそ長を自らむく人共くはよむり荷の重さ八十貫目
 と定む一日の料八百文あり

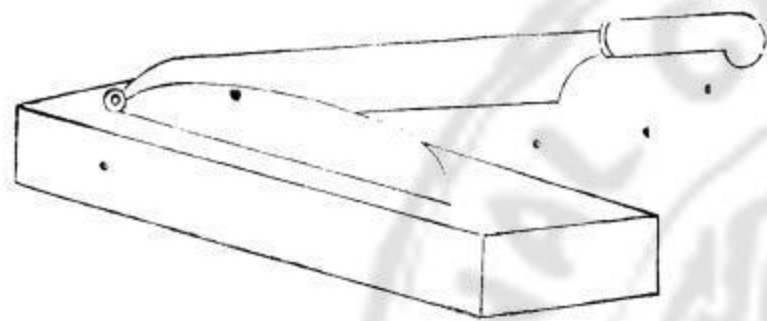
驛詰み並諸の道具あり挾板と板二枚成ぬく公文を挟む板あり鈴襟と鈴の
 附もふ轡あり足も差官補司共等み持しむ此ののま月成聞く次の徳塚まで

用意する為あり紙鎗とて徳の付る鎗油絹とて油引る糸指あり
 若帽とて竹笠ありびみ蓑衣等の兩具其外時計常燈紅間棒とて赤丸漆

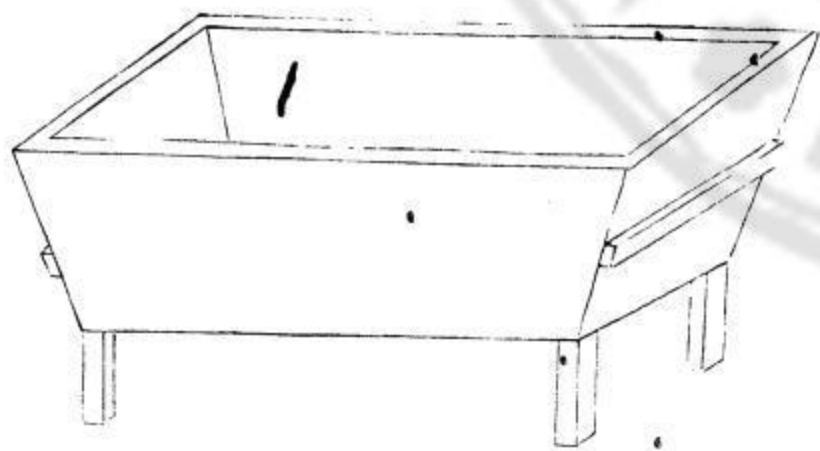
めく塗るも棒二本回曆とて帳面あり若中も時時刻を記し歸るも時点成
 掛消を軟絹包紙とて絹の風呂桶あり公文等成けむた光あり又馬具成々

削とて馬の草料を切黒豆成者釜銅草入も桶等あり舗迄も挾板鈴襟
 若帽蓑衣其外常燈等あり

削くま算さん

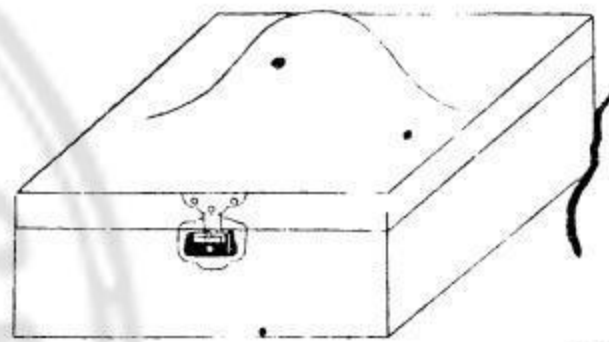


槽さう



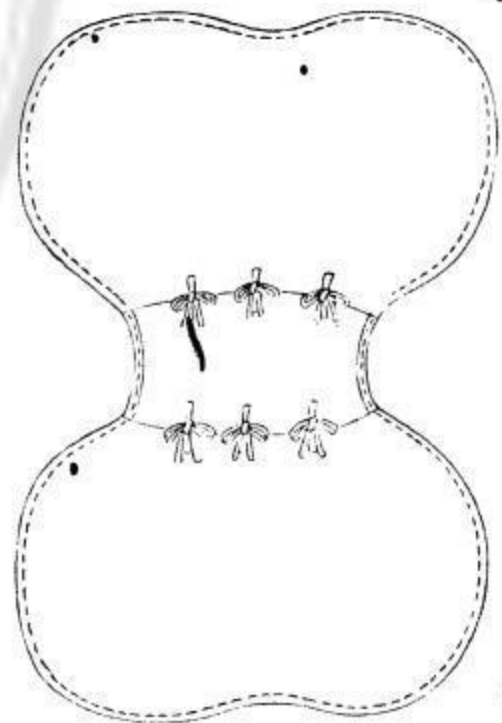
盜甲箱たうかうま

搭連たつれん



被囊ひのう

食兜じゆくとう

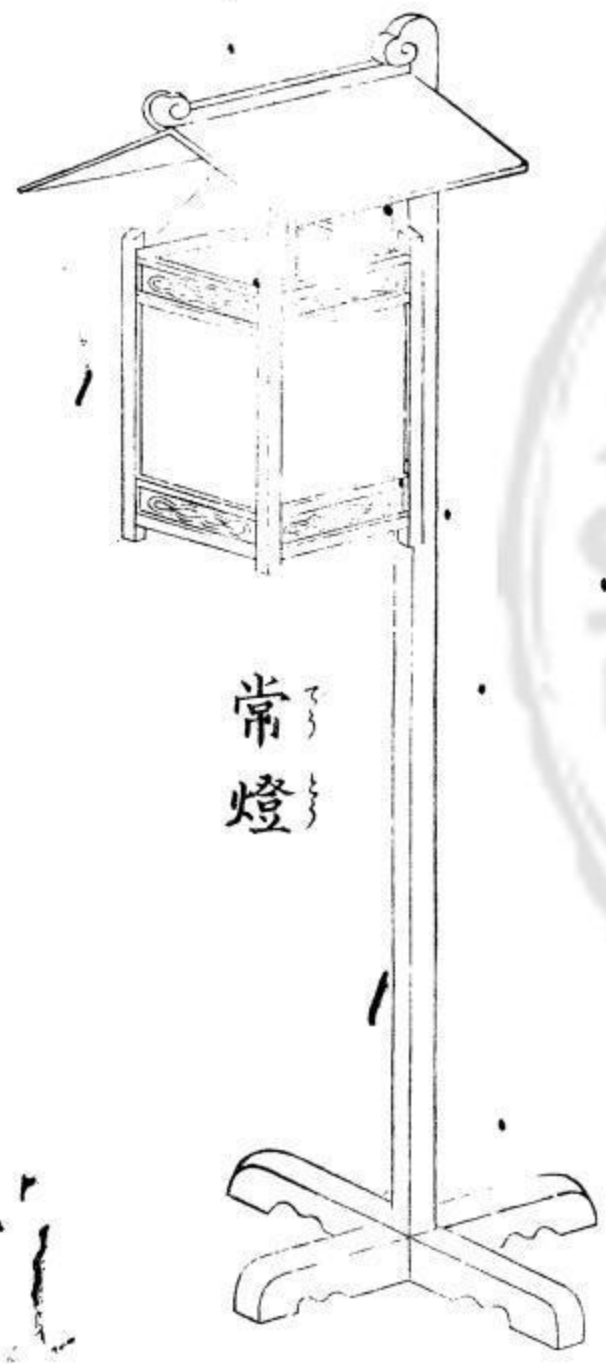


圖錄

五

國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

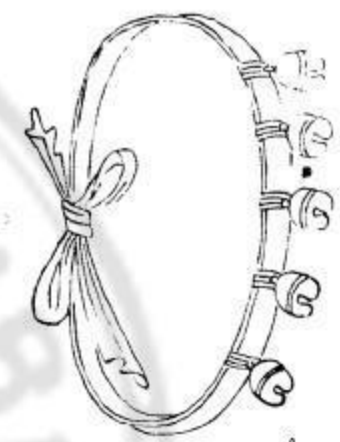
羈旅



常燈

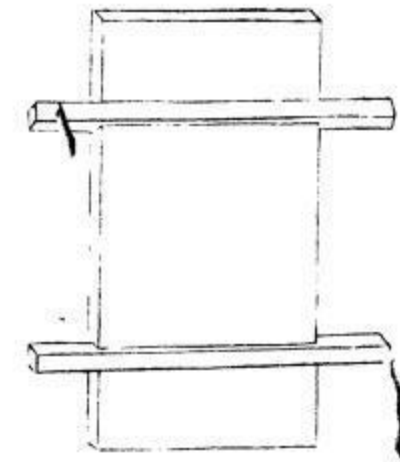
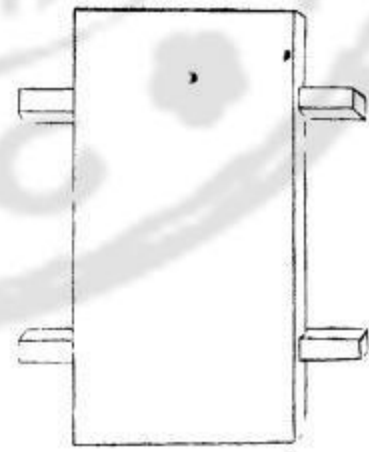


綏鎗



鈴襻

板挾



國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

○里甲馬と邊鄙の州邑驛站の設けられたりその地の民馬及び通行せ
たしけみ備ふししら里甲とて百姓頭分のとの支配して用くらしは里甲

馬ウマ

○官人公用通行のしるし自身より起馬牌をさし出さし此方先簡のしるしもの
あり其官人出ま二三日以前家丁一人を差支通行の驛站より右牌を
見すしは驛站の書役其文面帳面を抄きしは抄牌なり此牌を應
しるし人馬の手當致わたり

起馬牌式

某官某姓 為某公務到某處の於某月
某日起程一路所_レ右應_レ馬合先遣牌
知會為此仰役前去著落該房吏書照依

後開夫馬輜楨名數一一喚備用過領給
工價母得遲悞須至牌者

計開
輜幾乘 馬幾匹 夫幾名

右牌仰該房吏書准此

年 月 日

○大差ハ欽命公用の大臣或ハ異國の朝貢及び督按の使某等をつ随後の茶
馬等ハ其官_レ應_レて等差あり九一品二品の大官ありしは表向の官府より
主人の用馬と散馬とを随後の茶馬とありて九十匹あるべし其餘は皆自分
入用せしる連ふたり惣して大差小差み拘はる用めし通行の時人馬の
賃錢拂方は其為小驛站はら官府より手當ありし事あり

○緊差より軍機等急し事を促進する時切の早打あり武官の内差官と

多文書成りては進住来申不役あり是等九一三枚六百里行と定む

○火牌ホーイ火の速ありホーイと至極急形不所用向ふ用ふ文書なり是ら公文比上必給の

羽代糊めく粘る路々急あまら随ひて羽代一枚宛増但一枚より七枚とあり

・是を火牌文書とふく右の緊要の事不一所あり

○小差々遠方の文武官とて所祝儀支ありひら諸伺事めく下付成京師へを以

等の事を不足せら一日九百里餘路程あり

○般差ら勤勞多き人又ら父母の喪めく却幸して歸里へ帰る等の人を恤く

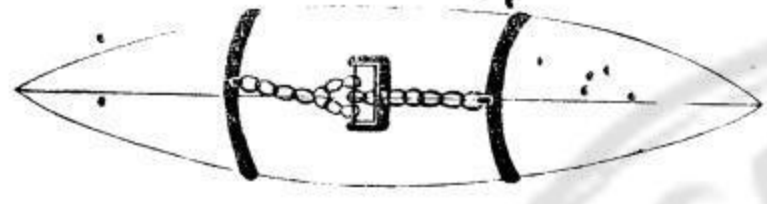
人馬を給する成不

○省縣より運上等の銀子上納の節ら銀鞘イニ銀成ニをニて小差を以て

澤站より宿次を以て送る形なり

國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

銀鞘ぎんせう



蓋ふた



身み

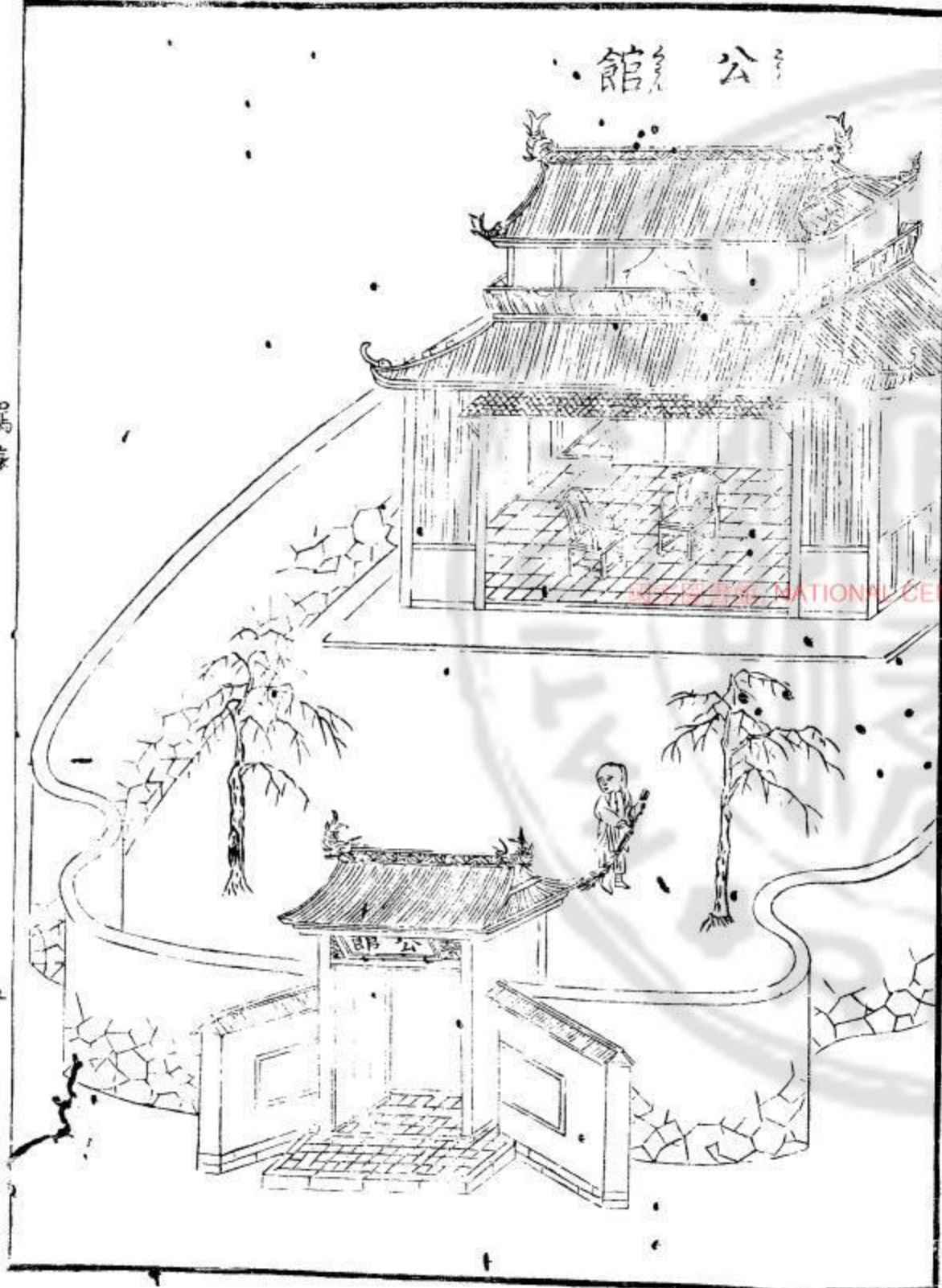


匙し



鎖さ

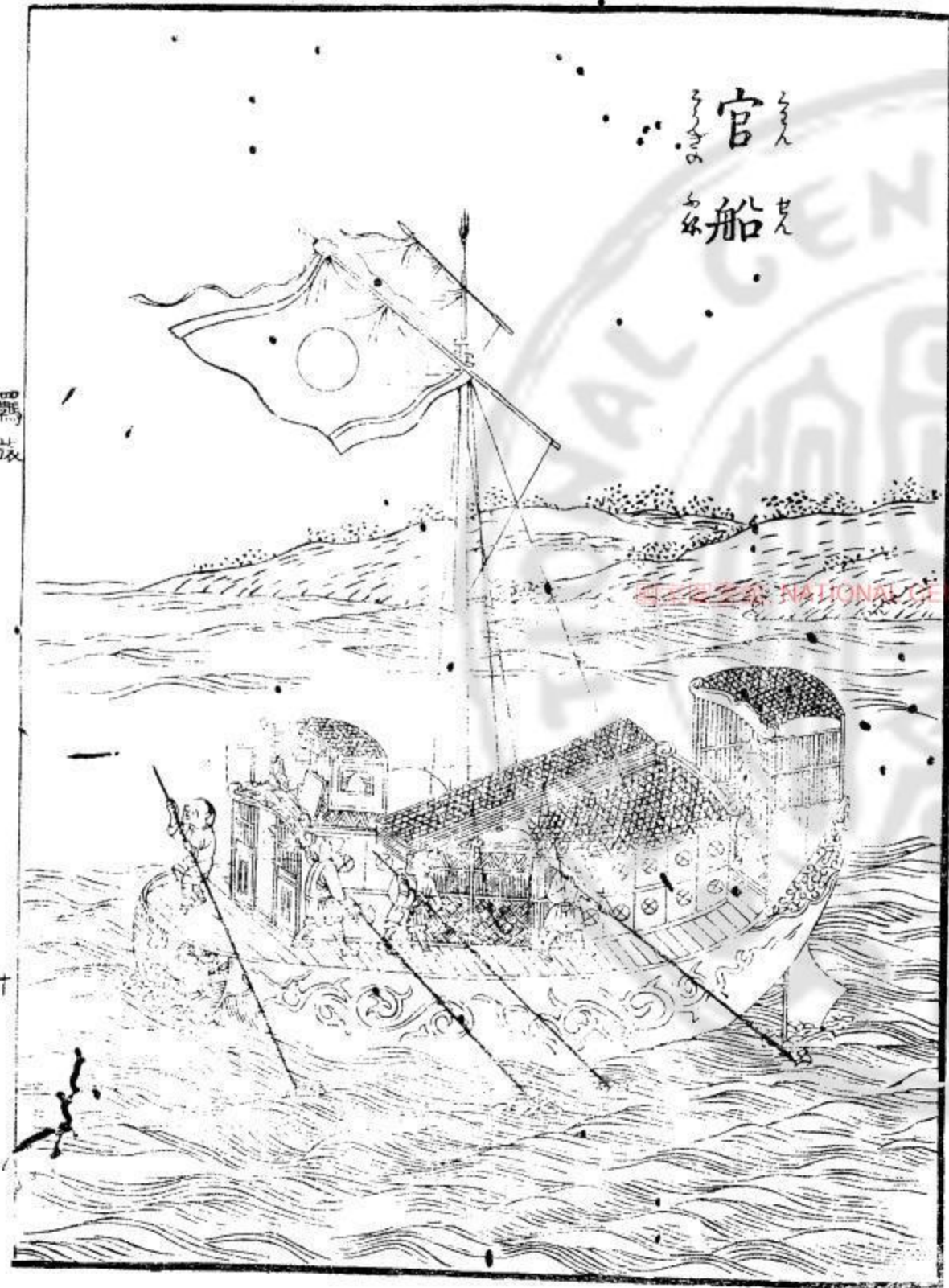




公館

○官人往來の宿所を其地の役所と建屋一軒八ヶ所ありて十ヶ所の大館ありて且成公館といふてく公用の官差此所を宿す也宿賃賄料等の仕拂を其所の開銷をなすなりとも其官差の公付ありて十ヶ所ありて二十日後の限子を公館の支配人に與ふ事あり是を賞銀と云

○旅店を村落毎ありて是を打火房といふ打火房錢晩旦一人前ありて八拾文或ち百文あり下飯も豆腐類一種魚肉等其まのまにありて何程も此料を別段に拂ふ



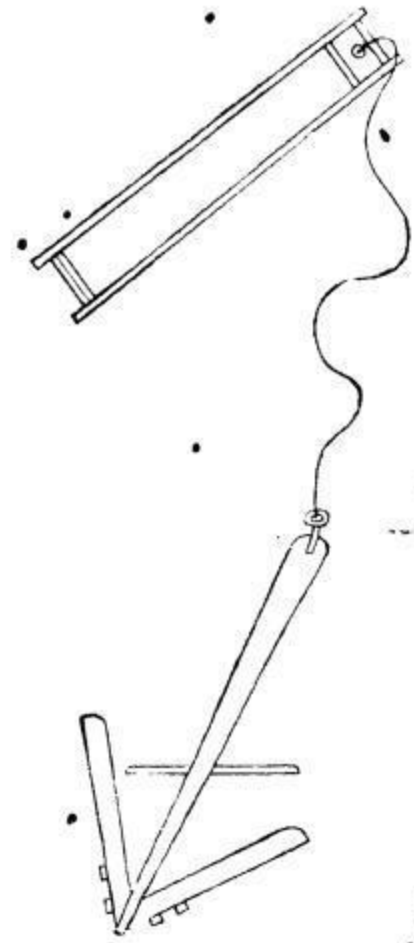
官船

官船

水路と水澤あり埠頭と百姓の者船或支配さる所ありて船政
 産事の官民ともみ此の如く官船の如きは二三百里の所ありて大船一艘
 凡二百員位小平の如くありを則在官船の如きは皆其土地の用ゆく造
 事ゆく官府より別小造船の賃ゆ事一切あり又民間内地の水行或
 と陸比ゆも関不ありて荷物ありて人数等改め居後運上等成納る事
 ありを船賃と海路二三里の波止に小船一艘二百又十員位は一場おと
 郵亭とて休息あり往來の客も成侍ありて雨雪を避所ありて
 一羽おと茶烟等出し事もあり

NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

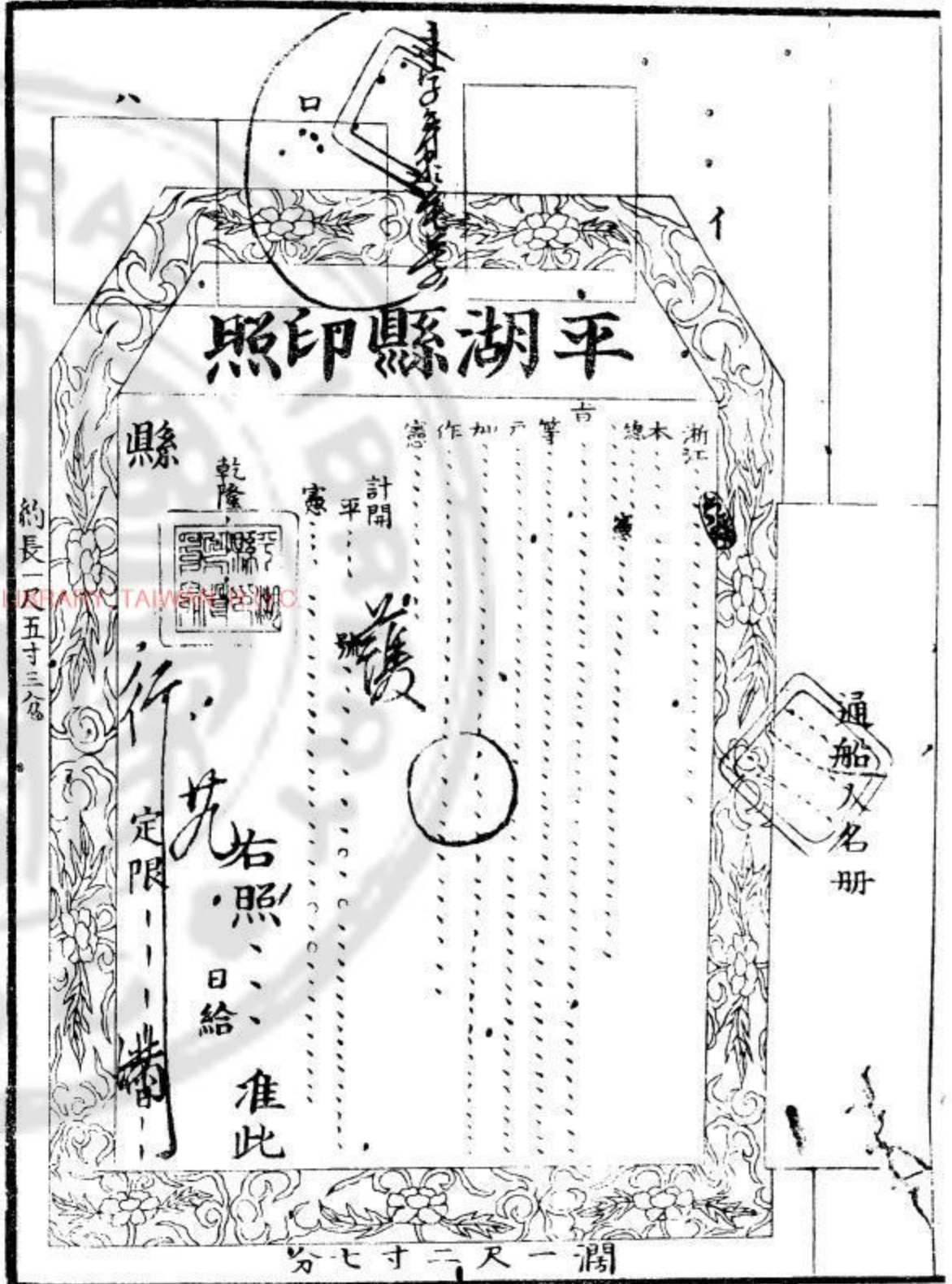
旋



○河船止る河泊所又と埠頭とを船代出に開壩とて堰の降ぬ河役一町あり
 其所有りて荷物を外船へ積留又と荷舟を並み引く壩を越えむ壩を
 過壩とふを改方と軍器ありての業は官物を奸商せむかたを好り
 惣じて沿海沿河とも五里十里ごとに番別あり此一町を汎地と
 一町ありて把総一人兵士二十人宛勤番は此の専河筋盜賊ありて

非常の事を防備しふ事と免れり

○民商外國の通商する時と海路ありて船牌を其地の知縣へ移し出領牌す其
 船牌都合四枚あり撫院と一枚是を部照とす布政司と一枚これを司照とす知縣
 より一枚とて代懸照とす海防廳と一枚とて代廳照とす右四枚を持て津口乃
 塘汎へ至るとる物のありて免れり此牌のありて代も請ふ此の塘汎より其
 役取の印を押さる紙代懸牌とすに粘くすは此の代掛號とす
 ○民商内地十八省を通行するに切手等の事なく其塞外に出るに
 其知縣より一路引を收領し其代携り境界の関りありてありて免
 れるを受く通行と路引の書式詳あり



平湖縣印照

浙江嘉興府平湖縣為請嚴造船給照之法等事蒙
 憲 平 計開
 憲 平 計開



行 定限 一 備
 先 右 照 日 給 准 此

通船人名冊

闊一尺二寸七分

約長一尺五寸三分

平湖縣印照

浙江嘉興府平湖縣為請嚴造船給照之法等事蒙
 本府信牌蒙 布政司憲牌奉 總督福浙部院 憲牌內開准

旨允准欽遵通飭奉行到縣刊刻木榜豎立城市通衢沿海口岸曉示
 又奉單開稽核各條目又發尺式著書大張告示通諭等因奉此業

經刊刻榜示並大書告示通曉在案今據本縣船戶范三錫呈報前
 來除將該船量烙併訊取船戶舵水灣甲里族鄰佑保家各供結外

合行給照為此照給該船戶即便責執依例駕赴掛驗前往貿易如
 敢私行頂替及夾帶違禁硝磺樟板釘鐵大舵大桅含檀鹿茸桐油

黃麻棕片農器等物為匪作歹情弊各口汛防暨巡司捕員五將該
 船戶舵水一並拏送以憑嚴究解憲治罪毋違須至護照者

計開 平字第拾柒 號船標頭壹丈捌尺 寸 分配船戶

舵工水手共貳拾捌名又奉 憲行會同 關部額頒

尺式就船頭標木量確一丈八尺 寸 分係歸輪課

乾隆陸拾年玖月 船隻 右照給船戶 准此

定限對年對月

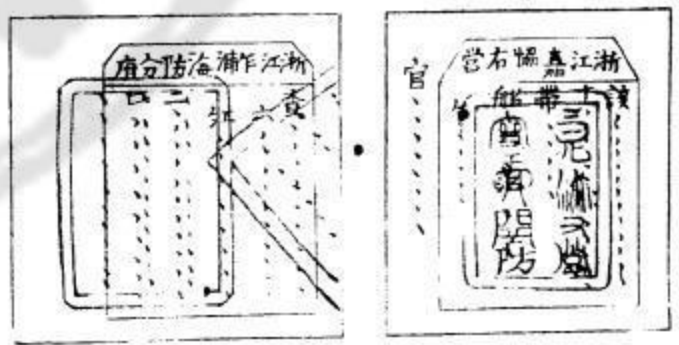
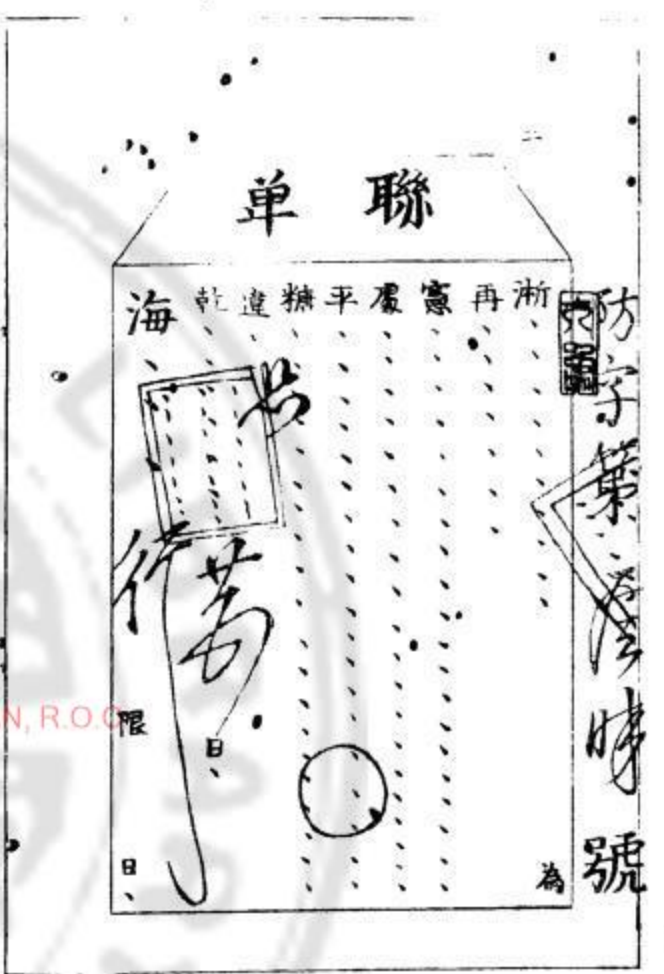
日給 日繳

縣

駕旅

十二

粘縣牌掛號之圖



口浙江嘉協右營

該船於六十年九月二十一日到口

十月二十五日將藥出口往東洋

帶食米一百石船戶范三錫乍浦汛掛號記

官商錢繼善承辦洋銅

浙江乍浦海防分府

查驗船戶范三錫於乾隆六十年九月二十

一日裝載紅銅進口於本年十月二十五日

裝糖藥材等貨物出口帶食米壹百石往東

洋

聯單

浙江嘉興府海防總捕分府再飭汛口等事案奉
 憲行出海船隻設立聯單填明船商舵水姓名貨物
 經由處所便汛警查等因遵奉在案今據牙人謝
 順興具報平湖縣船戶范三錫舵水共二十八名
 裝商費晴興糖藥材等貨前往東洋處貿易經過
 汛口驗明放行毋違須單
 乾隆六十年十月
 海防分府 限
 日給
 日緞

接辦官商錢鳴萃之子錢維善採辦銅劬

通船人名冊

浙海關商照

巡撫浙江部院

行廿五

限

用

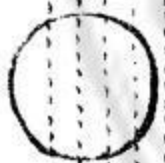
日緞

乾隆

計粘單

禮保岸中

勅與特部
與敬查承



寶

啟耳官水給為

分五寸六尺一濶

羅旅

約長一尺九寸

十三

接辦官商錢鳴華之子錢繼善採辦銅餉
 兵部侍郎兼都察院右副都御史巡撫浙江等處地方管理糧餉兼
 理全省營務世襲散秩大臣騎都尉覺羅吉為敬陳專一等事
 照得本部院奉特簡兼理海關伏查勅諭開載凡海口出入船
 載如有夾帶禁物照例拿究商民情願從浙省出海貿易登記人數
 姓名取具保結給與印票以便出入欽此又准部文內開船戶
 攬載開放時令海關監督將船隻丈尺親驗明白取具拖水連環互
 結客商必帶有資本貨物水手必查有家口來歷方許在船驗明之
 後即將船隻丈尺客商姓名人數並載貨往某處情由及開行日期
 填明船單令口岸文武官照單嚴查等因遵奉在案今據該商冊報
 人數並載糖藥等貨往東洋貿易等情並據商總行船戶商伴各
 具甘保各結前來合行照數給牌為此牌給該商收執凡經過各海
 口崇汛處所驗牌查照人數即便放行毋得留難羈阻需索分文如
 敢故違官參吏處回浙到關船戶立刻先投崇汛營縣候點人數明
 確方許登岸以憑申報本部院存案仍將原牌繳銷毋得違錯須牌
 計粘單
 右牌給商人費順與准此
 巡撫浙江部院
 日給
 日繳



浙海關商船照

兵部侍郎兼都察院右副都御史巡撫浙江等處地方管理糧餉兼
理全省營務世襲散秩大臣騎都尉覺羅吉 為欽奉
上諭事案准 部文嗣後一切出海船隻初造時即令報明海關監
督及攬載開放時令 海關監督將原報船隻丈尺親驗明白等
因遵行在案今據嘉興府平湖縣平字 拾柒 號船戶范三錫探
頭壹丈捌尺 廿 分合即給照為此照給該船戶執持出入貿
捕防口員役驗明放行如敢藉端需索分別參處該船務將此牌按
期繳銷如過期不繳該船戶解關究治均毋違錯致干查究須至照
者

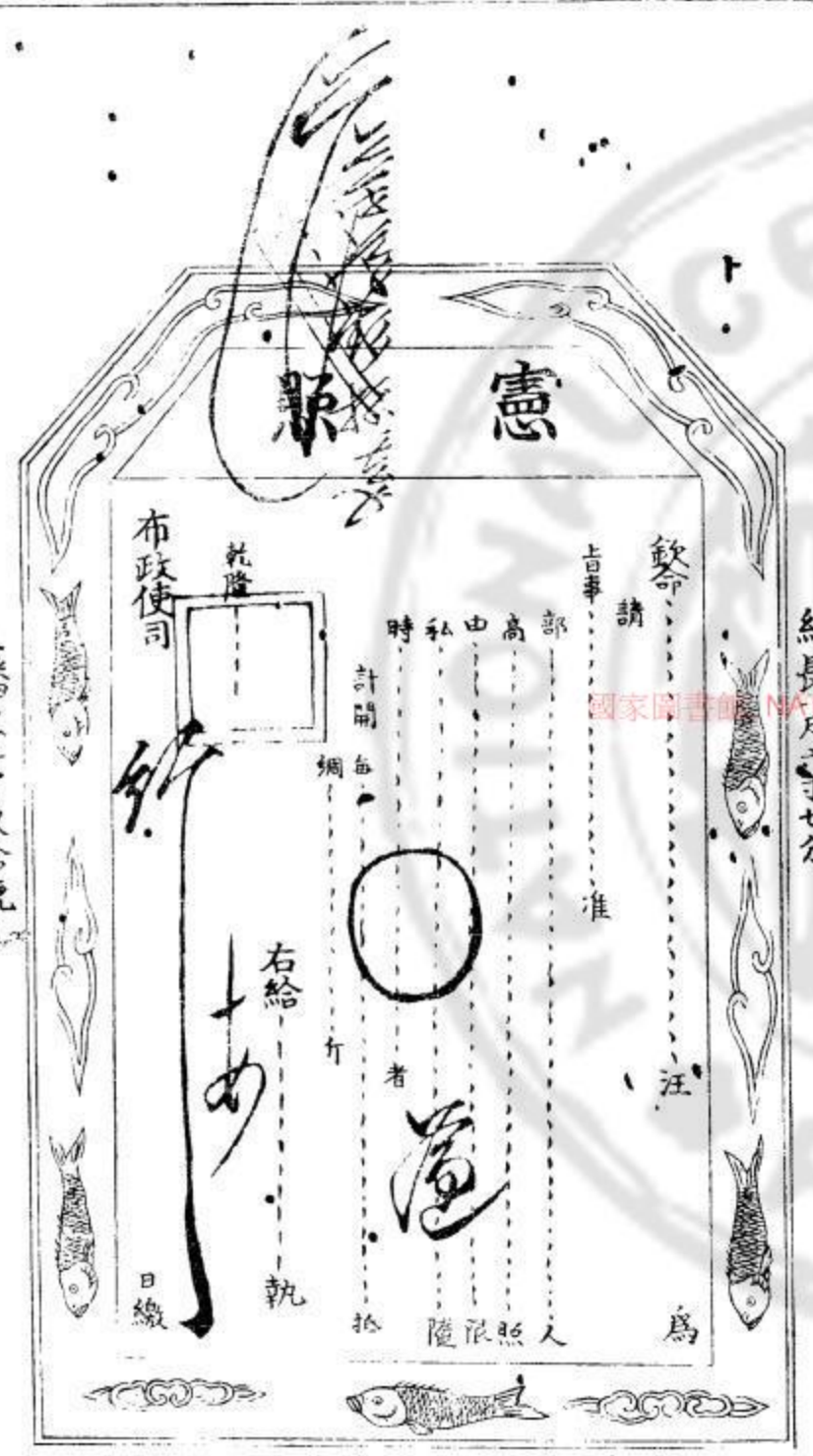
舵工水手人數照縣牌

右照給船戶范三錫准此

日給

乾隆陸拾年拾月
巡撫浙江部院
卞字 第拾捌

號計完全年稅訖限次年柒月初捌日繳



約長尺六寸七分

闊一尺七分

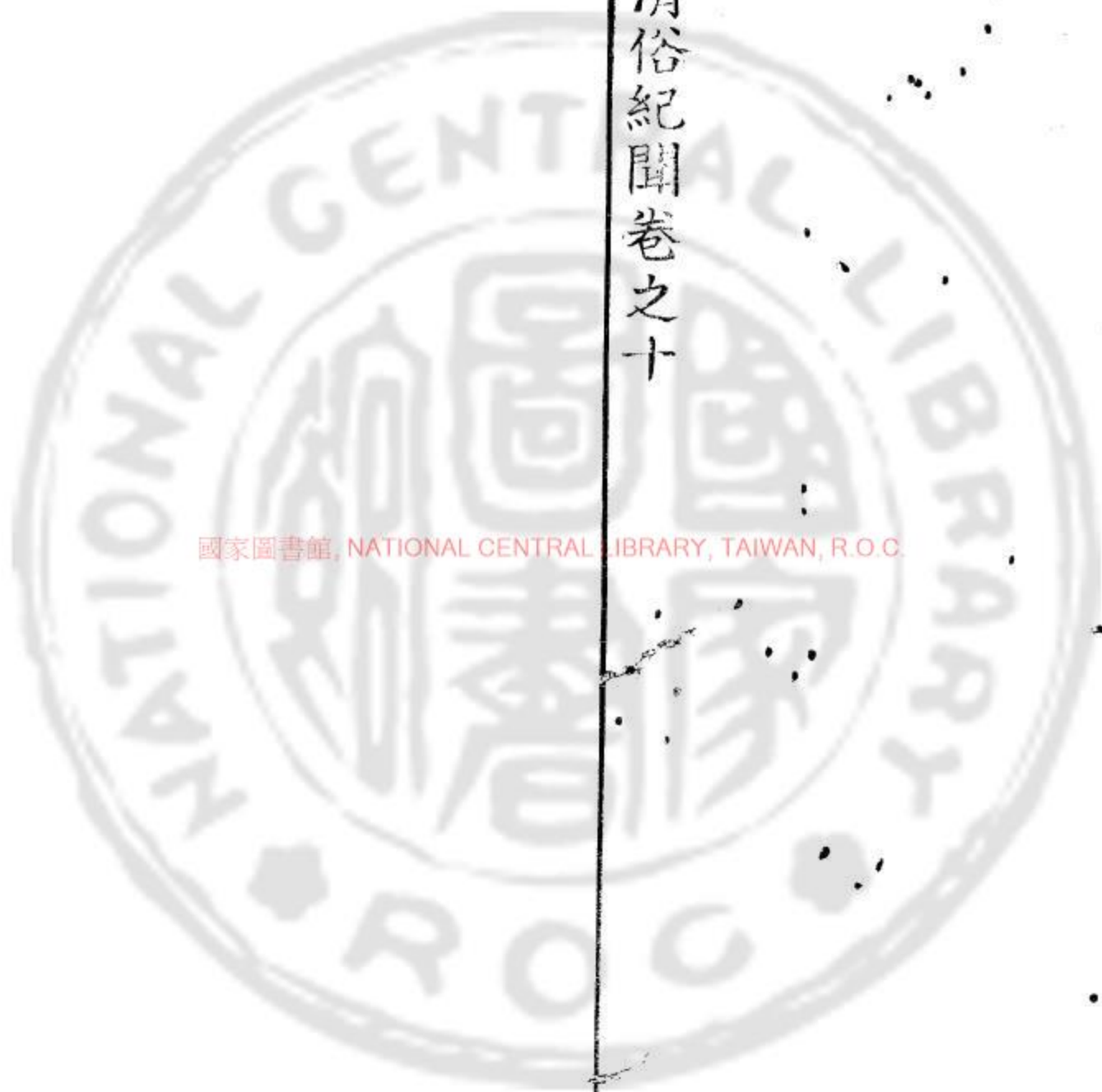
藩字第玖拾號

馬棚



草十五斤位を一貫の喰とに晝の内喰減存入と度く喰成興又草小
 麦の種成少し雨多用の暑中此に水成少し加興水を飲しむ事棚の
 ぐ草を少し坊暮かおひ程よく飲しむ事復る二三日一後宛浴せり毛
 を按旦一時引引り水氣かたふさふさやう涼棚引入涼棚後手日陰
 の利あく風の吹透やうに起しひさき一月後宛日成えり一夏後
 浴せしむ又茶のまじり引廻し後暖棚か入暖棚と風の入さやう
 園日向か修補あり又繁茂さか出さ馬ハ一時小食を多く用ゆる事
 成草を少し成少しお又水をまじり飲先其後後く喰成興さ

清俗紀聞卷之十



國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

清俗紀聞卷之十一

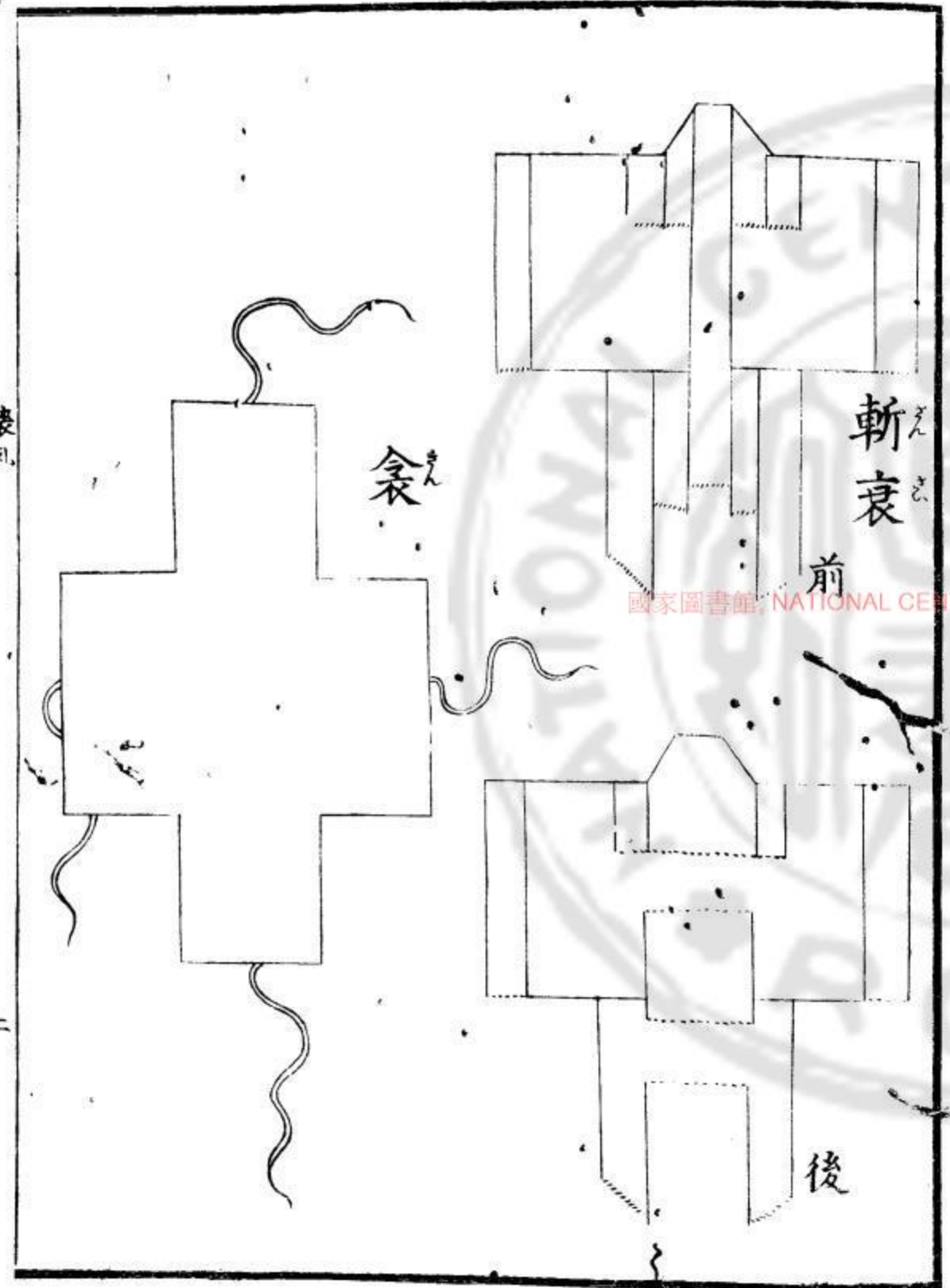
喪禮

○父母死は且つ子孫の男女號泣あはれなき堪たんん先子せんしふふ者ものハ斬衰せんさいととなる
 至いたるる粗あら麻布あしなををぬぬくく裾すそと裁きりり切きりりとと糸いと係かりりみみししてて其その外ほかハ荒あらい坊ぼうみみ流ながるる
 是こゝ成なり者もの其その外ほかの子こ女めハ行い位ゐの次つぎみみととてて稍ま麻布あしな稍ま熟布じやくふおおととりり
 布ぬいめてて齊いっ衰さい總そう麻まふふとと喪服もくふく成なり者もの守家内しゅけいだい隨使ずいしままてて帶孝たいこうすす
 隨使ずいし奴婢ぬべいハ喪服もくふく成なり者ものむむ何なに正ただもも黒くろいい布ぬいははくく扱ありり也なり喪中もくちゆう
 男女席なんにょせきをを同どうくくせせびび父母ふぼの喪もくふくみみ子孫しよん男子なんしハ外廳がいだうハ席せきをを鋪き敷き夜や使し居ゐりりて
 内房ないぼうハ入いららぬぬ飲食おんじ粥じゆく素菜そさいをを食たべべ盛せい饌けんをを設しけけてて奴僕ぬべ使し侍しりりてて妻女さいにょ
 ありあり在あるる室むろ室むろハ入いららぬぬ寸妻女すんさいにょ用向もちむかひわわるる内房ないぼう只ただ之これ寄用よきもちゆう向むかひ成なり達たつ婦ふ
 女にょ内室ないしつ也なり喪もくふく成なり動うごむむ他家たけハ嫁よめたた者ものハ素もと扱ありり也なり喪もくふく不ふ奈な不ふ却かへるる喪もくふく

喪禮

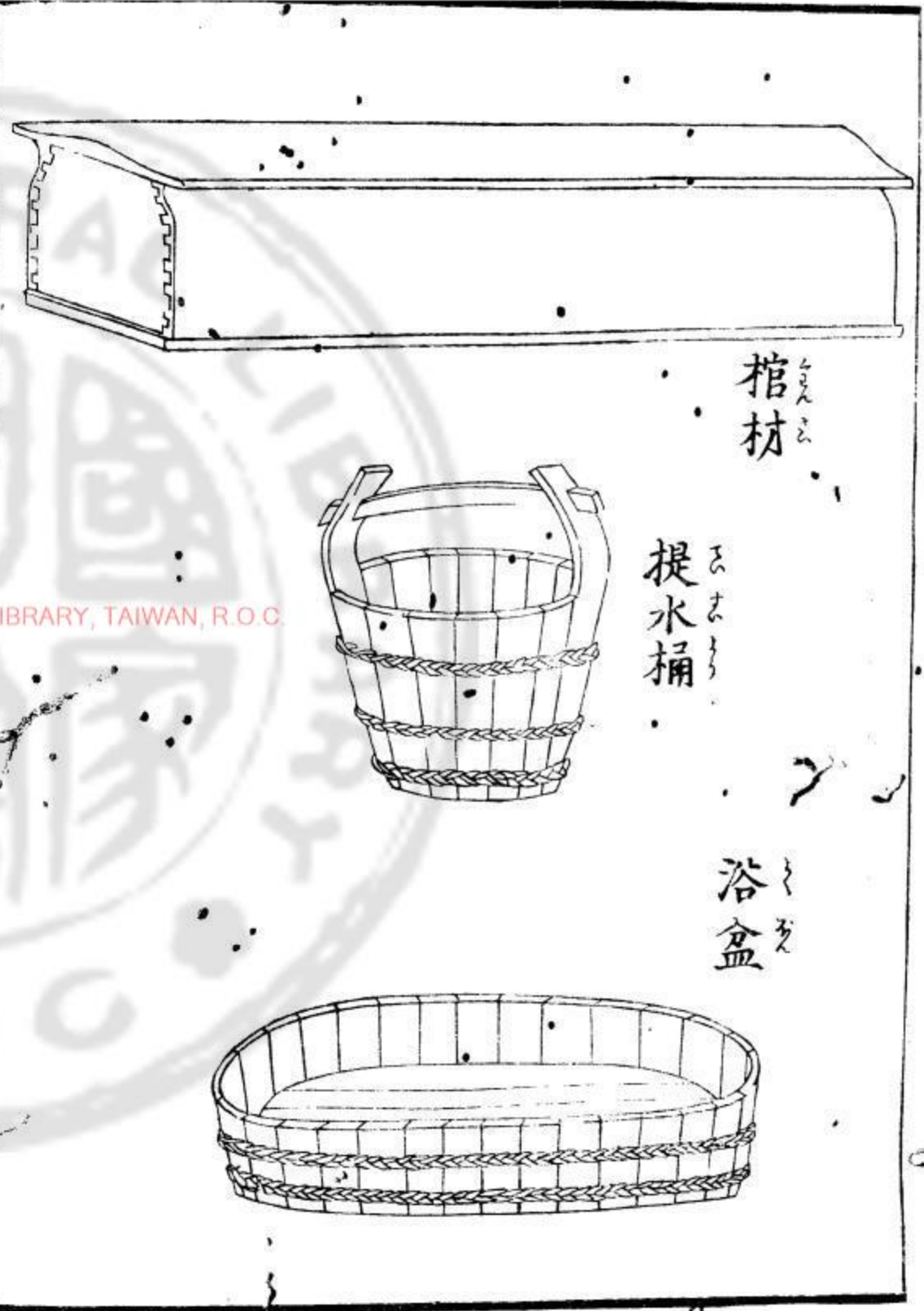
NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

ちふとた門戸城開る事なり父母の喪みへ白紙粗麻布を以て長さ二丈程して一
 幅大門の上框に掛ふ掛ふ其余の喪みへ掛ふ所及た店商人等喪事取給
 ぬく一ある商ひを止る事何ととも喪みよるまで商賣減止店を開き寄れ
 あし小戸の者の定式の日殺喪を勤る事能を以て未だなく商賣催工等亦出
 身屍へ奴僕の有先新し布を以て湯み浸し抹浴を^{抹浴を}惣身あらば
 持く月代を別て辨^辨成梳^{成梳}り亦亦して蒲團の上み新せ^新し衣履減
 着せ帽子鞆子^{鞆子}近も新し^新れを着せ^着し免枕を^{免枕}させ^{させ}並^並○入殯の道具掃
 ち金表と^{金表}る^る不物を^{不物}を^をの^の遺骸を^{遺骸}を^を衣履の^{衣履}の^の儀^儀に^に棺^棺み^み蒲團^{蒲團}を^をぬ^ぬ云
 鋪て遺骸を^{遺骸}を^を納む^{納む}多く^{多く}の^の夜^夜分^分親類^{親類}亦^亦よる^{よる}て^て俣^俣くに^に骸^骸を^を取^取収^収む^む棺^棺材^材
 と^と楠杉^{楠杉}など^{など}容易^{容易}朽ぬ^{朽ぬ}板^板料^料を^を以^以て^て推^推入^入板^板の^の合^合せ^せ目^目み^みの^の漆^漆減^減の^の以^以て^て塗^塗せ^せ
 しく身代^{身代}の^の貧^貧富^富み^みよ^よる^るて^て米^米を^を以^以て^て詰^詰ふ^ふも^も何^何れ^れと^と砂^砂糖^糖み^みく^くは^はけ^け或^或ら



喪礼

二



棺材

提水桶

浴盆

白沃山炭ゆきく望く詰玉蓋を覆て釘板を免ふ此釘を長命釘と云棺材を造らぬ蓋木の釘を用る可也
 屍を納ふ時着の衣服の外何れも棺におき且ば富家など屍の口身玉珠
 一程入ふも希之○棺材へ入ふて年六十歳ふれば棺材の板を用ふ
 一置毎年一し木板を調へ替れとすふ事多きは残壽板と云棺材を
 大平車と云棺材の板を大平板と云生草み備へ出来ぬもの死後
 み成り子身此類調ふ是ら蘆木の釘みり守鉄釘材用也
 抹浴の浴盆提桶も新ふ造るもあま古れ有合用ふも可也
 入棺せりし廳上み白木綿或は白紗縞白縮綿等の幔を張中央よ
 脚次の福敷物を並く其上に壺櫃を居置玉ふの高紀卓代を木主
 を並く香爐花瓶燭臺勝つ付燈籠を灯し並備物の四十九日の内ハ
 野菜菓物類素食素菜を備へ酒代奠一同居の親類朝暮禮

葬一四十九日成過れば、藁を供へ、藁ハ車肉類をよ

○毎七僧侶成請し、誦經以経畢して、廳上へ請し、齋を出て五七日あり

道士成請し、法會を執行し、齋成出れば、此々の法會は親友を請

し、僧道一同、女齋成出れば、初死す、人届僧徒を請し、或は出葬は

寺へ送り、墓に並べ、僧徒送喪す、墓を奉れし七日、毎僧道を請

し、誦經成たのち、成出れば、古礼あり、中興の風俗あり、當時

一説は、事ありし○友人を吊るる、墓を奉り、靈柩を拜す、奉りあり

世時、子孫に奉る者、靈柩の茶花の方、跪き、吊客、各拜し、拜畢して

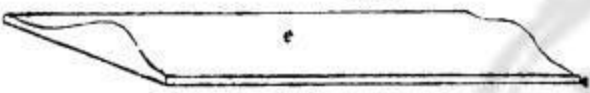
吊客、子孫に、以て不淑、逢ふると、拜して、哭す、主人各拜して、哭後す

吊客、帽子の上、赤熊、成陰、是る衣服、ハ平扱あり

七 星 板



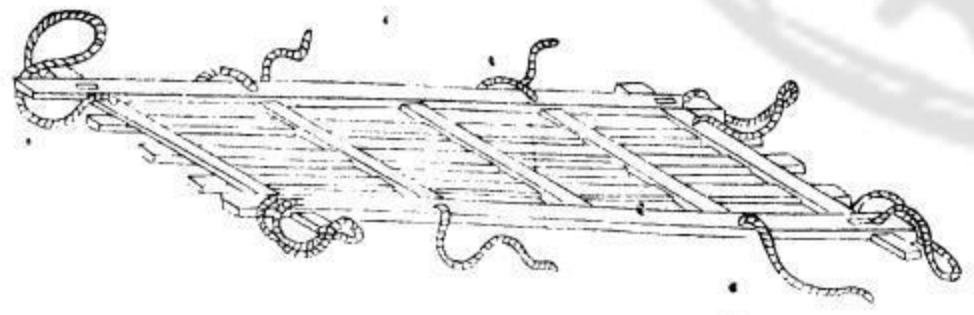
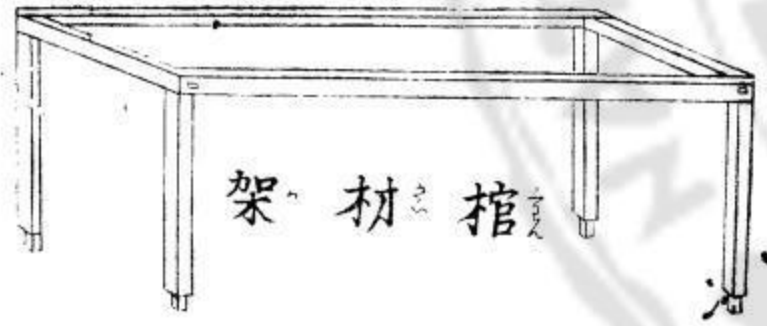
蓋



棺 材

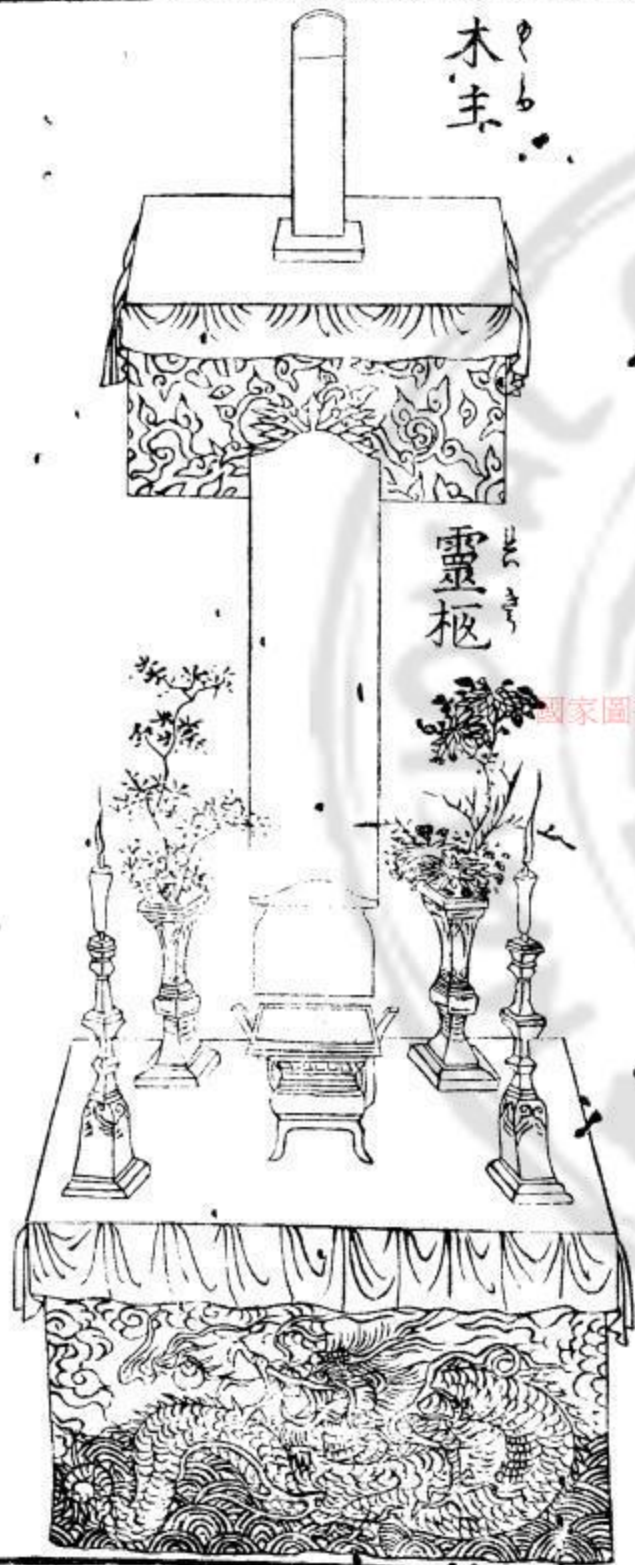


棺 材 架



喪礼

四



木主

靈柩

國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

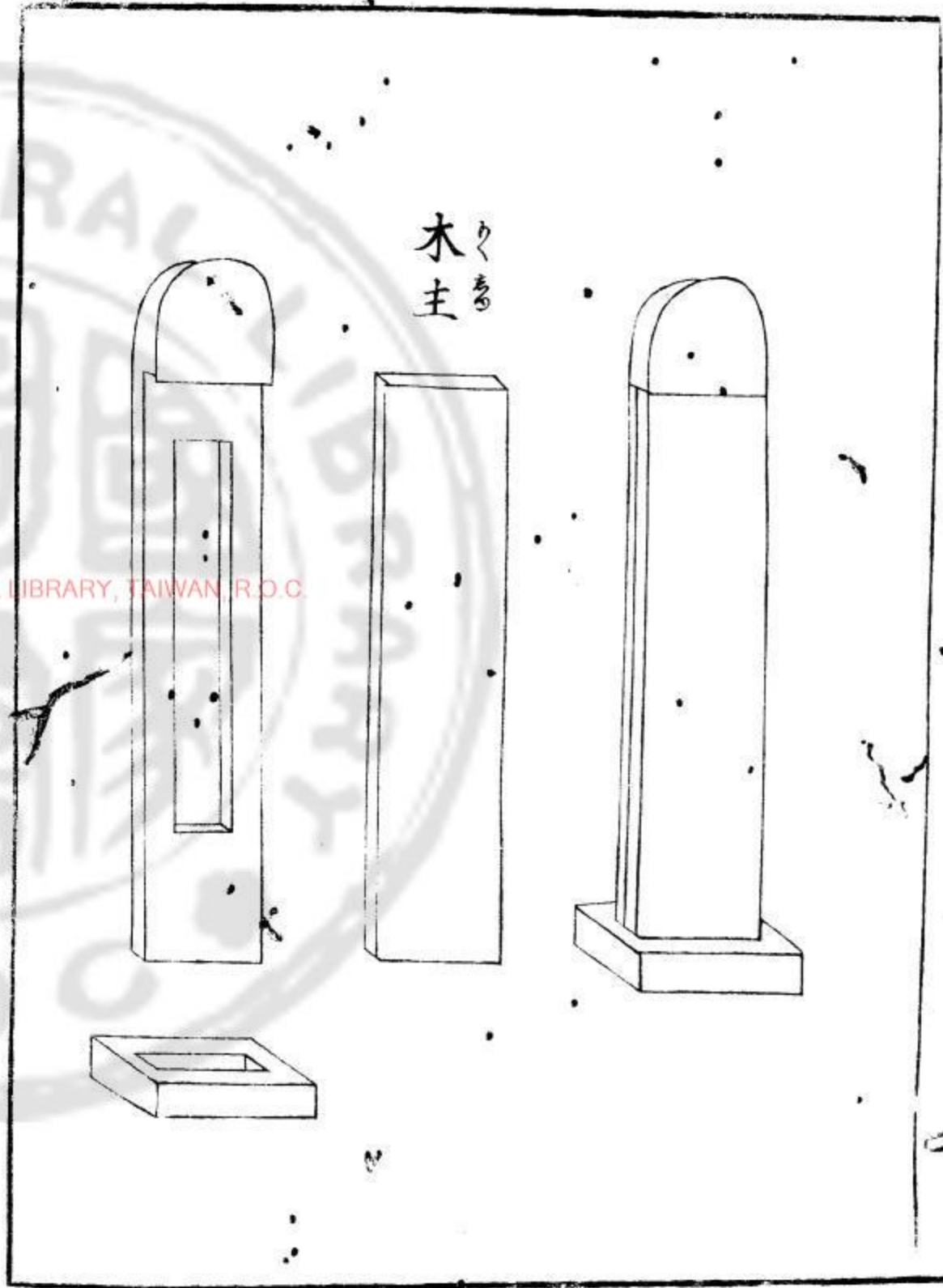


靈柩

殯

褥

木主くりま



○出葬は家の貧富かよると平日又は二三日三十五日百日或ハ一年二年成

鍾て出殯せしませりしかし殯三年とて出殯せしむも出殯の日ハ子孫素

服を着るは民間みくハ所々殯をせしむるも入棺の後外廳へ柩を安

置し出葬と共に更金若父母の柩一年ぬも留置し外廳の庭に假埋し

多量とあり○大戸の人の家は四五出葬日先柩に明鏡或ハ羅紗おろしを

覆を披ふもあり家の有無も稱ふ道理もく小戸の人の家は五六已下を

毛氈を以て柩の上に覆ひ或ハ木綿を以て覆ひ水色淺黄木の緒を

もめて結糸を掛柩の前たつた高卓たか杖つえ野牛猪鶏鴨等やぎ此全葬まじ

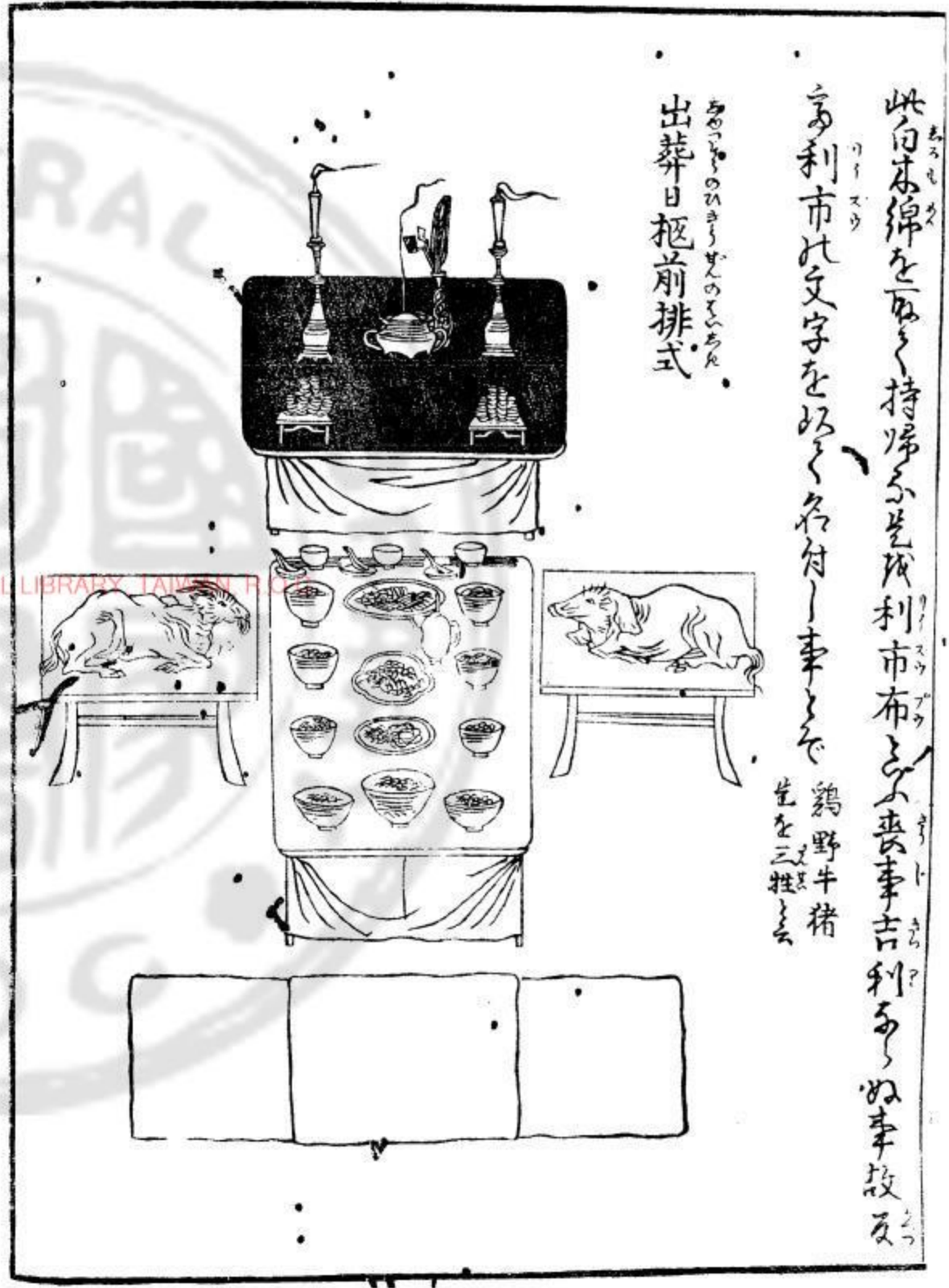
外山海の旨味菓物類種々供へ酒を奠しうま木炭きたん焚子孫ハ柩か

添居ふ送殯の人々靈柩れいこの前まへも拜し畢れハ奴僕側やつやく侍さむらい長

一尺二三寸程々の白木綿を以て一人ひと一ひと切きり配くわいを吊客たつきやく拜畢らいていして並なら

此白布綿をぬき持帰ふ是成利市布と云喪事吉利多ぬ事故
 多利市此文字をぬき名付し事と云 鶏野牛猪 生を三牲と云

出葬日柩前排式



○此出喪の時吊客多りて拜に喪主は俵に就て答拜を候と云柩の前左
 の方み頭を地みほきて拜を替願と云 ○吊客供物一
 只持たる供物多ありと云の心持ぬと云葷物ありは素菜をのら

葷ハ野牛猪鶏魚肉をいハ 素菜ハ菜物野菜餅などを云 ○出葬の行列先
 江白の清めく幟を造り竹の先みゆひ付方にて次み 燈籠

香亭 鼓樂 絲亭 靈柩也靈柩に明鏡羅紗等あり候と云
 四方へ水色淺黄紅色等の清めて結紵を掛前後左右み緒成付

多指の中うありと云のみて擔ひ子孫と云柩の左右み清く白糸綿
 六七尺を以て額みあて人の二目の方めく結ひ両方より柩み

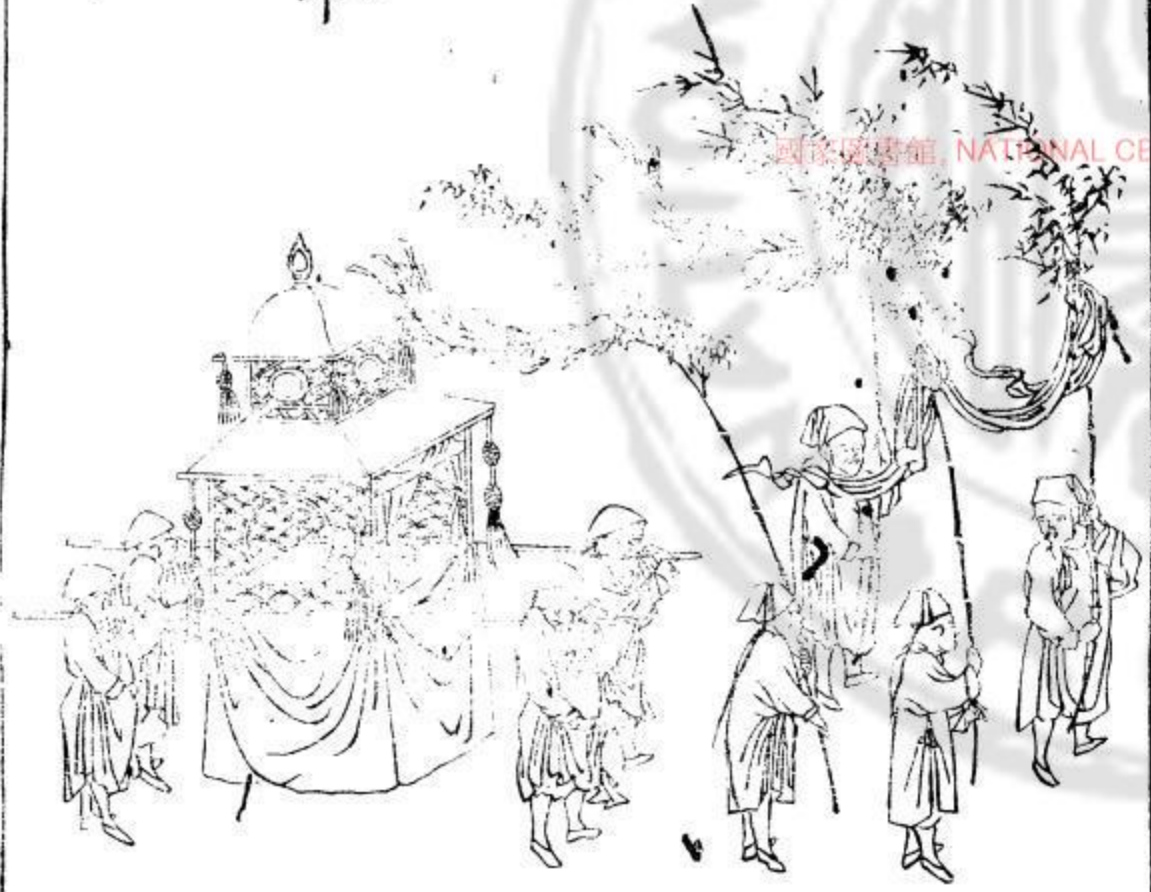
清く道をうら哭はみ疑ふれ親類の白糸綿みく頭巾の柩あり
 形をつらみかつて一人と銘旌を持其餘ハ柩みつれを以て柩を担

寺の細を多にもちて其の身あとの引さるゆめく持行あり是を
 緋と云香亭一冊香 駕籠の中にお造りて水色浅黄死色等の箔を以
 種々に飾り結糸をかき内にお霊牌とて木主を安置し前にお香爐
 を置香成焚き後よりお札にお糸亭とお札一かたにお造りてお札の
 柩を入れてお札の物お札ともおまると大造りてお札別お札して糸亭を
 お札の行列お入る此内にお銘旌をお札の行ともお札の銘と等にお香亭
 お札のおまされし鼓樂とお苗大鼓蕭雲羅噴呐等をとお
 出喪の日期と陰陽師お日辰考お時日極りてお時親類朋友等をお
 お札を遣はしお札の日期別お札の差別お札の刻限も時お随ひ用也
 女を送喪の時暖轎女の駕籠をい 暖轎とお札の外を白木綿お札を覆ひ墓
 一冊を送りてお札の柩を墓所にお札をお札をまかりてお札の礼拝してお中お

葬り大お札の成蓋お札を覆ひお札の石碑を建ち柩をたお札の穴
 を往古の墳とて俗語お札の金井とて又地宮とお札
 地宮とお札の穴とお札の人をお札の堀を四方をお札の穴とお札の底り
 ともお札の敷柩を納めよお札の黄お札の石はと成お札の穴とお札の穴
 建ち富家の者お札の穴を墓地を足お札の穴を掘りてお札の穴とお札の穴
 燭を入るお札の穴をさるお札の穴を遺氣お札の穴の外のお札の穴とお札の穴
 お札の遺氣をお札の穴を石はと黄お札の穴を鳥樟とお札の樹の葉お札の穴
 用お札の馬港石はとてお札の穴を白灰お札の穴を搗合せお札の穴を水お札の穴
 お札の穴を用水お札の穴を油お札の穴を此鳥樟とお札の抗別の内竜井縣
 お札の穴を油お札の穴を油

喪礼

香亭



鼓樂



○靈柩を先祖の墓所まで送り奉りて塲前風水の吉處を考ふ事有其時ハ柩
 の前後の方小石を置き置く其上に菊菊を以て飾り置屋敷造りて地面を吟
 味する事有是を權屏と云 ○葬終りて線香を焚き燭を燈し眞衣紙大金
 紙を焼 眞衣紙ハ紙の衣振帽子襪子水筒等を極小
 紙ハ大金紙ハ金銀の品物を包む紙 是ハ金銀衣類を焼捨ふ事有

國立中央圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

銘旌
銘旌

棺

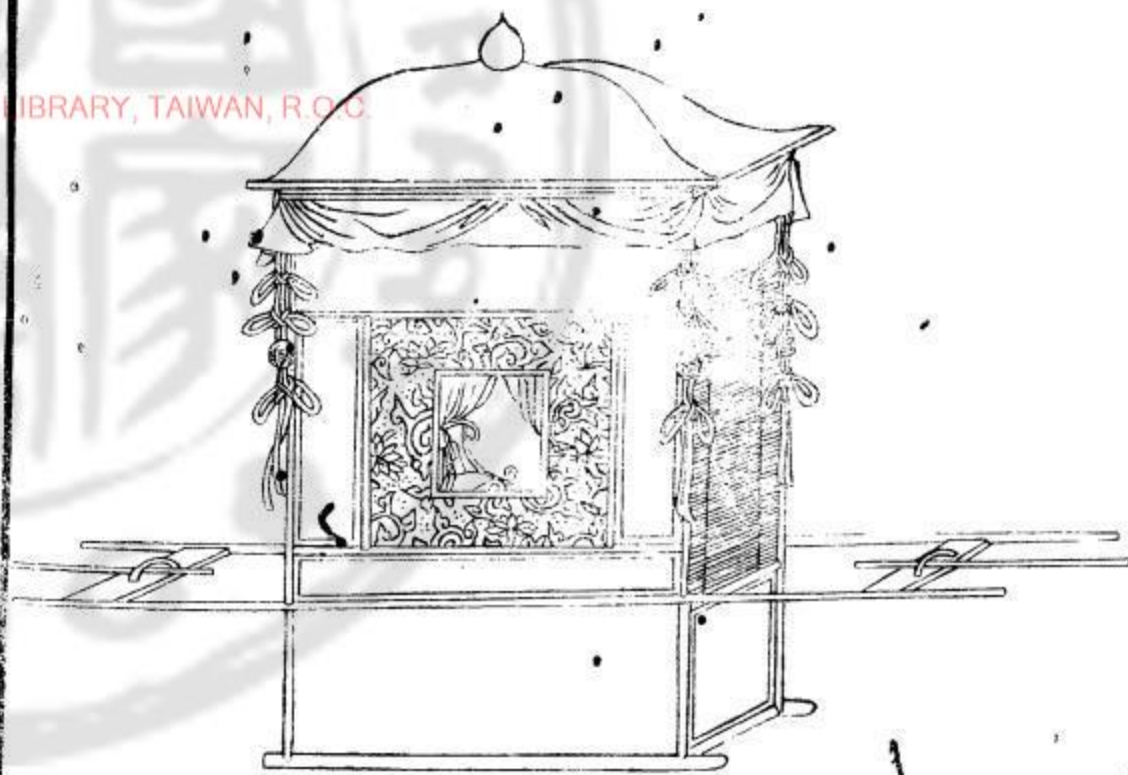
國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.



煖轎
煖轎

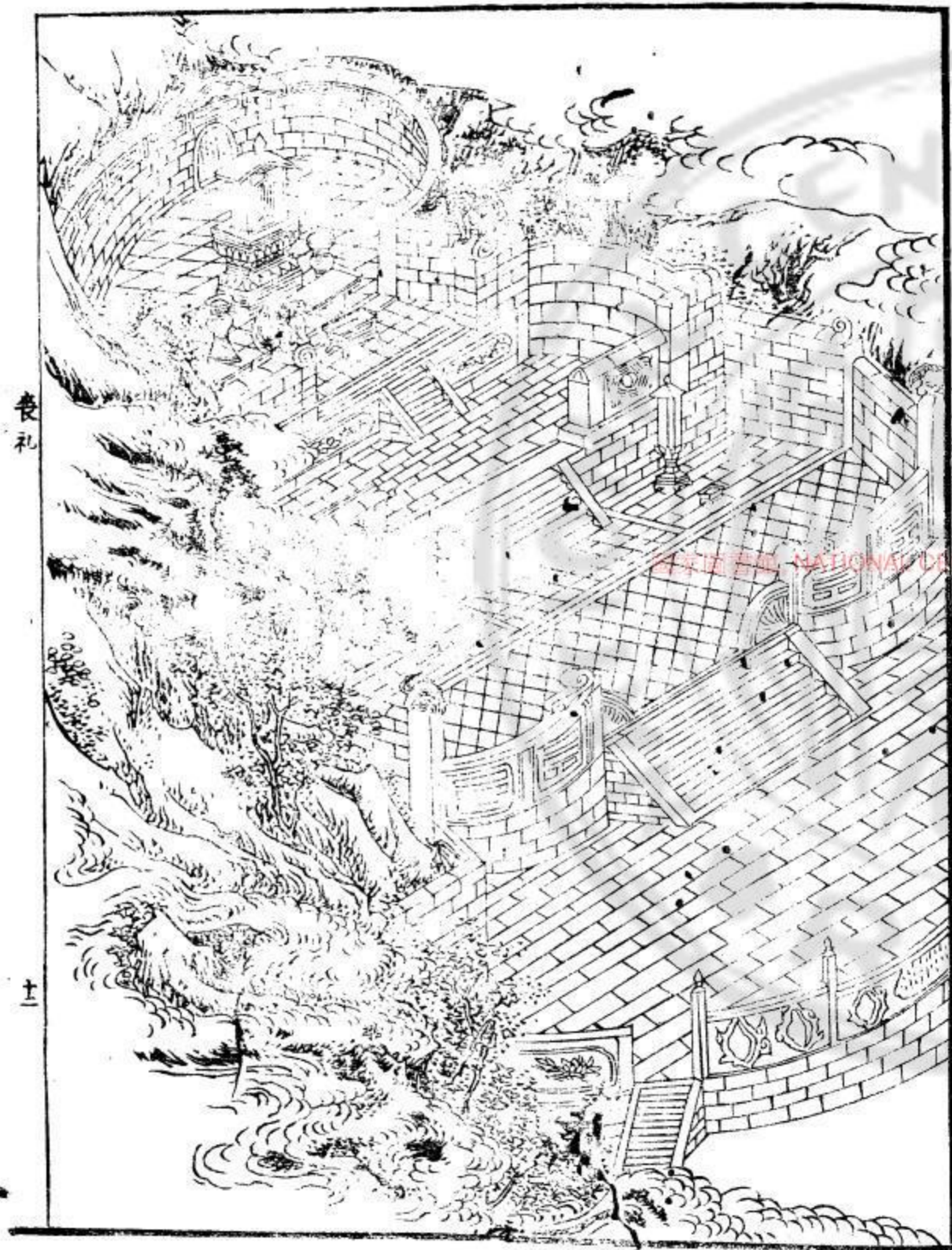


絲亭



○石碑と前以石匠み桃並埋葬の日壺み建不銘文字に金公泊を
 入る○喪中親類朋友より野菜菓物或は餅菓子食物等残
 り不事あり此は只物目録書用不事なり○他郷めく死す
 れば送葬は時柩の上み白兎鶏を一番生のみ結び付置くされ以
 領兎鶏とみ魂魄を故郷へともみかへる心あり

○墓所の先祖の北域み葬すもあり或は風水をかんがて外み墓を
 あくみ求るも有り都く墓と山手み見晴しよ地取をのむ
 周囲を石めぐりみ後手たりして其上に樹木を栽墓の内み方軌
 ともみ方あり石段敷詰石檻を造る喪式なりみ北域等官制あり
 貝民間死夫の幕官所里長へ届ふ事あり御紳の類の人ら官所へ
 くらげ



○父母の喪退五十日過て朋友など小勝中尋向の挨拶らうと云ふ事あり
 江唐紙の帖小枚名の下小青と紙をかき門口より取次の者成程と挨拶
 扱を速く主人出で面會せし中めと懇懇の方めと入で面會すも有
 斬衰麻月衰大小切の服ある時他人小書籍を遺す時ハ朔年の喪も
 朔某と書大切の大切某と書小切の小切某と書印肉と黒印肉を用ふなり
 ○改葬の古吉日代選と墓所小三柱ありび諸供物を備へ酒を奠す
 金銀紙冥衣紙を燒祭と後棺を掘出し棺敷受若損く等ハ紙を
 紙以調へ改葬の墓所へ持行法のまじく安葬其の上に石碑を建
 畢して眞供ふも同一石碑の新小建知ふもわうえの石碑を用ふも
 わり格別の損く等と正當忌日むらうと水廟へ供へ物をして酒を奠す
 喪を除けて後忌日ハ正當忌日むらうと水廟へ供へ物をして酒を奠す

香燭を點し祭奠す其年忌みの週年二年三年十年廿年三十年四十年
 五十年百年二百年と吊ふ此法會小僧道を請く誦經せふも僧道
 を請せぬえおるも等かたけ又故人の生日は家廟小備物眞酒等して祭奠す
 是を眞期と云若西儀多光を掛祭眞以備物ハ年忌眞期もに葦を備ふ
 極負下賤の者ハ諸道具扱へ此に入棺せしむ若昂日向小合ふ時ハ三日
 を経く入棺せしむも有たし父母の喪も初小葬能く亦即日送葬して
 翌日より高賣或ら工匠等小出給 ○初死の眞ありび小葬するもゆりて
 の祭属纏等の類れまなす ○先祖知府以上の官小葬するも又
 賢徳多て朝廷より優將者小預り只級免許を受ふか若の子孫ハ
 執事とて錫めく鎗鋒等形を造るも小道具代送喪の行列に
 持率あり ○凶服の輩國家の御言葉ありび御祭禮等小携

變駕うゑか

執事しやくじ
一名いちめい



ふ事を得えて親類朋友等あつちゆうともより吉事祝宴等の儀請まがせしむ時ハ五十

日ひ外ほかあれハ素服すふく巾きん帽子ぼうしの赤熊あかぐまを付つけ行ゆ ○吊客ちやくかくハ初死はつしより殯ひん

所ところふ所ところより遠とほくくに奉ほうふ多おほく香燭かうしやくを持もち奉ほうふ也 ○茶ちやの喪さうみ又また喪重さうじゆうする時ときハ

其その行ゆ後ごみ随まひ後ごの喪さうも勤つとふ也 ○聞忌きんぎの節ふしハ又また母ははの喪さうより函信はつしんを聞き

ふ日ひより定さだめの日ひ殺ころす喪さう儀ぎ勤つとめ其その余あの親族あつちゆうハ喪さうの日ひ殺ころす内うちに止とどめ死しの

日ひ數かず喪さうを勤つとめ日ひ殺ころ満みふ法はふみはふふと喪さう儀ぎ勤つとめず

○喪さうの内うちみ子こを生うむたふ時ときハ宴えんを設たげ奉ほうふ ○官人くわんにんハ小官せうくわんありやと

又また母ははの喪さうみハ官人くわんにん辞しを ○喪さうを除のぞくみ式しきあり

○三年さんねんの喪さう病やまを聞き奉ほうふ苦くるみ加かふ

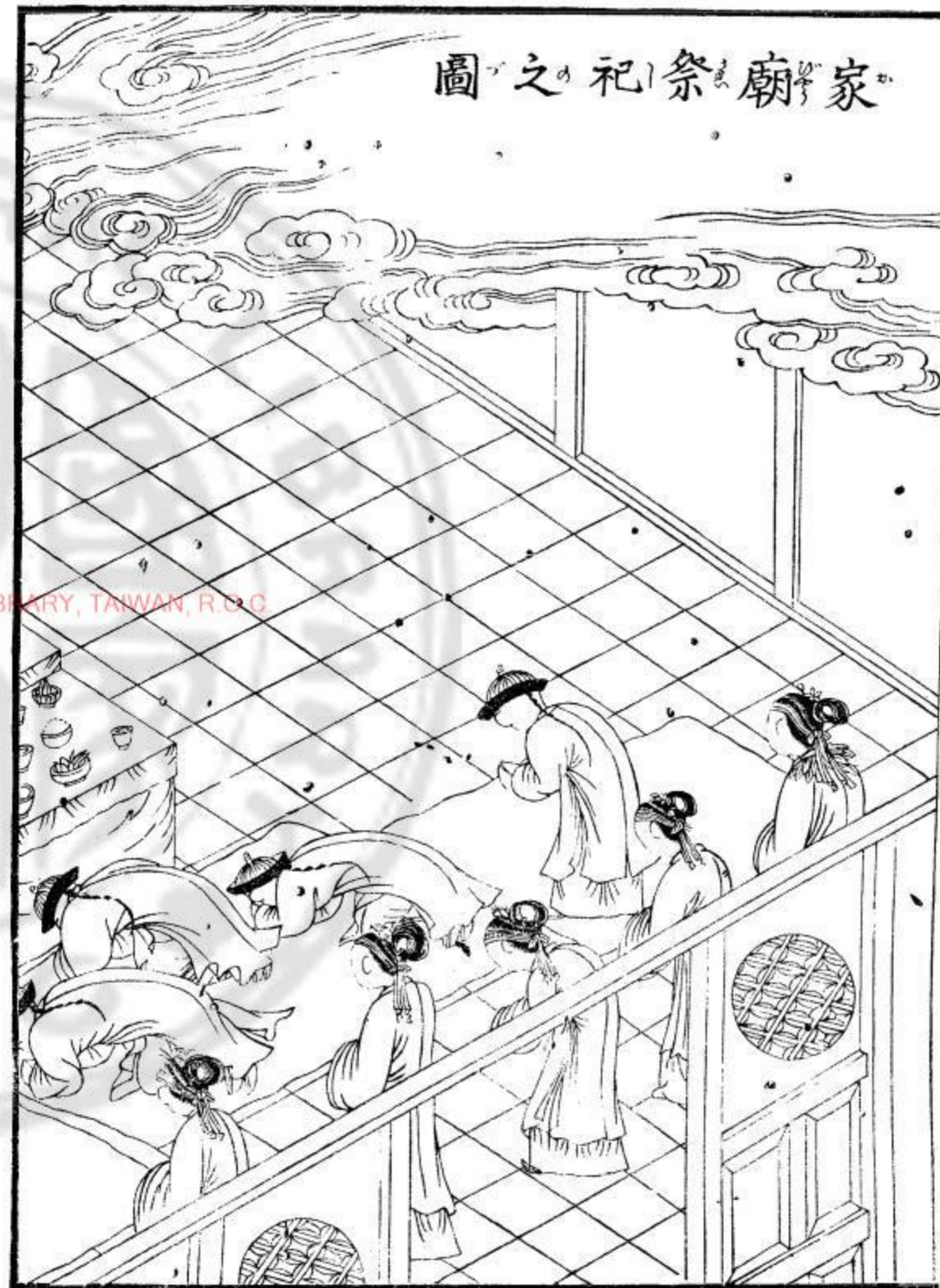
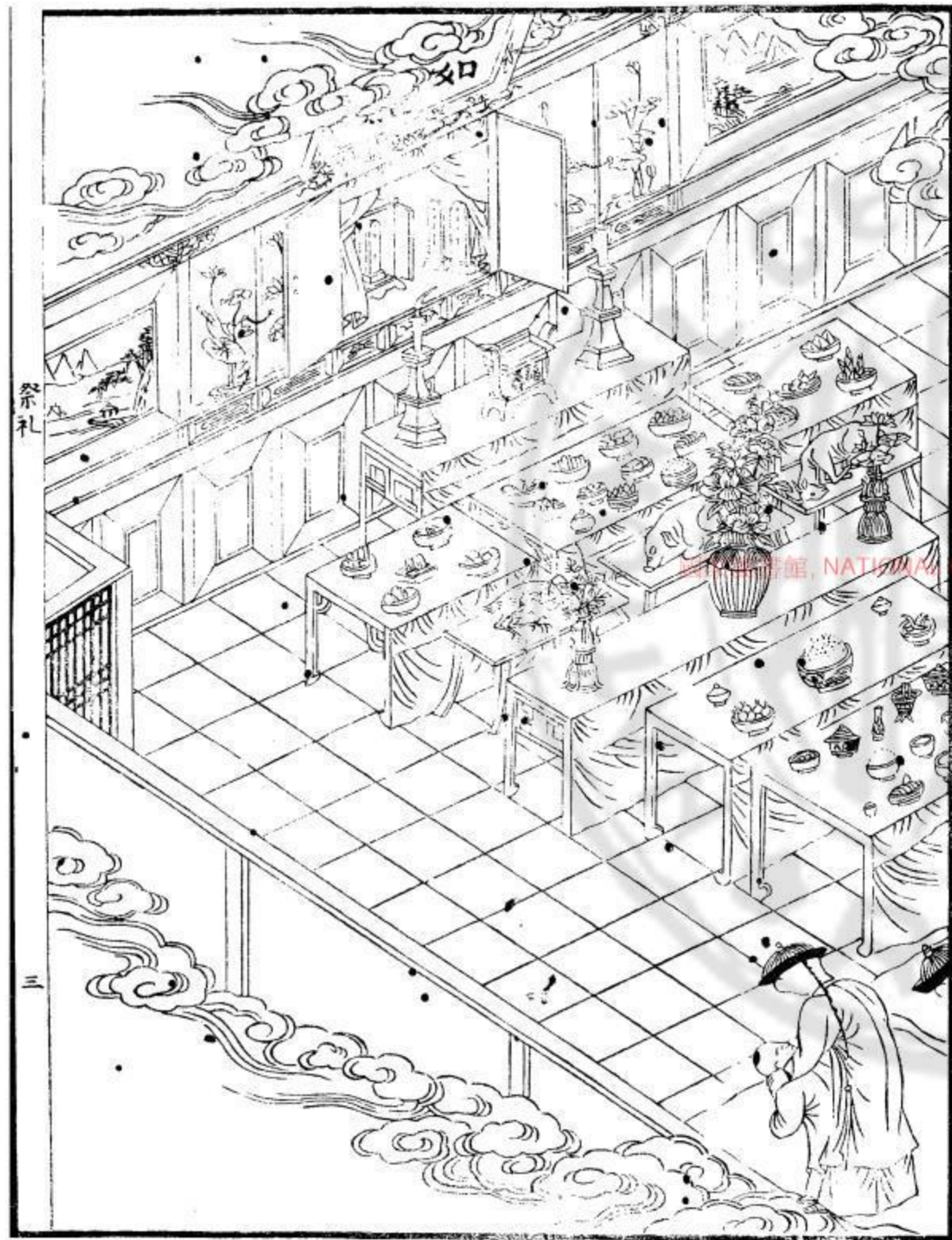
清俗紀聞卷之十一

函號
架號
順位

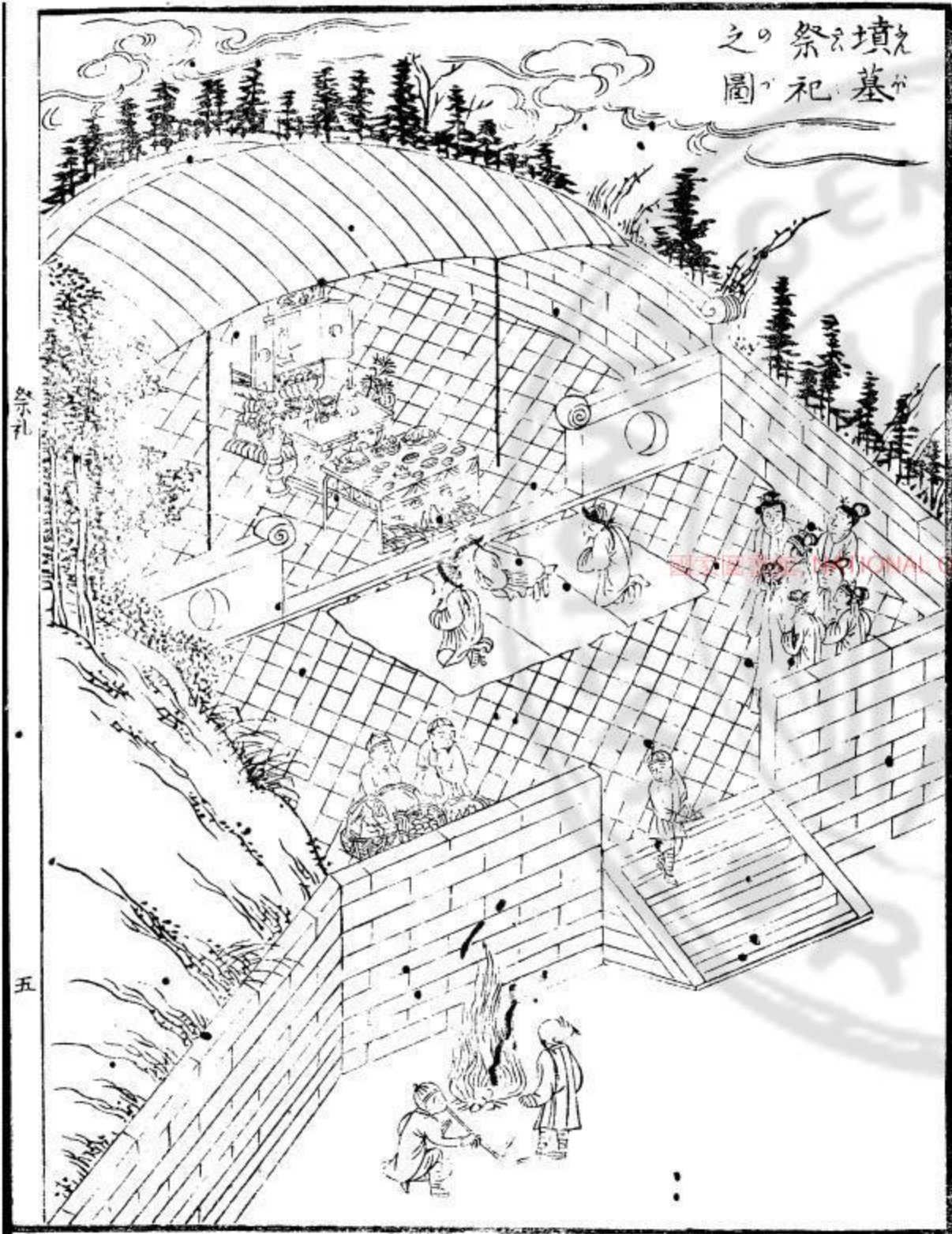
國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

東瓜糖桔餅或ハ糕餅菓物種々ありひみ大根めく水仙花菊等類
 供物都合二三十員備へ至元朝みち主人早辰沐浴盛服を
 子孫分姓を引領ちて家廟へ至り廟外まで盥洗し燈を照し三牲
 を備へ饌進す饌を魚肉野菜煮物中して儀器に盛り爵盃美酒を盛主人
 跪く盃を奠し畢ちて拈香後序を漢人の四拜満人の三跪九叩首を主人拜畢子孫嫡子庶
 子伯叔父姪婦女等同居の親族まじりて拜す廟拜畢ちて家内の親儀
 を述己の中別以徹饌す廟の卓子徹饌の時も主人子孫前此ごとく拈香後拜
 ちて徹後を三牲ありびみ饌の徹す其余の供物と其儀を叙し
 十八日多る徹す饌を徹して暮るる三牲をありびみ饌の物を煮盡して
 家内残らず食はせ茂薦餅と進饌と元日むらりありて二日とありて
 進饌眞酒等の事あり十五日以上元佳節少早辰に主人盛服し

多燭以照し香枝拈し眞酒寸三牲供物等々叙し十八日早辰
 主人盛服し子孫を引領りて盥洗し拈香礼拜し跪て神主人あり
 恭請徹位と告ぐ諸供物を徹し廟厨の扉を開して茶の香案に
 香爐燭臺をかりて至廟門を開す



墳墓祭祀之圖



天幕を張天幕ハ木綿を藍色ニ染ミ 毛氈毯子を鋪く元祖石碑の前におく卓アツク
 香爐燭臺を傍に燭を照し線香を立供物を磁器ツウキみ盛カく使主人
 あくびみ子孫盥洗して猪ひぬ酒を盛眞マコト一拈香ニギハヤヒ礼拜寸側み奴僕大金紙
 冥衣紙ミヤイシを燒捨ヤスふ 大金紙冥衣紙の類 男子拜早ハヤして婦女拜ハヤ後ノチ
 朋友トモも案内して 拜早ハヤして時トキも供物を徹トスし墓所ハカドコロみ於オく責ツク狀シく
 墓所ハカドコロ清スす 食クハし酒宴サケウチをなす 祠堂スウダンあふものハ祠堂スウダンめく宴ウチを催カケす 大オホハ墓ハカドコロ所トコロ地面ノチの
 用ヨウみ使ツふ 若親族朋友の内ニハあつる者モノハ膝ヒザを傍カタに祭マツル早ハヤして山野景色ヤマノキリ見ミたし
 舟フネを遊ユク散チす

○先祖祭み致齋齋戒等の事ふしむるに庶民の祭文成るはひま窟
 家郷紳等の祭文を用也 ○祖父母父母の喪中ハ毎月忌辰ありハ朔
 望神主眞酒拈香して禮拜に毎日拜す事希之葬らざるせん
 且ハ朔暮ハ拈香ハ拜をハ眞茶眞酒眞菜等あり葬つてそのちハ
 喪期の内ハ神主成廳堂み立置朔望忌辰の拜のちあり喪期満く神主
 を祠堂み移してハ父母とハ毎月忌辰の祭祀ハ朔望ハ燭を点
 拈香眞酒して禮拜す本忌辰 日あり とも祭み奉ふし且忌辰ハ
 子孫吃素す奉ふれハ喪終つて後ハ周年 一周 三周年 三年 法會成執
 行ハ祭み此際僧道を請ハ追薦也三年後ハ十年同毎ハ追祭す法
 會ハ僧道を請ハ朔望をハ家廟み多くハ行ふ又廳堂ハ法會の
 神主之位を移して祭みあり僧道ハ布施して銀ありハ錢を送る

是を懺資といハ僧一人一日錢百文或ハ百五十文ハ銀ありハ五分
 二ハ住持長老等ハ銀十之程を修法ハするハ焰口等執行のちハ
 三百同五百同身分に應ハ不同あり是ハ供物料等其内あり又
 朔望の上齋非時の食米を出ハ施粥を早齋と云非時を晚齋と云
 僧齋のちハ盤木魚を鳴ハ此具ハ僧持齋もあり家みハ
 盤木魚の圖式等ハ傍使 又喪中の法會のちハ僧道ハ線香蠟燭
 を持系して贈み奉あり喪ハ終つハ平常の法會みハなつて
 經文ハ大畧普門品金剛經等あり其余ハ詳み知み奉あり
 ○周年二年十年同毎の法會追祭の式ハ春秋祭祀みハ朔
 望みハ家廟ハ三牲一副魚肉菓子類十種程をハ主人早辰み沐
 浴ハ盛服して神主とハ酒を眞ハ拈香禮拜す

○開祖考妣祖考妣顯考妣々其人の誕生日み廳堂へ真容圖をり
 ・皆三牲魚肉菓子類をそと之燭を点し饌を進し眞酒拈香し
 ・祭る式翔望みねふし是を冥期とす真容圖へ父祖の末期み面像
 ・形跡を正写みして掛物不仕立永遠遊幕して志止ぬき老小祭期
 ・縁々在りてくうなまふ又五六十歳中をありて自分の像をうはし
 ・ねまある我平時得意の像をうはしそふくは山水城郭をうはし
 ・赤山中あり景物遊玩の跡をうはしあひと琴碁書畫をうはし
 ・志趣をうはし是を行樂圖とひ又真容圖とふ

真容圖



祭礼

○祭器卓碗碟等々多く平時需用の器潔淨ふる成用也人の中外も使へ

○並もわると希なり ○家廟の大小廣狭を身が家貫の貧富當ふると等

加子方位向きの家作の向も應は只此向を掃ふ廟中平時の掃除點燭ホ

ら奴僕經手は掃除等の時廟厨の之儀をふらふむじらす

○主人出入も祀に告ふ事なくからひみ生子は節家廟も見之む事

か子孫做親母を必告ふ ○中秋重陽冬至の佳節も計り家廟

を祭ふ事れいむ家の舊例もよく執りふとあると一定み何す

○家廟も佛像を安置せし神主ありあり佛像も内廳も厨子を補ひ

安置す ○先祖の遺物の封固して潔淨ある匣み入る收貯し去も

他も出さず遺物分給の事親族も隔る遺命あれは送る子孫せりて

檀も賜ふ事を得て其親族或は至る親も朋友も父祖の筆跡等

を所望す此の家廟も告く詩文章の類の筆跡を賜ふもわら衣板就

具等も賜ふ事なく親友も所望する事もなし

○水火非常の節は吊列家廟も至り神主を残しは原集り櫃箱ホに

收免子孫等姪附随ひ難を逃し親族朋友又も寺院等へ預免難

難その後廟所恙ある時と移して祭祀を執りて其廟所焼失流

失破損等あり移す事あるは外も假廟を設け安置し臨時も

祭祀を執行す是を厭敬馬祭祀とも取集る時其事急ある中人禮

儀も及むは急難たりとも家廟を收むる内は外事なり

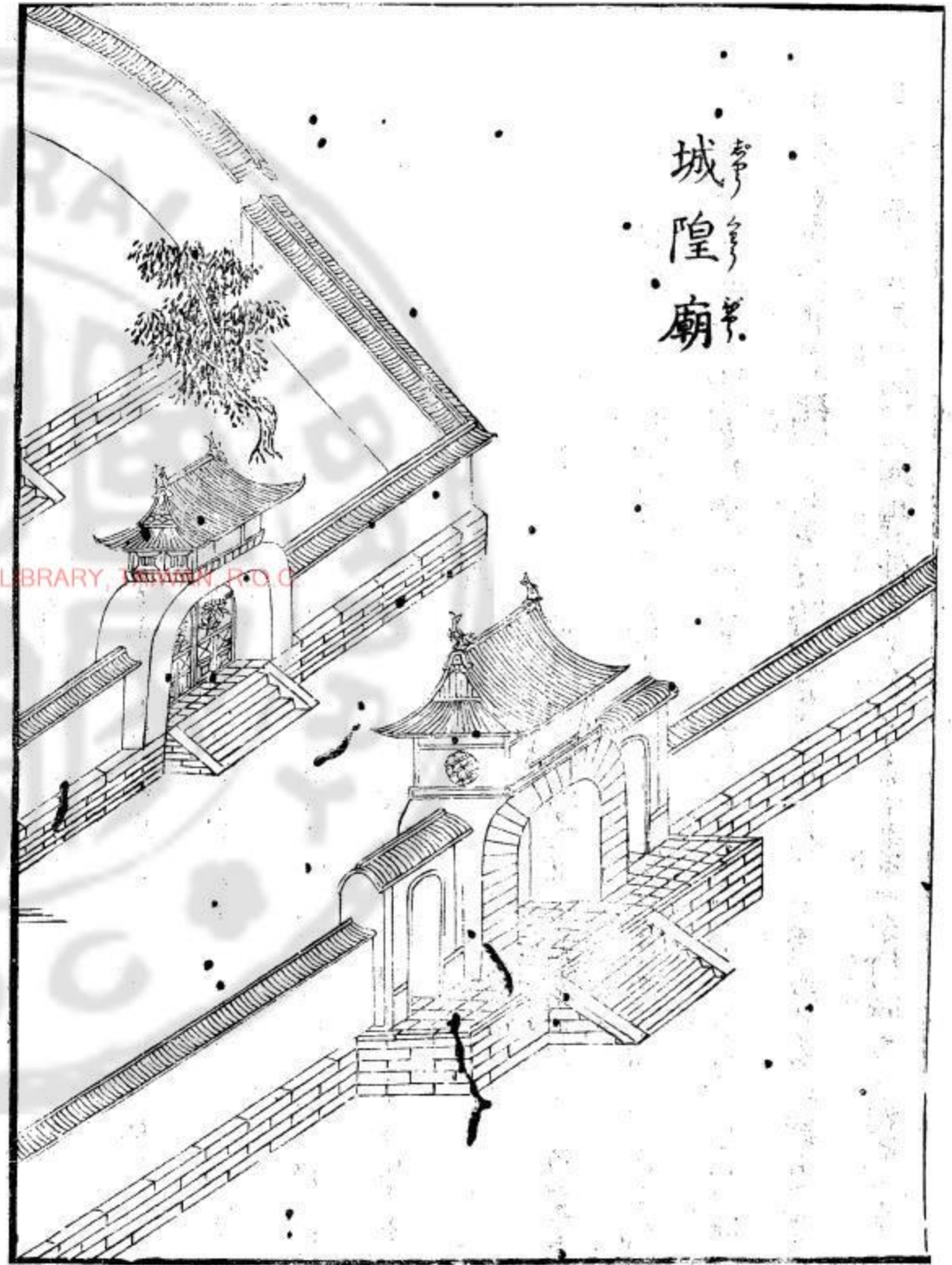
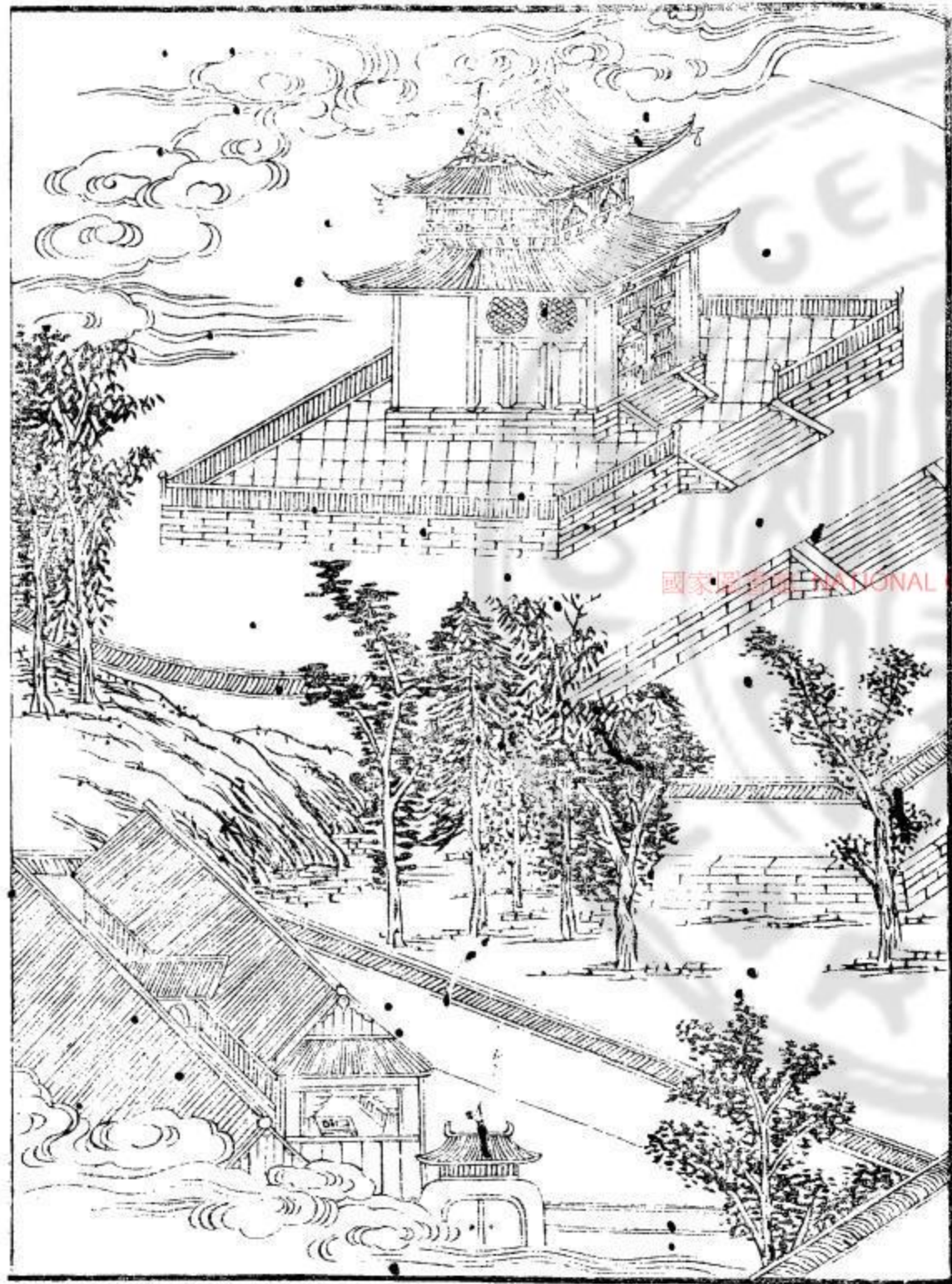
○及て凡 ○虞禱の祭祀も小祥大祥と則周年三年あり

○城隍も古く其地も徳を誦ふ各官歸賢を城隍神と崇め其地の守護

も諸省府州縣ともも廟あり知縣以上の官到任して三日同あるは事

五日ゆふ老若諸を是を城隍齋宿とふ祭式は前日禮房官別殿も六部を多官吏を三
 舊例の儀注を中出三牲等の供物を兼て祭文を傳へて出並り日日本官縣多は知府也 吉服辨振して禮房官執事人役 執事人役掛符のを引領して城隍廟存多は知府也
 小至門口おみく馬轎より中と神茶よ至る禮房官供物をそめて酒を奠へ燭成より早とそ本官三跪九叩首の礼をせらるひ其地の安全を祈願し祭文をよみあま焚化祭文の讀記して執事人のうち辨礼早早て廟祝の宅へつと茶飲飲をそとく休息して帰館以廟祝其地代々朝祝をほむ朝廷の官亦わらふ不級まの事城隍神古より其地名賢等所々近縣近府の神狩をらして安並に惣して府内の城隍を知府内視縣内の城隍と知縣視ふ城隍をはりふ城隍神とふ知別知縣の生民を司ふ官ふれ陽官と呼ぶ城隍陰府を

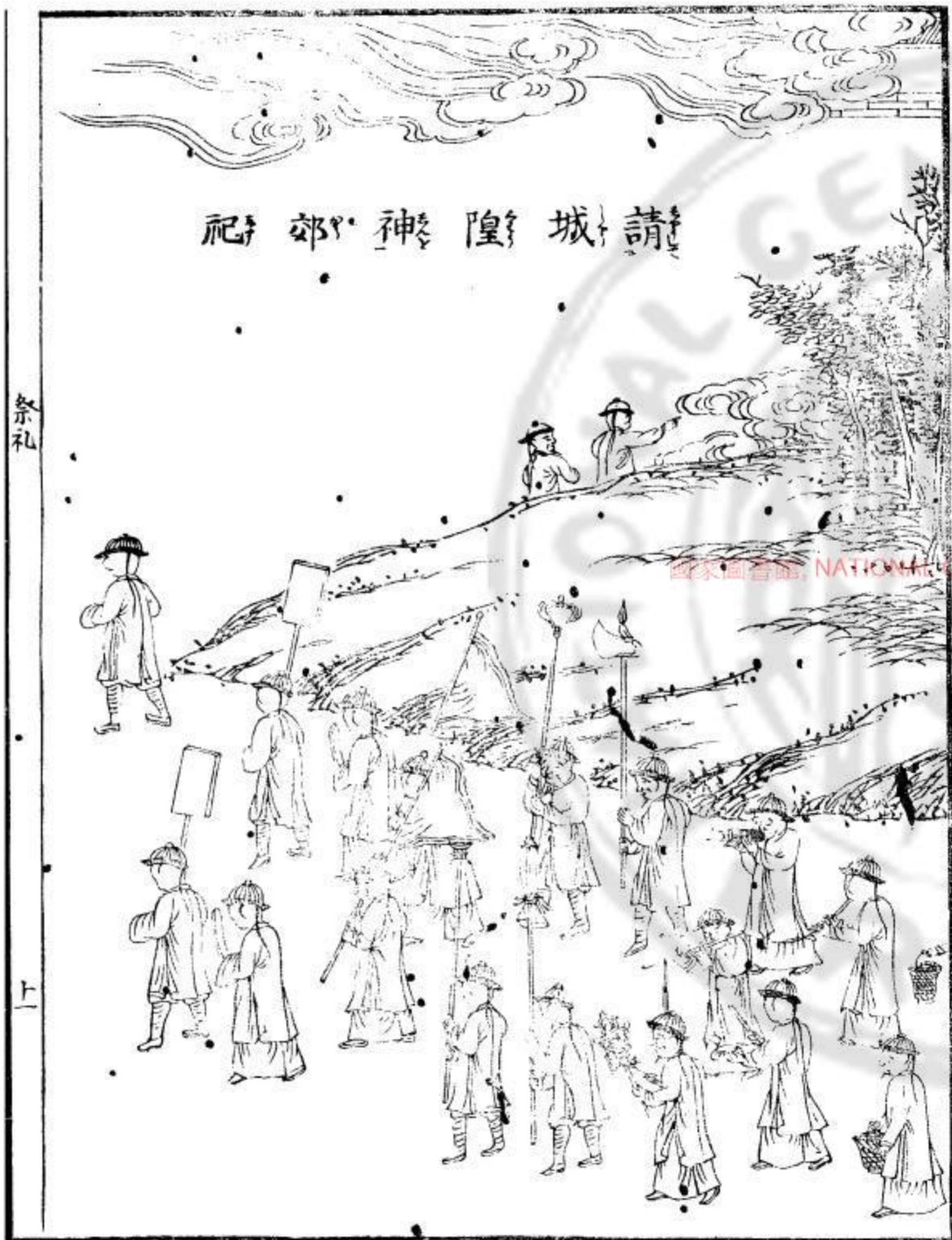
孤負を司ふ止陰陰と以三月清明の日七月十五日朔日定式の祭祀此祭日み城隍神を大轎小系系せ郊外席をあ請し仍祀孤の為し兼く構わる廟壇へ廟壇多は不草草月の後陰を遷座しり本官を始め衙門の諸官紳典の老老を引傾して祭ふり或は三牲魚肉野菜菓子類等殺す陰儀燭を点し本官拈香礼拜を次み諸官吏老等拜りて諸官吏の歸館す其政諸人と系指礼拜は先を祀孤とい小陰間の孤祀ゆるを祭ふ意あり祭終りく其日の申れ刻以廟歸し奉多廟みての祭を到任齋宿朝望中秋冬至と外とかし中秋冬至みの三牲供物を使用望みの三牲を使用此祭ふの官人系指をかまふし廟祝を供物を使用祭ふ官小願ふ祭ふの清明七月十月の三祭也遷座の長行列の次先に奉目祭祀次小城隍使司と金字を書き行牌を一對立建て



城隍廟

請城隍神郊祀

祭礼



城隍神像



土公神像



○天后聖母

一云天后と云ふ娘がとよき俗名媽祖娘々といふ

專海上の守護神也宋朝建隆元年三月廿三日福

建興化府湄洲あり誕生あり父林氏宋朝みはして刺史の官にあり致仕して

後天后誕生あり天后幼少より智慧賢徳人み起十六歳の時道士より道を授

り了り二十八年の年九月重陽白晝に神と化し湄洲の高山より昇天

して世々神靈感應著し信仰祈誓するに應せざるまれし代々の帝王封賜

の勅あり康熙廿三年みありて天后封賜春秋祭祀免許の書あり湄洲

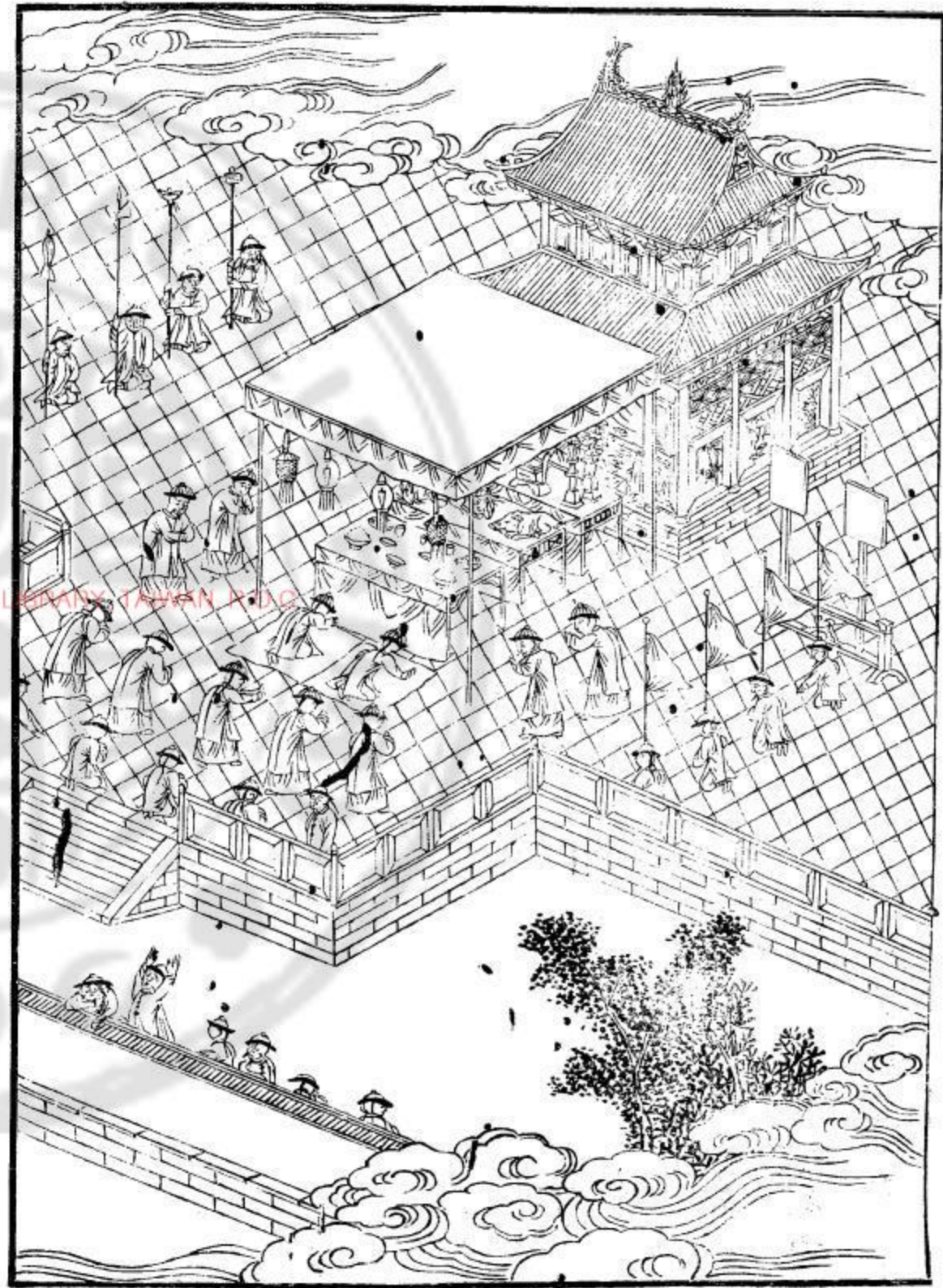
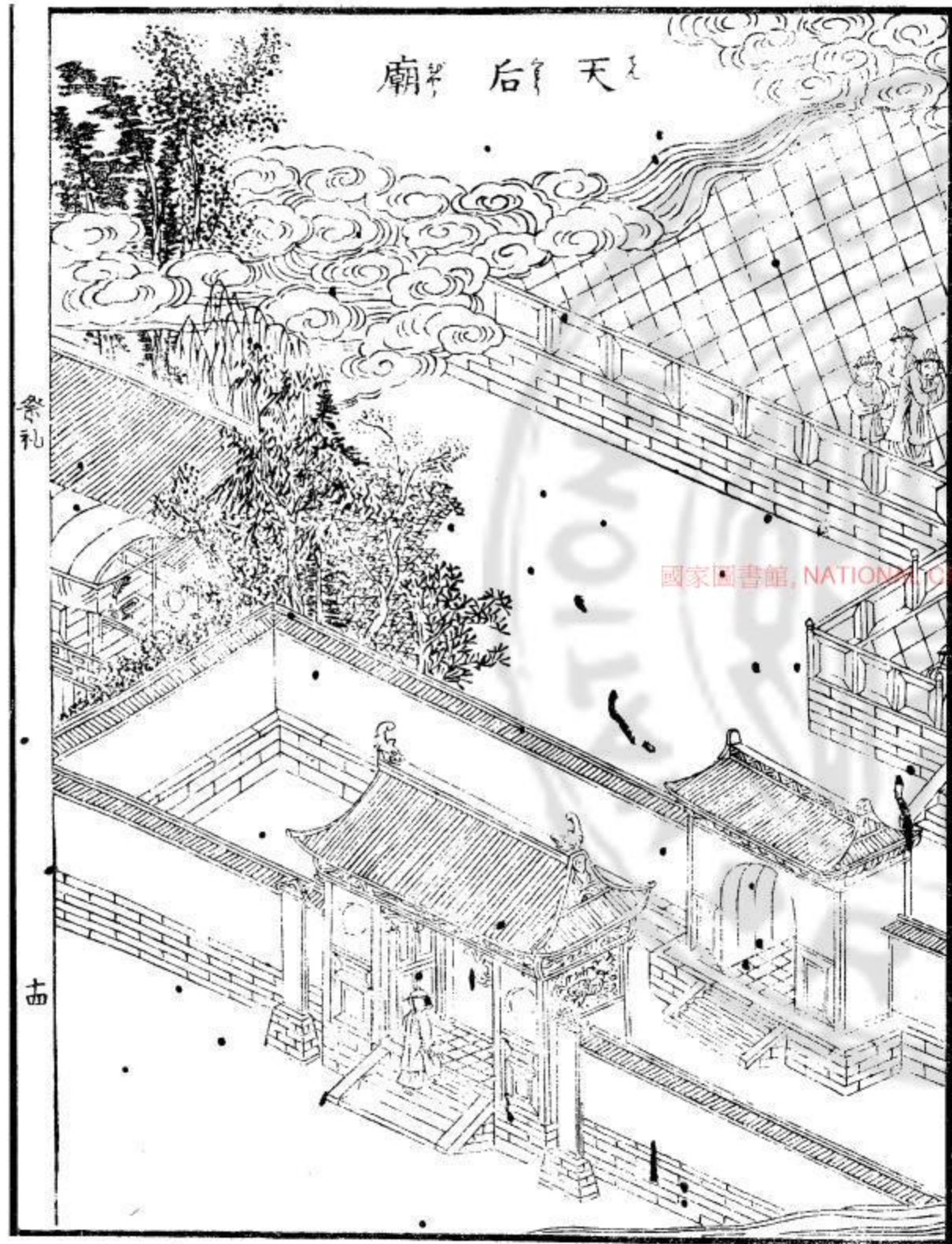
と聖誕の地多し大なる廟祠を造営し神を安んじ其外京師并み諸省府

列縣亦み廟あり廟門前に下馬牌を建下馬牌ハ朝廷より祭祀の式ハ大牢牛

祭祭其外種々供物を供へ玉帛香燭を奠し祭る其地の官員之を兼り

執事人員を支配して司り朝廷より禮部官の内兼祭官ありて勅命

祭文香帛を捧欽差して湄洲みあり祭祀ある京師の廟も亦あり



天后聖母像



欽差を去りて祭らしめ天子も急欲深る也 天子を始三跪九叩 諸省府州縣の廟 首の礼を行ひます

(其地の本官より禮房官(命) 祭祀の事を司りし祭日み本官兼諸官人

系籍止官人系籍早く諸人男女系籍群集也本府州縣は亦大宰をりて

祭と神前の供物若干程香初焼燭鮮明也祭日二月廿三日聖誕日の祭祀春

秋二季の二月八月の上亥日を用も兼祭官等系籍の次すの祭日諸執事人員

齋戒して高日早辰沐浴吉服して廟におもひ廟祝燭を点し香を拵り早きて

長官 諸官の 長官は 諸官の 長官は 高申して諸官執事列班す 正席 贊禮官は方々三跪九叩首起坐の式を唱

ふに博し諸官礼を行ひ讀祝官祭文を讀早く極快化す 祭文の時小 諸官群集して退散す 値ひ化す也

か其地の保甲(命)も諸人の口角争闘をこれをも抑ふむ祭日み其家数田民を施主として

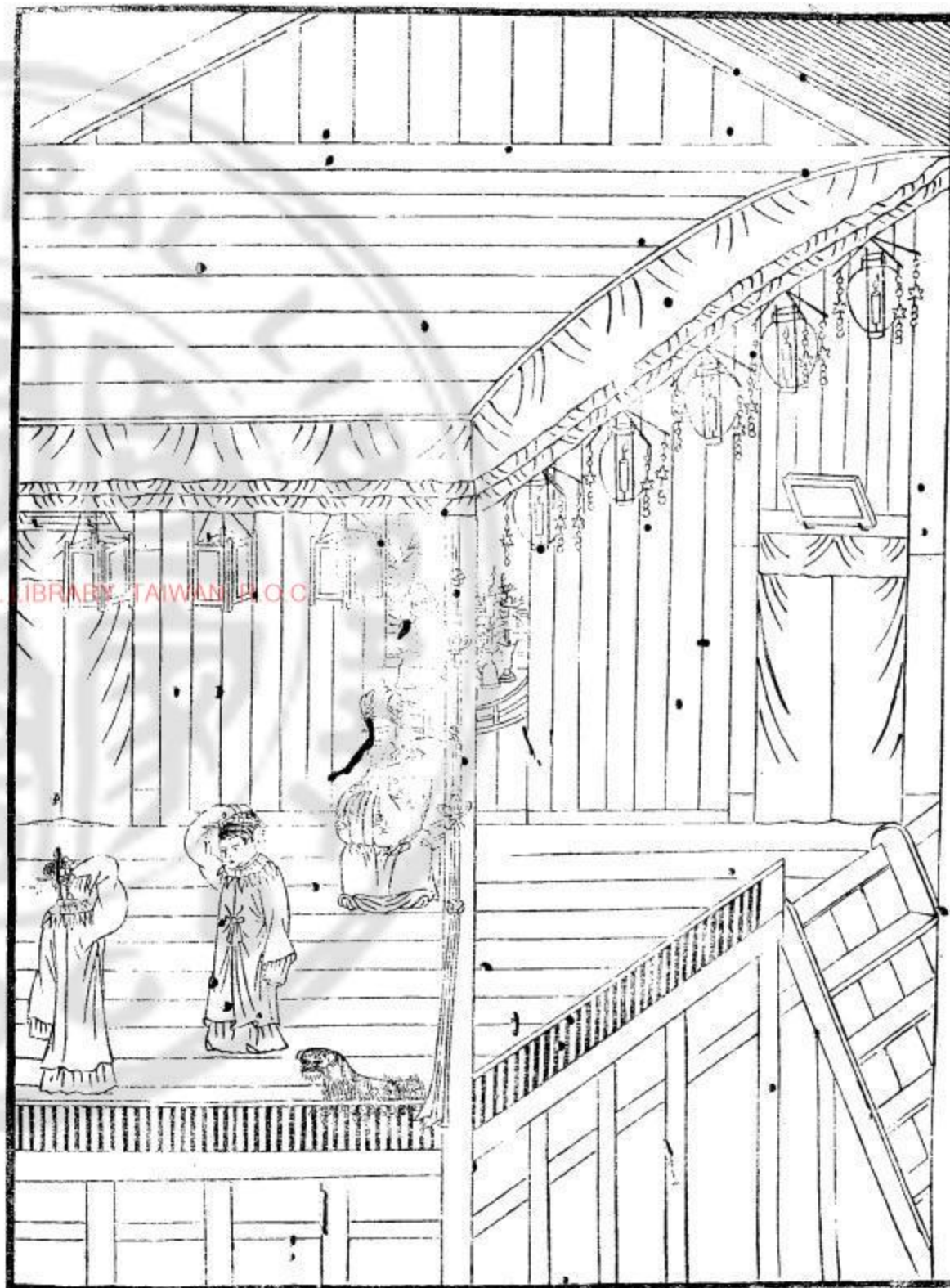
做戲を催し廟門外の廣瓦場を戲臺を設け做戲を献す系籍の諸人音戲もきて

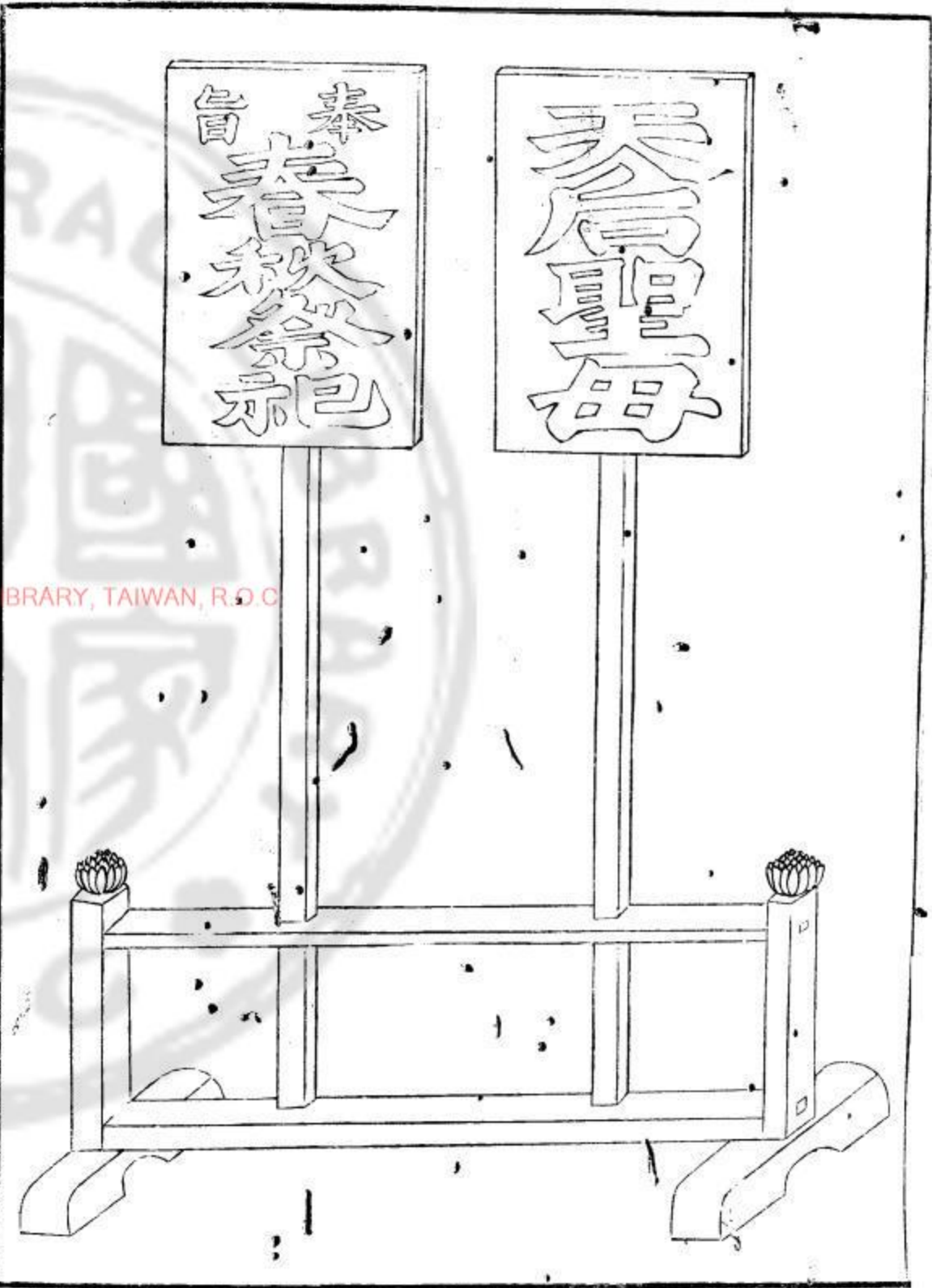
登新開動す祭祀科音燭科廟祝俸米等其地の開銷み多く工部(由)也

戲臺

祭禮

十六





○關帝關聖帝君之廟 武運のち獲神として感感感感著一軍奉るに祈託きて

慈せらるるは武官武官の勿論勿論と外官外官民信民信仰そ敬他の神神亦亦起諸省府州縣諸省府州縣に廟を建安

至す武朝と唱へ御里村落の庶人庶人と之之及侍及侍等等は雍平年中雍平年中に臺灣の械徒械徒起りて

靈驗靈驗多て速速み平靖平靖せ故靈佑靈佑大帝と加封加封る春秋祭祀春秋祭祀免許免許也廟門外廟門外下馬牌下馬牌を

大軍を以て祭祭ふ祭日祭日の五月十二日五月十二日歸天歸天の日に定祭日定祭日と以春秋春秋二二月八月上戊

日を相官祭相官祭奉て諸人諸人善信善信す男女男女を極極せしむを做做戯戯を献献す奉は祭式祭式祭科祭科等等ハ開

銷銷の乘乘ハ天后廟天后廟同同○天后廟天后廟閉廟閉廟たみ靈載靈載と云物云物之之一一小載小載は本或ハ竹本或ハ竹を以て札

を以て以て凡凡百枚百枚ハ百上百上書書多多を以て相相入入く收收す人先人先を振振出出て吉凶禍福吉凶禍福を告告ふ

別別み其其書書多多の形形れ吉凶禍福吉凶禍福を示示したる神託神託を詩句詩句み綴綴りて書記書記したる板

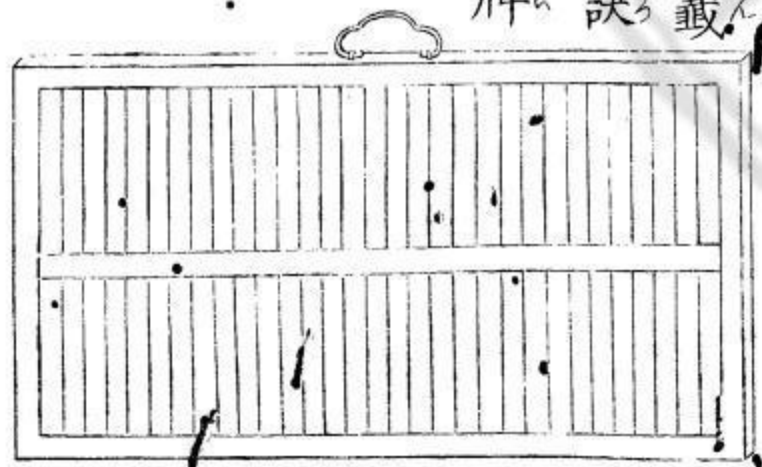
を先先を籤訣牌籤訣牌と云籤籤を振振出出し書書多多を認認る籤訣牌籤訣牌の書書多多の一行一行み比

へ合合ふ吉吉凶禍福吉凶禍福の意意を知ら知らかる

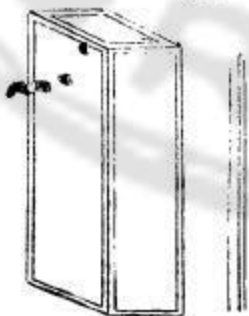
關聖帝像



籤訣牌



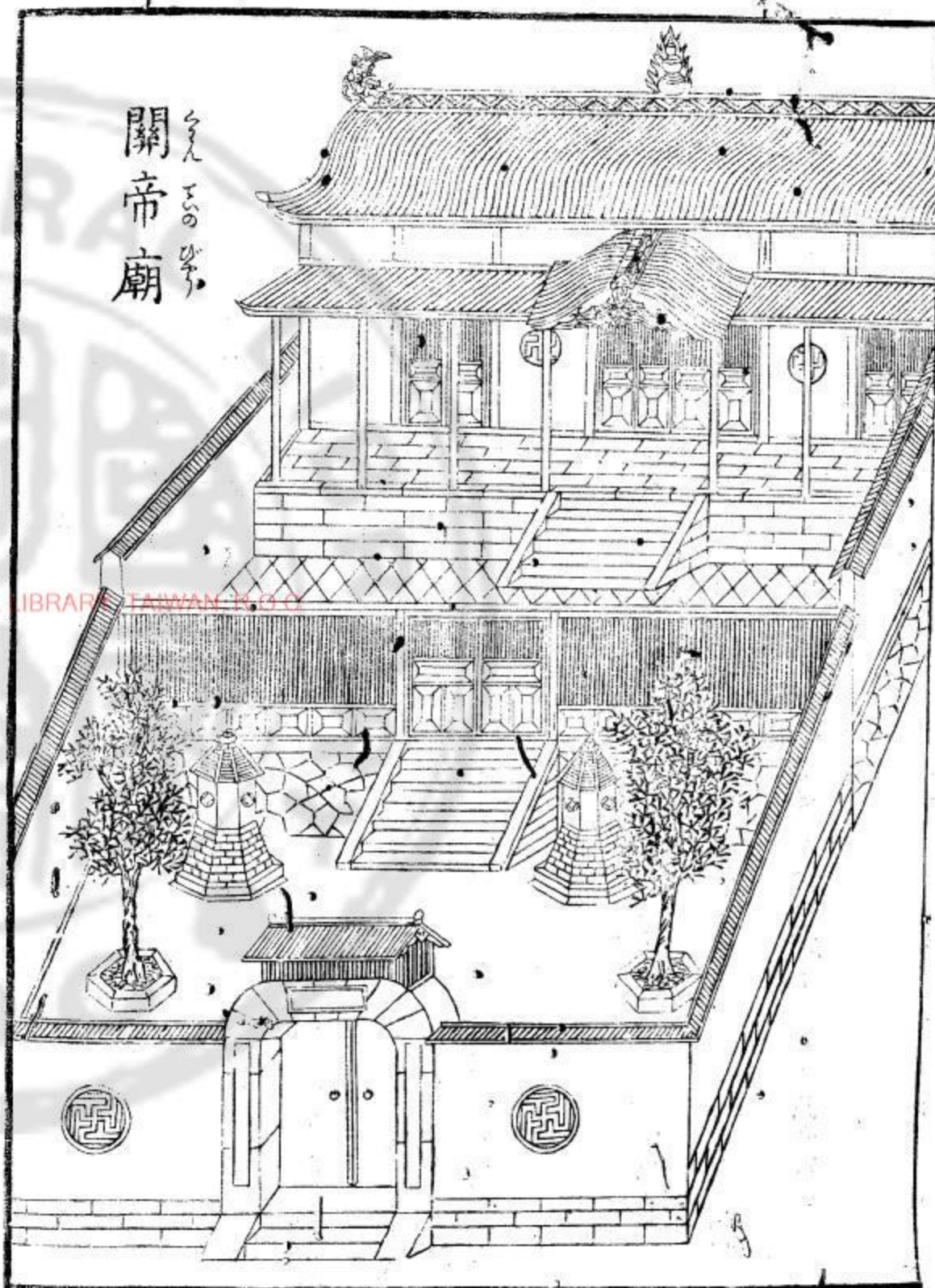
靈籤



祭礼

六

關帝廟



○孔廟（孔子廟）系師（孔子）希（希）諸省（諸省）府州縣（府州縣）亦（亦）廟（廟）を建（建）二月八月の上丁日（上丁日）祀（祀）眞

の祭（祭）祀（祀）ありし廟（廟）門（門）下馬牌（下馬牌）を建（建）官員（官員）其外（其外）庶人（庶人）あて（あて）通（通）紛（紛）せ（せ）祭（祭）事（事）を

系師（系師）の廟（廟）へ（へ）欽（欽）差（差）を命（命）ト致（致）祭（祭）ありし天子（天子）系（系）稌（稌）の（の）小（小）諸省（諸省）の（の）官（官）府

預（預）を支配（支配）して（して）目（目）か（か）差（差）の（の）節（節）と天子（天子）の外（の外）其地（其地）の長官（長官）と之（之）も丹墀（丹墀）の

上（上）み登（登）か（か）事（事）ありし丹墀（丹墀）の下（の下）に（に）拜（拜）は（は）藎（藎）藎（藎）豆（豆）泥（泥）止（止）の草（草）藎（藎）藎（藎）の

毛鼓（毛鼓）樂（樂）初（初）獻（獻）亞（亞）獻（獻）終（終）獻（獻）等（等）の（の）半（半）の祭酒（祭酒）先生（先生）希（希）に（に）諸秀（諸秀）乃（乃）の（の）草（草）は（は）と免

三跪（三跪）九叩（九叩）首等（首等）の禮式（禮式）ありし之（之）も庶人（庶人）亦（亦）み窺（窺）探（探）も（も）事（事）を得（得）られハ

詳（詳）も（も）知（知）事（事）ありし事（事）也（也） 文廟（文廟）の圖（圖）間（間）學（學）部（部）に（に）存（存） 一

一

清俗紀聞卷之十二

國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

清俗紀聞卷之十三

僧徒

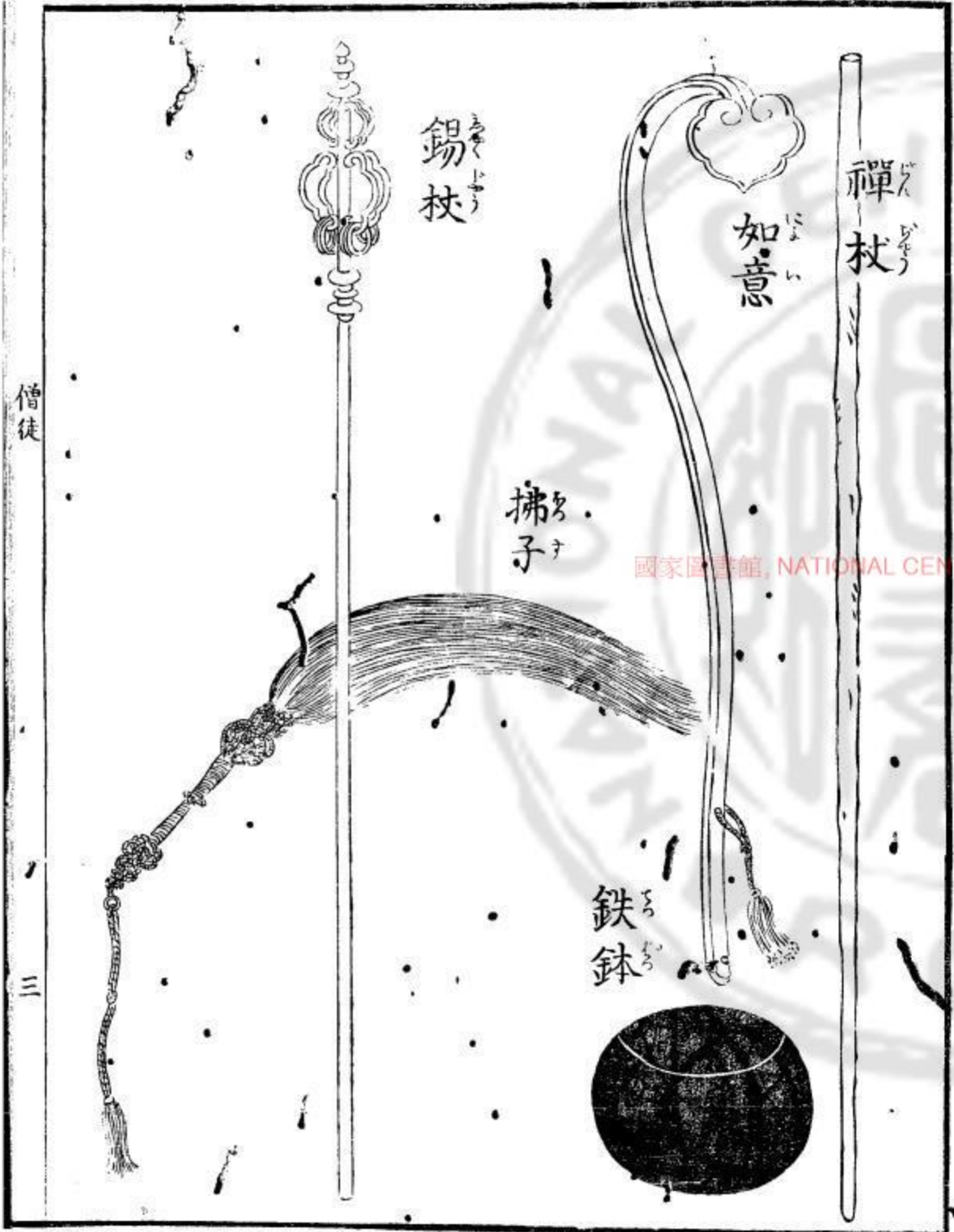
○唐山の禪宗律宗天台宗及び道家の律宗天台宗を以て少くも
 総じて僧侶の天子も天子の御前もあつたが絶て朝廷に出る事なく依て文武
 官みとらての格式を以て好く官に傾地等苑行を以て事なく官に田に
 寄附の事も至る稀なる古今の知識も又任持めく官にも格別法位
 仰の僧も吾人せざる時々永遠白華の助とて田園及び寄附せざる事
 あるも亦あり大伽藍を以て山に付く山田比等あり其外檀越の官人富豪
 民も喜捨して金銀及び田畑菜園等送ふ事ありはつて大伽藍
 衆多れば僧ども事足かなり

○寺院の境界も石めく造る榜示あり自是東西南北菜寺境界

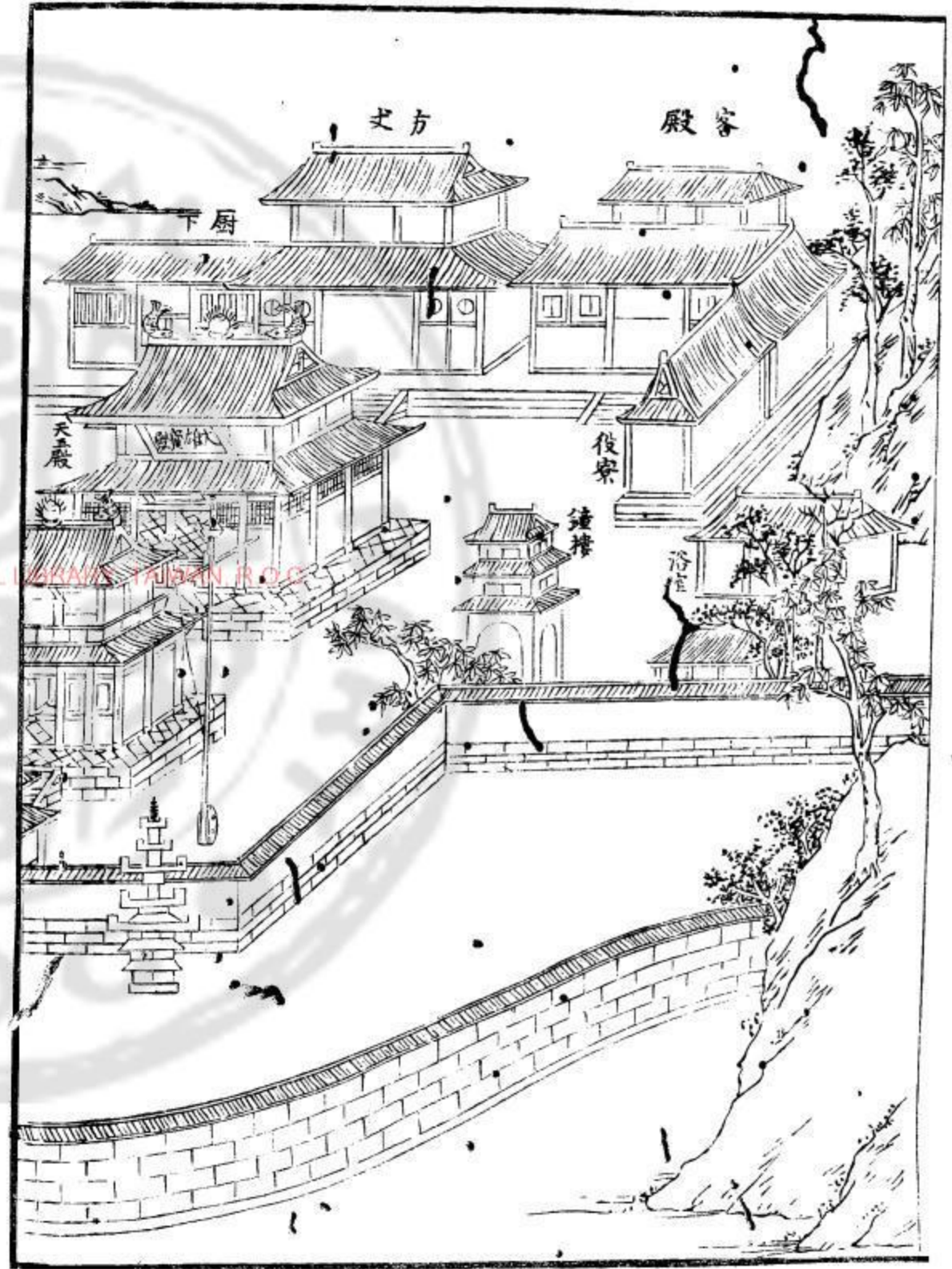
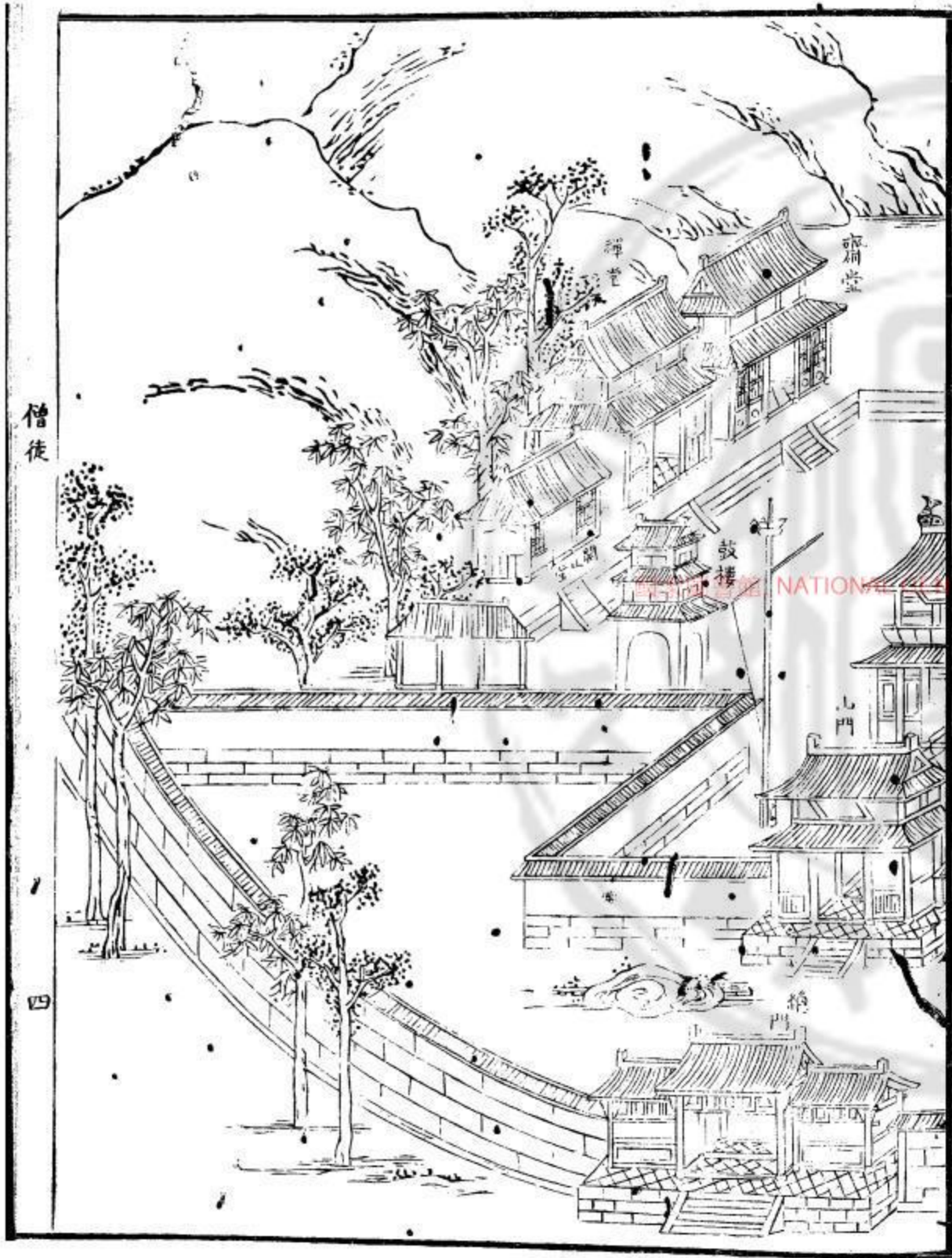
僧徒

多く別み朝廷より免許を不事ありてありて寺法めく並事ありて依り
 龍牌の供料とて朝廷より寄附給賜等此事あり
 天子皇后より龍牌（上使等）糸指の事あり天子位牌紳主等三
 並みありて其の官人年頭みま川寺院と糸指此龍牌を拜せ
 さら朝廷へ拜賀すか意あり

天下の寺院を統領するは禮部の官なり諸觸等其末に知縣あり
 後し知縣より寺院へ達し僧侶の諸触するは破戒不如法の僧尼方等此事知
 縣より出さる知縣ゆく裁判し輕重事り知縣切ゆく執りて其重なる事あり上
 司ト達し禮部（伺ひの上取し）多るい一山限る寺院の通執行不脱衣の控
 わかり形止むも詳めたる事能らば度牒と寺院の任持より知縣へ願出せば
 聞ぬけ上吏に知縣衙門みねあり後さる兼く五枚十枚死頭請並剃度の



國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.



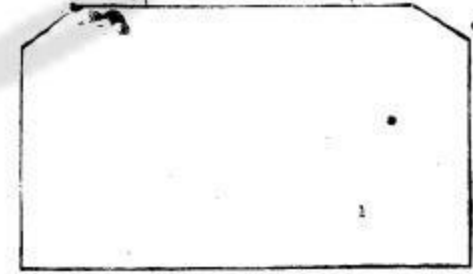
龍牌



山門外石碑

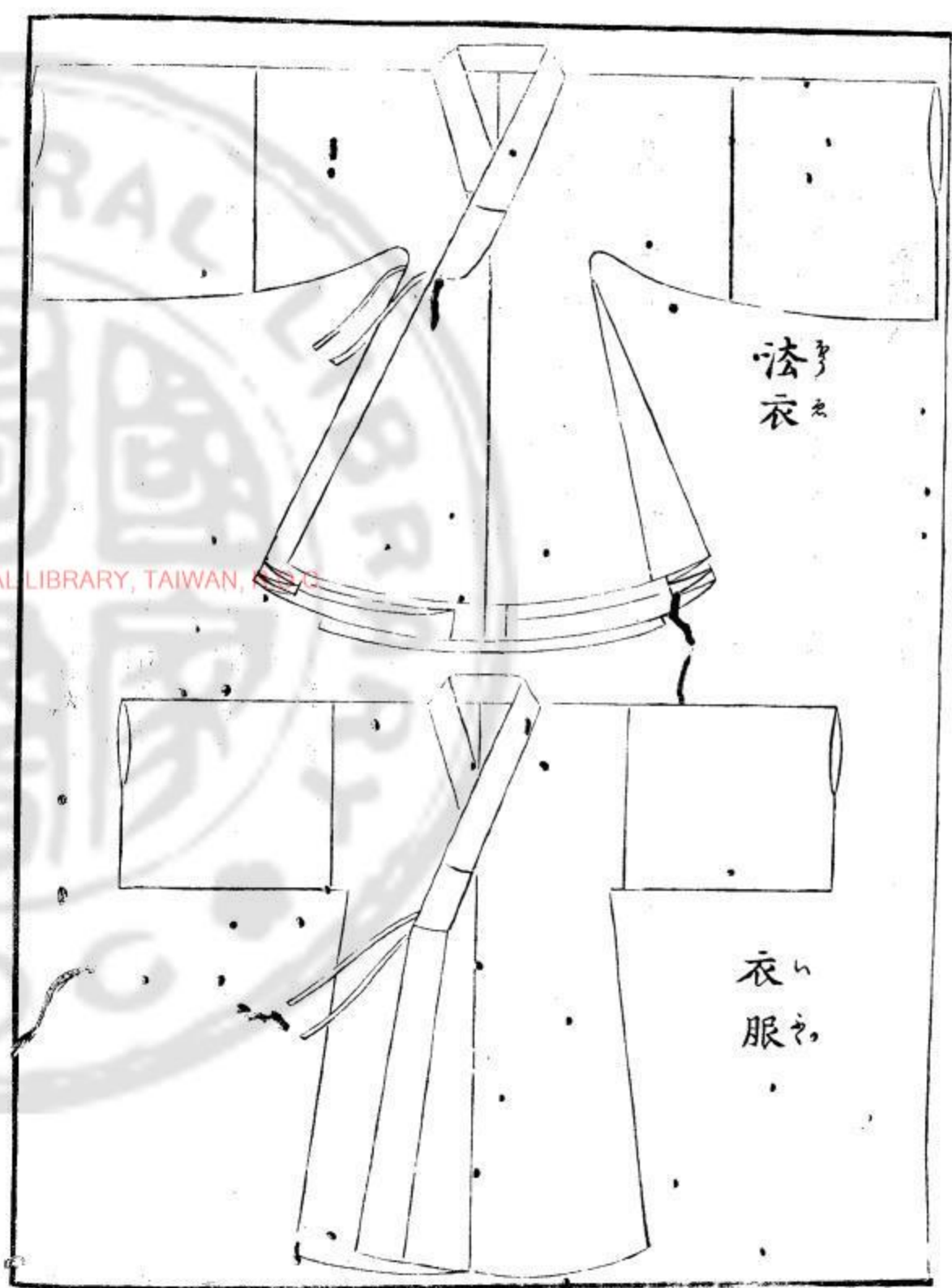
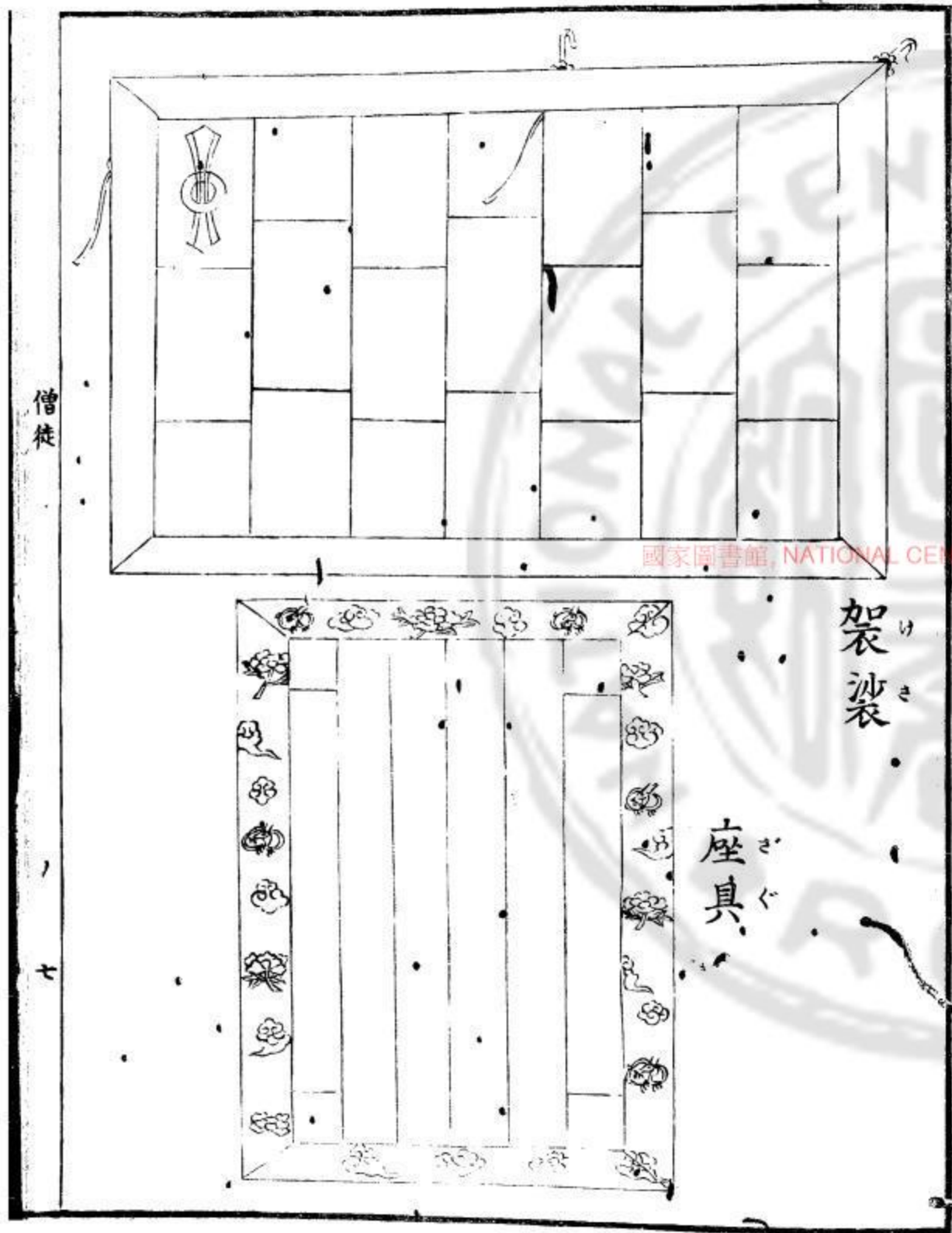
不許葷酒入山門

高廿六尺廣二尺二寸



僧あふとる師の僧を任持し願出を請ふるは度牒年分の定数ありては
 剃度の人定数等あり且僧死するは度牒を其本寺へ返納す本寺より
 官へ返す事なく本寺に納むるは剃度の僧あふとるは度牒を其本寺へ返納す
 剃度の度牒は式を官府ありて僧家の取り扱ふ事なく見及ふ事
 ありとる事ありて僧家の田地を都て僧に支配ありても民の
 支配は寺院の田園を民間へ貸耕作せしめ年貢を収むる事貢未進
 不納等ありて知縣へ願出裁判ありて某園ありて人夫を雇ひ耕作せしむ
 新法邪教ありて本寺中へ兵器及物を寄進する事へ割捨せたりて寺院を標
 本建まざる事ありてあつて寺院の数を官に書留めありて本建まざる
 事ありて其地の知縣ありて民間海の人造宮は
 禪宗と法衣加衣沙衣を着し
 加衣沙衣ハ錦縮綿紗綾の類法衣と

僧徒



國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN

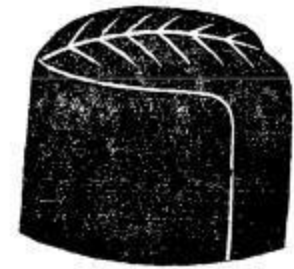
僧徒



總角そうかく



前面せんめん



帽子ぼうし

横よこ



白絲しろいと

紅緞子べにじゆん

僧鞋そうげ



誌公巾しこうきん

國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

小沙彌



座禪間念佛經等の勤學を多しむ年若の内を小沙彌と稱す。諸事お
 つかふ。○月勤めを巡照とて夜不抜を勤め夜中木魚を敲き
 無常迅速一心念佛南無阿彌陀佛と唱へ寺中夜巡とて更を毎に本堂より
 禪堂に掛たる更版とて板を叩き此板を叩くを高き木を讀諸寮に觸る
 五更の更版を叩けし鐘司鼓とて役僧鐘樓鼓樓を登り鐘を撞大鼓を叩
 其内殿司の各佛之燈明を點し香花を供へ打掃潔淨は年止りて役半鐘と
 半鐘を聞く首座以下寺中の僧徒は皆本堂に集り誦經始り大衆の内より
 一人大木魚一人銅磬を鳴く年若僧より小磬小鏡鼓を敲成鳴り誦經の内
 任持提爐を持佛殿に垂れ白帝の龍牌及靈廟其外諸佛拈香一方丈一塔
 明方お誦經畢してまくの寮に入典座の各齋堂の茶お飯柳とて魚の形に楢
 高掛ある成叩き又雲版とて物成叩けし任持成始り首座以下僧徒の序

寮の僧引磬を打齋堂も集ると位に此の鐘を打て齋堂も吃し早くて之の寮に入り座禅修業も修る事あり又托鉢も修る事あり昼七時暮ら午堂も掛るの半鐘を叩げ八時のおとく諸僧集りて細経の夜一更も鐘楼の大鐘太鼓を打静し二更の更版を聞く座禅を止め休息に

○佛の供物も毎朝茶点も飯の初徳成供も朔日十五日の菓子野菜類四時宛供ふ事定式あり法會上法會執行の時、多少むせりかき

○昼夜寺院の鐘も夕七時昼七時夜五時此三度より外時刻を告ふ事あり

○出世の志は僧の遊方僧とて諸國を巡り知識を尋ね其寺に掛錫し重く座禅回答成修む此向の行者とて修行進む悟り入道を開けは其類も知識を求ふ師と侍り先師の事を受業師と唱ふ行者の間々中切の有修も修行専あり此の者の内より多く名僧出まると



半鐘

大鐘

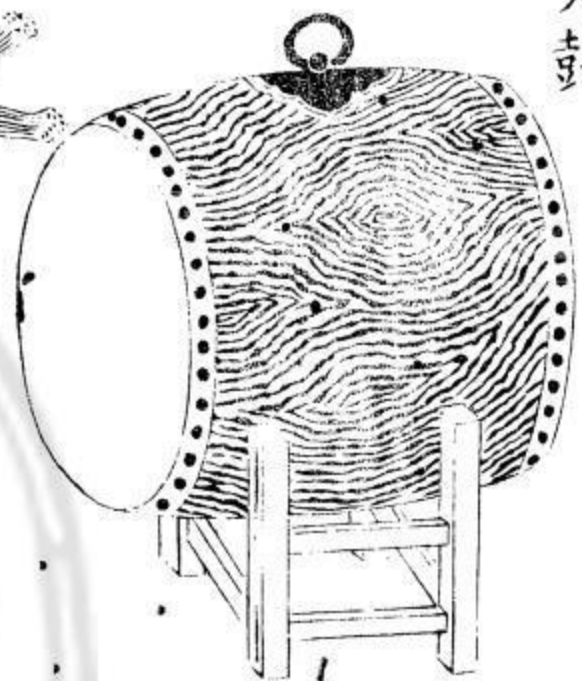
各處更版巡更時先打三下

念謹策已
復打六下

謹白大衆
生死事大
無常迅速
各宜醒覺
慎勿放逸

僧徒

大鼓



鏡
鏡



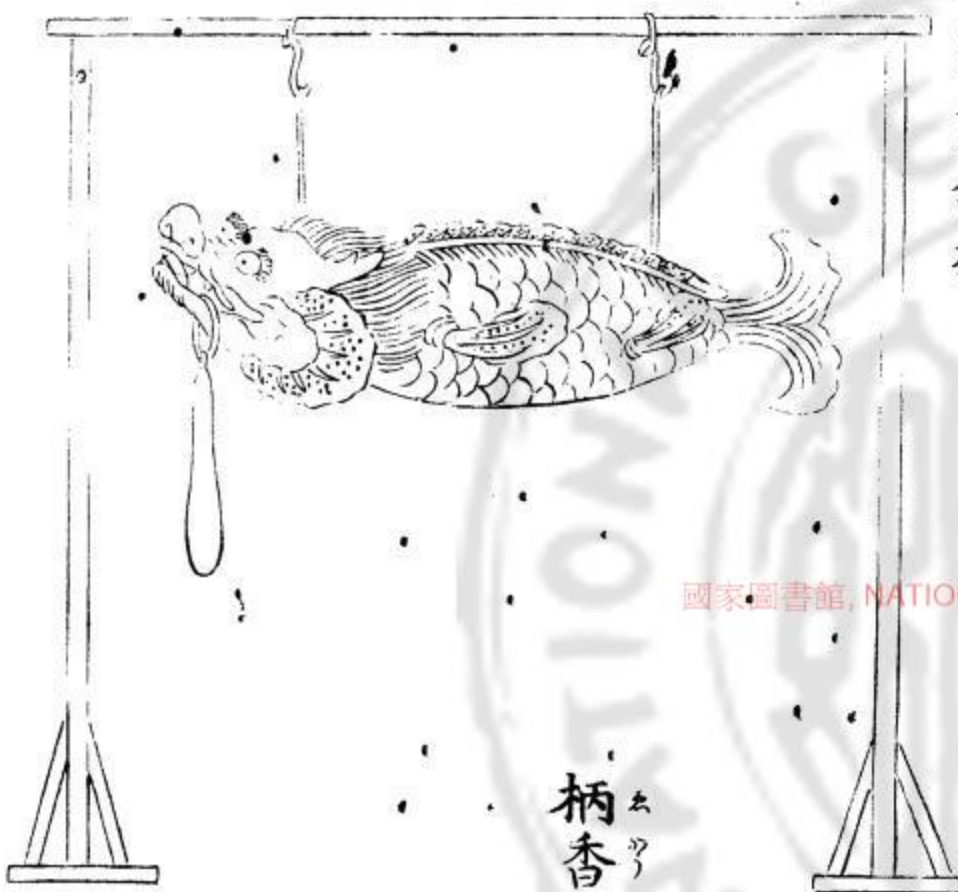
引磬



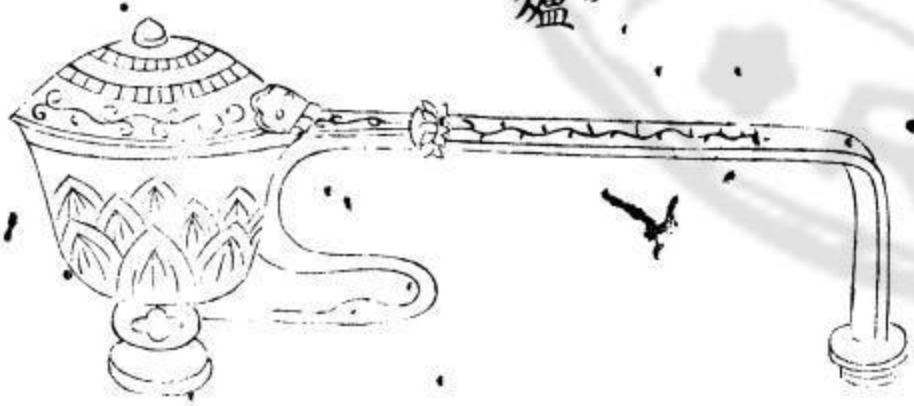
雲
版



齋堂前飯柳



柄香爐



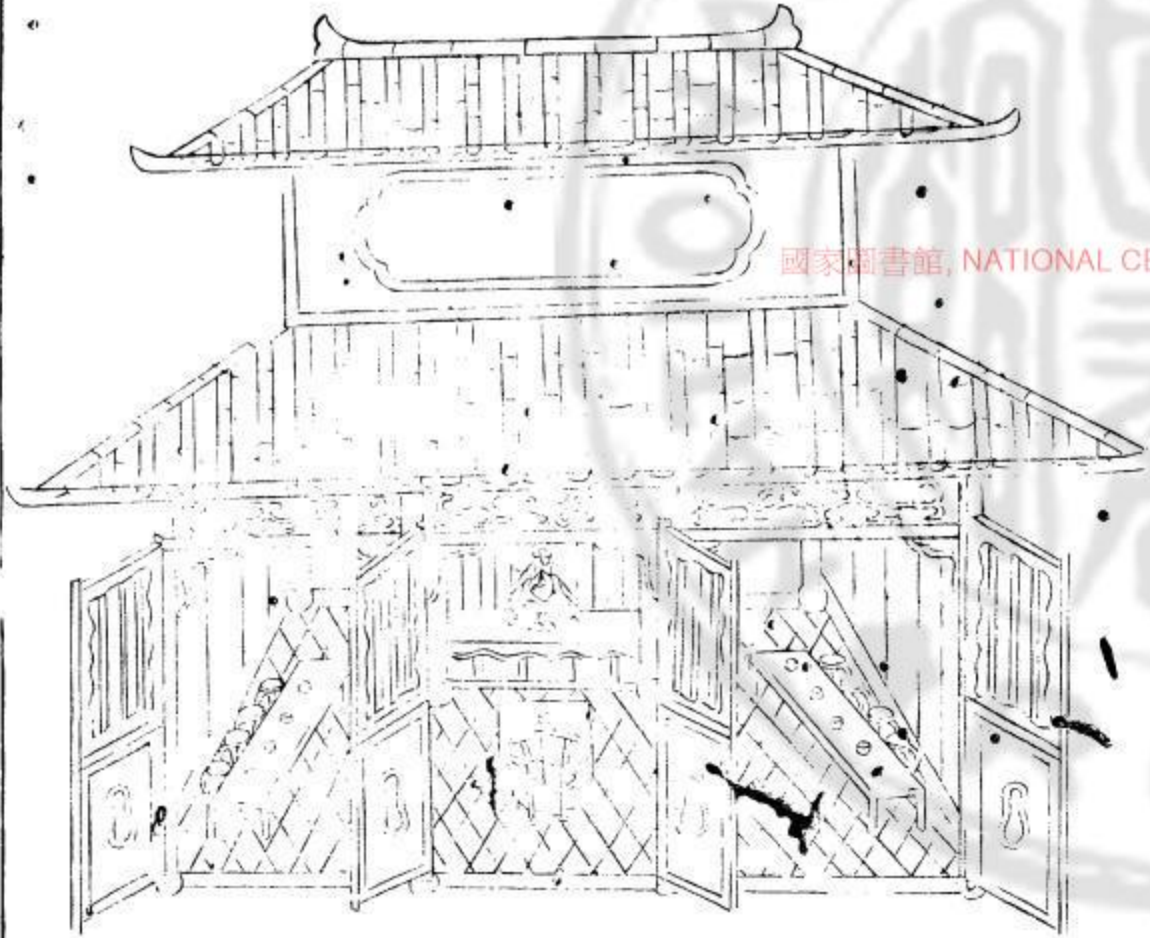
僧徒

十

國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

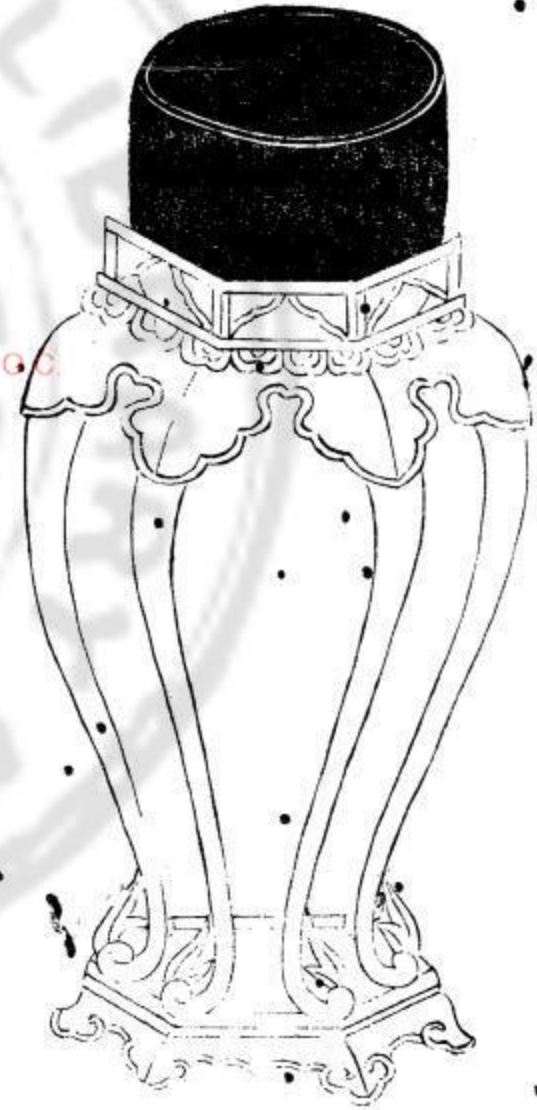
齋吃堂齋

僧徒



國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

銅磬



遊方僧



○托鉢みかぶ僧の内喝食とふ者あり是と云儀其外旅行の物成何に如み居るに

取收り席寺の上まゝみかぶ怒り差配をな後僧より托鉢みかぶ僧を寺小忌

用事あり又の寺小波常の事あり時ハ大鐘を撞け外出の僧強り寺堂席を

○檀越を先祖の年回式不法會かゝ僧侶を招ぐみかぶ施主をいふも頼もあり

又の信をいふ頼もあり供養日敷三日の間誦經成ありむあり五日七日の間施主

の求むも同く始口施餓鬼水懺等の供事成執行を重きたる僧より賑の時

るまゝ前まで出迎ひ互み行儀を述聴堂(請)茶代増収卒て家廟(

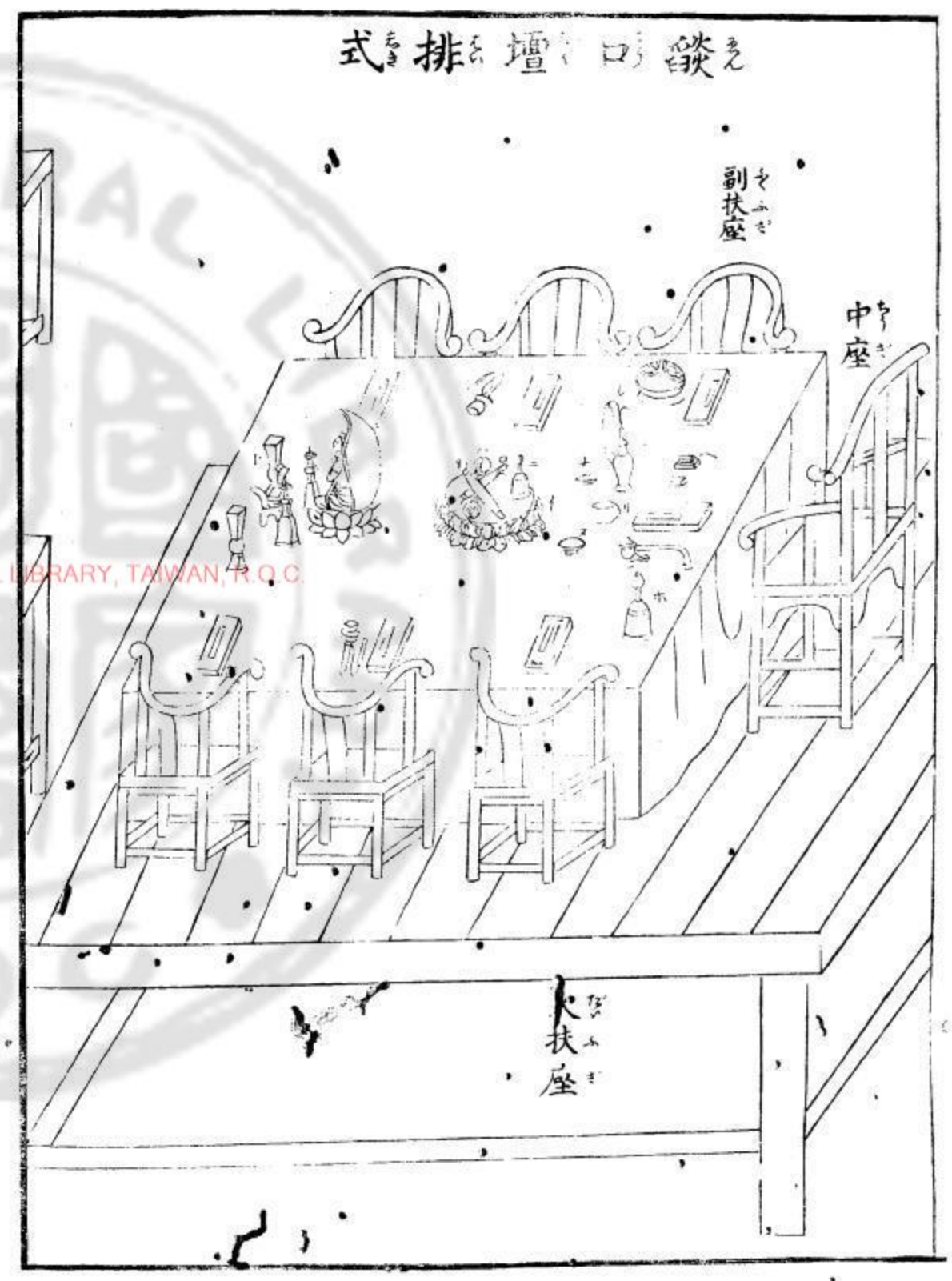
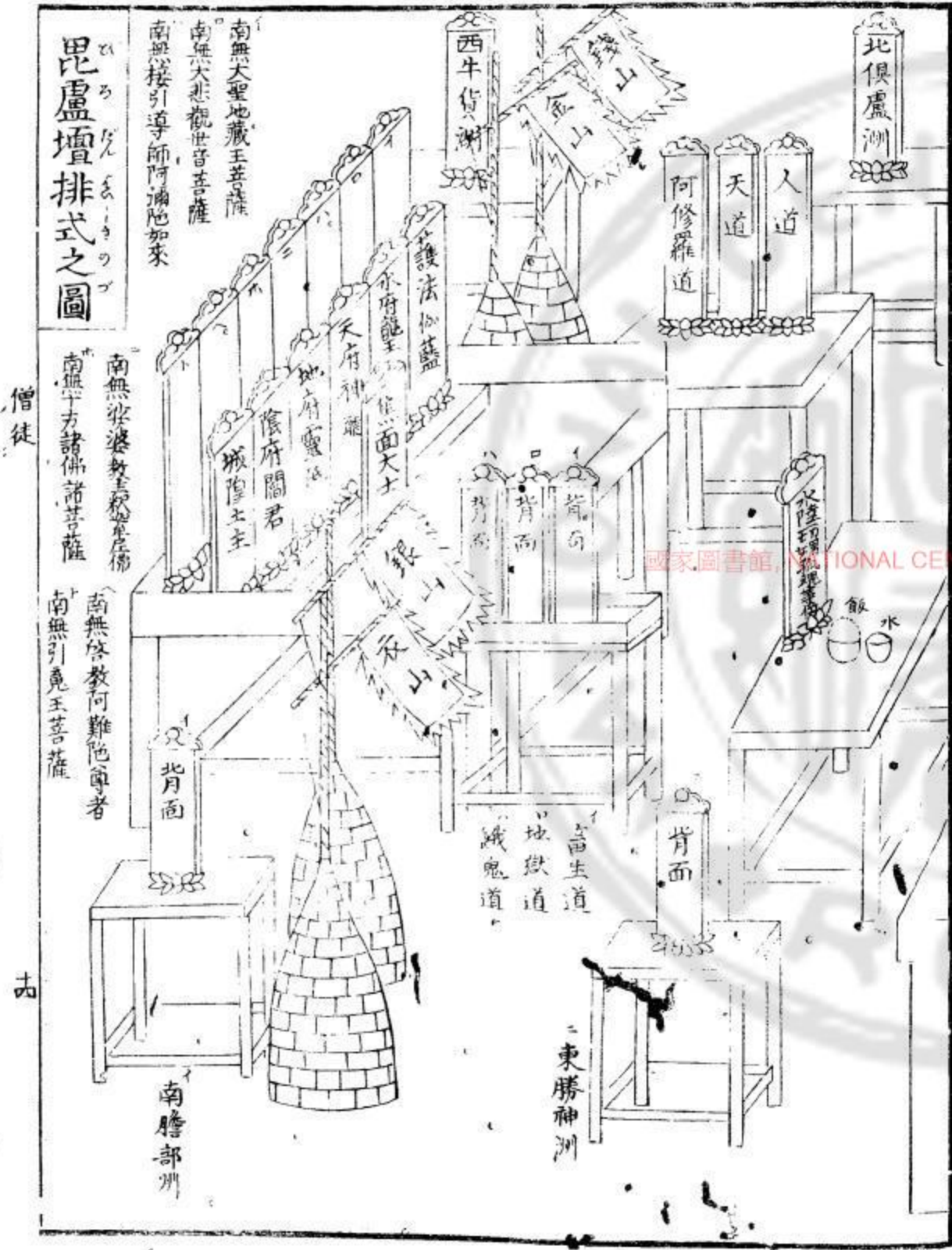
案内)靈茶あり拈香誦經以法事卒て有施やして一日み僧一人前平僧ハ

錢百文二百五十文任持長老を銀すく程送る足儀懺資とふを施主の貧富に

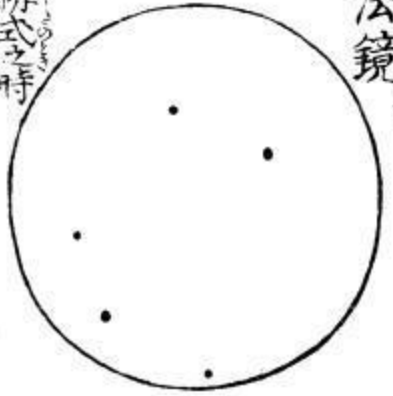
別く等かゝる○始口施餓鬼執行小時の場度たなり新佛座成設け

志ハ二霊の神主牌を五燈成點し錫五事を傍に

僧徒



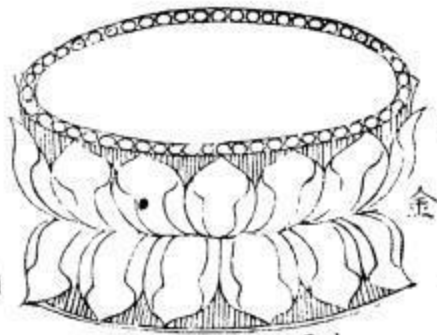
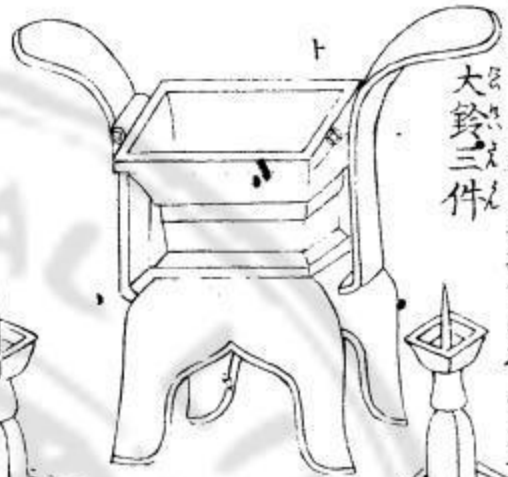
法鏡



排式之時

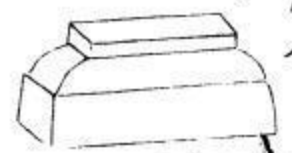
鏡面朝天置臺上列金剛杵寶錯

大鈴三件



曼拏羅
法臺

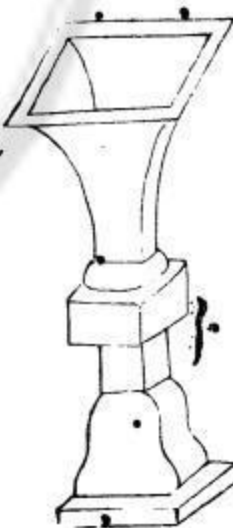
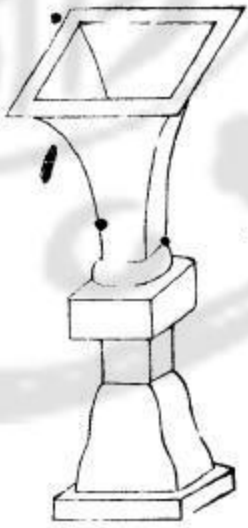
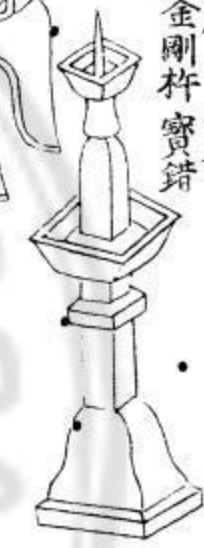
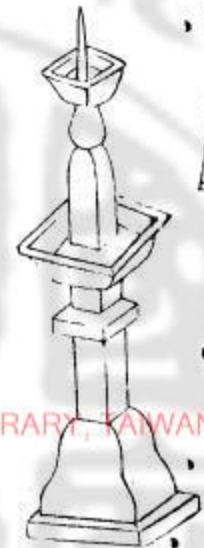
法尺



排式之時置
中座經典之右

錫五事

和名五具足



寶錯



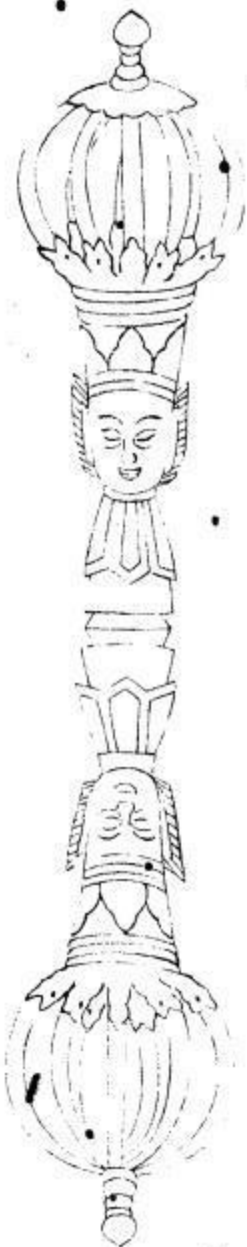
片樣式

同



方樣式

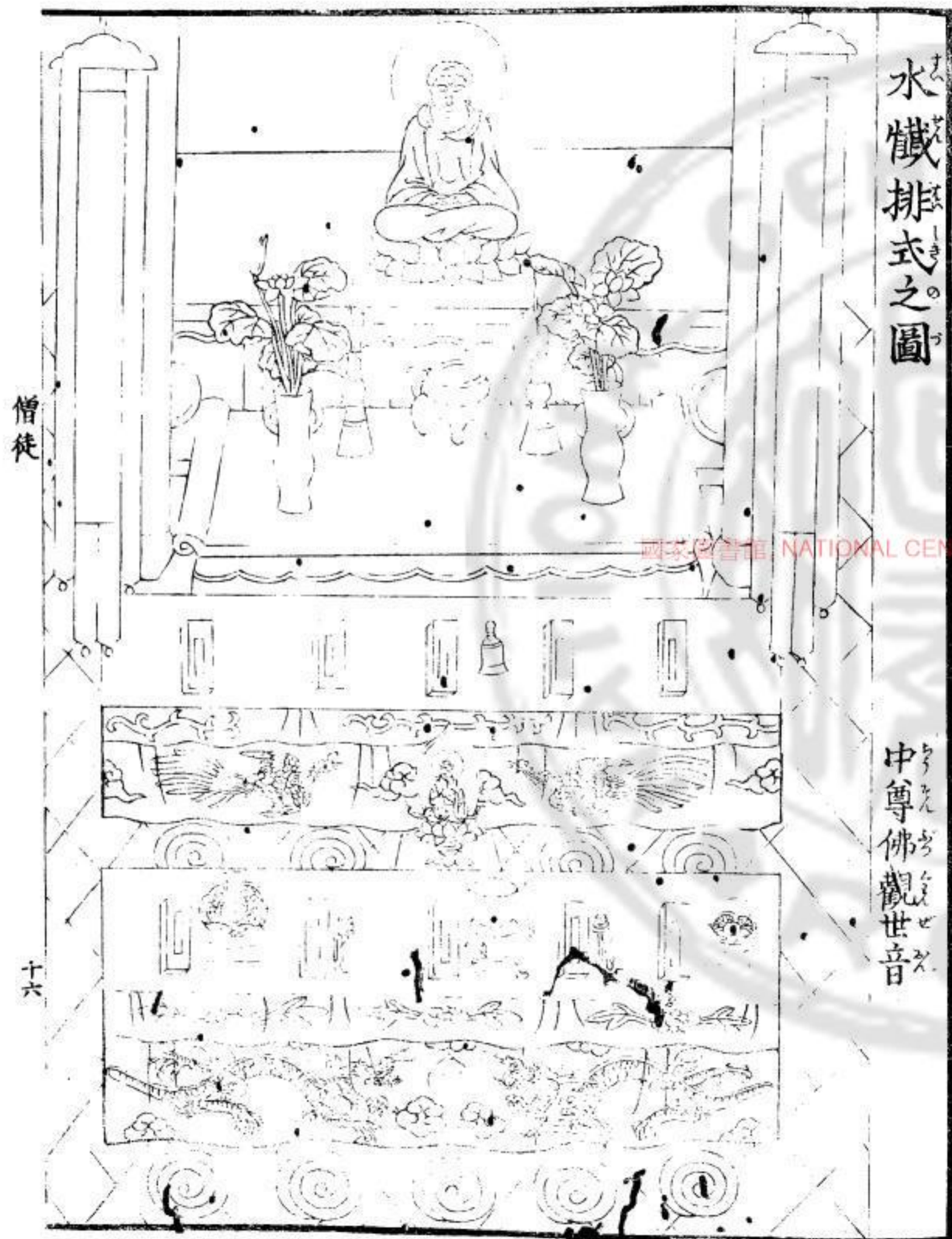
金剛降魔杵



僧徒

十五

國家圖書館 NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

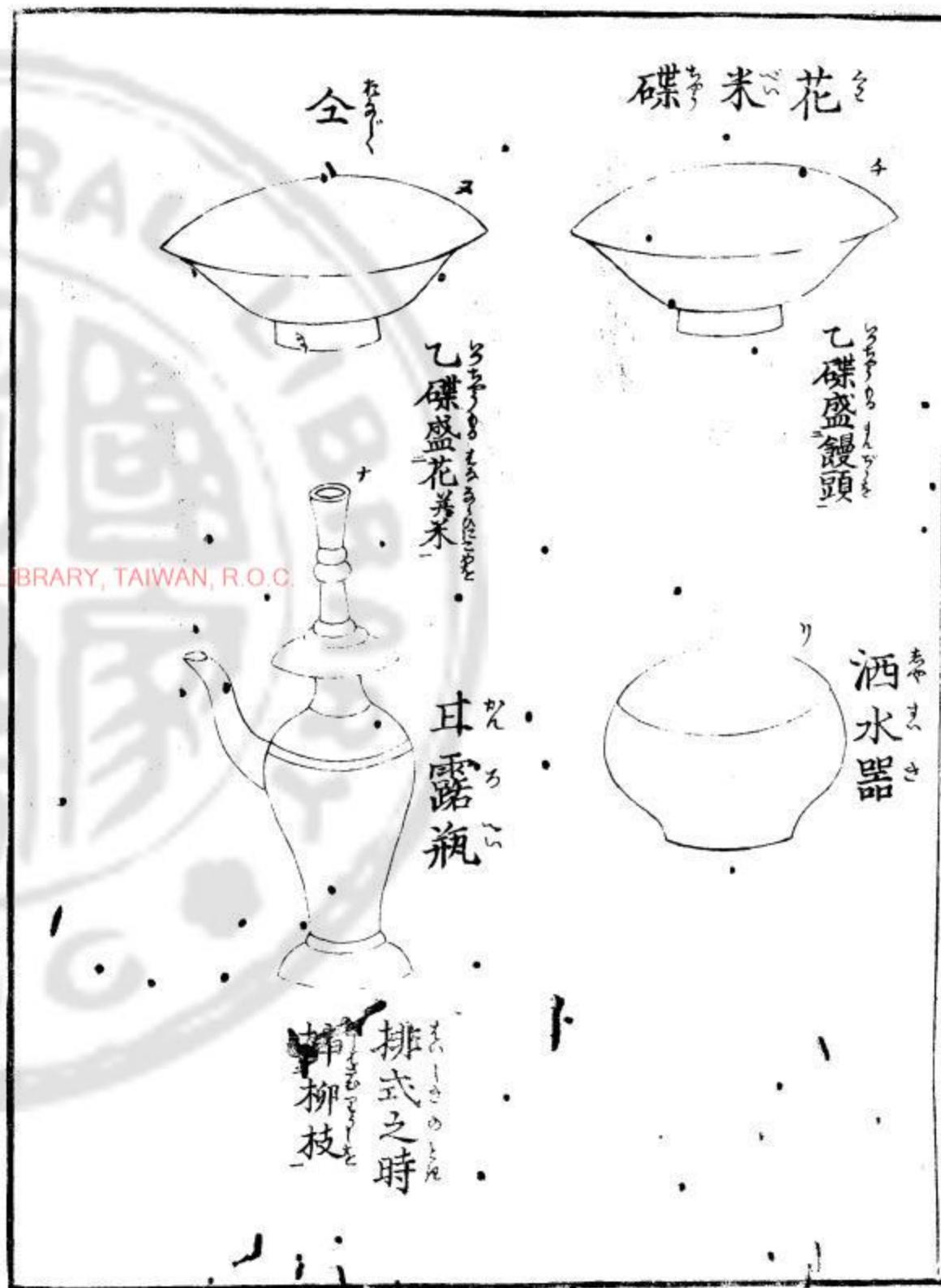


水懺排式之圖

中尊佛觀世音

僧徒

十六



全

花米碟

乙碟盛饅頭

乙碟盛花養米

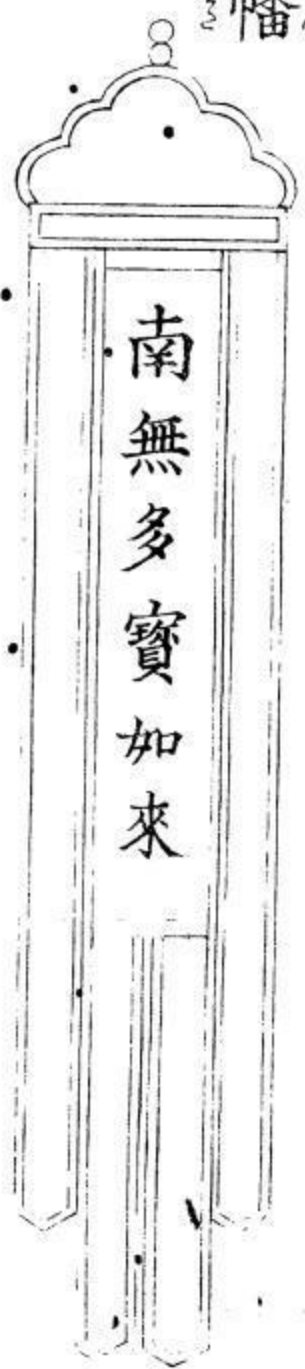
甘露瓶

洒水器

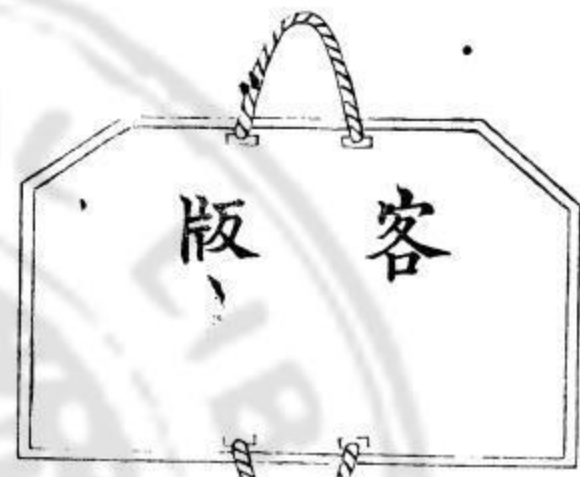
排式之時
柳枝

NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN, R.O.C.

幡



南無多寶如來



客版

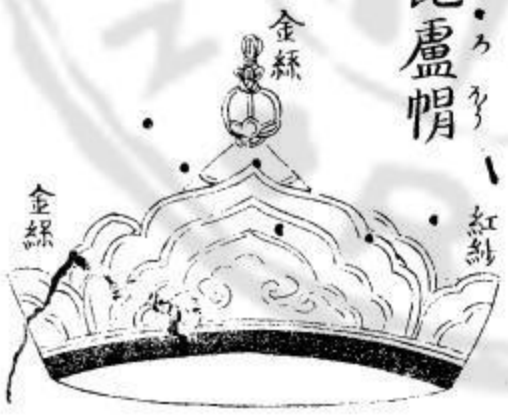
禪堂前客版

尊客欲入堂知賓鳴
版三下堂內開門

中座鈴



毘盧帽



扶座鈴



五佛冠



僧徒

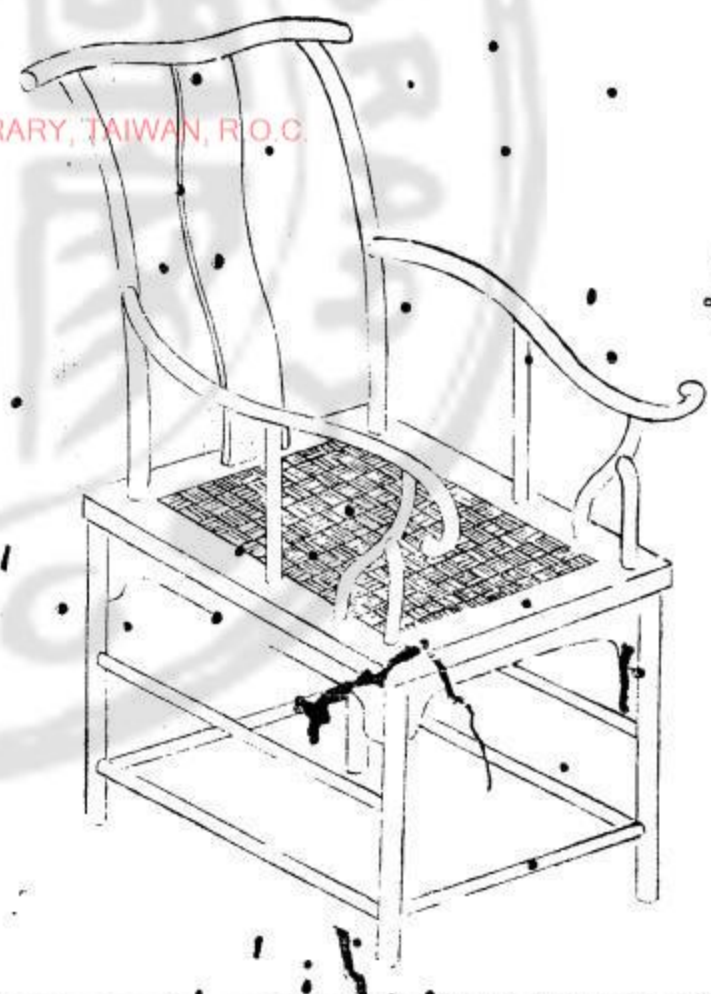
十七

國家圖書館, NATIONAL CENTRAL LIBRARY, TAIWAN



毘盧帽五佛冠合帶之圖

椅子



橋餅 柱圓 其外砂糖菓子時候の菓物種々供具茶湯方二間高三間也の
 胡餅 菓子化生 燔口壇を設け正面を觀望日の儀成安置し寶鏡等の佛具を傍付せしは
 香花點燈供物見合供物を定式の供物みれば一合饅頭七の酒水一盃此三品を

供壇の向めり同燔口壇の毘盧壇を設け上壇み七佛の名號を書置
 牌を傍 七佛の釋迦觀音阿彌陀地藏 下壇みら面然大士護法龍天の牌を三足も
 香花を供點燈供物等茶のぶとを定式の供物とし服み又九半譯行る

さ三尺程の食卓を設け水陸一切男女孤鬼等位と書記し香花點燈供物
 茶のぶとを定式の供物みれば大に飯を堆く盛酒水を多く供へ其

茶のぶとを定式の供物みれば大に飯を堆く盛酒水を多く供へ其
 茶のぶとを定式の供物みれば大に飯を堆く盛酒水を多く供へ其
 茶のぶとを定式の供物みれば大に飯を堆く盛酒水を多く供へ其

眞衣紙等みく張たす成二重なる金銀山一々錢衣山と記し茶系籠成之類
 徑の僧七人 略すは五人 燔口壇み昇り奉位を金剛上師とす 一名成中 左ハ大

僧徒

杖座右成副杖座と不淨乞と其成之並び何止も椅子み坐し下はと大般若小聲
小鏡後等傍付あり成誦經み連く大衆の内一人あり鳴以中經の僧ハ毘盧幢
と不佛冠を戴き鈴成振或る印成誦經中次すくく取捨酒水成ぬく饅頭み林字を
魂超度のため佛入るふ成誦經中次すくく取捨酒水成ぬく饅頭み林字を
書合書臺み向く投捨尚又冥途ゆく金銀錢衣服を捨ふ意ゆく右金銀山錢
衣成燒捨ふ此法は在家ありも至くその夜陰み起るふ成二回時行もか
水懺とら同く佛成設け香花點燈供物等端つみおれくむ正式の供物
か一前幅半司本儀三二回法の其成二行み其成僧五人宛都合拾人の僧
夫これ佛具成持何止も跪け誦經あり此法は省畧す止六日かも海又三日
慈ふもあり端つ水懺とも二年忌法會み限く在家内安全上柄と氣平念等の祈
禱みも執り何止も施主の与るに任せく自之めくも執行ふ其時とは法具諸道

具寺より持越其供養み應て僧の多少ありを其時親類朋友をも招き
僧侶打込齋非時等振務奉あり法事平止其日數み志くばし勞金やうて
僧一人前二三十日と以下僧の高下施主の身分み應て送ふ奉等くばる病
宅狭きら或る故障と寺みく寺に佛事を頼む時と前度茶料を納むに施主
の求めみ應て供養其時と寺みく齋非時の用意を射し施主ありび施
主の親類朋友み施齋用は此と施主の方と男女ともありふ少婦女の同ら
別間み志くばし附奉ふ奴婢等終仕して僧侶と到來に挨拶禮儀たを
此同み入るに在家の位牌成寺洗み安坐す奉奉たれば素より位牌
堂とてみれり格別寺みおわく切ある檀越ハ別め位牌成安坐しあがく
香を供養す奉奉あり()在家喪中の時ハ日く誦經頼むもあり又七日毎
み頼むもあり何止も施主の求めみ應てを喪葬の時と僧七八人もあり

樂器



○官人素詣の節に常以達し、わが寺に其時刻の官位の高下による位持並に

後僧山門を出入りし、又友素詣、多しは禪堂、少しは客殿と云、此頃叩けば法堂

の門内、又法僧、残らば、小僧、又此頃、法堂中、出入り、又此頃、鐘樓の鐘、或

撞を、或を打、あは、白樂、養して、佛殿、請に、佛、拜、年、を、知、客、の、お、業、内、に、

並に、方丈、一、俵、の、掃、子、を、設、け、座、成、請、く、任、持、對、座、し、知、客、側、に、侍、立、座、の、名、

茶、菓子、其、外、時、候、の、菓、物、等、差、出、は、た、く、ひ、中、興、暖、の、接、持、お、も、て、御、食、應、あ、ら、む、

酒、烟、等、も、持、お、し、て、出、さ、し、座、成、め、え、の、お、く、く、山、門、を、打、た、ら、ば、此、頃、客、の、家、及、

香、金、と、も、多、少、お、も、く、く、銀、成、差、出、は、す、

唐、人、素、詣、の、時、に、先、佛、殿、に、禮、拜、し、並、に、歸、ふ、も、あ、り、又、は、客、殿、に、お、も、く、く、

休、息、し、た、ら、ば、客、に、應、じ、値、座、と、も、差、出、は、す、と、お、も、く、く、或、は、菓、子、菓、物、等、お、も、

あ、り、其、品、等、か、ら、は、差、持、お、用、向、あ、ら、り、又、訪、ひ、の、た、見、え、く、も、お、も、く、く、値

座(百次)成相(方丈)みま(少)う(面)後(以)廣(く)多(る)と(大)戸(の)人(を)監(守)知(客)等
 の送(近)此(禮)あり(貴)賤(高)下(み)拘(り)ば(客)殿(み)至(ふ)人(を)銀(錢)の(足)列(り)見(會)せ
 香(金)を(足)る(並)あり(又)ら(像)香(蠟)燭(等)送(り)あり(婦)女(等)詣(の)時(も)佛(拜)の(中)に(並)
 小(席)も(あり)又(暫)く(客)殿(み)休(息)す(る)も(あり)其(の)後(に)僧(侶)一(人)も(之)を(引)む
 婦(女)の(休)息(を)列(り)み(設)け(わ)る(美)系(は)く(も)と(あ)り(と)れ(ら)十(三)歳(の)小(沙)彌
 持(出)ふ(都)く(寺)院(み)婦(女)徧(徧)す(る)事(望)く(官)制(あり)美(緒)近(の)事(の)苦(し)か(ら)に
 后(宮)の(官)女(等)寺(美)緒(の)儀(と)天(子)御(系)詣(と)止(ば)附(隨)い(美)緒(す)止(や)も
 官(女)を(り)美(緒)す(る)事(か)り
 年(始)と(も)官(女)を(り)美(緒)す(る)事(か)り檀(家)に(り)任(持)自(身)年(禮)み(美)緒(も)あり(又)ら
 役(僧)の(内)に(り)某(山)某(禪)寺(納)某(叩)と(書)ふ(帖)成(持)く(美)緒(も)あり(又)ら
 札(守)等(た)り(事)々(く)元(旦)と(り)二(日)と(り)在(家)美(緒)あり(在)家(懇)云(の)方(の)

常(み)往(來)談(話)す(る)事(在)家(の)者(に)異(ふ)事(か)り(檀)又(歲)暮(と)り(檀)家(へ)
 野(菜)菓(物)稻(漬)砂(糖)漬(等)た(り)る(事)も(あり)
 卒(山)組(合)等(の)事(か)り(御)朱(印)比(と)り(事)も(た)り(且)後(任)成(定)む(事)も(一)山
 の(役)備(評)議(し)て(任)地(境)も(り)任(を)選(び)其(地)の(知)縣(へ)知(録)一(存)め(り)
 後(任)中(派)さ(り)任(め)地(境)も(り)任(を)選(び)其(地)の(知)縣(へ)知(録)一(存)め(り)
 名(成)二(人)任(も)書(出)し(官)更(中)出(官)下(の)指(揮)も(あり)其(の)後(任)中
 名(成)二(人)任(も)書(出)し(官)更(中)出(官)下(の)指(揮)も(あり)其(の)後(任)中
 一(羽)の(存)在(も)其(の)後(任)中(達)し(雙)方(一)更(の上)後(任)成(定)む(小)寺(の)官(不)評
 議(も)及(ぶ)也(○)後(任)進(山)の(時)ハ(吉)日(成)擲(入)寺(以)其(時)と(首)座(以下)の(役)任
 山(門)外(まで)出(近)也(此)時(格)式(の)法(治)あり(也)互(み)札(拜)奉(り)寺(内)入(止)鐘(を)撞(太)
 鼓(を)敲(き)知(客)等(り)緒(堂)案(内)して(拈)香(く)式(法)漸(く)方(丈)入(暫)く(休)息(す)

僧徒

夫らるる奉堂の者も設けあふ壇も登り柱杖を突掛子を持侍子母かき
 侍者兩人左右も往く衆傍の拜を受ふ此れ一山の傍悉く此れ法徳成改
 種々の事成尋問ふまゝ教示あはれ香成成て禮拜の規式早く官成入福も其
 後檀越も自身も入寺持露ありむ此等扇子持の物なりま事あり
 僧も妻も禁制ありむ應付僧とて妻もあはれも肉食の傍あり
 市中も住居し在家れば事誦經等類も徳下執形にむ應付傍あり
 名姓古よりの中はく之めくつら好み記とふ事志かのみぬし
 律宗ハ甚稀あり天竺宗ハ天台山一山隈めく外も一律宗ハ重ぬ新
 徳成修し綿貼を看し氣色の本綿也法衣成看し鉄持を持食事の傍
 鉄持も飯茶共み入者成用ひしめく吃す天竺宗の傍ハ法式事皆禪宗又同
 僧道兩持の寺院あり寺院ハ僧侶もつりあり

寺院内も茶店等ハありとも狂言芝居等の事ハ出してふし狂言芝居角
 力輕業等の事ハ社内ハ限り真行也
 道家も有髪めく道冠を戴き法衣を禪家の如くめく何止も綿服あり
 紫花ハ山法を修し初禪成等中ハ此内太上老君の修法成行あり者ハ清
 帯めく別張天師の類あり此ハ正一道士とも其外雜部修行の分も
 妻も肉食にも多く市中も住居し是を火居道士とも其業修も別も事あり
 僧道違犯不如法の者ありとも輕犯事ハ一山の住持も事法道法あり
 行ハ甚重罪あり其其の官ありとも知縣知府めく裁断ありとも
 大衆あり候令住持大和尚たりとも官ありとも此れ罪の軽きなりともは是あり
 分あり○道家成支配するも禮部の惣支配めく禮部の下司ハ僧道官
 僧録司道祿司ありとも官ありとも是ハ司あり

道士

道冠



○護符等の事ハ僧家ヲ執リ世ハ道家ニ取テ道家ノ事ヲ尊ハ極ク三清上

帝を祀ス三清上帝ハ中央玉清元始天尊ヲ行ク道家も邪ク寺と同様ニ一山あるも

市中に居位を多クシ社檀越等此事ハ僧家ノ事ナリ道士も然ラズ

廻リ深山に入り修行シテ事ありテ後者ハ其ノ事ヲ執リ杖を突キ事あり

○且邪と云事仕古と云事ハ其ノ事ヲ執リ杖を突キ事あり

○江湖ありハ其後夏此事ハ其ノ事ヲ執リ杖を突キ事あり

清俗紀聞卷之十三畢

清俗紀聞跋

向者余之在崎陽也聽政之暇使官
屬近藤守重林貞裕問清高其國之
俗習輒隨筆焉又隨圖焉終成一書其
起稿之始余偶罹疾而百事皆廢及
愈瓜期已迫故未脫稿齎還江戶爾後



劇職不暇翻閱因命臣津田永郁較
訂分為十三卷示諸林祭酒請序其端
且請名書祭酒名以清倍紀聞且序而
還之或勸上本公諸同好遂命剞劂
不日而刻成矣澤正甫中伯毅亦序其
端嗚呼雖編輯之名在余彼官屬

等力實為多矣豈可虛其功哉因
備記于此後者姓名于卷末云寬政
丁未冬十月中川忠英跋

赤峰脇田順書



大通事

高尾維貞

彭城斐

清河璧

平野祐英

彭城明矩

神代文鳳

穎川良友

彭城昌尊

吉島潛

小通事

神代于貴

陽忠廉

平井惟德

穎川惟賢

中山保高

彭城以貞

游竜賢

石崎融思

安田素教

畫工

清國蘇州 孟世燾

蔣恆

顧鎮

湖州 費肇陽

杭州 王恩溥

周恆祥

嘉興 任瑞

寬政十一年己未八月新鐫

東都書林

本石町四丁目大横町

堀野屋仁義衛